

## 本村 希代

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：火・1時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

## --- 概要 ---

人間の歴史は、財貨の交換行為の展開史、つまり流通・商業の変容過程であったといえる。それゆえ現代社会のあり方を問うには、今日にいたるまで連綿と続く商業活動を明らかにする必要がある。

この授業では、日本の商業活動が官主導から民主導へと変化していき、戦国時代を経て社会が安定する近世期（江戸時代）に、より活発化していく様子を検討していく。幕藩体制下における流通機構、商家経営、経済思想などを取り上げる。さらにそれらが基礎となり、近代以降の商業発展、さらには現代社会へとつながることを見ていく。

歴史は得てして暗記するものだと思われがちだが、全体の大きな流れを理解することが大切である。なぜそのような姿にいたったのか、歴史をストーリーとしてとらえてほしい。

また過去を振り返ることは、現代社会のあり方を見つめ直し、今後の展開へとつながるカギを見つけ出すことでもある。商業的事象はもちろんのこと、人物・地域・政治・文化など、さまざまな角度から合わせて歴史的な検討を加えていく。

## --- 授業の進行・方法 ---

授業は、事前に配布（配信）した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行う。また小テストにより、授業内容を理解しているかどうかを確認する。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

さまざまな経済社会状況を歴史的背景から説明できるようになる。(DP1-1)(知識・理解)

歴史的事象が現在の流通・商業の在り方にどのようにつながっているかを説明できるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

歴史的事象から現代社会における流通・商業の課題について説明できるようになる。(DP4-2)(技能)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

毎回の講義テーマごとに、なぜそのような姿にいたったのか、原因・結果など、歴史の流れを整理する。またそれが次回の授業の予習にもなる。(120分)

事前配布した授業資料に目を通しておく。(40分)

Moodleの小テストにより、授業内容を確認する。(20分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価する。

定期試験80%と小テスト20%で評価する。

定期試験は、講義内で取り上げたテーマについて、きちんと歴史の流れとして把握できているか、またそれらを自分の言葉で説明できているかを評価の基準とする（到達目標1・2・3の達成度）。

小テストは、Moodleを用い、授業内容を理解しているかどうかを確認する（到達目標1の達成度）。

## --- テキスト ---

特に指定しない。

## --- 参考書 ---

廣田誠他『日本商業史』 ISBN 9784641165069

石井寛治『日本流通史』 ISBN 4641161690

## --- 授業計画 ---

- 1 はじめに（スタートアップ授業）
- 2 交換から売買へ
- 3 貨幣の鑄造
- 4 戦国大名と商品流通
- 5 幕藩制社会の成立
- 6 近世商家の経営
- 7 商人道とは何か
- 8 家訓の展開
- 9 開国と国内流通の変化
- 10 近代商業経営の成立
- 11 奉公人からサラリーマンへ
- 12 呉服商から百貨店へ
- 13 総合スーパーの発展
- 14 商業政策の広がり
- 15 まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/kk1zpdfvmoq3xka5fqvsox86q4xi1p1f>)

## 本村 希代

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. さまざまな経済社会状況を歴史的背景から説明できるようになる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2. 歴史的事象が現在の流通・商業の在り方にどのようにつながっているかを説明できるようになる。(DP2-1) (知識・理解)

3. 歴史的事象から現代社会における流通・商業の課題について説明できるようになる。(DP4-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

侯 聡聡

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：月・2時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

- - - 概要 - - -

「ブランド」について学びます。ブランドは高級ブランドバックやファッションだけを指すものではありません。身近な日用品やサービスにもブランドが存在します。ブランドは企業のマネジメント上、とても重要なものです。この授業では身近な様々な事例を取り上げながらブランドについて考えていきます。様々な事例を通して学びながら、自分ならどのようにブランドをマネジメントするかという視点も取り入れて考えていきます。

本授業は、講義形式で行います。毎回予習（事前に教科書を読む）をした上で、授業に参加してもらいます。講義では事例を共有しながら、ブランドについての基本的な概念や理論を学びます。グループで簡単な発表（クイズに回答する）も実施予定です。講義後は復習として理解度チェックを行います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、講義形式で行う。講義内容は、前半で予習した内容の確認、補足を行う。講義資料を中心に進めていく。後半は学んだ概念や理論を用いながら、事例を使って考える。グループや個人で報告することがある。簡単なクイズにも答えてもらう。復習として理解度チェックも実施する。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

ブランドの役割について基礎的な知識を身につけ、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

ブランドを生活者の視点からだけでなく、マネジメントの視点からも見ることができ、そのマネジメント手法を説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

組織や地域の課題を、ブランド経営の視点から分析できる(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：該当章を読んで重要キーワードにマーカーし、マーカー個所とマーカーした理由を整理する。(90分)

講義中の示された課題に取り組む(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準は、上述の到達目標に準じます。定期試験70%、レポート20%、平常点10%で評価します。尚、講義中の発言・発表、レポートの提出・報告に加点があります。

- - - テキスト - - -

石井淳蔵・廣田章光編著『1からのブランド経営』碩学舎、2021年、本体2,400円+税、ISBN:978-4-502-38471-4 C3034

- - - 履修上の留意点 - - -

予習、復習を大切にします。  
 \* 講義中に予習報告、個人やグループによる発表、レポート報告を求めることがあります。  
 ブランドを理解し、新たな知見への到達を目指します。

- - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)：ブランドとは
2. ブランド発想
3. 製品からブランドへ かっぱえびせん
4. 目標とマネジメント ハイチオールC
5. 用途開発 ポカリスエット
6. 成長のマネジメント ミツ矢サイダー
7. 市場を創造するブランド GREEN DA・KA・RA
8. ブランド拡張 ファブリーズ
9. サービスブランド アート引越センター
10. ブランド・ビジョン 阪急
11. 技術、市場分野の拡大 無印良品
12. シグネチャー・ストーリー共創 ナイキ
13. ビジョンとレゾナンス マザーハウス
14. 優秀レポート報告、授業アンケートFURIKAの実施
15. 複数ブランドのマネジメント P & G

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/gfwvty23umu4orfst3hi29671liyczzh>

## 侯 聡聡

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.ブランドの役割について基礎的な知識を身につけ、説明できる。(DP1-1)  
(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.ブランドを生活者の視点からだけでなく、マネジメントの視点からも見ることができ、そのマネジメント手法を説明できる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.組織や地域の課題を、ブランド経営の視点から分析できる(DP2-1) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

片山 富弘

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：金・1時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

- - - 概要 - - -

売れる仕組みを中心に、学習する上でのキーワードとして、顧客満足、マーケティング・ミックス（製品開発、価格設定、販売促進、流通チャネル）、商品コンセプト、ブランドなどを理解していただきます。

基本的に講義を中心としますが、必要に応じて内容を理解するための映像や簡易なケースを通じての質疑応答形式の双方向授業を行います。

\*企業での経営企画部や国家資格の中小企業診断士としての経営指導の経験を活かし、講義を行います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、テキストおよび配布資料（電子ファイルを含む）により講義形式で行います。学生の皆さんの理解力を試すために、講義中に質問などを行い、理解を深めていただきます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

マーケティングの基礎的な用語を理解している。(DP1-1)(知識・理解)

ポジショニングマップなど基礎的な技法を作成できる。(DP1-1)(技能)

マーケティング分野にかかわる心理学、社会学などの接点を理解している。(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：テキストの指定範囲を一読しておくこと。(90分)

復習：わからないことを調べておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験100%により評価します。  
 講義中に話した内容を理解しているか、主要なキーワードを説明できるかなどを評価の基準とします。

- - - テキスト - - -

片山富弘・竹内慶司編『市場創造』学文社、2017年。  
 ISBN：9784762021633  
 また、適宜、必要に応じて資料を配布します。

- - - 履修上の留意点 - - -

講義内容は、連続で成り立っているため、遅刻や欠席をしないようにしてください。

- - - 授業計画 - - -

- 1.イントロダクション・スタートアップ授業（動画配信）
- 2.マーケティング戦略（1）  
 ~ケーススタディ、戦略の構図など~
- 3.マーケティング戦略（2）  
 ~ドメイン、マーケティング・ミックスなど~
- 4.顧客満足について
- 5.製品（商品）戦略（1）  
 ~製品コンセプト、新製品開発ステップなど~
- 6.製品（商品）戦略（2）  
 ~ポジショニング、製品差別化など~
- 7.製品（商品）戦略（3）  
 ~ブランドの定義・機能、NB VS PBなど~
- 8.価格戦略
- 9.コミュニケーション戦略（1）  
 ~プロモーション・ミックスなど~
- 10.コミュニケーション戦略（2）  
 ~広告の仕組み、人的販売など~
- 11.流通チャネル戦略
- 12.消費者行動とリサーチ
- 13.現代マーケティングの展開（1）  
 ~サービス・マーケティング、グローバル・マーケティング~
- 14.現代マーケティングの展開（2）  
 ~ソーシャル・マーケティング、小売マーケティングなど~
- 15.これまでとこれからのマーケティング、総まとめ、授業アンケートFURIKA実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (<https://fukuoka-u.box.com/s/ey3evfkb7uay9si95ojaonr69c5u65>)

片山 富弘

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

- 1.マーケティングの基礎的な用語を理解している。(DP1-1) (知識・理解)
- 2.ポジショニングマップなど基礎的な技法を作成できる。(DP1-1) (技能)
- 3.マーケティング分野にかかわる心理学、社会学などの接点を理解している。(DP2-1) (知識・理解)

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

明神 実枝

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：木・1時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

--- 概要 ---

「ブランド経営」を学びます。ブランドと聞くと、欧米の高級品をイメージするかも知れませんが、今日では日用品にも医療にもスポーツにも、ブランドは存在します。優れたブランドを生み育てた「ブランド経営の考え方」を身につけ、活用できるようにしましょう。

「電子テキストを用いた反転学習」を行います。反転学習とは、授業外で知識習得を済ませ、授業ではその理解確認（演習など）を行う学習形式で、より深い理解に到達することを目指します。

\*ドイツの企業でマーケティングに従事した実務経験を活かします。

--- 授業の進行・方法 ---

電子テキストを用いた反転学習を行います。  
 ・電子テキストに教員の書込み（要点やクイズ）を共有するので、予復習しやすくなります。  
 ・予習では、受講者はテキストを読んで重要キーワードをマーカーし、マーカー個所と理由を提出します。  
 ・授業では、予習へのフィードバック、簡単なクイズ、個人やグループによる議論・発表、理解度チェック等の演習に取り組んで復習します。授業後はクイズの解答等を整理して提出します。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

ブランドの重要性について説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

ブランド経営の仕組みについて、経営者の視点から事例を挙げて説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

組織や地域の課題を、ブランド経営の視点から考えるようになる。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：電子テキストの次回の章を読んで、重要なキーワードにマーカーし、マーカー個所やその理由を提出する。(90分)

復習：授業中に示された課題に取り組む。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

- ・評価基準は到達目標に準じます。
- ・評価方法は以下の通りです。  
 毎回の予習25%  
 毎回の授業内の取り組み・復習25%  
 定期試験50%  
 授業内の発言・発表、レポート提出・発表に加点あり

--- テキスト ---

以下の電子テキストを使用します。  
 石井淳蔵・廣田章光編著『1からのブランド経営』碩学舎、2021年、2,640円、ISBN 4502384712

購入後、以下URL(EDX UniText)からログイン  
<https://www.d-text-service.jp/product/>  
 ・組織コードは fufoe  
 ・ログインID・パスワードは購入後に設定可

--- 参考書 ---

音部大輔『マーケティングプロフェッショナルの視点』ISBN 4296102583  
 石井淳蔵『進化するブランド』 ISBN 4502431419

--- 履修上の留意点 ---

電子テキストを使用するため、パソコンあるいはタブレットを用意して下さい。スマホでも閲覧可能ですが、パソコンやタブレットを推奨します。

--- 授業計画 ---

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業)：なぜいま、ブランドなのか
- 2.マーケティング発想からブランド発想へ
- 3.製品からブランドへ かっぱえびせん
- 4.ブランド経営の実際
- 5.目標とマネジメント ハイチオールC
- 6.用途開発 ポカリスエット
- 7.成長のマネジメント ミツ矢サイダー
- 8.ブランド拡張 ファブリーズ
- 9.サービスブランド アート引越センター
- 10.ブランド・ビジョン 阪急
- 11.技術、市場分野の拡大 無印良品
- 12.シグネチャー・ストーリー共創 ナイキ
- 13.ビジョンとレゾナンス マザーハウス
- 14.優秀レポート報告
- 15.複数ブランドのマネジメント P & G  
 授業アンケートFURIKA実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/8nopmszkzxf4rxm77ipa12o6s04g1qo>

## 明神 実枝

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.ブランドの重要性について説明できる。 (DP1-1) (知識・理解)
- 2.ブランド経営の仕組みについて、経営者の視点から事例を挙げて説明できる。 (DP2-1) (知識・理解)
- 3.組織や地域の課題を、ブランド経営の視点から考えるようになる。 (DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



本村 希代

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：火・1時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

--- 概要 ---

幕末の開港以降、日本では欧米先進国の水準に追いつくことが、国家的課題とされていた。そして会社企業の経営を成功させることで、この課題を達成しようとする意識が高まっていった。

この授業では、新しい事業分野の開拓と市場創出に貢献した企業家たちの、経営理念や経営戦略を比較史的に検証することで、現代に通じる企業家精神を見出ししていく。

企業家たちが革新を遂げた産業や時代はまちまちであるが、彼らは慣行や既成概念にとらわれず、よりよい製品やサービスを社会に提供すべく、果敢に挑戦していった。彼らの遂げた革新が、その時代の企業経営や社会にどのようなインパクトをもたらし、その後の展開にどのように方向づけたのかを考える。

歴史は得てして暗記するものだと思われがちだが、全体の大きな流れを理解することが大切である。なぜそのような姿にいたったのか、歴史をストーリーとしてとらえてほしい。

また過去を振り返ることは、現代社会のあり方を見つめ直し、今後の展開へとつながるカギを見つけ出すことでもある。企業家活動はもちろんのこと、人物・地域・政治・文化など、さまざまな角度から合わせて歴史的な検討を加えていく。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、事前に配布（配信）した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行う。また小テストにより、授業内容を理解しているかどうかを確認する。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

さまざまな経済社会状況を歴史的背景から説明できるようになる。(DP1-1)(知識・理解)

歴史的な事象が現在の流通・商業の在り方にどのようにつながっているかを説明できるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

歴史的な事象から現代社会における流通・商業の課題について説明できるようになる。(DP4-2)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

毎回の講義テーマごとに、なぜそのような姿にいたったのか、原因・結果など、歴史の流れを整理する。またそれが次回の授業の予習にもなる。(120分)

事前配布した授業資料に目を通しておく。(40分)

Moodleの小テストにより、授業内容を確認する。(20分)

--- 成績評価基準および方法 ---

本授業は、各到達目標の達成度を基準として下記の方法により成績評価する。

定期試験80%と小テスト20%で評価する。

定期試験は、講義内で取り上げたテーマについて、きちんと歴史の流れとして把握できているか、またそれらを自分の言葉で説明できているかを評価の基準とする（到達目標1・2・3の達成度）。

小テストは、Moodleを用い、授業内容を理解しているかどうかを確認する（到達目標1の達成度）。

--- テキスト ---

特に指定しない。

--- 参考書 ---

- 佐々木聡編『日本の企業家群像』 ISBN 9784621308462
- 佐々木聡編『日本の企業家群像』 ISBN 9784621072301
- 佐々木聡編『日本の企業家群像』 ISBN 9784621083499

--- 授業計画 ---

- 1 はじめに（スタートアップ授業）
- 2 会社企業の成立（岩崎弥太郎・岩崎弥之助・渋沢栄一）
- 3 国産新製品の創製とマーケティング（長瀬富郎・二代鈴木三郎助）
- 4 健康と美に奉仕する産業のパイオニア（福原有信・小林富次郎）
- 5 伝統的商業経験から純国産品の創製へ（鳥井信治郎・石橋正二郎）
- 6 政府規制に対抗して革新を実現した反骨の経営者（松永安左衛門・出光佐三・小倉昌男）
- 7 先端技術への挑戦（服部金太郎・早川徳次）
- 8 新事業群の形成（鮎川義介・豊田喜一郎）
- 9 都市型第三次産業の開拓者（小林一三・堤康次郎）
- 10 食と健康の覇者・逆転の発想（大塚正士・安藤百福）
- 11 技術志向型事業展開と市場志向型成長（小平浪平・松下幸之助）
- 12 戦後型企業家と高度成長（井深大・盛田昭夫・本田宗一郎・藤沢武夫）
- 13 経営戦略と流通革新（中内功・鈴木敏文）
- 14 高度経済成長期の革新的・創造的企業家（田口利八・飯田亮）
- 15 まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
 (<https://fukuoka-u.box.com/s/brelumww4gri44o2j6jxmb8snme112a5>)

## 本村 希代

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. さまざまな経済社会状況を歴史的背景から説明できるようになる。  
(DP1-1) (知識・理解)
2. 歴史的事象が現在の流通・商業の在り方にどのようにつながっているかを説明できるようになる。 (DP2-1) (知識・理解)
3. 歴史的事象から現代社会における流通・商業の課題について説明できるようになる。 (DP4-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 草野 泰宏

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：金・5時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

## - - - 概要 - - -

「ソーシャル・マーケティング」を学びます。 営利企業と非営利組織の混在する領域でのマーケティング（ソーシャル・マーケティング）について身につけることが狙いです。

企業の社会的責任（CSR：Corporate social Responsibility）、ESG投資（環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance）要素を考慮した投資）、持続可能な開発目標（SDG's: Sustainable Development Goals）などの社会的活動を重視する企業が注目されている。また、社会的な課題を解決するために、ビジネスの手法を活用する非営利組織の活動も活発に行われている。

このような活動の中で営利と非営利の特徴を併せ持ったソーシャルマーケティングが注目されている。具体的に、どのようなプロセスなのか、理論と事例の両面から考えていきます。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は教員が作成した講義資料（電子ファイルの閲覧あるいは配布）をもとに講義形式で行います。資料は事前にFUポータルにアップロードします。また、全15回のうち数回はグループディスカッションを行う予定です。

予習や復習で出てきた疑問を解消していきながら学びます。疑問を共有し、事例を学び、理論を理解します。講義の後半では、営利企業と非営利組織の混在する中でのマーケティングについて考察し、優れている点や課題を明らかにします。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

営利企業のCSRについて、基礎的な知識を身につけ、説明できる(DP1-1)(知識・理解)

非営利組織のマーケティングについて、事例を用いて説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

## 予習

各回の講義内容に関する 営利企業のCSRについての事例を企業のHPから調べる。

非営利組織の行うソーシャル・ビジネスについての事例を新聞記事から調べる。(90分)

## 復習

講義中に示された内容について調べ、当てはまる事例を新聞記事から調べる。

疑問点を挙げる。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

各講義への振り返り 50%

期末テスト 50%

尚、講義中の発表に加点があります。

## - - - テキスト - - -

使用しない。

## - - - 参考書 - - -

1からのマーケティング・デザイン ISBN

978-4502200212

1からのマーケティング（第4版） ISBN 978-4502327711

マーケティング戦略（第6版） ISBN 978-4641221833

石井淳蔵・廣田章光（2021）『1からのブランド経営』碩学舎

水越康介・藤田健（2013）『新しい公共・非営利のマーケティング』碩学舎

フィリップ・コトラー（2022）『「公共の利益」のための思想と実践』ミネルヴァ書房

谷本寛治（2020）『企業と社会』中央経済社

西村順二・陶山計介・田中洋・山口夕妃子 編（2021）

『地域創生マーケティング』中央経済社

## - - - 履修上の留意点 - - -

\* 講義中に復習の報告、個人やグループによる発表、レポート報告を求められることがあります。新たな知見への到達を目指します。

## - - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション（スタートアップ授業）、マーケティング発想法（ニューコークとタイド）
2. マーケティング・ミックスによる顧客創造（キットカット）
3. マーケティング・ミックスと企業の社会的責任（オリオンビール、WATTA）
4. マーケティングの変遷とマーケティング3.0
5. ソーシャル・マーケティング（社会志向のマーケティング、非営利組織のマーケティング）
6. 社会共生のマーケティング（プリウス）
7. 非営利組織のマーケティング（NPO）シブヤ大学、福岡テンジン大学
8. 企業と「公共の利益」
9. ソーシャル・ビジネスとイノベーション
- 10 営利と非営利のソーシャル・ビジネス（山梨ワインツーリズム）
11. ブランド・ビジョンが事業を育てる（阪急）
12. 社会責任のマネジメント（麒麟CSV経営）
13. ビジョンとブランドレゾナンス（ビジネスレザークトリー）
14. 優秀レポート報告とフィードバック：成果を共有する
15. 地域創生とSDGs（まち・ひと・しごと創生総合戦略）、「授業アンケート」 FURIKA 実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/6nn4ae31eagjc2zo9sdyk5yznor2sznf>)

## 草野 泰宏

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 営利企業のCSRについて、基礎的な知識を身につけ、説明できる (DP1-1)  
(知識・理解)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 非営利組織のマーケティングについて、事例を用いて説明できる。 (DP2-1)  
(知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

片山 富弘

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：金・1時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

- - - 概要 - - -

商学A「マーケティング入門」の内容を深めていくことを中心に講義を進めます。主要なキーワードは、ドメイン、STP (セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング)、差異化戦略、市場地位別戦略、マーケティング・ミックスの差異、マーケティング監査などです。

基本的に講義を中心としますが、必要に応じて内容を理解するための映像や簡易なケースを通じての質疑応答形式の双方向授業を行います。

\*企業での経営企画部や国家資格の中小企業診断士としての経営指導の経験を活かし、講義を行います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、テキストおよび講義資料(電子ファイルや当日配布を含む)をもとに、講義形式で行います。学生諸君の理解を確認するために、質問などで状況を把握しながら、進めます。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

マーケティングの差異の概念を理解している。(DP1-1)(知識・理解)

差異の概念を用いて、マーケティング分野の社会現象を説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：テキストの指定された範囲を一読しておくこと。(90分)

復習：配布プリントやノートなどを整理しておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験100%により評価します。  
 講義中に話した内容を理解しているか、主要なキーワードを説明できるかなどを評価の基準とします。

- - - テキスト - - -

片山富弘『差異としてのマーケティング(第5版)』五紘舎、2021年。ISBN：9784864341721  
 また、適宜、必要に応じて資料を配布します。

- - - 履修上の留意点 - - -

講義内容は、連続で成り立っているため、遅刻や欠席をしないようにしてください。

- - - 授業計画 - - -

- 1.イントロダクション・スタートアップ授業(動画配信)
- 2.マーケティングの変化  
 ~定義、1.0から5.0~
- 3.ドメインの差異
- 4.マーケティング戦略の差異
- 5.SWOT分析の差異
- 6.顧客満足の差異
- 7.市場細分化の差異
- 8.商品戦略の差異
- 9.マーケティング・ミックスの差異
- 10.脱コモディティ
- 11.地域ブランド
- 12.マーケティング監査
- 13.小売マーケティング
- 14.マーケティング4.0・5.0について
- 15.マーケティングにおける諸思想について、授業アンケートFURIKA実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (<https://fukuoka-u.box.com/s/kuv1bfn0s6du89jj0x1w5t37811fqgae>)

片山 富弘

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.マーケティングの差異の概念を理解している。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.差異の概念を用いて、マーケティング分野の社会現象を説明できる。  
(DP2-1)（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 明神 実枝

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：木・1時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

## - - - 概要 - - -

「商品企画」を学びます。優れた事例を学んでイメージをつかんだ上で、商品企画のプロセス（インタビュー法や観察法、コンセプト・デザイン、企画書作成、プレゼンテーションなど）の理論と実践を通して、その基礎と方法を身につけましょう。

「電子テキストを用いた反転学習」を行います。反転学習とは、授業外で知識習得を済ませ、授業ではその理解確認（演習など）を行う学習形式で、より深い理解に到達することを目指します。

\*ドイツの企業でマーケティングに従事した実務経験を活かします。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

電子テキストを用いた反転学習を行います。

- ・電子テキストに教員の書込み（要点やクイズ）を共有するので、予復習しやすくなります。
- ・予習では、受講者はテキストを読んで重要キーワードをマーカーし、マーカー個所と理由を提出します。
- ・授業では、予習へのフィードバック、簡単なクイズ、個人やグループによる議論・発表、理解度チェック等の演習に取り組んで復習します。授業後はクイズの解答等を整理して提出します。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

商品企画のプロセスについて説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

インタビューや観察法、リード・ユーザー法などの定性調査を行うことができる。(DP2-1)(技能)

簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：電子テキストの次回の章を読んで、重要なキーワードにマーカーし、マーカー個所やその理由を提出する。(90分)

復習：授業中に示された課題に取り組む。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

- ・評価基準は到達目標に準じます。
- ・評価方法は以下の通りです。
  - 毎回の予習25%
  - 毎回の授業内の取り組み・復習25%
  - 定期試験50%
  - 授業内の発言・発表、レポート提出・発表に加点あり

## - - - テキスト - - -

以下の電子テキストを使用します。  
 西川英彦・廣田章光編著『1からの商品企画』碩学舎、2012年、2,640円、ISBN 9784502693007

購入後、以下URL(EDX UniText)からログイン

<https://www.d-text-service.jp/product/>

- ・組織コードは fufoe
- ・ログインID・パスワードは購入後に設定可

## - - - 履修上の留意点 - - -

電子テキストを使用するため、パソコンあるいはタブレットを用意して下さい。スマホでも閲覧可能ですが、パソコンやタブレットを推奨します。

## - - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)：商品企画プロセス
2. インタビュー法
3. インタビュー法2(演習)
4. 観察法
5. 観察法2(演習)
6. リード・ユーザー法
7. アイデア発想
8. アイデア発想2(演習)
9. コンセプト開発
10. プロトタイピング(試作品)
11. プロトタイピング(試作品)2
12. コンセプトテスト
13. 企画書作成
14. プレゼンテーション
15. 優秀レポートの報告  
授業アンケートFURIKA実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/qdkm5o3ec4k2dshxtivt0z8720cu1kp7>)

## 明神 実枝

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

- 1.商品企画のプロセスについて説明できる。（DP1-1）（知識・理解）
- 2.インタビューや観察法、リード・ユーザー法などの定性調査を行うことができる。（DP2-1）（技能）
- 3.簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができる。（DP2-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



磯田 則彦

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：木・1時限 試験時間割：2024/07/25 1時限

- - - 概要 - - -

本講義では、日本での外国人人口の増加や、世界各国の国境地帯をはじめとする異民族・異文化の接触地帯の現状と特徴について考察します。事例地域は、日本をはじめ、アジア内陸部やシンガポール・香港、北アメリカ(ケベック・カリフォルニア)、オーストラリア・ニュージーランドなどです。

2021年には、57年ぶりに東京で夏季オリンピックが開催されましたが、1964年当時の日本社会と現在では多くのことが異なります。外国人観光客の訪問や同居住者の顕著な増大は、私たちの日常に、文字どおり「異文化の接触地帯」を形成しています。客観的な人口統計の分析と解釈からこの数十年間での社会の変貌ぶりが見えてくるでしょう。

もちろん、異文化の接触地帯は多くの社会に見られます。典型的なそれは国境地帯です。概して、同地帯は異民族が接触する地帯であり、そこには文化的な摩擦や融合などが確認できます。本講義においては、アジア内陸部をはじめとする国境地帯を取りあげ考察を行います。

各国・社会の異文化の接触地帯の現状と特徴について理解し、説明できるようになることを目標とします。なお、授業は講義形式で行います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、担当教員が作成した(講義)資料にもとづいて、講義形式で行います。講義資料は、FUポータル「授業支援」・「講義照会」を通じて事前にアップロードします。予習・復習にご利用ください。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

日本国内および世界各地の異文化の接触地帯について基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日常的に異なる文化が接触する地帯において、当該社会を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

各回の講義内容の理解を進めるために、講義時間と同等以上の予習・復習を行ってください(講義1時間あたり各90分以上)。具体的には、授業で使用する資料(専門用語など)について予め学習する。および、板書ノートや前記資料中の専門用語の意味や重要統計などを復習する。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験有。定期試験の結果(100%)により評価します。具体的には、日本の外国人人口数の推移や属性の変化、世界各国の異文化の接触地帯の特徴(民族・文化的背景など)に関する専門用語および重要統計などが理解できているかを重視します。

- - - テキスト - - -

なし。配布資料により講義を行います。

- - - 参考書 - - -

世界地図および各国要覧等

- - - 履修上の留意点 - - -

クラスサイズが比較的大きいので、授業中に十分に理解できなかった点、確認しておきたい点、疑問点などはオフィス・アワーなどを利用して補うことをすすめます。もちろん、地理学Aを受講する上での学習上のアドバイスなどもできますので、遠慮なく相談してください。みなさんが主体的に勉強できる環境を一緒につくりましょう。

- - - 授業計画 - - -

イントロダクション(スタートアップ授業) 1960年代の日本社会

外国人人口の推移と属性の変化

外国人コミュニティの形成と特徴

今後の展望と課題

「異文化の接触地帯」とは

U.S.「何でもあり」のカリフォルニア

多文化主義とカナダ- フレンチ・カナダ

多文化主義への転換とオーストラリア

移民社会・N.Z.- 「中立性」

移民社会・シンガポール- 人口増加の謎

東洋と西洋の接触- 香港(ホンコン/シャンガン)

国境を見る- アジア内陸部

国境に行く- アジア内陸部

国境を考える- アジア内陸部

前期のまとめ 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/u3tuxadxxawbwhwkslhieb06v0fnahg7>)

磯田 則彦

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.日本国内および世界各地の異文化の接触地帯について基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.日常的に異なる文化が接触する地帯において、当該社会を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

磯田 則彦

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：水・1時限 試験時間割：2024/07/25 1時限

- - - 概要 - - -

本講義では、日本での外国人人口の増加や、世界各国の国境地帯をはじめとする異民族・異文化の接触地帯の現状と特徴について考察します。事例地域は、日本をはじめ、アジア内陸部やシンガポール・香港、北アメリカ(ケベック・カリフォルニア)、オーストラリア・ニュージーランドなどです。

2021年には、57年ぶりに東京で夏季オリンピックが開催されましたが、1964年当時の日本社会と現在では多くのことが異なります。外国人観光客の訪問や同居住者の顕著な増大は、私たちの日常に、文字どおり「異文化の接触地帯」を形成しています。客観的な人口統計の分析と解釈からこの数十年間での社会の変貌ぶりが見えてくるでしょう。

もちろん、異文化の接触地帯は多くの社会に見られます。典型的なそれは国境地帯です。概して、同地帯は異民族が接触する地帯であり、そこには文化的な摩擦や融合などが確認できます。本講義においては、アジア内陸部をはじめとする国境地帯を取りあげ考察を行います。

各国・社会の異文化の接触地帯の現状と特徴について理解し、説明できるようになることを目標とします。なお、授業は講義形式で行います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、担当教員が作成した(講義)資料にもとづいて、講義形式で行います。講義資料は、FUポータル「授業支援」・「講義照会」を通じて事前にアップロードします。予習・復習にご利用ください。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

日本国内および世界各地の異文化の接触地帯について基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日常的に異なる文化が接触する地帯において、当該社会を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

各回の講義内容の理解を進めるために、講義時間と同等以上の予習・復習を行ってください(講義1時間あたり各90分以上)。具体的には、授業で使用する資料(専門用語など)について予め学習する。および、板書ノートや前記資料中の専門用語の意味や重要統計などを復習する。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験有。定期試験の結果(100%)により評価します。具体的には、日本の外国人人口数の推移や属性の変化、世界各国の異文化の接触地帯の特徴(民族・文化的背景など)に関する専門用語および重要統計などが理解できているかを重視します。

- - - テキスト - - -

なし。配布資料により講義を行います。

- - - 参考書 - - -

世界地図および各国要覧等

- - - 履修上の留意点 - - -

クラスサイズが比較的大きいので、授業中に十分に理解できなかった点、確認しておきたい点、疑問点などはオフィス・アワーなどを利用して補うことをすすめます。もちろん、地理学Aを受講する上での学習上のアドバイスなどもできますので、遠慮なく相談してください。みなさんが主体的に勉強できる環境を一緒につくりましょう。

- - - 授業計画 - - -

イントロダクション(スタートアップ授業) 1960年代の日本社会

外国人人口の推移と属性の変化

外国人コミュニティの形成と特徴

今後の展望と課題

「異文化の接触地帯」とは

U.S.「何でもあり」のカリフォルニア

多文化主義とカナダ- フレンチ・カナダ

多文化主義への転換とオーストラリア

移民社会・N.Z.- 「中立性」

移民社会・シンガポール- 人口増加の謎

東洋と西洋の接触- 香港(ホンコン/シャンガン)

国境を見る- アジア内陸部

国境に行く- アジア内陸部

国境を考える- アジア内陸部

前期のまとめ 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/dvbav8ouvy8xkwwx2rxmsgqmbmhap07m>)

磯田 則彦

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.日本国内および世界各地の異文化の接触地帯について基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.日常的に異なる文化が接触する地帯において、当該社会を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

藤村 健一

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：月・4 時限 試験時間割：2024/07/25 1 時限

- - - 概要 - - -

地理学は、おおむね人文地理学・自然地理学・地誌学に分かれている。

この授業では、まず地理学全体について説明する。このなかでは、地理学の研究目的・研究方法について、研究事例を紹介しながら解説する。

つぎに、環境論（人間と自然環境の関係についての研究）の歴史について説明する。地理学では環境論が第二次世界大戦後に低調となったが、その理由についても言及する。

そのあとで、自然地理学の主要テーマである気候・地形について講じる。ここでは、単なる気候・地形の分布にとどまらず、これらの成因についても解説する。

さらに、人文地理学の中でも自然地理学と特に関わりが深い農業の地理学について論じる。ここでは、世界の農業の分布を気候と関連づけながら解説する。

このほか、学校の地理教育の現状についても説明する。

以上を通して、地理学の基礎的な知識と地理学的な考え方を修得することを目指す。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で行う。授業各回の冒頭でプリントを配布し、これに沿って授業を進める。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

地理学の基本的な考え方を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

気候・地形と農業に関する基礎的な知識を理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回授業前に、前回授業の内容をプリントなどを使って復習してください。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：授業内容を理解し、地理学の基礎を理解できているかを評価の基準とする。

評価方法：定期試験

- - - テキスト - - -

なし（プリントを配布する）

- - - 参考書 - - -

仁科淳司『やさしい気候学 第4版』 ISBN 9784772285117

吉田英嗣『はじめての自然地理学 第2版』 ISBN 9784772271486

西城潔ほか『地形でとらえる環境と暮らし』 ISBN 9784772253369

これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

- - - 授業計画 - - -

1. 【スタートアップ授業】イントロダクション、地理学とは何か I (地理学の分類)
2. 地理学とは何か II (地理学の研究目的)
3. 地理学とは何か III (地理学の研究方法)
4. 地理学と地理教育
5. 環境論の盛衰
6. 気候 I (気候因子)
7. 気候 II (ケッペンの気候区分(1): 区分方法)
8. 気候 III (ケッペンの気候区分(2): 各気候の分布)
9. 気候 IV (風と海流、日本の気候)
10. 地形 I (大地形)
11. 地形 II (小地形)
12. 世界の農業 I (農産物の原産地と栽培条件)
13. 世界の農業 II (農業の種類(1): 自給的農業)
14. 世界の農業 III (農業の種類(2): 商業的農業、企業的農業)
15. 世界の農業 IV (主な農産物の生産)、授業アンケート  
 FURIKAの実施  
 講義の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性がある。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/7nbmb1joknrfennw0l0qenaz5950inq)

藤村 健一

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.地理学の基本的な考え方を理解することができる。 (DP1-1) (知識・理解)
- 2.気候・地形と農業に関する基礎的な知識を理解することができる。 (DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

- DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

藤村 健一

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：木・4時限 試験時間割：2024/07/25 1時限

- - - 概要 - - -

地理学は、おおむね人文地理学・自然地理学・地誌学に分かれている。

この授業では、まず地理学全体について説明する。このなかでは、地理学の研究目的・研究方法について、研究事例を紹介しながら解説する。

つぎに、環境論（人間と自然環境の関係についての研究）の歴史について説明する。地理学では環境論が第二次世界大戦後に低調となったが、その理由についても言及する。

そのあとで、自然地理学の主要テーマである気候・地形について講じる。ここでは、単なる気候・地形の分布にとどまらず、これらの成因についても解説する。

さらに、人文地理学の中でも自然地理学と特に関わりが深い農業の地理学について論じる。ここでは、世界の農業の分布を気候と関連づけながら解説する。

このほか、学校の地理教育の現状についても説明する。

以上を通して、地理学の基礎的な知識と地理学的な考え方を修得することを目指す。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で行う。授業各回の冒頭でプリントを配布し、これに沿って授業を進める。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

地理学の基本的な考え方を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

気候・地形と農業に関する基礎的な知識を理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回授業前に、前回授業の内容をプリントなどを使って復習してください。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：授業内容を理解し、地理学の基礎を理解できているかを評価の基準とする。

評価方法：定期試験

- - - テキスト - - -

なし（プリントを配布する）

- - - 参考書 - - -

仁科淳司『やさしい気候学 第4版』 ISBN 9784772285117

吉田英嗣『はじめての自然地理学 第2版』 ISBN 9784772271486

西城潔ほか『地形でとらえる環境と暮らし』 ISBN 9784772253369

これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

- - - 授業計画 - - -

1. 【スタートアップ授業】イントロダクション、地理学とは何かⅠ（地理学の分類）
2. 地理学とは何かⅡ（地理学の研究目的）
3. 地理学とは何かⅢ（地理学の研究方法）
4. 地理学と地理教育
5. 環境論の盛衰
6. 気候Ⅰ（気候因子）
7. 気候Ⅱ（ケッペンの気候区分(1)：区分方法）
8. 気候Ⅲ（ケッペンの気候区分(2)：各気候の分布）
9. 気候Ⅳ（風と海流、日本の気候）
10. 地形Ⅰ（大地形）
11. 地形Ⅱ（小地形）
12. 世界の農業Ⅰ（農産物の原産地と栽培条件）
13. 世界の農業Ⅱ（農業の種類(1)：自給的農業）
14. 世界の農業Ⅲ（農業の種類(2)：商業的農業、企業的農業）
15. 世界の農業Ⅳ（主な農産物の生産）、授業アンケート  
 FURIKAの実施  
 講義の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性がある。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/  
 xc2vuujfx0hn4jxsq4m9pxplap2vtxhn)

藤村 健一

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.地理学の基本的な考え方を理解することができる。 (DP1-1) (知識・理解)
- 2.気候・地形と農業に関する基礎的な知識を理解することができる。 (DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

- DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 近藤 祐磨

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
授業時間割：前期：金・2時限 試験時間割：定期試験なし

## 概要

地理学は、地域差を追究する学問であり、「空間」の科学である。本授業では、人間が地域や空間をどのようにとらえ、どのように利用してきたのかを、農山村や都市に大きく分けて、さまざまな具体的な事例を挙げながら解説する。それにより、衣食住や通学・レジャーといった、生活上の身近で親しみやすい事例が、地理学や周辺分野との研究と結びつくことで、知的な刺激を喚起する。

地理学の扱う研究対象や内容は多岐にわたり、全てを本授業で網羅することは困難であるが、地理学の基本的な見方・考え方を修得し、本授業以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できるようになることを目指す。

本授業は講義形式で行われる。

## 授業の進行・方法

本授業は、教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。講義資料は事前にMoodle上で掲載するので、各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

なお、本授業はアクティブ・ラーニング形式には該当しませんが、数々の問いを適宜受講者に対して投げかけます。そのため、受動的ではなく、積極的に思考しながら受講してください。

授業支援と双方向性確保のため、Moodle上に掲示板（フォーラム）を設置する予定です。授業を聞いて考えたことや質問などを自由に投稿してください。

## アクティブ・ラーニング

いいえ / No

## 到達目標

地理学の基礎的な学説・理論を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

本講義以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。(DP1-1)(態度・志向性)

多様な考え方・価値観に触れ、地理的な事象を多角的に見ることが出来る。(DP2-1)(知識・理解)

地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで、自らの考えや立ち位置を表現することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

## 授業時間外の学習(予習・復習)

【予習】初回に挙げた文献を読んでおくこと。(60分)

【復習】その回に別途挙げた文献を読んでおくこと。また、授業で学んだ理論や事例について、各自追加で調べて、知見を深掘りしたり広げたりしておくこと。(120分)

## 成績評価基準および方法

評価基準：授業内容に基づく地理学の見方・考え方や基本的な学説を理解できているか、そしてその学説について考察して自分の言葉で表現できるかを、授業内に実施する2回の振り返りのテストで評価します。

評価方法：振り返りのテスト(前半50%+後半50%)。Moodle上で実施します。

加えて、掲示板(フォーラム)に書き込んだ内容のうち、特に授業への貢献度が高いものについては、上記の合計点に上限10点で加算します。

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

## テキスト

使用しません。配布資料をMoodle上にアップロードします。各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

## 参考書

都市の人文地理学 ISBN 9784772253253

現代農村の地理学 ISBN 9784772231947

はじめて地理学 ISBN 9784860645298

その他は適宜指示します。

## 履修上の留意点

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

振り返りのテストを実施する回では、Moodleを閲覧できるノートPCまたはタブレット端末、スマートフォンの持参が必要です。

履修にあたり、予備知識は特に要しません。高校での地理の履修の有無も問いません。

しかし、本授業は一斉型の講義形式ながらも、思考を促す場面を多く設定しています。人数の多い講義ですが、自分自身もこの講義を作る一員であることを意識して、受動的ではなく、能動的な態度で受講してください。

日常のさまざまな場面が地理学的な考察につながります。講義内容を日常生活のあらゆる場面と関連させ、興味のあることを自ら深めるようにしてください。

履修にあたって合理的配慮が必要な場合は、あらかじめ学生課に相談・申請してください。

## 授業計画

オリエンテーションと本講義の理念(スタートアップ授業)

地理学の基礎

地図から見える世界

農村の成立と構造

里山という概念とその位置づけ

里山の利用と再評価

食と農業

前半の振り返り(テストと解説)

都市の成立と構造

面と点で考える都市

「移動」という行為と縮まる世界

都市と交通

都市における再開発

景観と場所の文化

後半の振り返り(テストと解説)・授業アンケート

FURIKAの実施

内容は進度などにより変更する場合があります

## スタートアップ授業

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/s/](https://fukuoka-u.box.com/s/if7fmlm7g2t0q0c9pg59pz4h7fzohyia)

[if7fmlm7g2t0q0c9pg59pz4h7fzohyia](https://fukuoka-u.box.com/s/if7fmlm7g2t0q0c9pg59pz4h7fzohyia))

近藤 祐磨

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.地理学の基礎的な学説・理論を理解し,説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.本講義以外の学びや日常生活において,地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。(DP1-1) (態度・志向性)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.多様な考え方・価値観に触れ,地理的な事象を多角的に見ることができる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで,自らの考えや立ち位置を表現することができる。(DP2-2) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 近藤 祐磨

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
授業時間割：前期：金・4時限 試験時間割：定期試験なし

## 概要

地理学は、地域差を追究する学問であり、「空間」の科学である。本授業では、人間が地域や空間をどのようにとらえ、どのように利用してきたのかを、農山村や都市に大きく分けて、さまざまな具体的な事例を挙げながら解説する。それにより、衣食住や通学・レジャーといった、生活上の身近で親しみやすい事例が、地理学や周辺分野との研究と結びつくことで、知的な刺激を喚起する。

地理学の扱う研究対象や内容は多岐にわたり、全てを本授業で網羅することは困難であるが、地理学の基本的な見方・考え方を修得し、本授業以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できるようになることを目指す。

本授業は講義形式で行われる。

## 授業の進行・方法

本授業は、教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。講義資料は事前にMoodle上で掲載するので、各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

なお、本授業はアクティブ・ラーニング形式には該当しませんが、数々の問いを適宜受講者に対して投げかけます。そのため、受動的ではなく、積極的に思考しながら受講してください。

授業支援と双方向性確保のため、Moodle上に掲示板（フォーラム）を設置する予定です。授業を聞いて考えたことや質問などを自由に投稿してください。

## アクティブ・ラーニング

いいえ / No

## 到達目標

地理学の基礎的な学説・理論を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

本講義以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。(DP1-1)(態度・志向性)

多様な考え方・価値観に触れ、地理的な事象を多角的に見ることが出来る。(DP2-1)(知識・理解)

地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで、自らの考えや立ち位置を表現することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

## 授業時間外の学習(予習・復習)

【予習】初回に挙げた文献を読んでおくこと。(60分)

【復習】その回に別途挙げた文献を読んでおくこと。また、授業で学んだ理論や事例について、各自追加で調べて、知見を深掘りしたり広げたりしておくこと。(120分)

## 成績評価基準および方法

評価基準：授業内容に基づく地理学の見方・考え方や基本的な学説を理解できているか、そしてその学説について考察して自分の言葉で表現できるかを、授業内に実施する2回の振り返りのテストで評価します。

評価方法：振り返りのテスト（前半50%＋後半50%）。Moodle上で実施します。

加えて、掲示板（フォーラム）に書き込んだ内容のうち、特に授業への貢献度が高いものについては、上記の合計点に上限10点で加算します。

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

## テキスト

使用しません。配布資料をMoodle上にアップロードします。各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

## 参考書

都市の人文地理学 ISBN 9784772253253

現代農村の地理学 ISBN 9784772231947

はじめて地理学 ISBN 9784860645298

その他は適宜指示します。

## 履修上の留意点

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

振り返りのテストを実施する回では、Moodleを閲覧できるノートPCまたはタブレット端末、スマートフォンの持参が必要です。

履修にあたり、予備知識は特に要しません。高校での地理の履修の有無も問いません。

しかし、本授業は一斉型の講義形式ながらも、思考を促す場面を多く設定しています。人数の多い講義ですが、自分自身もこの講義を作る一員であることを意識して、受動的ではなく、能動的な態度で受講してください。

日常のさまざまな場面が地理学的な考察につながります。講義内容を日常生活のあらゆる場面と関連させ、興味のあることを自ら深めるようにしてください。

履修にあたって合理的配慮が必要な場合は、あらかじめ学生課に相談・申請してください。

## 授業計画

オリエンテーションと本講義の理念（スタートアップ授業）

地理学の基礎

地図から見える世界

農村の成立と構造

里山という概念とその位置づけ

里山の利用と再評価

食と農業

前半の振り返り（テスト）

都市の成立と構造

面と点で考える都市

「移動」という行為と縮まる世界

都市と交通

都市における再開発

景観と場所の文化

後半の振り返り（テスト）・授業アンケートFURIKAの実施

内容は進度などにより変更する場合があります

## スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/tnwfdgolkj6xco1z32hqhy3rt488kot>)

近藤 祐磨

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.地理学の基礎的な学説・理論を理解し,説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.本講義以外の学びや日常生活において,地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。(DP1-1) (態度・志向性)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.多様な考え方・価値観に触れ,地理的な事象を多角的に見ることができる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで,自らの考えや立ち位置を表現することができる。(DP2-2) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

磯田 則彦

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：木・二部2時限 試験時間割：2024/07/25 夜2限

--- 概要 ---

日本は世界の国々のなかでも都市人口率の高い国のひとつであり、同率は市部人口ベースで90%以上となっています。国勢調査における人口集中地区人口率でみた場合も、直近の同調査で70%となっています。現在、市制を施行している自治体は790を上回り、これらに東京都特別区部を足し合わせるとその数は優に800を上回ります。多数の都市が存在しますが、それらの人口規模や都市機能、中心性などは多様であり、都市にもそれぞれ特徴があります。

本講義においては、東京・大阪・名古屋の3大都市をはじめとして、札幌・仙台・広島・福岡の広域中心都市、県庁所在都市をはじめとする地方中心都市などを考察の対象とします。また、これらの都市を主要な構成要素とする日本の都市システムについても分析します。その際には、「ヒト・モノ・カネ・ジョウホウ」などの流動(相互作用)が空間的にみてどのような特徴をもっているのかに着目します。あわせて、アメリカやドイツなど、日本の都市システムとは異なる構造的特徴を有するシステムについても検討します。客観的な統計をもとにシステム論的な分析や国際比較を行うところに本講義の特徴があります。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、担当教員が作成した(講義)資料にもとづいて、講義形式で行います。講義資料は、FUポータル「授業支援」・「講義照会」を通じて事前にアップロードします。予習・復習にご利用ください。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

3大都市や広域中心都市をはじめとする日本の都市と都市システムの構造的特徴についての基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

さまざまな都市について、都市システム論を通じて多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

各回の講義内容の理解を進めるために、講義時間と同等以上の予習・復習を行ってください(講義1時間あたり各90分以上)。具体的には、授業で使用する資料(専門用語など)について予め学習する。および、板書ノートや前記資料中の専門用語の意味や重要統計などを復習する。(180分)

--- 成績評価基準および方法 ---

定期試験有。定期試験の結果(100%)により評価します。具体的には、3大都市や広域中心都市、地方中心都市などの特徴、および都市システムの構造的な特徴について専門用語や重要統計が理解できているかを重視します。

--- テキスト ---

なし。配布資料により講義を行います。

--- 履修上の留意点 ---

クラスサイズが比較的大きいので、授業中に十分に理解できなかった点、確認しておきたい点、疑問点などはオフィス・アワーなどを利用して補うことをすすめます。もちろん、地理学Aを受講するうえでの学習上のアドバイスなどもできますので、遠慮なく相談してください。皆さんが主体的に学習できる環境を一緒に作りましょう。

--- 授業計画 ---

イントロダクション(スタートアップ授業)「都市」の捉え方・考え方

都市の分類法 - 人口規模・都市機能・中心性 -

日本の都市の分類 - 大都市・中都市・小都市 -

日本の都市の分類 - 工業都市・商業都市・住宅都市 など -

日本の都市の分類 - 中心性にもとづく分類 -

「六大都市」から「3大都市圏」へ

3大都市圏形成のメカニズム

3大都市圏の機能的特徴と変化

地方中心都市から広域中心都市へ

広域中心都市形成のメカニズム

広域中心都市の機能的特徴

都市システム論とは

日本の都市システムの構造的特徴

アメリカ・ドイツの都市システムとの比較考察

前期のまとめ 授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/48p39zwpaggz2k1t15vf4yw063f84wkvy>)

磯田 則彦

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.3 大都市や広域中心都市をはじめとする日本の都市と都市システムの構造的特徴についての基礎的な知識を理解し説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.さまざまな都市について、都市システム論を通じて多角的に見ることができるようになる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

磯田 則彦

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：前期：水・3時限 試験時間割：定期試験なし

概要

本演習では、さまざまな国や地域を取り上げ、そこにみられる社会や文化などを考察することにより、現実世界の多様性について理解を深めていきます。現在、世界には197の国と複数の地域がありますが、そこには異なる人種、さまざまな民族が暮らしています。彼らが形成してきた社会や文化は多様であり、日本と諸外国では多くのことが異なっています。われわれは海外旅行により「非日常的な世界」への“トリップ”を期待しますし、滞在先の外国で日本の常識が常識とはならないことも経験的に知っています。では、この差異を「当然存在するもの」としてどのように受け止め、どのように理解すればよいのでしょうか。本演習では、「外(外国)と内(日本)」を知ることで、国際社会に主体的に生きる人間としての教養を深めていきます。なお、演習では受講者各自に特定の国や地域に関して、あるテーマを設けて分担発表をしていただく予定です。授業は、演習(ゼミ)形式で行われます。

授業の進行・方法

授業は、担当教員および演習参加者(授業登録者)が作成した資料(レジュメ)にもとづいて、演習(ゼミ)形式で行います。国や地域に関する各分担発表に対して、質疑応答とディスカッションを実施します。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

世界の国々や地域についての基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

世界にはさまざまな価値観と行動様式があることを知り、異なる文化・社会に柔軟に接することができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP2-2)(技能)

授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる。(DP3-1)(知識・理解)

授業を通してさまざまな捉え方について学び、課題に気づくことができる。(DP3-2)(技能)

社会的な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを発揮できる。(DP4-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

各回の演習内容の理解を進めるために、演習時間と同等以上の予習・復習を行ってください(演習1時間あたり各90分以上)。具体的には、授業で使用する資料(専門用語など)について予め学習する。および、発表レジュメの見直しを行うほか、専門用語や各種統計などを復習する。(180分)

成績評価基準および方法

定期試験はありません。したがって、再試験もありません。分担発表(35%)、レポートの内容(35%)、平常点(積極的な受講状況・ゼミでの発言状況(質問・意見など)・建設的な議論への貢献度など)(30%)により評価します。具体的には、世界のさまざまな国や地域に関する各種事象や地理学的な専門用語を適切に理解できているかを重視します。

テキスト

なし。配布資料(レジュメ)により演習を行います。

参考書

地図帳および各国要覧など

授業計画

イントロダクション(スタートアップ授業)世界の国々や地域

レジュメの作成と発表のしかたについて

分担発表(1)世界の国々や地域について

分担発表(2)世界の国々や地域について

分担発表(3)世界の国々や地域について

分担発表(4)世界の国々や地域について

分担発表(5)世界の国々や地域について

分担発表(6)世界の国々や地域について

分担発表(7)世界の国々や地域について

分担発表(8)世界の国々や地域について

分担発表(9)世界の国々や地域について

分担発表(10)世界の国々や地域について

分担発表(11)世界の国々や地域について

分担発表(12)世界の国々や地域について

前期のまとめ 授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/e7dmwgqzukktrjr6845vqctxzfoivc4>)

磯田 則彦

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1 DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

- 1.世界の国々や地域についての基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1) (知識・理解)
- 2.世界にはさまざまな価値観と行動様式があることを知り、異なる文化・社会に柔軟に接することができるようになる。(DP2-1) (知識・理解)
- 3.自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP2-2) (技能)
- 4.授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる。(DP3-1) (知識・理解)
- 5.授業を通してさまざまな捉え方について学び、課題に気づくことができる。(DP3-2) (技能)
- 6.社会的な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを発揮できる。(DP4-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



近藤 祐磨

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：前期：火・5時限 試験時間割：定期試験なし

概要

地理学は、地域差を追究する学問であり、「空間」の科学である。「この地域はどのような特徴をもつのだろうか?」「どうしてここにあるのだろうか?」「なぜこの地域では」というユニークな食べ物が食べられているのだろうか?」といった、地域や空間、そして空間スケールに関するあらゆる生活上の小さな疑問は、地理学という学問としての関心と結びつき、学び・研究に発展させるものである。そこで本演習では、各学生の関心に基づき、自身の出身地やゆかりの地域、あるいは逆に行ってみたい任意の地域と、それらの地域における任意の事象・現象を取り上げて、当該地域の特徴を学術的に記述し説明するという実践を行う。それにより、大学での学問の基本的な探究方法を学びながら、地理学的な見方・考え方とその幅の広さ・奥深さを知り、教養を広げ、深めることを目指す。本授業は演習(ゼミ)形式で行われる。

授業の進行・方法

本授業は演習(ゼミ)形式で行われます。具体的には、15人という履修定員を設け、受講者各々にテーマを設定して調べ、発表していただきます。そのうえで、他の受講者や担当教員による質疑応答によって議論を深めます。講義形式の授業とは比べものにならないほどの、授業への周到な準備および積極的な議論への参加が求められます。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

- 地理学の基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
- 他の受講者が扱う多様なテーマにも関心をもち、積極的に議論に参加することができる。(DP2-1)(態度・志向性)
- 地域によって異なる文化・社会を理解し、柔軟に接することができる。(DP2-2)(態度・志向性)
- 自分の考えを、他者に納得できるような根拠とともに他者に分かりやすく示すことができる。(DP3-1)(態度・志向性)
- 自分の考えや他者の考えに対して、他者と建設的に議論できる。(DP3-1)(態度・志向性)
- 半期にわたって、自分の設定したテーマを粘り強く広げ、深めることができる。(DP3-2)(技能)

授業時間外の学習(予習・復習)

- 自身のテーマに関する発表に向けた準備をする(文献渉猟と読み込み・分析・考察および発表レジュメの作成)。(150分)
- 討議を経て得られた意見やアイデアを検討し、自身のテーマをブラッシュアップさせる。(30分)

成績評価基準および方法

評価基準：自らの関心に基づくテーマを、納得できるような根拠に基づいて広げ、深掘りできているかを、4回にわたる演習発表により評価します。さらに、他者の演習発表に対しても建設的な質疑応答・議論ができているかを評価します。

評価方法：発表の内容(60%) + 平常点(受講状況、ゼミでの質疑応答の議論への貢献度)(40%)

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

テキスト

指定しません。

参考書

適宜指示します。

履修上の留意点

定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできません。

高校での地理(地理A, 地理B)や、講義形式で行う共通教育科目「地理学A」の履修の有無は問いません。また、履修定員超過の場合に実施する抽選で、それらの履修の有無が考慮されることはありません。

本授業は、以下の3つが確実にできる場合に限り履修できます。

- 授業外の時間での周到な準備ができること
- 他の受講者が発表した内容についても、積極的に質疑応答・議論できること
- 自分の発表回か否かにかかわらず、無断欠席をしないこと(他の講義形式の授業と演習形式の授業では、欠席することによる授業および他の受講者への影響が異なります)

履修にあたって合理的配慮が必要な場合は、あらかじめ学生課に相談・申請してください。

授業計画

- オリエンテーション(スタートアップ授業)
- 自己紹介・発表とその準備方法
- 構想発表・文献渉猟
- 発表と議論1-1
- 発表と議論1-2
- 発表と議論1-3
- 発表と議論1-4
- 発表と議論1-5
- 発表と議論2-1
- 発表と議論2-2
- 発表と議論2-3
- 発表と議論2-4
- 発表と議論2-5
- 最終プレゼンテーションおよびピアレビュー
- 全体のまとめ・授業アンケートFURIKAの実施

内容は進度などにより変更する場合があります

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/961um1wtrxn6kjl9wp8alialblq5nsd)

近藤 祐磨

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー ( DP )

1. 地理学の基礎的な知識を理解し説明できる。 ( DP1-1 ) ( 知識・理解 )
2. 他の受講者が扱う多様なテーマにも関心を持ち、積極的に議論に参加することができる。 ( DP2-1 ) ( 態度・志向性 )
3. 地域によって異なる文化・社会を理解し、柔軟に接することができる。 ( DP2-2 ) ( 態度・志向性 )
4. 自分の考えを、他者に納得できるような根拠とともに他者に分かりやすく示すことができる。 ( DP3-1 ) ( 態度・志向性 )
5. 自分の考えや他者の考えに対して、他者と建設的に議論できる。 ( DP3-1 ) ( 態度・志向性 )
6. 半期にわたって、自分の設定したテーマを粘り強く広げ、深めることができる。 ( DP3-2 ) ( 技能 )

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性  
 理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

- DP1-1 大学4年間 ( 6年間 ) の学びを支える基礎を身につけている ( A、B、C )  
 DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている ( A、B、C )

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる ( A、B、C )  
 DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる ( A、B、C )

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる ( A、C )  
 DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる ( B、C )

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる ( A、B )  
 DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる ( B、C )

磯田 則彦

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：2025/01/16 1時限

- - - 概要 - - -

本講義では、現代社会において大きな関心事となっている人口問題を取りあげます。国連によれば、世界人口は2022年11月に80億人に到達しました。世界人口は、この数十年間において、11～12年間で10億人ずつ増加しており、年間8,000万人前後増えてきたこととなります。

それでは、世界中のどの国や地域においても人口は急速に増加しているのでしょうか？人口統計はそのような傾向を示してはいません。すなわち、世界には、依然として高い出生率と死亡率の顕著な低下を背景に急速に人口が増加している社会がみられる一方で、価値観やライフスタイルの変化などを背景に少子・高齢化が進展している社会がみられます。前者はどのような国々で、後者にはどのようなそれらが含まれるのでしょうか。本講義においては、客観的な人口統計を利用することと、各社会の特徴を考察することにより理解を深めます。

各社会の人口動態と人口問題の特徴について理解し、説明できるようにすることを目標とします。なお、授業は講義形式で行います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、担当教員が作成した（講義）資料にもとづいて、講義形式で行います。講義資料は、FUポータル「授業支援」・「講義照会」を通じて事前にアップロードします。予習・復習にご利用ください。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

世界の人口問題についての基礎的な知識を理解し説明できる。  
 (DP1-1)(知識・理解)

急速な人口増加や少子高齢社会・人口減少社会について、人口動態の変化を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)  
 (知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

各回の講義内容の理解を進めるために、講義時間と同等以上の予習・復習を行ってください（講義1時間あたり各90分以上）。具体的には、授業で使用する資料（専門用語など）について予め学習する。および、板書ノートや前記資料中の専門用語の意味や重要統計などを復習する。  
 (180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験有。定期試験の結果（100%）により評価します。具体的には、急速な人口増加の問題や少子高齢・人口減少社会などに関する専門用語や重要統計が理解できているかを重視します。

- - - テキスト - - -

なし。配布資料により講義を行います。

- - - 参考書 - - -

世界各国の総人口や属性別人口に関する各種統計資料

- - - 履修上の留意点 - - -

クラスサイズが比較的大きいので、授業中に十分に理解できなかった点、確認しておきたい点、疑問点などはオフィス・アワーなどを利用して補うことをすすめます。もちろん、地理学Bを受講するうえでの学習上のアドバイスなどもできますので、遠慮なく相談してください。みなさんが主体的に勉強できる環境を一緒につくりましょう。

- - - 授業計画 - - -

イントロダクション（スタートアップ授業）静態人口と人口統計

動態人口と人口統計

人口動態の段階

サハラ以南のアフリカ諸国における急速な人口増加

「発展途上国」の分類

人口急増社会における人口動態の特徴

高水準の出生率に影響を与える社会経済的要因

「国際的な人口会議」の開催とICPD

「少子化」と「高齢化」の考え方

出生力低下の動向

高齢化の進展

人口動態からみた「先進国」の分類

少子・高齢社会

人口減少社会

後期のまとめ 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ev632d0mg195nwhvzi0nld0dszfv13v2>)

磯田 則彦

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.世界の人口問題についての基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)  
(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.急速な人口増加や少子高齢社会・人口減少社会について、人口動態の変化を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

磯田 則彦

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：水・1時限 試験時間割：2025/01/16 1時限

- - - 概要 - - -

本講義では、現代社会において大きな関心事となっている人口問題を取りあげます。国連によれば、世界人口は2022年11月に80億人に到達した。世界人口は、この数十年間において、11～12年間で10億人ずつ増加しており、年間8,000万人前後増えてきたこととなります。

それでは、世界中のどの国や地域においても人口は急速に増加しているのでしょうか？人口統計はそのような傾向を示してはいません。すなわち、世界には、依然として高い出生率と死亡率の顕著な低下を背景に急速に人口が増加している社会がみられる一方で、価値観やライフスタイルの変化などを背景に少子・高齢化が進んでいる社会がみられます。前者はどのような国々で、後者にはどのようなそれらが含まれるのでしょうか。本講義においては、客観的な人口統計を利用することと、各社会の特徴を考察することにより理解を深めます。

各社会の人口動態と人口問題の特徴について理解し、説明できるようにすることを目標とします。なお、授業は講義形式で行います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、担当教員が作成した（講義）資料にもとづいて、講義形式で行います。講義資料は、FUポータル「授業支援」・「講義照会」を通じて事前にアップロードします。予習・復習にご利用ください。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

世界の人口問題についての基礎的な知識を理解し説明できる。  
 (DP1-1)(知識・理解)

急速な人口増加や少子高齢社会・人口減少社会について、人口動態の変化を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)  
 (知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

各回の講義内容の理解を進めるために、講義時間と同等以上の予習・復習を行ってください（講義1時間あたり各90分以上）。具体的には、授業で使用する資料（専門用語など）について予め学習する。および、板書ノートや前記資料中の専門用語の意味や重要統計などを復習する。  
 (180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験有。定期試験の結果（100%）により評価します。具体的には、急速な人口増加の問題や少子高齢・人口減少社会などに関する専門用語や重要統計が理解できているかを重視します。

- - - テキスト - - -

なし。配布資料により講義を行います。

- - - 参考書 - - -

世界各国の総人口や属性別人口に関する各種統計資料

- - - 履修上の留意点 - - -

クラスサイズが比較的大きいので、授業中に十分に理解できなかった点、確認しておきたい点、疑問点などはオフィス・アワーなどを利用して補うことをすすめます。もちろん、地理学Bを受講するうえでの学習上のアドバイスなどもできますので、遠慮なく相談してください。みなさんが主体的に勉強できる環境を一緒につくりましょう。

- - - 授業計画 - - -

イントロダクション（スタートアップ授業）静態人口と人口統計

動態人口と人口統計

人口動態の段階

サハラ以南のアフリカ諸国における急速な人口増加

「発展途上国」の分類

人口急増社会における人口動態の特徴

高水準の出生率に影響を与える社会経済的要因

「国際的な人口会議」の開催とICPD

「少子化」と「高齢化」の考え方

出生力低下の動向

高齢化の進展

人口動態からみた「先進国」の分類

少子・高齢社会

人口減少社会

後期のまとめ 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/](https://fukuoka-u.box.com/s/0fkubecsbe3gogcjusysf08r4w4ho9f6)

[s/0fkubecsbe3gogcjusysf08r4w4ho9f6](https://fukuoka-u.box.com/s/0fkubecsbe3gogcjusysf08r4w4ho9f6))

磯田 則彦

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.世界の人口問題についての基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)  
(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.急速な人口増加や少子高齢社会・人口減少社会について、人口動態の変化を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

藤村 健一

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：月・4時限 試験時間割：2025/01/16 1時限

--- 概要 ---

地理学は、おおむね人文地理学・自然地理学・地誌学に分かれている。この授業ではまず最初に、人文地理学の主要テーマである経済と都市・村落の地理学について講じる。

経済地理学の単元では、工業・サービス業の立地や各国の国民経済・貿易・国際収支などを論じる。

都市地理学の単元では、都市の定義・特徴・機能、都市どうしの関係、都市内部の構造、都市問題、都市の歴史などを取り上げる。

村落地理学の単元では、村落の定義、歴史、社会構造、過疎問題などを論じる。

ついで、現代の国際問題の要因にもなっている宗教・言語の分布・特徴や、世界の民族・人口について論じる。

最後に、地図について学ぶ。ここでは地図の種類や要件といった基本を押さえたうえで、無料で利用できる電子地図の活用法について教える。

以上を通して、人文地理学の基礎的な知識と地理学的な考え方を修得することを目指す。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式で行う。授業各回の冒頭でプリントを配布し、これに沿って授業を進める。なお、この授業では電子地図について扱うが、受講生に対して授業中にPCを用いた作業を課することは予定していない。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

経済地理学・都市地理学・村落地理学の概要を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

世界の宗教・言語の分布と民族・人口に関する基礎的な知識を理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

毎回授業前に、前回授業の内容をプリントなどを使って復習してください。(180分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準：授業内容を理解し、人文地理学の基礎を理解できているかを評価の基準とする。

評価方法：定期試験

--- テキスト ---

なし(プリントを配布する)

--- 参考書 ---

伊藤達也ほか編『経済地理学への招待』 ISBN

9784623086917

岡橋秀典『現代農村の地理学』 ISBN 9784772231947

稲垣稜『都市の人文地理学』 ISBN 9784772253253

これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

--- 履修上の留意点 ---

地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

--- 授業計画 ---

- 1.【スタートアップ授業】イントロダクション、経済地理学Ⅰ(経済地理学とは何か、工業の立地)
- 2.経済地理学Ⅱ(工業の立地、サービス産業の立地)
- 3.経済地理学Ⅲ(日本の産業構造、各国の国民経済)
- 4.経済地理学Ⅳ(各国の貿易、国際収支)
- 5.経済地理学Ⅴ(国際分業と経済のグローバル化)、都市地理学Ⅰ(都市の定義・特徴・機能)
- 6.都市地理学Ⅱ(都市の中心地機能、都市の階層構造、都市の内部構造)
- 7.都市地理学Ⅲ(都市の内部構造、都市化、都市問題)
- 8.都市地理学Ⅳ(都市問題、都市の歴史的形態)
- 9.村落地理学Ⅰ(村落の定義・分類)
- 10.村落地理学Ⅱ(村落の歴史、村落の社会構造、過疎問題)
- 11.世界の宗教Ⅰ(世界の宗教の分類、主な宗教の分布と特徴)
- 12.世界の宗教Ⅱ(主な宗教の分布と特徴)、世界の言語Ⅰ(言語の分類と分布)
- 13.世界の言語Ⅱ(言語の変容・衰退)、民族と文化
- 14.世界の人口
- 15.地図の種類、電子地図の利用、授業アンケートFURIKAの実施

講義の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性がある。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/](https://fukuoka-u.box.com/s/8x1h13gynlaawgi6386uzwpcq0gcvvbx)

[s/8x1h13gynlaawgi6386uzwpcq0gcvvbx](https://fukuoka-u.box.com/s/8x1h13gynlaawgi6386uzwpcq0gcvvbx))

藤村 健一

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.経済地理学・都市地理学・村落地理学の概要を理解することができる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.世界の宗教・言語の分布と民族・人口に関する基礎的な知識を理解することができる。  
(DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



藤村 健一

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：木・5時限 試験時間割：2025/01/16 1時限

- - - 概要 - - -

地理学は、おおむね人文地理学・自然地理学・地誌学に分かれている。この授業ではまず最初に、人文地理学の主要テーマである経済と都市・村落の地理学について講じる。

経済地理学の単元では、工業・サービス業の立地や各国の国民経済・貿易・国際収支などを論じる。

都市地理学の単元では、都市の定義・特徴・機能、都市どうしの関係、都市内部の構造、都市問題、都市の歴史などを取り上げる。

村落地理学の単元では、村落の定義、歴史、社会構造、過疎問題などを論じる。

ついで、現代の国際問題の要因にもなっている宗教・言語の分布・特徴や、世界の民族・人口について論じる。

最後に、地図について学ぶ。ここでは地図の種類や要件といった基本を押さえたうえで、無料で利用できる電子地図の活用法について教える。

以上を通して、人文地理学の基礎的な知識と地理学的な考え方を修得することを目指す。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で行う。授業各回の冒頭でプリントを配布し、これに沿って授業を進める。なお、この授業では電子地図について扱うが、受講生に対して授業中にPCを用いた作業を課することは予定していない。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

経済地理学・都市地理学・村落地理学の概要を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

世界の宗教・言語の分布と民族・人口に関する基礎的な知識を理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回授業前に、前回授業の内容をプリントなどを使って復習してください。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：授業内容を理解し、人文地理学の基礎を理解できているかを評価の基準とする。

評価方法：定期試験

- - - テキスト - - -

なし(プリントを配布する)

- - - 参考書 - - -

伊藤達也ほか編『経済地理学への招待』 ISBN

9784623086917

岡橋秀典『現代農村の地理学』 ISBN 9784772231947

稲垣稜『都市の人文地理学』 ISBN 9784772253253

これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

- - - 履修上の留意点 - - -

地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

- - - 授業計画 - - -

- 1.【スタートアップ授業】イントロダクション、経済地理学Ⅰ(経済地理学とは何か、工業の立地)
- 2.経済地理学Ⅱ(工業の立地、サービス産業の立地)
- 3.経済地理学Ⅲ(日本の産業構造、各国の国民経済)
- 4.経済地理学Ⅳ(各国の貿易、国際収支)
- 5.経済地理学Ⅴ(国際分業と経済のグローバル化)、都市地理学Ⅰ(都市の定義・特徴・機能)
- 6.都市地理学Ⅱ(都市の中心地機能、都市の階層構造、都市の内部構造)
- 7.都市地理学Ⅲ(都市の内部構造、都市化、都市問題)
- 8.都市地理学Ⅳ(都市問題、都市の歴史的形態)
- 9.村落地理学Ⅰ(村落の定義・分類)
- 10.村落地理学Ⅱ(村落の歴史、村落の社会構造、過疎問題)
- 11.世界の宗教Ⅰ(世界の宗教の分類、主な宗教の分布と特徴)
- 12.世界の宗教Ⅱ(主な宗教の分布と特徴)、世界の言語Ⅰ(言語の分類と分布)
- 13.世界の言語Ⅱ(言語の変容・衰退)、民族と文化
- 14.世界の人口
- 15.地図の種類、電子地図の利用、授業アンケートFURIKAの実施

講義の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性がある。

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/33zlx3majguwlmja554rywooja17djb>)

藤村 健一

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.経済地理学・都市地理学・村落地理学の概要を理解することができる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.世界の宗教・言語の分布と民族・人口に関する基礎的な知識を理解することができる。  
(DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

近藤 祐磨

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：後期：金・3時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

地理学は、地域差を追究する学問であり、「空間」の科学である。地理学という学問分野は、専門性と同時に、他の学問分野との関わりや対話を経ながら発展するという学際性・総合性もあわせもつ。本授業では、日々の暮らしやその延長線上にある具体的な事象・現象を、地理学的な視点に立ってとらえるとどのように位置づけられるかを解説する。具体的には、衣食住や、暮らしを彩るアートなどのトピックスを挙げる。また、「沿岸域」を事例に、特定の地域における暮らし（衣食住）がどのように成立しているのかを、その周りの自然環境および社会環境との関連から多角的に解説する。その際、教員自身による研究の成果も反映させて、より実感を伴った理解を促す。

地理学の扱う研究対象や内容は多岐にわたり、全てを本授業で網羅することは困難であるが、地理学の基本的な見方・考え方を修得し、本授業以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できるようにすることを目指す。

本授業は講義形式で行われる。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。講義資料は事前にMoodle上で掲載するので、各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

なお、本授業はアクティブ・ラーニング形式には該当しませんが、数々の問いを適宜受講者に対して投げかけます。そのため、受動的ではなく、積極的に思考しながら受講してください。

授業支援と双方向性確保のため、Moodle上に掲示板（フォーラム）を設置する予定です。授業を聞いて考えたことや質問などを自由に投稿してください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

地理学の基礎的な学説・理論を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

本講義以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。(DP1-1)(態度・志向性)

多様な考え方・価値観に触れ、地理的な事象を多角的に見ることが出来る。(DP2-1)(知識・理解)

地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで、自らの考えや立ち位置を表現することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

【予習】初回に挙げた文献を読んでおくこと。(60分)

【復習】その回に別途挙げた文献を読んでおくこと。また、授業で学んだ理論や事例について、各自追加で調べて、知見を深掘りしたり広げたりしておくこと。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準：授業内容に基づく地理学の見方・考え方や基本的な学説を理解できているか、そしてその学説について考察して自分の言葉で表現できるかを、授業内に実施する2回の振り返りのテストで評価するほか、授業内容に関する小レポート課題で評価します。

評価方法：振り返りのテスト（前半45%＋後半45%）と小レポート課題（10%）。いずれもMoodle上で実施します。

加えて、掲示板（フォーラム）に書き込んだ内容のうち、特に授業への貢献度が高いものについては、上記の合計点に上限10点で加算します。

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

--- テキスト ---

使用しません。配布資料をMoodle上にアップロードします。各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

--- 参考書 ---

はじめて地理学 ISBN 9784860645298

あれもこれも地理学 ISBN 9784860646080

みわたす・つなげる人文地理学 ISBN 9784772281218

その他は適宜指示します。

--- 履修上の留意点 ---

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

振り返りのテストを実施する回では、Moodleを閲覧できるノートPCまたはタブレット端末、スマートフォンの持参が必要です。

履修にあたり、予備知識は特に要しません。高校での地理の履修の有無も問いません。

しかし、本授業は一斉型の講義形式ながらも、思考を促す場面を多く設定しています。人数の多い講義ですが、自分自身もこの講義を作る一員であることを意識して、受動的ではなく、能動的な態度で受講してください。

日常のさまざまな場面が地理学的な考察につながります。講義内容を日常生活のあらゆる場面と関連させ、興味のあることを自ら深めるようにしてください。

履修にあたって合理的配慮が必要な場合は、あらかじめ学生課に相談・申請してください。

--- 授業計画 ---

オリエンテーションと本講義の理念（スタートアップ授業）

地理学の基礎

「衣」の地理学

「食」の地理学

「住」の地理学

地域におけるアート1

地域におけるアート2

地域におけるアート3

前半の振り返り（テストと解説）

沿岸域の自然環境

沿岸域の人文・社会環境

海岸マツ林の地理学1

海岸マツ林の地理学2

海岸マツ林の地理学3

後半の振り返り（テストと解説）・授業アンケート

FURIKAの実施

内容は進度などにより変更する場合があります

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/uhdob4iw7lhx96q3r55pz8cf99u78adp>)

近藤 祐磨

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.地理学の基礎的な学説・理論を理解し，説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.本講義以外の学びや日常生活において，地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。（DP1-1）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.多様な考え方・価値観に触れ，地理的な事象を多角的に見ることができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで，自らの考えや立ち位置を表現することができる。（DP2-2）（態度・志向性）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

近藤 祐磨

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：後期：金・5時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

地理学は、地域差を追究する学問であり、「空間」の科学である。地理学という学問分野は、専門性と同時に、他の学問分野との関わりや対話を経ながら発展するという学際性・総合性もあわせもつ。本授業では、日々の暮らしやその延長線上にある具体的な事象・現象を、地理学的な視点に立ってとらえるとどのように位置づけられるかを解説する。具体的には、衣食住や、暮らしを彩るアートなどのトピックスを挙げる。また、「沿岸域」を事例に、特定の地域における暮らし（衣食住）がどのように成立しているのかを、その周りの自然環境および社会環境との関連から多角的に解説する。その際、教員自身による研究の成果も反映させて、より実感を伴った理解を促す。

地理学の扱う研究対象や内容は多岐にわたり、全てを本授業で網羅することは困難であるが、地理学の基本的な見方・考え方を修得し、本授業以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できるようになることを目指す。

本授業は講義形式で行われる。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。講義資料は事前にMoodle上で掲載するので、各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

なお、本授業はアクティブ・ラーニング形式には該当しませんが、数々の問いを適宜受講者に対して投げかけます。そのため、受動的ではなく、積極的に思考しながら受講してください。

授業支援と双方向性確保のため、Moodle上に掲示板（フォーラム）を設置する予定です。授業を聞いて考えたことや質問などを自由に投稿してください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

地理学の基礎的な学説・理論を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

本講義以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。(DP1-1)(態度・志向性)

多様な考え方・価値観に触れ、地理的な事象を多角的に見ることができ。(DP2-1)(知識・理解)

地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで、自らの考えや立ち位置を表現することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

【予習】初回に挙げた文献を読んでおくこと。(60分)

【復習】その回に別途挙げた文献を読んでおくこと。また、授業で学んだ理論や事例について、各自追加で調べて、知見を深掘りしたり広げたりしておくこと。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準：授業内容に基づく地理学の見方・考え方や基本的な学説を理解できているか、そしてその学説について考察して自分の言葉で表現できるかを、授業内に実施する2回の振り返りのテストで評価するほか、授業内容に関する小レポート課題で評価します。

評価方法：振り返りのテスト（前半45%＋後半45%）と小レポート課題（10%）。いずれもMoodle上で実施します。加えて、掲示板（フォーラム）に書き込んだ内容のうち、特に授業への貢献度が高いものについては、上記の合計点に上限10点で加算します。

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

--- テキスト ---

使用しません。配布資料をMoodle上にアップロードします。各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

--- 参考書 ---

はじめて地理学 ISBN 9784860645298  
 あれもこれも地理学 ISBN 9784860646080  
 みわたす・つなげる人文地理学 ISBN 9784772281218  
 その他は適宜指示します。

--- 履修上の留意点 ---

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

振り返りのテストを実施する回では、Moodleを閲覧できるノートPCまたはタブレット端末、スマートフォンの持参が必要です。

履修にあたり、予備知識は特に要しません。高校での地理の履修の有無も問いません。

しかし、本授業は一斉型の講義形式ながらも、思考を促す場面を多く設定しています。人数の多い講義ですが、自分自身もこの講義を作る一員であることを意識して、受動的ではなく、能動的な態度で受講してください。

日常のさまざまな場面が地理学的な考察につながります。講義内容を日常生活のあらゆる場面と関連させ、興味のあることを自ら深めるようにしてください。

履修にあたって合理的配慮が必要な場合は、あらかじめ学生課に相談・申請してください。

--- 授業計画 ---

オリエンテーションと本講義の理念（スタートアップ授業）

地理学の基礎

「衣」の地理学

「食」の地理学

「住」の地理学

地域におけるアート1

地域におけるアート2

地域におけるアート3

前半の振り返り（テストと解説）

沿岸域の自然環境

沿岸域の人文・社会環境

海岸マツ林の地理学1

海岸マツ林の地理学2

海岸マツ林の地理学3

後半の振り返り（テストと解説）・授業アンケート

FURIKAの実施

内容は進度などにより変更する場合があります

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ftmbqkl1mt4qguvzusrb4dpo9gxsy67>)

近藤 祐磨

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.地理学の基礎的な学説・理論を理解し，説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.本講義以外の学びや日常生活において，地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。（DP1-1）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.多様な考え方・価値観に触れ，地理的な事象を多角的に見ることができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで，自らの考えや立ち位置を表現することができる。（DP2-2）（態度・志向性）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

磯田 則彦

期別:後期 単位数:2 開講年次:1 授業の種類:対面授業科目 授業形態:講義 実務経験:無し 科目水準:入門 試験実施:有り  
 授業時間割:後期:木・二部2時限 試験時間割:2025/01/23 夜2限

- - - 概要 - - -

21世紀は「都市化の世紀」ともいわれています。発展途上国や新興国を中心に、引き続き、周辺地域(農村部など)から中心地域(特定の大都市)への人々の移動が活発に行われることが予想されているからです。すでに都市人口率が高い水準にある先進国においても、都市は日々その姿を変えています。本講義においては、世界のさまざまな都市(大都市)を取りあげ、その社会経済的および文化的特徴を考察していきます。単なる都市の形態論などではなく、「なぜそのようになっているのか」について理解を深めていきます。

具体的には、「国際的な都市の定義」の問題に始まり、人口規模や都市機能などからみた都市の分類、個性的なさまざまな都市の特徴について考察します。東アジアの中国の大都市からスタートし、ジャカルタ、ベンガルール、メッカなどのアジアの大都市、ヨーロッパ・アフリカの代表的な都市、新大陸の特徴的な都市について広く考察します。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、担当教員が作成した(講義)資料にもとづいて、講義形式で行います。講義資料は、FUポータル「授業支援」・「講義照会」を通じて事前にアップロードします。予習・復習にご利用ください。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

世界のさまざまな都市の特徴について、基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

世界のさまざまな都市について、社会経済的および文化的なコンテクストから多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

各回の講義内容の理解を進めるために、講義時間と同等以上の予習・復習を行ってください(講義1時間あたり各90分以上)。具体的には、授業で使用する資料(専門用語など)について予め学習する。および、板書ノートや前記資料中の専門用語の意味や重要統計などを復習する。(180分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験有。定期試験の結果(100%)により評価します。具体的には、さまざまな特徴を有する世界の都市についての専門用語や重要統計を理解できているかを重視します。

- - - テキスト - - -

なし。配布資料により講義を行います。

- - - 履修上の留意点 - - -

クラスサイズが比較的大きいので、授業中に十分に理解できなかった点、確認しておきたい点、疑問点などはオフィス・アワーなどを利用して補うことをすすめます。もちろん、地理学Bを受講するうえでの学習上のアドバイスなどもできますので、遠慮なく相談してください。皆さんが主体的に学習できる環境を一緒に作りましょう。

- - - 授業計画 - - -

イントロダクション(スタートアップ授業)「国際的な都市の定義」とは

世界の都市の分類 - 市域人口と都市的地域人口  
 都市機能による分類 - 工業都市・観光都市など

中国の2大都市 北京・上海

成長著しいASEANのメガシティ・ジャカルタと首都機能の移転計画

「インドのシリコンバレー」・ベンガルール  
 イスラームと聖地メッカ

EUの本部があるブリュッセル

多言語社会スイスと代表的都市

成長するアフリカの大都市・ラゴス

カナダの首都オタワ - なぜオタワなのか

高原の大都市・メキシコシティ

計画都市ブラジリア

「出会いの場」・キャンベラとは

後期のまとめ 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/2lgtwdqijzumcvtjgeputs13en7v32va>)

磯田 則彦

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1.世界のさまざまな都市の特徴について、基礎的な知識を理解し説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.世界のさまざまな都市について、社会経済的および文化的なコンテキストから多角的に見ることができるようになる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



磯田 則彦

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：後期：水・3時限 試験時間割：定期試験なし

概要

本演習では、前期に引き続き、さまざまな国や地域を取り上げ、そこにみられる社会や文化などを考察することにより、現実世界の多様性について理解を深めていきます。今日、世界の国々や地域は、多かれ少なかれグローバル化やローカリゼーションの影響を受けて変容しています。たとえば、中国は「世界の工場」として大きく成長してきましたし、日本は輸送機械や情報通信機械工業などをはじめとして海外現地生産を展開しています。各メーカーは、車や家電製品などを海外の市場で販売するにあたり、現地の人々の価値観や行動・生活様式などを詳細に分析しなければ売り上げを伸ばすことはできないでしょう。この点において、まさに「異文化理解」が求められるのです。本演習では、21世紀前半の変貌する国々や地域をさまざまな角度から考察することにより、国際社会に主体的に生きる人間としての知識と教養を深めていきます。なお、演習では受講者各自に特定の国や地域に関して、あるテーマを設けて分担発表をしていただく予定です。授業は、演習(ゼミ)形式で行われます。

授業の進行・方法

授業は、担当教員および演習参加者(授業登録者)が作成した資料(レジュメ)にもとづいて、演習(ゼミ)形式で行います。国や地域に関する各分担発表に対して、質疑応答とディスカッションを実施します。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

- 世界の国々や地域についての基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
- 世界にはさまざまな価値観と行動様式があることを知り、異なる文化・社会に柔軟に接することができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)
- 自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP2-2)(技能)
- 授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる。(DP3-1)(知識・理解)
- 授業を通してさまざまな捉え方について学び、課題に気づくことができる。(DP3-2)(技能)
- 社会的な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを發揮できる。(DP4-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

各回の演習内容の理解を進めるために、演習時間と同等以上の予習・復習を行ってください(演習1時間あたり各90分以上)。具体的には、授業で使用する資料(専門用語など)について予め学習する。および、発表レジュメの見直しを行うほか、専門用語や各種統計などを復習する。(180分)

成績評価基準および方法

定期試験はありません。したがって、再試験もありません。分担発表(35%)、レポートの内容(35%)、平常点(積極的な受講状況・ゼミでの発言状況(質問・意見など)・建設的な議論への貢献度など)(30%)により評価します。具体的には、世界のさまざまな国や地域に関する注目すべきトピックスや地理学的な専門用語を適切に理解できているかを重視します。

テキスト

なし。配布資料(レジュメ)により演習を行います。

参考書

地図帳および各国要覧など

授業計画

イントロダクション(スタートアップ授業)世界の国々や地域

レジュメの作成と発表のしかたについて

分担発表(1)世界の国々や地域について

分担発表(2)世界の国々や地域について

分担発表(3)世界の国々や地域について

分担発表(4)世界の国々や地域について

分担発表(5)世界の国々や地域について

分担発表(6)世界の国々や地域について

分担発表(7)世界の国々や地域について

分担発表(8)世界の国々や地域について

分担発表(9)世界の国々や地域について

分担発表(10)世界の国々や地域について

分担発表(11)世界の国々や地域について

分担発表(12)世界の国々や地域について

後期のまとめ 授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/mu490y0dd5sv5a94i8z2felo8t2lob6i>)

磯田 則彦

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1 DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.世界の国々や地域についての基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1) (知識・理解)
- 2.世界にはさまざまな価値観と行動様式があることを知り、異なる文化・社会に柔軟に接することができるようになる。(DP2-1) (知識・理解)
- 3.自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP2-2) (技能)
- 4.授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる。(DP3-1) (知識・理解)
- 5.授業を通してさまざまな捉え方について学び、課題に気づくことができる。(DP3-2) (技能)
- 6.社会的な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを発揮できる。(DP4-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

近藤 祐磨

期別:後期 単位数:2 開講年次:1 授業の種類:対面授業科目 授業形態:演習 実務経験:無し 科目水準:入門 試験実施:無し  
 授業時間割:後期:火・4時限 試験時間割:定期試験なし

概要

地理学は、地域差を追究する学問であり、「空間」の科学である。「この地域はどのような特徴をもつのだろうか?」「どうしてここにがあるのだろうか?」「なぜこの地域では というユニークな食べ物が食べられているのだろうか?」といった、地域や空間、そして空間スケールに関するあらゆる生活上の小さな疑問は、地理学という学問としての関心と結びつき、学び・研究に発展させるものである。さらに、遠くの地域に対する想像力や興味関心も、地理学という学問の大きな原動力となってきた。

そこで本演習では、各学生の関心に基づいて、学びのための宿泊を伴う旅行(フィールドワーク)に関する企画立案を、3人ずつのグループ(予定)に分かれて実践する。行き先や期間は福岡県内・九州から国内、海外と任意であり、そこでどのような学びを行うか、その目的や趣旨・内容も検討して発表して、全員で質疑応答をしてブラッシュアップしていく。

企画の際の情報収集源・出典として、一般旅行雑誌やSNSなどではなく、大学図書館にある図書(新書、入門の専門書、専門書など)や学術雑誌と定め、取り上げる地域の特徴を学術的に記述・説明する。これにより、大学での学問の基本的な探究方法を学びながら、地理学的な見方・考え方とその幅の広さ・奥深さを知り、教養を広げ、深めることを目指す。

本授業は演習(ゼミ)形式で行われる。

授業の進行・方法

本授業は演習(ゼミ)形式で行われます。具体的には、15人という履修定員を設け、受講者各々にテーマを設定して調べ、発表していただきます。そのうえで、他の受講者や担当教員による質疑応答によって議論を深めます。講義形式の授業とは比べものにならないほどの、授業への周到な準備および積極的な議論への参加が求められます。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

地理学の基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

他のグループが扱う多様なテーマにも関心を持ち、積極的に議論に参加することができる。(DP2-1)(態度・志向性)

地域によって異なる文化・社会を理解し、柔軟に接することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

自分の考えを、他者に納得できるような根拠とともに他者に分かりやすく示すことができる。(DP3-1)(知識・理解)

自分の考えや他者の考えに対して、他者と建設的に議論できる。(DP3-1)(態度・志向性)

半期にわたって、自分たちの設定したテーマを粘り強く広げ、深めることができる。(DP3-2)(技能)

半期にわたって、同じグループの学生と協働しながらテーマを広げ、深めることができる。(DP4-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

自身が所属するグループが設定したテーマに関する発表に向けた準備をする(メンバーとの分担や相談、文献渉猟と読み込み・分析・考察、発表レジュメの作成)。(150分)

討議を経て得られた意見やアイデアを検討し、自身が所属するグループのテーマをブラッシュアップさせる。(30分)

成績評価基準および方法

評価基準:自分たちのグループの関心に基づくテーマを、納得できるような根拠に基づいて広げ、深掘りできているか、そしてその過程でグループ内で適切な役割分担を行い、各々が役割を全うできているかを、4回にわたる演習発表により評価します。さらに、他のグループの演習発表に対して建設的な質疑応答・議論ができているかを評価します。

評価方法:発表の内容(60%) + 平常点(受講状況、ゼミでの質疑応答・議論への貢献度)(40%)

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

テキスト

指定しません。

参考書

適宜指示します。

履修上の留意点

定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできません。

高校での地理(地理A、地理B)や、講義形式で行う共通教育科目「地理学A」や「地理学B」の履修の有無は問いません。また、履修定員超過の場合に実施する抽選で、それらの履修の有無が考慮されることはありません。

本授業は、以下の3つが確実にできる場合に限り履修できます。

授業外の時間での周到な準備ができること

他の受講者が発表した内容についても、積極的に質疑応答・議論できること

自分の発表回か否かにかかわらず、無断欠席をしないこと(他の講義形式の授業と演習形式の授業では、欠席することによる授業および他の受講者への影響が異なります)

履修にあたって合理的配慮が必要な場合は、あらかじめ学生課に相談・申請してください。

授業計画

オリエンテーション(スタートアップ授業)

自己紹介とグループ編成・レジュメの作成と発表方法  
 行先と内容の検討・文献渉猟・発表準備

発表と議論1-1 構想発表

発表と議論1-2 構想発表

内容の精査拡充・文献渉猟・発表準備

発表と議論2-1 中間発表

発表と議論2-2 中間発表

内容の精査拡充・文献渉猟・発表準備

発表と議論3-1 一般性の確保

発表と議論3-2 一般性の確保

内容の精査拡充・文献渉猟・発表準備

内容の精査拡充・文献渉猟・発表準備

最終プレゼンテーションおよび学生ピアレビュー

全体のまとめ・授業アンケートFURIKAの実施

内容は進度などにより変更する場合があります

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/6jrik55cdof18729kxbbe193xetg5iv4>)

近藤 祐磨

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

- 1.地理学の基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
- 2.他のグループが扱う多様なテーマにも関心をもち、積極的に議論に参加することができる。(DP2-1)(態度・志向性)
- 3.地域によって異なる文化・社会を理解し、柔軟に接することができる。(DP2-2)(態度・志向性)
- 4.自分の考えを、他者に納得できるような根拠とともに他者に分かりやすく示すことができる。(DP3-1)(知識・理解)
- 5.自分の考えや他者の考えに対して、他者と建設的に議論できる。(DP3-1)(態度・志向性)
- 6.半期にわたって、自分たちの設定したテーマを粘り強く広げ、深めることができる。(DP3-2)(技能)
- 7.半期にわたって、同じグループの学生と協働しながらテーマを広げ、深めることができる。(DP4-2)(態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
 理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

- DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
 DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
 DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
 DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
 DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 藤村 健一

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：水・1時限 試験時間割：2025/01/20 1時限

## - - - 概要 - - -

いわゆる「土地柄」、「県民性」、「国民性」などのことを、学术界では「地域性」と呼んでいる。地域性とは、それぞれの地域に備わっているとされる固有の性格のことである。地域性を理解するのは一般に考えられているほど容易ではなく、地域における自然環境や経済、文化など様々な要素を勘案し、総合的に考察する必要がある。では、地域性は具体的にどのような方法で把握できるのだろうか。そもそも、「地域」とは何なのだろうか。

地域や地域性に関する研究分野は、地理学では「地誌学」と呼ばれている。この授業では、地誌学による地域理解の方法を概観した上で、世界の諸地域の例としてアメリカと中国を取り上げ、それぞれの地域性を地誌学的に考察する。

この授業では、地誌学の基礎を理解したうえで、地域性を把握する方法を修得し、中国の地誌に関する基礎的な知識を理解することを旨とする。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で行う。授業各回の冒頭でプリントを配布し、これに沿って授業を進める。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

地誌学の基礎を理解し、地域性を把握することができる。  
 (DP1-1)(知識・理解)

アメリカや中国の地誌に関する基礎的な知識を理解することができる。  
 (DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回授業前に、前回授業の内容をプリントなどを使って復習してください。(180分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：授業内容を理解し、地誌学の基礎を理解できているかを評価の基準とする。

評価方法：定期試験

## - - - テキスト - - -

なし(プリントを配布する)

## - - - 参考書 - - -

村山祐司編『地域研究』 ISBN 9784254167122  
 矢ヶ崎典隆編『アメリカ』 ISBN 9784254168587  
 上野和彦編『中国』 ISBN 9784254168563  
 これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

## - - - 履修上の留意点 - - -

地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

## - - - 授業計画 - - -

1. 【スタートアップ授業】イントロダクション、地理学および地誌学とは何かⅠ(研究目的・研究方法)
  2. 地理学および地誌学とは何かⅡ(研究例)
  3. 地域性の捉え方Ⅰ(自然環境と政治・経済の関係)
  4. 地域性の捉え方Ⅱ(自然環境と文化の関係、経済と文化の関係)
  5. 地域性の捉え方Ⅲ(政治と文化の関係(1): 宗教分布に対する政治の影響)
  6. 地域性の捉え方Ⅳ(政治と文化の関係(2): 政治問題に対する宗教の影響)
  7. アメリカの地誌Ⅰ(自然環境)
  8. アメリカの地誌Ⅱ(地域区分)
  9. アメリカの地誌Ⅲ(歴史、国民経済)
  10. アメリカの地誌Ⅳ(農牧業、工業)
  11. アメリカの地誌Ⅴ(主要都市)
  12. アメリカの地誌Ⅵ(人口、民族、宗教、政治)
  13. 中国の地誌Ⅰ(地域区分、気候、農牧業)
  14. 中国の地誌Ⅱ(工業と国民経済、主要都市)
  15. 中国の地誌Ⅲ(政治・社会、民族、文化、香港・台湾)、授業アンケートFURIKAの実施
- 講義の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性がある。

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/w2c3fjbpeu4t2e3beo7efjt6frulhh58>

藤村 健一

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.地誌学の基礎を理解し、地域性を把握することができる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.アメリカや中国の地誌に関する基礎的な知識を理解することができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 近藤 祐磨

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：前期：月・二部 2 時間 試験時間割：定期試験なし

## 概要

地誌学は、特定の地域における地域的性格について、地形、気候、土壌、村落、都市、産業、交通などといったさまざまな自然的または人文社会的現象を総合的に考察し明らかにする学問である。地誌学は地理学の基本体系の一つであり、地表における個々の現象の地域差やその要因を明らかにする系統地理学と対をなす。「特定の地域」のスケールの設定の仕方は、東アジア/日本/九州地方/福岡県などのように多様であるが、本授業では「沿岸域」と設定して、その地誌を描く可能性を考えてみたい。その際、教員自身による研究の成果も反映させて、より実感を伴った理解を促す。

地誌学を含む地理学の扱う研究対象や内容は多岐にわたり、全てを本授業で網羅することは困難であるが、地理学の基本的な見方・考え方を修得し、本授業以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できるようになることを目指す。

本授業は講義形式で行われる。

## 授業の進行・方法

本授業は、教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。講義資料は事前にMoodle上で掲載するので、各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

なお、本授業はアクティブ・ラーニング形式には該当しませんが、数々の問いを適宜受講者に対して投げかけます。そのため、受動的ではなく、積極的に思考しながら受講してください。

授業支援と双方向性確保のため、Moodle上に掲示板(フォーラム)を設置する予定です。授業を聞いて考えたことや質問などを自由に投稿してください。

## アクティブ・ラーニング

いいえ / No

## 到達目標

地誌学の基礎的な学説・理論を理解し、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

本講義以外の学びや日常生活において、地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。(DP1-1)(態度・志向性)

多様な考え方・価値観に触れ、地理的な現象を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで、自らの考えや立ち位置を表現することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

## 授業時間外の学習(予習・復習)

【予習】初回に挙げた文献を読んでおくこと。(60分)

【復習】その回に別途挙げた文献を読んでおくこと。また、授業で学んだ理論や事例について、各自追加で調べて、知見を深掘りしたり広げたりしておくこと。(120分)

## 成績評価基準および方法

評価基準：授業内容に基づく地誌学の見方・考え方や基本的な学説を理解できているか、そしてその学説について考察して自分の言葉で表現できるかを、授業内に実施する2回の振り返りのテストで評価するほか、授業内容に関する小レポート課題で評価します。

評価方法：振り返りのテスト(前半45%+後半45%)と小レポート課題(10%)。いずれもMoodle上で実施します。加えて、掲示板(フォーラム)に書き込んだ内容のうち、特に授業への貢献度が高いものについては、上記の合計点に上限10点で加算します。

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

## テキスト

使用しません。配布資料をMoodle上にアップロードします。各自でダウンロードまたは印刷して持参してください。

## 参考書

みわたす・つなげる地誌学 ISBN 9784772281225

その他は適宜指示します。

## 履修上の留意点

本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

振り返りのテストを実施する回では、Moodleを閲覧できるノートPCまたはタブレット端末、スマートフォンの持参が必要です。

履修にあたり、予備知識は特に要しません。高校での地理の履修の有無も問いません。

しかし、本授業は一斉型の講義形式ながらも、思考を促す場面を多く設定しています。人数の多い講義ですが、自分自身もこの講義を作る一員であることを意識して、受動的ではなく、能動的な態度で受講してください。

日常のさまざまな場面が地理学的な考察につながります。講義内容を日常生活のあらゆる場面と関連させ、興味のあることを自ら深めるようにしてください。

履修にあたって合理的配慮が必要な場合は、あらかじめ学生課に相談・申請してください。

## 授業計画

オリエンテーションと本講義の理念(スタートアップ授業)

地誌学の位置づけ

沿岸域の地形

沿岸域の気候

沿岸域における農業

沿岸域における漁業

沿岸域における工業

前半の振り返り(テストと解説)

沿岸域における村落と都市

沿岸域における自然災害

沿岸域の防災・減災

海岸マツ林で考える地誌1

海岸マツ林で考える地誌2

海岸マツ林で考える地誌3

後半の振り返り(テストと解説)・授業アンケート  
 FURIKAの実施

内容は進度などにより変更する場合があります

## スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ra0ywe6tey0fb5u40mnbgrg1c0fvgyfim>)

## 近藤 祐磨

全学部学科: DP1-1,DP2-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.地誌学の基礎的な学説・理論を理解し,説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2.本講義以外の学びや日常生活において,地理学的な好奇心・行動力・考察力を発揮できる。(DP1-1)(態度・志向性)

3.多様な考え方・価値観に触れ,地理的な事象を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

4.地域や空間に対する人々の多様な考え方・価値観を整理したうえで,自らの考えや立ち位置を表現することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



佐藤 基治

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：月・1時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

- - - 概要 - - -

最初に「心理学とは何か」において心理学の研究領域、歴史、方法、考え方など概論的な部分に関する講義をします。科学的心理学の範囲がわかります。

次に、様々な心理学の領域の中から、誰もが日常生活の中で経験している「感覚と知覚」、「記憶」、「学習」の領域の授業を行います。それによって、対象の分離、距離知覚、運動知覚の原理などの知覚の仕組み、感覚記憶、作業記憶、そして長期記憶の違いなどの記憶の特徴、古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習など種々の学習の型がわかるようになります。

授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験すること、教員との簡単な質疑応答を行なうことによって理解を深めていきます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

教科書を用いて、心理学の知識を教授する、可能な事象に関しては教室内で実際に体験していただく。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

概論的な部分に関する授業を行う(DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：初出の専門用語をリストアップする。(120分)

復習：関連性の高い専門用語をリストアップする。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。

定期試験100%で評価します。

- - - テキスト - - -

佐藤基治・大上渉・他 「心理学A to B (改訂版)」、培風館、2019年、¥1970 ISBN: 978-4-563-0523-9

- - - 参考書 - - -

新・心理学の基礎知識 ISBN 4641183112

心理学辞典 ISBN 4641002592

ヒルガードの心理学 ISBN 4892428191

- - - 授業計画 - - -

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 心理学とは何か：科学としての心理学
- 3 心理学とは何か：心理学史
- 4 心理学研究法：
- 5 心理学研究法：
- 6 感覚と知覚：感覚
- 7 感覚と知覚：知覚
- 8 感覚と知覚：感覚と知覚のまとめ
- 9 記憶：記憶のプロセス
- 10 記憶：記憶の種類
- 11 記憶：短期記憶と長期記憶
- 12 学習：古典的条件づけの理論
- 13 学習：道具的条件づけ
- 14 学習：思考錯誤説と洞察学習説
- 15 まとめ,授業アンケートFURIKA実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/fayzdu7l89dffj3j11oi1juc0mulrmzp>)

佐藤 基治

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.概論的な部分に関する授業を行う (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.諸学問分野の学習 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 佐藤 基治

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：月・4時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

## - - - 概要 - - -

最初に「心理学とは何か」において心理学の研究領域、歴史、方法、考え方など概論的な部分に関する講義をします。科学的心理学の範囲がわかります。

次に、様々な心理学の領域の中から、誰もが日常生活の中で経験している「感覚と知覚」、「記憶」、「学習」の領域の授業を行います。それによって、対象の分離、距離知覚、運動知覚の原理などの知覚の仕組み、感覚記憶、作業記憶、そして長期記憶の違いなどの記憶の特徴、古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習など種々の学習の型がわかるようになります。

授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験すること、教員との簡単な質疑応答を行なうことによって理解を深めていきます。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

教科書を用いて、心理学の知識を教授する、可能な事象に関しては教室内で実際に体験していただく。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

概論的な部分に関する授業を行う(DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：初出の専門用語をリストアップする。(120分)

復習：関連性の高い専門用語をリストアップする。(60分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。

定期試験100%で評価します。

## - - - テキスト - - -

佐藤基治・大上渉・他 「心理学A to B (改訂版)」、培風館、2019年、¥1970 ISBN: 978-4-563-0523-9

## - - - 参考書 - - -

新・心理学の基礎知識 ISBN 4641183112

心理学辞典 ISBN 4641002592

ヒルガードの心理学 ISBN 4892428191

## - - - 授業計画 - - -

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 心理学とは何か：科学としての心理学
- 3 心理学とは何か：心理学史
- 4 心理学研究法：
- 5 心理学研究法：
- 6 感覚と知覚：感覚
- 7 感覚と知覚：知覚
- 8 感覚と知覚：感覚と知覚のまとめ
- 9 記憶：記憶のプロセス
- 10 記憶：記憶の種類
- 11 記憶：短期記憶と長期記憶
- 12 学習：古典的条件づけの理論
- 13 学習：道具的条件づけ
- 14 学習：思考錯誤説と洞察学習説
- 15 まとめ,授業アンケートFURIKA実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/vn6cdp3r19nbi7wzuj7nkmy964fgh05y>)

佐藤 基治

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.概論的な部分に関する授業を行う (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.諸学問分野の学習 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

佐藤 基治

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：火・1時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

- - - 概要 - - -

最初に「心理学とは何か」において心理学の研究領域、歴史、方法、考え方など概論的な部分に関する講義をします。科学的心理学の範囲がわかります。

次に、様々な心理学の領域の中から、誰もが日常生活の中で経験している「感覚と知覚」、「記憶」、「学習」の領域の授業を行います。それによって、対象の分離、距離知覚、運動知覚の原理などの知覚の仕組み、感覚記憶、作業記憶、そして長期記憶の違いなどの記憶の特徴、古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習など種々の学習の型がわかるようになります。

授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験すること、教員との簡単な質疑応答を行なうことによって理解を深めていきます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

教科書を用いて、心理学の知識を教授する、可能な事象に関しては教室内で実際に体験していただく。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

概論的な部分に関する授業を行う(DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：初出の専門用語をリストアップする。(120分)

復習：関連性の高い専門用語をリストアップする。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。

定期試験100%で評価します。

- - - テキスト - - -

佐藤基治・大上渉・他 「心理学A to B (改訂版)」、培風館、2019年、¥1970 ISBN: 978-4-563-0523-9

- - - 参考書 - - -

新・心理学の基礎知識 ISBN 4641183112

心理学辞典 ISBN 4641002592

ヒルガードの心理学 ISBN 4892428191

- - - 授業計画 - - -

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 心理学とは何か：科学としての心理学
- 3 心理学とは何か：心理学史
- 4 心理学研究法：
- 5 心理学研究法：
- 6 感覚と知覚：感覚
- 7 感覚と知覚：知覚
- 8 感覚と知覚：感覚と知覚のまとめ
- 9 記憶：記憶のプロセス
- 10 記憶：記憶の種類
- 11 記憶：短期記憶と長期記憶
- 12 学習：古典的条件づけの理論
- 13 学習：道具的条件づけ
- 14 学習：思考錯誤説と洞察学習説
- 15 まとめ,授業アンケートURIKA実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/wuqpw0rss1vyydl47bio5y2iewjxv2wb>)

佐藤 基治

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.概論的な部分に関する授業を行う (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.諸学問分野の学習 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 大上 渉

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：前期：火・3時限 試験時間割：定期試験なし

## - - - 概要 - - -

この講義では、視る、感じる、覚える・思い出す、考える・想像するなど、我々の心の基礎的な働きについて学ぶ。講義の最初に、心理学の歴史を取り上げ、どのような経緯で心が学問の研究対象となり、どのような形で現在まで引き継がれているかを説明する。

次に、感覚や知覚、学習、記憶など基礎的な心のはたらきに関する主要な知見・理論を順次取り上げ、これまでに明らかになっていることを説明する。その中で、我々の日常生活において心のはたらきがどのように関わっているかを写真や図などを用いて解説する。

この講義で取り上げる心の働きは、当たり前すぎて、「これが心理学なの？」と思われるかもしれない。しかしながら、心の入り口に相当する部分であり、後期の心理学Bで学ぶ発達やパーソナリティ形成、心の不適應などにも関わる、心の基盤的な働きであることに留意して欲しい。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

この授業は、教員が作成した講義資料とテキストをもとに講義形式で行う。講義資料はMoodleに事前にアップしているの各自ダウンロードし、授業に持参すること。講義資料を終える度にMoodleを用いた小テストを行い、講義内容の理解を確認します。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

心の働きの中核となる「感覚」「知覚」「認知」「記憶」に関する知見や理論などについて理解し、それらを他者に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

人の知的営みの基礎となる心の仕組みを学ぶことで、他者や社会における様々な事象や考え方、価値観を理解できる(DP2-1)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

受講者はMoodle上にアップロードした講義資料を事前に読み、わからない部分はテキストなどで調べておくこと。(90分)

小テストに備え、重要な箇所については講義中に強調して説明する。そのような箇所は重点的に復習し、説明した理論や知見の理解、用語などを覚えておくこと。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

成績評価は、期間内に実施する小テストの成績(80%)及び授業への積極的な取り組み(20%)で評価する。期間内に実施する小テストについては、Moodle上で教材ごとに小テスト(10問~20問)を実施する。期間内に5回程度実施する予定である。出題形式は、選択問題、正誤判断問題や記述問題などである。成績は80点満点で点数化する。具体的には、80点を小テストの実施回数で除した値に(もし5回小テストを実施したのであれば16点となる)、正答率を乗じた値を小テストごとに算出し、その合計値を小テストの成績とする。評価基準については、授業で解説した用語や知見を理解できているか、またそれらが知識として定着しているかを基準にして評価する。もう一方の授業への積極的な取り組みについては、ミニツツペーパーの内容や授業内・授業前後の質問、心理学の調査・実験への参加・協力などを総合的に評価する。

なお、この授業は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

## - - - テキスト - - -

「心理学A to B改訂版」  
 (佐藤基治・大上渉・一言英文・縄田健悟・箕浦有希久、培風館、2019年、2,167円、ISBN: 978-4563052539)

## - - - 参考書 - - -

「心理学ビジュアル百科」 ISBN 978-4-422-11622-8  
 「意識的な行動の無意識的な理由: 心理学ビジュアル百科 認知心理学編」 ISBN 978-4422116846  
 「心理学入門 こころを科学する10のアプローチ」 ISBN 978-4061548084

## - - - 履修上の留意点 - - -

以下の点に十分留意した上で、履修登録を行うこと。  
 : この授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできない。

: Moodle上の小テストでは制限時間(1問あたり12秒程度)内に問題文を読み込み、文字の入力や記号の選択を行うことになる。

: 講義資料はMoodleにアップするので受講者は事前に出し講義時に持参すること。

4: 講義中、出席を確認する。その際、名簿からランダムに氏名を読み上げる。

: 受講者を指名し、発言を求められることがある。その際、教室後方に着座している学生を主に指名する。

: 講義中の著しい私語、スマートフォンや携帯電話、音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらを行う者に対しては学生証を呈示させ厳しい処置をとる。また、筆記用具や講義資料など、なにも持たずに受講している者も同様の措置をとる。

: 不正な出席工作(いわゆる「ピ逃げ」)が発覚した場合、大幅な減点(15点)を行う。

: 担当教員の卒論生やゼミ生が行う心理学の調査や実験への協力者を募ることがある。調査や実験に参加することで、講義でも取り上げる心理学における「心」の捉え方や心理学の研究手法を体験的に理解できる。

## - - - 授業計画 - - -

: インTRODクシヨン(スタートアップ授業)  
 : 心理学研究法1  
 : 心理学研究法2  
 : 心理学の歴史1  
 : 心理学の歴史2  
 : 心理学の歴史3  
 : 感覚・知覚・認知1  
 : 感覚・知覚・認知2  
 : 感覚・知覚・認知3  
 : 奥行き知覚1  
 : 奥行き知覚2  
 : 記憶1  
 : 記憶2  
 : 記憶3  
 : 心理学Aの振り返り・授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/5lwtep710byftt43iv9knu26e7riau8t)

## 大上 渉

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.心の働きの基盤となる「感覚」「知覚」「認知」「記憶」に関する知見や理論などについて理解し、それらを他者に説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.人の知的営みの基礎となる心の仕組みを学ぶことで、他者や社会における様々な事象や考え方、価値観を理解できる (DP2-1) (態度・志向性)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 大上 渉

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：前期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

## 概要

この講義では、視る、感じる、覚える・思い出す、考える・想像するなど、我々の心の基礎的な働きについて学ぶ。講義の最初に、心理学の歴史を取り上げ、どのような経緯で心が学問の研究対象となり、どのような形で現在まで引き継がれているかを説明する。

次に、感覚や知覚、学習、記憶など基礎的な心のはたらきに関する主要な知見・理論を順次取り上げ、これまでに明らかになっていることを説明する。その中で、我々の日常生活において心のはたらきがどのように関わっているかを写真や図などを用いて解説する。

この講義で取り上げる心の働きは、当たり前すぎて、「これが心理学なの？」と思われるかもしれない。しかしながら、心の入り口に相当する部分であり、後期の心理学Bで学ぶ発達やパーソナリティ形成、心の不適応などにも関わる、心の基盤的な働きであることに留意して欲しい。

## 授業の進行・方法

この授業は、各教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行う。講義資料はMoodleやFu-boxなどに事前にアップしているため各自ダウンロードし、授業に持参すること。また講義内容の理解確認や定着を図るために、小テストや課題提出がある。

## アクティブ・ラーニング

いいえ / No

## 到達目標

心の働きの基盤となる「感覚」「知覚」「認知」「記憶」に関する知見や理論などについて理解し、それらを他者に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

人の知的営みの基礎となる心の仕組みを学ぶことで、他者や社会における様々な事象や考え方、価値観を理解できる(DP2-1)(態度・志向性)

## 授業時間外の学習(予習・復習)

受講者はMoodle上にアップロードした講義資料を事前に読み、わからない部分はテキストなどで調べておくこと。(90分)

小テストに備え、重要な箇所については講義中に強調して説明する。そのような箇所は重点的に復習し、説明した理論や知見の理解、用語などを覚えておくこと。(90分)

## 成績評価基準および方法

成績評価は、期間内に実施する小テストの成績(80%)及び授業への積極的な取り組み(20%)で評価する。期間内に実施する小テストについては、Moodle上で教材ごとに小テスト(10問~20問)を実施する。期間内に5回程度実施する予定である。出題形式は、選択問題、正誤判断問題や記述問題などである。成績は80点満点で点数化する。具体的には、80点を小テストの実施回数で除した値に(もし5回小テストを実施したのであれば16点となる)、正答率を乗じた値を小テストごとに算出し、その合計値を小テストの成績とする。評価基準については、授業で解説した用語や知見を理解できているか、またそれらが知識として定着しているかを基準にして評価する。もう一方の授業への積極的な取り組みについては、ミニツツペーパーの内容や授業内・授業前後の質問、心理学の調査・実験への参加・協力などを総合的に評価する。

なお、この授業は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

## テキスト

「心理学A to B改訂版」  
 (佐藤基治・大上渉・一言英文・縄田健悟・箕浦有希久、培風館、2019年、2,167円、ISBN: 978-4563052539)

## 参考書

「心理学ビジュアル百科」 ISBN 978-4-422-11622-8  
 「意識的な行動の無意識的な理由: 心理学ビジュアル百科 認知心理学編」 ISBN 978-4422116846  
 「心理学入門 ところを科学する10のアプローチ」 ISBN 978-4061548084

## 履修上の留意点

以下の点に十分留意した上で、履修登録を行うこと。  
 : この授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできない。

: Moodle上の小テストでは制限時間(1問あたり12秒程度)内に問題文を読み込み、文字の入力や記号の選択を行うことになる。

: 講義資料はMoodleにアップするので受講者は事前に出し講義時に持参すること。

4: 講義中、出席を確認する。その際、名簿からランダムに氏名を読み上げる。

: 受講者を指名し、発言を求めることがある。その際、教室後方に着座している学生を主に指名する。

: 講義中の著しい私語、スマートフォンや携帯電話、音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらを行う者に対しては学生証を呈示させ厳しい処置をとる。また、筆記用具や講義資料など、なにも持たずに受講している者も同様の措置をとる。

: 不正な出席工作(いわゆる「ビ逃げ」)が発覚した場合、大幅な減点(15点)を行う。

: 担当教員の卒論生やゼミ生が行う心理学の調査や実験への協力者を募ることがある。調査や実験に参加することで、講義でも取り上げる心理学における「心」の捉え方や心理学の研究手法を体験的に理解できる。

## 授業計画

: インTRODクシヨン(スタートアップ授業)  
 : 心理学研究法1  
 : 心理学研究法2  
 : 心理学の歴史1  
 : 心理学の歴史2  
 : 心理学の歴史3  
 : 感覚・知覚・認知1  
 : 感覚・知覚・認知2  
 : 感覚・知覚・認知3  
 : 奥行き知覚1  
 : 奥行き知覚2  
 : 記憶1  
 : 記憶2  
 : 記憶3  
 : 心理学Aの振り返り・授業アンケートFURIKAの実施

## スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/  
 tcp9d1aiyphxej9124q2qgg2ao5t6hw)

## 大上 渉

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.心の働きの基盤となる「感覚」「知覚」「認知」「記憶」に関する知見や理論などについて理解し、それらを他者に説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.人の知的営みの基礎となる心の仕組みを学ぶことで、他者や社会における様々な事象や考え方、価値観を理解できる (DP2-1) (態度・志向性)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 佐藤 基治

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：水・2時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

## - - - 概要 - - -

最初に「心理学とは何か」において心理学の研究領域、歴史、方法、考え方など概論的な部分に関する講義をします。科学的心理学の範囲がわかります。

次に、様々な心理学の領域の中から、誰もが日常生活の中で経験している「感覚と知覚」、「記憶」、「学習」の領域の授業を行います。それによって、対象の分離、距離知覚、運動知覚の原理などの知覚の仕組み、感覚記憶、作業記憶、そして長期記憶の違いなどの記憶の特徴、古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習など種々の学習の型がわかるようになります。

授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験すること、教員との簡単な質疑応答を行なうことによって理解を深めていきます。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

教科書を用いて、心理学の知識を教授する、可能な事象に関しては教室内で実際に体験していただく。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

概論的な部分に関する授業を行う(DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：初出の専門用語をリストアップする。(120分)

復習：関連性の高い専門用語をリストアップする。(60分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。

定期試験100%で評価します。

## - - - テキスト - - -

佐藤基治・大上渉・他 「心理学A to B (改訂版)」、培風館、2019年、¥1970 ISBN: 978-4-563-0523-9

## - - - 参考書 - - -

新・心理学の基礎知識 ISBN 4641183112

心理学辞典 ISBN 4641002592

ヒルガードの心理学 ISBN 4892428191

## - - - 授業計画 - - -

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 心理学とは何か：科学としての心理学
- 3 心理学とは何か：心理学史
- 4 心理学研究法：
- 5 心理学研究法：
- 6 感覚と知覚：感覚
- 7 感覚と知覚：知覚
- 8 感覚と知覚：感覚と知覚のまとめ
- 9 記憶：記憶のプロセス
- 10 記憶：記憶の種類
- 11 記憶：短期記憶と長期記憶
- 12 学習：古典的条件づけの理論
- 13 学習：道具的条件づけ
- 14 学習：思考錯誤説と洞察学習説
- 15 まとめ,授業アンケートFURIKA実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/s5w49nqi4hedipfwa5igldqkju7z8k0b>)

佐藤 基治

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.概論的な部分に関する授業を行う (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.諸学問分野の学習 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 古川 善也

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：水・3時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

## - - - 概要 - - -

心理学とは、誰しも持っている心について、その性質や働きを探究する学問領域である。本講義では、学習、認知、発達、社会といった領域に関する現代心理学の代表的な成果について学ぶ。心理学は基礎から応用まで幅広い領域にわたっており、全てを本講義で網羅できるわけではないが、可能な限りこれまで心理学で知られている代表的な研究成果について学習する。講義では、実証科学としての視点から、受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は講義形式で開講するが、授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため、こころの不思議を実際に体験することができる。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

こころの科学としての心理学の研究内容について理解する (DP2-1)(知識・理解)

日常生活の中にある心理学事象を積極的に探り出し、心理学が身近な科学であることを理解する(DP1-1)(技能)

人間の心理・行動に関する事象・出来事を実証的に分析・理解する基礎的な方法論を習得する(DP1-1)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業は主に配布資料を元に行うため、各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(20分)

しっかりと復習を行い、知識を定着させること(160分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして、講義に対する意欲や参加態度(30%)：Moodle等での授業内容に関する事後課題への回答、感想、疑問点の提出 定期試験の成績(70%)で評価を行う。

## - - - テキスト - - -

配布資料を元に行うため、テキスト購入の必要は無い。

## - - - 参考書 - - -

心理学・入門: 心理学はこんなに面白い(改訂版) ISBN 978-4641221383  
 はじめて出会う心理学〔第3版〕 ISBN 978-4641221451

## - - - 履修上の留意点 - - -

以下の点に十分留意した上で、履修登録を行うこと。  
 ・講義中の著しい私語、スマートフォンや携帯電話、音楽プレイヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は、大幅な減点などの厳しい措置をとる。  
 ・不正な出席工作などが発覚した場合、大幅な減点などの厳しい措置をとる。  
 ・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 スタートアップ授業(授業の概要や進め方、成績評価などの説明)
- 2 心理学とは何か(心理学論)
- 3 情報の蓄積と処理(認知心理学)
- 4 情報の蓄積と処理(認知心理学)
- 5 情報の蓄積と処理(認知心理学)
- 6 経験から学ぶ(学習心理学)
- 7 経験から学ぶ(学習心理学)
- 8 人の成長と変化(発達心理学)
- 9 人の成長と変化(発達心理学)
- 10 人の成長と変化(発達心理学)
- 11 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 12 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 13 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 14 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 15 本授業のまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/lpp53c5yzl6hu6yja2ns83hswnt0njrs>

古川 善也

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.こころの科学としての心理学の研究内容について理解する（DP2-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.日常生活の中にある心理学事象を積極的に探り出し、心理学が身近な科学であることを理解する（DP1-1）（技能）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.人間の心理・行動に関する事象・出来事を実証的に分析・理解する基礎的な方法論を習得する（DP1-1）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 縄田 健悟

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：木・1時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

## - - - 概要 - - -

心理学とは、人間の心理過程と行動に関する学問領域である。本講義では、主に基礎過程を中心に、心理学の主要な領域の概観を行う。

心は誰もが持っているものであり、身近に感じやすい一方で、ちょっとした思い込みから勘違いが生まれることも多い。この講義では、実証科学としての視点から、受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行う。毎回の授業内容を確認するために授業の最後にはgoogle formを小課題を提出してもらう。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

心理学の基礎的な知識を身に付け、それらを解説できる。  
(DP1-1)(知識・理解)

心理学の観点から、広い視野を身に付け、物事を多角的に見ることが出来る。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業は主に配布資料と教科書を元に行うために、予習のみならず、しっかりと復習を行い、知識を定着させること。(180分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

授業内容の心理学知識が的確に理解できていることを基準にして、授業中の課題(30%)+定期試験の成績(70%)で評価を行う。

## - - - テキスト - - -

心理学A to B (改訂版)  
978-4-563-05253-9

## - - - 履修上の留意点 - - -

- ・当然ながら、講義中の私語や、不正な出席工作は厳禁であり、大幅な減点などの厳しい処置を行う。
- ・単位習得は容易ではない。十分な予習・復習が必要となる。
- ・「心理学A」と「心理学B」とは密接に関連しているため、あわせて履修することが望ましい。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 インTRODクシヨン(スタートアップ授業)
- 2 知覚
- 3 注意・記憶1
- 4 注意・記憶2
- 5 判断・意思決定1
- 6 判断・意思決定2
- 7 判断・意思決定3
- 8 学習
- 9 教育
- 10 知能
- 11 発達1
- 12 発達2
- 13 臨床・健康1
- 14 臨床・健康2
- 15 最終振り返り・まとめ(授業アンケートFURIKAの実施)

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/iyotljn3v7fp3f27j7hhd9hhd7pdi8gs>)

## 縄田 健悟

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.心理学の基礎的な知識を身に着け、それらを解説できる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.心理学の観点から、広い視野を身に着け、物事を多角的に見ることができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



## 古川 善也

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：木・3時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

## - - - 概要 - - -

心理学とは、誰しも持っている心について、その性質や働きを探究する学問領域である。本講義では、学習、認知、発達、社会といった領域に関する現代心理学の代表的な成果について学ぶ。心理学は基礎から応用まで幅広い領域にわたっており、全てを本講義で網羅できるわけではないが、可能な限りこれまで心理学で知られている代表的な研究成果について学習する。講義では、実証科学としての視点から、受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は講義形式で開講するが、授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため、こころの不思議を実際に体験することができる。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

こころの科学としての心理学の研究内容について理解する (DP2-1)(知識・理解)

日常生活の中にある心理学事象を積極的に探り出し、心理学が身近な科学であることを理解する(DP1-1)(技能)

人間の心理・行動に関する事象・出来事を実証的に分析・理解する基礎的な方法論を習得する(DP1-1)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業は主に配布資料を元に行うため、各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(20分)

しっかりと復習を行い、知識を定着させること(160分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして、講義に対する意欲や参加態度(30%)：Moodle等での授業内容に関する事後課題への回答、感想、疑問点の提出 定期試験の成績(70%)で評価を行う。

## - - - テキスト - - -

配布資料を元に行うため、テキスト購入の必要は無い。

## - - - 参考書 - - -

心理学・入門: 心理学はこんなに面白い(改訂版) ISBN 978-4641221383  
 はじめて出会う心理学〔第3版〕 ISBN 978-4641221451

## - - - 履修上の留意点 - - -

以下の点に十分留意した上で、履修登録を行うこと。  
 ・講義中の著しい私語、スマートフォンや携帯電話、音楽プレイヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は、大幅な減点などの厳しい措置をとる。  
 ・不正な出席工作などが発覚した場合、大幅な減点などの厳しい措置をとる。  
 ・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 スタートアップ授業(授業の概要や進め方、成績評価などの説明)
- 2 心理学とは何か(心理学論)
- 3 情報の蓄積と処理(認知心理学)
- 4 情報の蓄積と処理(認知心理学)
- 5 情報の蓄積と処理(認知心理学)
- 6 経験から学ぶ(学習心理学)
- 7 経験から学ぶ(学習心理学)
- 8 人の成長と変化(発達心理学)
- 9 人の成長と変化(発達心理学)
- 10 人の成長と変化(発達心理学)
- 11 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 12 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 13 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 14 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 15 本授業のまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/5z2jj0pg0n13p9u14nv78rd963z02rrr>

古川 善也

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.こころの科学としての心理学の研究内容について理解する（DP2-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.日常生活の中にある心理学事象を積極的に探り出し、心理学が身近な科学であることを理解する（DP1-1）（技能）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.人間の心理・行動に関する事象・出来事を実証的に分析・理解する基礎的な方法論を習得する（DP1-1）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 古川 善也

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：木・4時限 試験時間割：2024/07/29 1時限

## - - - 概要 - - -

心理学とは、誰しも持っている心について、その性質や働きを探究する学問領域である。本講義では、学習、認知、発達、社会といった領域に関する現代心理学の代表的な成果について学ぶ。心理学は基礎から応用まで幅広い領域にわたっており、全てを本講義で網羅できるわけではないが、可能な限りこれまで心理学で知られている代表的な研究成果について学習する。講義では、実証科学としての視点から、受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は講義形式で開講するが、授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため、こころの不思議を実際に体験することができる。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

こころの科学としての心理学の研究内容について理解する (DP2-1)(知識・理解)

日常生活の中にある心理学事象を積極的に探り出し、心理学が身近な科学であることを理解する(DP1-1)(技能)

人間の心理・行動に関する事象・出来事を実証的に分析・理解する基礎的な方法論を習得する(DP1-1)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業は主に配布資料を元に行うため、各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(20分)

しっかりと復習を行い、知識を定着させること(160分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして、講義に対する意欲や参加態度(30%)：Moodle等での授業内容に関する事後課題への回答、感想、疑問点の提出 定期試験の成績(70%)で評価を行う。

## - - - テキスト - - -

配布資料を元に行うため、テキスト購入の必要は無い。

## - - - 参考書 - - -

心理学・入門: 心理学はこんなに面白い(改訂版) ISBN 978-4641221383  
 はじめて出会う心理学〔第3版〕 ISBN 978-4641221451

## - - - 履修上の留意点 - - -

以下の点に十分留意した上で、履修登録を行うこと。  
 ・講義中の著しい私語、スマートフォンや携帯電話、音楽プレイヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は、大幅な減点などの厳しい措置をとる。  
 ・不正な出席工作などが発覚した場合、大幅な減点などの厳しい措置をとる。  
 ・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 スタートアップ授業(授業の概要や進め方、成績評価などの説明)
- 2 心理学とは何か(心理学論)
- 3 情報の蓄積と処理(認知心理学)
- 4 情報の蓄積と処理(認知心理学)
- 5 情報の蓄積と処理(認知心理学)
- 6 経験から学ぶ(学習心理学)
- 7 経験から学ぶ(学習心理学)
- 8 人の成長と変化(発達心理学)
- 9 人の成長と変化(発達心理学)
- 10 人の成長と変化(発達心理学)
- 11 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 12 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 13 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 14 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 15 本授業のまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/gfzbiuc0xx1mnk9ph5bp4lo08inw8s8o>

古川 善也

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.こころの科学としての心理学の研究内容について理解する（DP2-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.日常生活の中にある心理学事象を積極的に探り出し、心理学が身近な科学であることを理解する（DP1-1）（技能）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.人間の心理・行動に関する事象・出来事を実証的に分析・理解する基礎的な方法論を習得する（DP1-1）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 古川 善也

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：金・5 時限 試験時間割：2024/07/29 1 時限

## - - - 概要 - - -

心理学とは、誰しも持っている心について、その性質や働きを探究する学問領域である。本講義では、学習、認知、発達、社会といった領域に関する現代心理学の代表的な成果について学ぶ。心理学は基礎から応用まで幅広い領域にわたっており、全てを本講義で網羅できるわけではないが、可能な限りこれまで心理学で知られている代表的な研究成果について学習する。講義では、実証科学としての視点から、受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は講義形式で開講するが、授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため、こころの不思議を実際に体験することができる。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

こころの科学としての心理学の研究内容について理解する (DP2-1)(知識・理解)

日常生活の中にある心理学事象を積極的に探り出し、心理学が身近な科学であることを理解する(DP1-1)(技能)

人間の心理・行動に関する事象・出来事を実証的に分析・理解する基礎的な方法論を習得する(DP1-1)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業は主に配布資料を元に行うため、各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(20分)

しっかりと復習を行い、知識を定着させること(160分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして、講義に対する意欲や参加態度(30%)：Moodle等での授業内容に関する事後課題への回答、感想、疑問点の提出 定期試験の成績(70%)で評価を行う。

## - - - テキスト - - -

配布資料を元に行うため、テキスト購入の必要は無い。

## - - - 参考書 - - -

心理学・入門: 心理学はこんなに面白い(改訂版) ISBN 978-4641221383  
 はじめて出会う心理学〔第3版〕 ISBN 978-4641221451

## - - - 履修上の留意点 - - -

以下の点に十分留意した上で、履修登録を行うこと。  
 ・講義中の著しい私語、スマートフォンや携帯電話、音楽プレイヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は、大幅な減点などの厳しい措置をとる。  
 ・不正な出席工作などが発覚した場合、大幅な減点などの厳しい措置をとる。  
 ・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 スタートアップ授業(授業の概要や進め方、成績評価などの説明)
- 2 心理学とは何か(心理学論)
- 3 情報の蓄積と処理(認知心理学)
- 4 情報の蓄積と処理(認知心理学)
- 5 情報の蓄積と処理(認知心理学)
- 6 経験から学ぶ(学習心理学)
- 7 経験から学ぶ(学習心理学)
- 8 人の成長と変化(発達心理学)
- 9 人の成長と変化(発達心理学)
- 10 人の成長と変化(発達心理学)
- 11 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 12 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 13 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 14 社会的存在としてのヒト(社会心理学)
- 15 本授業のまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/8rwrwqbtbf0savaf38g7bz4ct0eg23)

古川 善也

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.こころの科学としての心理学の研究内容について理解する (DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.日常生活の中にある心理学事象を積極的に探り出し、心理学が身近な科学であることを理解する (DP1-1) (技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.人間の心理・行動に関する事象・出来事を実証的に分析・理解する基礎的な方法論を習得する (DP1-1) (態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 縄田 健悟

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：金・二部2時限 試験時間割：2024/07/26 夜2限

## - - - 概要 - - -

心理学とは、人間の心理過程と行動に関する学問領域である。本講義では、主に基礎過程を中心に、心理学の主要な領域の概観を行う。

心は誰もが持っているものであり、身近に感じやすい一方で、ちょっとした思い込みから勘違いが生まれることも多い。この講義では、実証科学としての視点から、受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行う。毎回の授業内容を確認するために授業の最後にはgoogle formを小課題を提出してもらう。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

心理学の基礎的な知識を身に付け、それらを解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

心理学の観点から、広い視野を身に付け、物事を多角的に見ることが出来る。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業は主に配布資料と教科書を元に行うために、予習のみならず、しっかりと復習を行い、知識を定着させること。(180分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

授業内容の心理学知識が的確に理解できていることを基準にして、授業中の課題(30%)+定期試験の成績(70%)で評価を行う。

## - - - テキスト - - -

心理学A to B (改訂版)  
978-4-563-05253-9

## - - - 履修上の留意点 - - -

- ・当然ながら、講義中の私語や、不正な出席工作は厳禁であり、大幅な減点などの厳しい処置を行う。
- ・単位習得は容易ではない。十分な予習・復習が必要となる。
- ・「心理学A」と「心理学B」とは密接に関連しているため、あわせて履修することが望ましい。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 インTRODクシヨン(スタートアップ授業)
- 2 知覚
- 3 注意・記憶1
- 4 注意・記憶2
- 5 判断・意思決定1
- 6 判断・意思決定2
- 7 判断・意思決定3
- 8 学習
- 9 教育
- 10 知能
- 11 発達1
- 12 発達2
- 13 臨床・健康1
- 14 臨床・健康2
- 15 最終振り返り・まとめ(授業アンケートFURIKAの実施)

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/5o99tjwat3gwqsjlcruq3faigc420tnr>

## 縄田 健悟

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

1.心理学の基礎的な知識を身に着け、それらを解説できる。(DP1-1) (知識・理解)

2.心理学の観点から、広い視野を身に着け、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1) (知識・理解)

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 大上 涉

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：無し  
授業時間割：前期：水・4時限 試験時間割：定期試験なし

## 概要

この教養ゼミでは、警察の科学捜査研究所において、犯罪に関する事象・人の検査・鑑定などに従事してきた担当教員の経験を活かし、犯人の行動データを科学的に分析し、犯人像や犯人の居住地を推定する犯罪者プロファイリングについて理解することを目的としている。

テキストとして「犯罪捜査の心理学：プロファイリングで犯人に迫る」（越智啓太著）を用い、アクティブ・ラーニング「話し合い学習」法に準じた形式で授業を進める。メンバー全員は毎回テキストを読み込んで授業に臨む。授業ではグループに分かれ、メンバーが筆者の主張やそれに関連する各自の知識・経験などを述べ合い、議論を交えることで、理解をより深めていく。

教養ゼミでは定期試験こそないものの、毎回予習（例、テキストの熟読や骨子の抽出など）が必要となり、受講生には相応の負担がある。したがって、その旨を理解した上で履修登録すること。

## 授業の進行・方法

テキスト「「犯罪捜査の心理学：プロファイリングで犯人に迫る」（越智啓太著）を用い、アクティブ・ラーニング「話し合い学習」法に準じた形式で授業を進める。メンバー全員は毎回テキストを読み込んで授業に臨む。授業ではグループに分かれ、メンバーが筆者の主張やその根拠、またそれらに関連する自らの体験や知識などを述べ合い、議論を交えることで、理解をより深めていく。

## アクティブ・ラーニング

はい / Yes

## 到達目標

心理学知見を応用することで犯罪捜査において被疑者を推定できることを理解するとともに、そのことを基礎的用語や理論を用いながら他者に解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

犯罪の背景には生物学的な問題、心理学的な問題、社会学的な問題など様々な分野にまたがる問題があることを理解できる。(DP2-1)(知識・理解)

犯罪者の様々な行動や考え方の問題について理解できる。(DP2-2)(知識・理解)

話し合い学習法の過程において、グループの見解や自分の意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1)(態度・志向性)

話し合い学習法の予習を通じて、計画的に課題に取り組むことができる。(DP3-2)(技能)

犯罪者プロファイリングに用いられるアプローチを他の諸問題にも適用することができる(DP4-1)(技能)

## 授業時間外の学習(予習・復習)

毎週、指定された範囲のテキストを読み込み、未知の用語や語彙、著者の主張とその根拠、受講生自身の既存の知識や経験との関連性をレポート1~2枚（A4判用紙、見出し必要、英数字は必ず半角）にまとめ、Moodleを通じて提出すること(180分)

## 成績評価基準および方法

評価に際しては、予習レポートの内容と提出状況（70%）、受講態度・取り組み姿勢（30%）などによって評価する。評価に際しては、「到達目標」欄に記載した3点を満たしているかを基準にする。

なお、この授業は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

## テキスト

越智啓太著「犯罪捜査の心理学：プロファイリングで犯人に迫る（DOJIN文庫）」（ISBN:978-4759825046；税込み990円）化学同人

## 履修上の留意点

この教養ゼミは、毎回、予習（例、テキストの熟読や著者の主張の抽出など）の提出が求められ相応の負担がある。またグループディスカッションを行うので皆の前での発言が求められる。その旨を理解した上で履修登録を行うこと。以下の点についても十分留意すること。

無断の遅刻や欠席は、大幅に減点する。やむを得ず欠席する場合にはメールで連絡すること。

出席しても積極的な参加・取り組み姿勢がみられない場合、受講態度に問題がある場合には大幅に減点する。

## 授業計画

- ：イントロダクション（スタートアップ授業）
- ：他己紹介
- ：話し合い学習法について
- ：第1章 FBIによるプロファイリングプロジェクト
- ：第2章 プロファイリングの新たな展開
- ：第2章 プロファイリングの新たな展開
- ：第1章と第2章の振り返り
- ：第3章 犯人の居住地を推定する
- ：第3章 犯人の居住地を推定する
- ：地理的プロファイリングの振り返り
- ：第4章 犯人の危険性を推定する
- ：第4章 犯人の危険性を推定する
- ：第5章 犯人の動機を推定する
- ：第5章 犯人の動機を推定する
- ：ゼミ全体の振り返り・授業アンケートFURIKAの実施

## スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/qmwqesiktwkmsx805xuezk112ccg3fwq>)

## 大上 渉

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1 DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.心理学知見を応用することで犯罪捜査において被疑者を推定できることを理解するとともに、そのことを基礎的用語や理論を用いながら他者に解説できる。(DP1-1) (知識・理解)

2.犯罪の背景には生物学的な問題, 心理学的な問題, 社会学的な問題など様々な分野にまたがる問題があることを理解できる。(DP2-1) (知識・理解)

3.犯罪者の様々な行動や考え方の問題について理解できる。(DP2-2) (知識・理解)

4.話し合い学習法の過程において, グループの見解や自分の意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1) (態度・志向性)

5.話し合い学習法の予習を通じて, 計画的に課題を取り組むことができる。(DP3-2) (技能)

6.犯罪者プロファイリングに用いられるアプローチを他の諸問題にも適用することができる (DP4-1) (技能)

A:知識・理解, B:技能, C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A, B, C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A, B, C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A, B, C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A, B, C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A, C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B, C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A, B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B, C)

## 縄田 健悟

期別: 前期 単位数: 2 開講年次: 1 授業の種類: 対面授業科目 授業形態: 演習 実務経験: 無し 科目水準: 入門 試験実施: 無し  
 授業時間割: 前期: 木・3時限 試験時間割: 定期試験なし

## --- 概要 ---

この教養ゼミでは、人の心の仕組みに関する心理学研究を理解することを目的としている。

この目的の下、この教養ゼミでは、学生に"教師役"として心理学の個別テーマに基づく"授業"を行ってもらおう。

自分自身で教科書を読み、まとめ、さらに自分と同じ大学生に解説する中で学びを深めてもらう。重要となるのは、内容の正確さもさることながら、できる限り分かりやすい"授業"を行うことである。これによって、心理学の知識を深めるとともにプレゼンテーション能力の向上を目指す。また、他者が行う"授業"への質問も積極的に行ってもらいたい。

学生による"授業"では、1コマで4-6名程度で7-10分程度の短い解説プレゼンテーションを行ってもらおう。これを、授業期間に繰り返し行ってもらおう。発表の機会が何度もあるという点には注意していただきたい。

授業解説では、パワーポイントにまとめ、発表し、出てきた質問に答えることが求められる。パワーポイントで作られた資料自体、また、プレゼン自体の質も評価の対象である。

発表テーマ自体は、各自が興味のあるトピックを挙げてもらい、心理学の書籍から選択して解説してもらおう形式で行っていく。それを期間中に複数回行ってもらおう。

前期の教養ゼミでは、心理学の中でも、

- ・認知心理学
- ・社会心理学
- ・発達心理学

の分野の書籍から選択してもらう。

## --- 授業の進行・方法 ---

各学生からのプレゼンテーションとそれに対する質疑応答を中心に授業を進めていく。

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

心理学の基礎的な理論や知見について解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

心理学の観点から、広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-1)(知識・理解)

心理学の観点から、さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(DP2-2)(知識・理解)

心理学の観点から、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(DP3-1)(知識・理解)

心理学の課題を通じて、困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(DP3-2)(技能)

心理学に関する身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(DP4-1)(知識・理解)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

繰り返し自分の発表授業の番が回ってくるため、その準備の時間が必要となる(180分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

評価に際しては、最終提出資料の内容(30%)、プレゼンの出来栄(50%)、受講態度・課題への取り組み姿勢(20%)によって評価する。また、このクラスは定期試験期間中には試験は実施しない。そのため、再試験も実施しない。

## --- テキスト ---

特になし。適宜、図書館等の書籍を利用する。

## --- 履修上の留意点 ---

教養ゼミでは、授業の準備が求められ、受講生には相応の負担がある。試験が無いからといって、単位を取りやすいわけでは決して無い。その旨を理解した上で履修登録をしていただきたい。

縄田担当の「心理学A(教養ゼミ)」と「心理学B(教養ゼミ)」は扱うテーマは違うが、プレゼンを通じて学ぶというスキル面は類似している。ともに履修できるものの演習の解説では重複する部分もあることはご承知おきの上、履修いただきたい。

## --- 授業計画 ---

- 第1回 イン트로ダクション(スタートアップ授業)
- 第2回 テーマの決定と教員による授業資料作りとプレゼン方法の解説
- 第3回 学生によるプレゼンと議論1
- 第4回 学生によるプレゼンと議論2
- 第5回 学生によるプレゼンと議論3
- 第6回 学生によるプレゼンと議論4
- 第7回 学生によるプレゼンと議論5
- 第8回 学生によるプレゼンと議論6
- 第9回 学生によるプレゼンと議論7
- 第10回 学生によるプレゼンと議論8
- 第11回 学生によるプレゼンと議論9
- 第12回 学生によるプレゼンと議論10
- 第13回 学生によるプレゼンと議論11
- 第14回 学生によるプレゼンと議論12
- 第15回 まとめと総合討議(授業アンケートFURIKAの実施)

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/805g5tjozwxqvtmzxetvax6i9lq7f6pp>

## 縄田 健悟

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1 DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.心理学の基礎的な理論や知見について解説できる。(DP1-1) (知識・理解)
- 2.心理学の観点から、広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (DP2-1) (知識・理解)
- 3.心理学の観点から、さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (DP2-2) (知識・理解)
- 4.心理学の観点から、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (DP3-1) (知識・理解)
- 5.心理学の課題を通じて、困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (DP3-2) (技能)
- 6.心理学に関する身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (DP4-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

佐藤 基治

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：月・1時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

- - - 概要 - - -

この講義では、「心の動き」に関連した領域を取り扱います。『感情』では感情が人々の思考や行動にどのように影響するかを学習します。『モチベーション』では学習や認知との関連の中で動機づけを説明します。『パーソナリティ』では人格に関するいくつかのアプローチを説明します。『発達』では遺伝と環境の相互作用がどのように人間の発達を決定づけるかを学習します。『社会』の領域では、他者の存在が人々の行動にどう影響するかを検討します。  
 授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験することや教員との簡単な質疑応答によって理解を深めていきます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

教科書を用いて、心理学の知識を教授する、可能な事象に関しては教室内で実際に体験していただく。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

概論的な部分に関する学習 (DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：初出の専門用語をリストアップする。(120分)

復習：関連性の高い専門用語をリストアップする。(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。  
 定期試験100%で評価します。

- - - テキスト - - -

佐藤基治・大上渉・他 「心理学A to B (改訂版)」、培風館、2019年、¥1970 ISBN: 978-4-563-0523-9

- - - 参考書 - - -

新・心理学の基礎知識 ISBN 4641183112  
 心理学辞典 ISBN 4641002592  
 ヒルガードの心理学 ISBN 4892428191

- - - 履修上の留意点 - - -

- - - 授業計画 - - -

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
- 2 感情：感情の表出
- 3 感情：感情の理論
- 4 感情：感情の認知
- 5 発達：発達の原理
- 6 発達：発達理論
- 7 発達：発達段階
- 8 パーソナリティ：階層性
- 9 パーソナリティ：類型論
- 10 パーソナリティ：特性論
- 11 社会：社会的認知
- 12 社会：社会的影響
- 13 社会：対人関係
- 14 文化
- 15 犯罪,授業アンケートFURIKA実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (<https://fukuoka-u.box.com/s/sf4s1r1xlfdscebsjgb77h28b5at3gk>)

## 佐藤 基治

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.概論的な部分に関する学習  
(DP1-1) (知識・理解)A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.諸学問分野の学習 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

佐藤 基治

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：月・4時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

概要

この講義では、「心の動き」に関連した領域を取り扱います。『感情』では感情が人々の思考や行動にどのように影響するかを学習します。『モチベーション』では学習や認知との関連の中で動機づけを説明します。『パーソナリティ』では人格に関するいくつかのアプローチを説明します。『発達』では遺伝と環境の相互作用がどのように人間の発達を決定づけるかを学習します。『社会』の領域では、他者の存在が人々の行動にどう影響するかを検討します。

授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験することや教員との簡単な質疑応答によって理解を深めていきます。

授業の進行・方法

教科書を用いて、心理学の知識を教授する、可能な事象に関しては教室内で実際に体験していただく。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

概論的な部分に関する学習 (DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：初出の専門用語をリストアップする。(120分)

復習：関連性の高い専門用語をリストアップする。(60分)

成績評価基準および方法

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。定期試験100%で評価します。

テキスト

佐藤基治・大上渉・他 「心理学A to B (改訂版)」、培風館、2019年、¥1970 ISBN: 978-4-563-0523-9

参考書

新・心理学の基礎知識 ISBN 4641183112  
心理学辞典 ISBN 4641002592  
ヒルガードの心理学 ISBN 4892428191

履修上の留意点

授業計画

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
  - 2 感情：感情の表出
  - 3 感情：感情の理論
  - 4 感情：感情の認知
  - 5 発達：発達の原理
  - 6 発達：発達理論
  - 7 発達：発達段階
  - 8 パーソナリティ：階層性
  - 9 パーソナリティ：類型論
  - 10 パーソナリティ：特性論
  - 11 社会：社会的認知
  - 12 社会：社会的影響
  - 13 社会：対人関係
  - 14 文化
  - 15 犯罪
- 授業アンケートFURIKA実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/fughyfu43s2qxlylpttggw57sr16zm7q>)

佐藤 基治

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.概論的な部分に関する学習  
(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.諸学問分野の学習 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



佐藤 基治

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：火・1時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

概要

この講義では、「心の動き」に関連した領域を取り扱います。『感情』では感情が人々の思考や行動にどのように影響するかを学習します。『モチベーション』では学習や認知との関連の中で動機づけを説明します。『パーソナリティ』では人格に関するいくつかのアプローチを説明します。『発達』では遺伝と環境の相互作用がどのように人間の発達を決定づけるかを学習します。『社会』の領域では、他者の存在が人々の行動にどう影響するかを検討します。

授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験することや教員との簡単な質疑応答によって理解を深めていきます。

授業の進行・方法

教科書を用いて、心理学の知識を教授する、可能な事象に関しては教室内で実際に体験していただく。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

概論的な部分に関する学習 (DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：初出の専門用語をリストアップする。(120分)

復習：関連性の高い専門用語をリストアップする。(60分)

成績評価基準および方法

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。定期試験100%で評価します。

テキスト

佐藤基治・大上渉・他 「心理学A to B (改訂版)」、培風館、2019年、¥1970 ISBN: 978-4-563-0523-9

参考書

新・心理学の基礎知識 ISBN 4641183112  
心理学辞典 ISBN 4641002592  
ヒルガードの心理学 ISBN 4892428191

履修上の留意点

授業計画

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
  - 2 感情：感情の表出
  - 3 感情：感情の理論
  - 4 感情：感情の認知
  - 5 発達：発達の原理
  - 6 発達：発達理論
  - 7 発達：発達段階
  - 8 パーソナリティ：階層性
  - 9 パーソナリティ：類型論
  - 10 パーソナリティ：特性論
  - 11 社会：社会的認知
  - 12 社会：社会的影響
  - 13 社会：対人関係
  - 14 文化
  - 15 犯罪
- 授業アンケートFURIKA実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/n9otygyyvkb1vfqeq7wada1e511q418y>)

## 佐藤 基治

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.概論的な部分に関する学習  
(DP1-1) (知識・理解)A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.諸学問分野の学習 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 大上 渉

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：後期：火・3時限 試験時間割：定期試験なし

## --- 概要 ---

この講義では、我々を取り巻く社会・集団が心に及ぼす影響や、個性を規定する要因などについて学ぶ。全15回のうち、前半は、「社会」における心の働きに焦点をあて、対人場面における心理的現象や、所属する集団・組織内において、心の働きがどのように変化するのか、また理想のリーダーシップやリーダー像などについて、日常的事例を交えながら解説する。

後半では、性格・パーソナリティを取りあげ、性格を分類・記述するための理論や、教育、産業、医療の分野で利用されている性格検査について説明する。

## --- 授業の進行・方法 ---

この授業は、教員が作成した講義資料とテキストをもとに講義形式で行う。講義資料はMoodleに事前にアップしているの各自ダウンロードし、授業に持参すること。講義資料を終える度にMoodleを用いた小テストを行い、講義内容の理解を確認します。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

社会心理学やパーソナリティ心理学などに関する基礎的な知見や理論などについて理解し、他者に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

人の知的営みの基礎となる心の仕組みを学ぶことで、他者や社会における様々な事象や考え方、価値観を理解できる(DP2-1)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

受講者はMoodle上にアップロードした講義資料を事前に読み、わからない部分はテキストなどで調べておくこと。(90分)

小テストに備え、重要な箇所については講義中に強調して説明する。そのような箇所は重点的に復習し、説明した理論や知見の理解、用語などを覚えておくこと。(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

成績評価は、期間内に実施する小テストの成績(80%)及び授業への積極的な取り組み(20%)で評価する。期間内に実施する小テストについては、Moodle上で教材ごとに小テスト(10問~20問)を実施する。期間内に5回程度実施する予定である。出題形式は、選択問題、正誤判断問題や記述問題などである。成績は80点満点で点数化する。具体的には、80点を小テストの実施回数で除した値に(もし5回小テストを実施したのであれば16点となる)、正答率を乗じた値を小テストごとに算出し、その合計値を小テストの成績とする。評価基準については、授業で解説した用語や知見を理解できているか、またそれらが知識として定着しているかを基準にして評価する。もう一方の授業への積極的な取り組みについては、ミニッツペーパーの内容や授業内・授業前後の質問、心理学の調査・実験への参加・協力などを総合的に評価する。

なお、この授業は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

## --- テキスト ---

「心理学 A to B改訂版」  
 (佐藤基治・大上渉・一言英文・縄田健悟・箕浦有希久、培風館、2019年、2,167円、ISBN: 978-4563052539)

## --- 参考書 ---

「心理学ビジュアル百科」 ISBN 978-4-422-11622-8  
 「意識的な行動の無意識的な理由: 心理学ビジュアル百科 認知心理学編」 ISBN 978-4422116846  
 「心理学入門 ところを科学する10のアプローチ」 ISBN 978-4061548084

## --- 履修上の留意点 ---

以下の点に十分留意した上で、履修登録を行うこと。  
 : この授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできない。  
 : Moodle上の小テストでは制限時間(1問あたり12秒程度)内に問題を読み、文字の入力や記号の選択を行うことになる。  
 : 講義資料はMoodleにアップするので受講者は事前に出力し講義時に持参すること。  
 4: 講義中、出席を確認する。その際、名簿からランダムに氏名を読み上げる。  
 : 受講者を指名し、発言を求めることがある。その際、教室後方に着座している学生を主に指名する。  
 : 講義中の著しい私語、スマートフォンや携帯電話、音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらを行う者に対しては学生証を呈示させ厳しい処置をとる。また、筆記用具や講義資料など、なにも持たずに受講している者も同様の措置をとる。  
 : 不正な出席工作(いわゆる「ピ逃げ」)が発覚した場合、大幅な減点(15点)を行う。  
 : 担当教員の卒論生やゼミ生が行う心理学の調査や実験への協力者を募ることがある。調査や実験に参加することで、講義でも取り上げる心理学における「心」の捉え方や心理学の研究手法を体験的に理解できる。

## --- 授業計画 ---

: インTRODクッション(スタートアップ授業)  
 : 社会心理学1-1(対人認知と印象形成)  
 : 社会心理学1-2(対人認知における歪み)  
 : 社会心理学1-3(バランス理論, 対人魅力)  
 : 社会心理学2-1(身体的魅力, 美しい顔の正体)  
 : 社会心理学2-2(説得と態度変容)  
 : 社会心理学2-3(集団の特徴と構造)  
 : 社会心理学2-4(同調と少数派の影響)  
 : 社会心理学2-5(リーダーシップとPM理論)  
 : パーソナリティ1-1(パーソナリティの捉え方)  
 : パーソナリティ1-2(パーソナリティと様々な変数の関連性)  
 : パーソナリティ1-3(パーソナリティの成熟と障害)  
 : パーソナリティ2-1(性格検査の目的・種類)  
 : パーソナリティ2-2(さまざまな性格検査の特徴)  
 : パーソナリティ2-3(しぐさ, 表情から「心」を読む)・授業アンケートFURIKAの実施

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/09yfdy9gwvdolnho9bvpv9ovygbuxnm)

## 大上 渉

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.社会心理学やパーソナリティ心理学などに関する基礎的な知見や理論などについて理解し、他者に説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.人の知的営みの基礎となる心の仕組みを学ぶことで、他者や社会における様々な事象や考え方、価値観を理解できる（DP2-1）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 大上 渉

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：後期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

## --- 概要 ---

この講義では、我々を取り巻く社会・集団が心に及ぼす影響や、個性を規定する要因などについて学ぶ。全15回のうち、前半は、「社会」における心の働きに焦点をあて、対人場面における心理的現象や、所属する集団・組織内において、心の働きがどのように変化するのか、また理想のリーダーシップやリーダー像などについて、日常的事例を交えながら解説する。

後半では、性格・パーソナリティを取りあげ、性格を分類・記述するための理論や、教育、産業、医療の分野で利用されている性格検査について説明する。

## --- 授業の進行・方法 ---

この授業は、教員が作成した講義資料とテキストをもとに講義形式で行う。講義資料はMoodleに事前にアップしているの各自ダウンロードし、授業に持参すること。講義資料を終える度にMoodleを用いた小テストを行い、講義内容の理解を確認します。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

社会心理学やパーソナリティ心理学などに関する基礎的な知見や理論などについて理解し、他者に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

人の知的営みの基礎となる心の仕組みを学ぶことで、他者や社会における様々な事象や考え方、価値観を理解できる(DP2-1)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

受講者はMoodle上にアップロードした講義資料を事前に読み、わからない部分はテキストなどで調べておくこと。(90分)

小テストに備え、重要な箇所については講義中に強調して説明する。そのような箇所は重点的に復習し、説明した理論や知見の理解、用語などを覚えておくこと。(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

成績評価は、期間内に実施する小テストの成績(80%)及び授業への積極的な取り組み(20%)で評価する。期間内に実施する小テストについては、Moodle上で教材ごとに小テスト(10問~20問)を実施する。期間内に5回程度実施する予定である。出題形式は、選択問題、正誤判断問題や記述問題などである。成績は80点満点で点数化する。具体的には、80点を小テストの実施回数で除した値に(もし5回小テストを実施したのであれば16点となる)、正答率を乗じた値を小テストごとに算出し、その合計値を小テストの成績とする。評価基準については、授業で解説した用語や知見を理解できているか、またそれらが知識として定着しているかを基準にして評価する。もう一方の授業への積極的な取り組みについては、ミニッツペーパーの内容や授業内・授業前後の質問、心理学の調査・実験への参加・協力などを総合的に評価する。

なお、この授業は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

## --- テキスト ---

「心理学 A to B改訂版」  
 (佐藤基治・大上渉・一言英文・縄田健悟・箕浦有希久、培風館、2019年、2,167円、ISBN: 978-4563052539)

## --- 参考書 ---

「心理学ビジュアル百科」 ISBN 978-4-422-11622-8  
 「意識的な行動の無意識的な理由: 心理学ビジュアル百科 認知心理学編」 ISBN 978-4422116846  
 「心理学入門 ところを科学する10のアプローチ」 ISBN 978-4061548084

## --- 履修上の留意点 ---

以下の点に十分留意した上で、履修登録を行うこと。  
 : この授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできない。  
 : Moodle上の小テストでは制限時間(1問あたり12秒程度)内に問題を読み、文字の入力や記号の選択を行うことになる。  
 : 講義資料はMoodleにアップするので受講者は事前に出力し講義時に持参すること。  
 4: 講義中、出席を確認する。その際、名簿からランダムに氏名を読み上げる。  
 : 受講者を指名し、発言を求めることがある。その際、教室後方に着座している学生を主に指名する。  
 : 講義中の著しい私語、スマートフォンや携帯電話、音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらを行う者に対しては学生証を呈示させ厳しい処置をとる。また、筆記用具や講義資料など、なにも持たずに受講している者も同様の措置をとる。  
 : 不正な出席工作(いわゆる「ピ逃げ」)が発覚した場合、大幅な減点(15点)を行う。  
 : 担当教員の卒論生やゼミ生が行う心理学の調査や実験への協力者を募ることがある。調査や実験に参加することで、講義でも取り上げる心理学における「心」の捉え方や心理学の研究手法を体験的に理解できる。

## --- 授業計画 ---

: インTRODクシヨン(スタートアップ授業)  
 : 社会心理学1-1(対人認知と印象形成)  
 : 社会心理学1-2(対人認知における歪み)  
 : 社会心理学1-3(バランス理論、対人魅力)  
 : 社会心理学2-1(身体的魅力、美しい顔の正体)  
 : 社会心理学2-2(説得と態度変容)  
 : 社会心理学2-3(集団の特徴と構造)  
 : 社会心理学2-4(同調と少数派の影響)  
 : 社会心理学2-5(リーダーシップとPM理論)  
 : パーソナリティ1-1(パーソナリティの捉え方)  
 : パーソナリティ1-2(パーソナリティと様々な変数の関連性)  
 : パーソナリティ1-3(パーソナリティの成熟と障害)  
 : パーソナリティ2-1(性格検査の目的・種類)  
 : パーソナリティ2-2(さまざまな性格検査の特徴)  
 : パーソナリティ2-3(しぐさ、表情から「心」を読む)・授業アンケートFURIKAの実施

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/bdqtqpx83thy1nirk1pgvxrc7a7jgp0t)

## 大上 渉

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.社会心理学やパーソナリティ心理学などに関する基礎的な知見や理論などについて理解し、他者に説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

2.人の知的営みの基礎となる心の仕組みを学ぶことで、他者や社会における様々な事象や考え方、価値観を理解できる（DP2-1）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

佐藤 基治

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：水・2時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

- - - 概要 - - -

この講義では、「心の動き」に関連した領域を取り扱います。『感情』では感情が人々の思考や行動にどのように影響するかを学習します。『モチベーション』では学習や認知との関連の中で動機づけを説明します。『パーソナリティ』では人格に関するいくつかのアプローチを説明します。『発達』では遺伝と環境の相互作用がどのように人間の発達を決定づけるかを学習します。『社会』の領域では、他者の存在が人々の行動にどう影響するかを検討します。

授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験することや教員との簡単な質疑応答によって理解を深めていきます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

講義教科書を用いて、心理学の知識を教授する、可能な事象に関しては教室内で実際に体験していただく。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

- - - 到達目標 - - -

概論的な部分に関する学習 (DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：初出の専門用語をリストアップする。(120分)

復習：関連性の高い専門用語をリストアップする(60分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。定期試験100%で評価します。

- - - テキスト - - -

佐藤基治・大上渉・他 「心理学A to B (改訂版)」、培風館、2019年、¥1970 ISBN: 978-4-563-0523-9

- - - 参考書 - - -

新・心理学の基礎知識 ISBN 4641183112  
 心理学辞典 ISBN 4641002592  
 ヒルガードの心理学 ISBN 4892428191

- - - 履修上の留意点 - - -

- - - 授業計画 - - -

- 1 ガイダンス(スタートアップ授業)
  - 2 感情：感情の表出
  - 3 感情：感情の理論
  - 4 感情：感情の認知
  - 5 発達：発達の原理
  - 6 発達：発達理論
  - 7 発達：発達段階
  - 8 パーソナリティ：階層性
  - 9 パーソナリティ：類型論
  - 10 パーソナリティ：特性論
  - 11 社会：社会的認知
  - 12 社会：社会的影響
  - 13 社会：対人関係
  - 14 文化
  - 15 犯罪
- ,授業アンケートFURIKA実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (<https://fukuoka-u.box.com/s/ppsvh2ut16ipu0dp01ih05elz84majt9>)

## 佐藤 基治

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.概論的な部分に関する学習  
(DP1-1) (知識・理解)A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.諸学問分野の学習 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



古川 善也

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：水・3時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

- - - 概要 - - -

本講義では、人間行動を進化生物学の理論から説明する視点(=進化心理学)について学ぶ。ハードウェアとしての身体だけではなく、ソフトウェアとしての「こころ」や行動も自然的あるいは社会的環境への適応の結果として形成されたものとして考える進化・適応論的視点が80年代後半より急速に拡大しつつある。こうした視点は、人間行動はすべて生後の経験(学習)によって説明できるとする旧来の(極端な)伝統的心理学の価値観と相反するため、多くの論争を生み出している。一方で、進化論的視点は究極因から人間行動を説明する(おそらく唯一の)有力な仮説をいくつか提出している。人間はなぜ大規模な協力的集団を維持できるのか? 男性と女性の違いはすべてジェンダー(社会的性別)によって説明できるのか? 抑うつなどの一見すると不適応に思える性質がなぜ残ってきたのか? これらの問いに一定の答えを提供するのが本講義の目的である。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は講義形式で開講するが、授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため、こころの不思議を実際に体験することができる。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

人のこころの在り方の進化的な背景を理解する(DP1-1)(知識・理解)

環境への適応という観点から人間行動を科学的にみるようになる(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業は主に配布資料を元に行うため、各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(20分)

しっかりと復習を行い、知識を定着させること(160分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして、講義に対する意欲や参加態度(30%)：Moodle等での授業内容に関する事後課題への回答、感想、疑問点の提出  
 定期試験の成績(70%)で評価を行う。

- - - テキスト - - -

配布資料を元に行うため、テキスト購入の必要は無い。

- - - 参考書 - - -

進化と人間行動 第2版 ISBN 978-4-13-062230-1  
 進化心理学 ISBN 978-4595323867

- - - 履修上の留意点 - - -

以下の点に十分留意した上で、履修登録を行うこと。  
 ・講義中の著しい私語、スマートフォンや携帯電話、音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は、大幅な減点などの厳しい措置をとる。  
 ・不正な出席工作などが発覚した場合、大幅な減点などの厳しい措置をとる。  
 ・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

- - - 授業計画 - - -

- 1 スタートアップ授業(ガイダンス：授業の概要や進め方、成績評価などの説明)
- 2 進化心理学とは何か
- 3 進化心理学とは何か
- 4 利己的遺伝子
- 5 利己的遺伝子
- 6 性と進化
- 7 性と進化
- 8 利他性の進化
- 9 利他性の進化
- 10 感情の進化
- 11 感情の進化
- 12 脳と人類の進化
- 13 認知能力の進化
- 14 文化の進化
- 15 本授業のまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/em6gclxltn1e8w7p4q6j9h4fgvv0uzf)

古川 善也

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.人のこころの在り方の進化的な背景を理解する (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.環境への適応という観点から人間行動を科学的にみることができるようになる (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 縄田 健悟

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：木・1時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

## - - - 概要 - - -

心理学とは、人間の心理過程と行動に関する学問領域である。本講義では、主に応用を中心に、心理学の主要な領域の概観を行う。

心は誰もが持っているものであり、身近に感じやすい一方で、ちょっとした思い込みから勘違いが生まれることも多い。この講義では、実証科学としての視点から、受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行う。毎回の授業内容を確認するために授業の最後にはgoogle formを小課題を提出してもらう。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

心理学の基礎的な知識を身に着け、それらを解説できる。  
(DP1-1)(知識・理解)

心理学の観点から、広い視野を身に着け、物事を多角的に見ることが出来る。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業は主に配布資料と教科書を元に行うために、予習のみならず、しっかりと復習を行い、知識を定着させること。(180分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

授業内容の心理学知識が的確に理解できていることを基準にして、授業中の課題(30%)+定期試験の成績(70%)で評価を行う。

## - - - テキスト - - -

心理学A to B (改訂版)  
978-4-563-05253-9

## - - - 履修上の留意点 - - -

- ・当然ながら、講義中の私語や、不正な出席工作は厳禁であり、大幅な減点などの厳しい処置を行う。
- ・単位習得は容易ではない。十分な予習・復習が必要となる。
- ・「心理学A」と「心理学B」とは密接に関連しているため、あわせて履修することが望ましい。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 インTRODクシヨン：スタートアップ授業
- 2 感情
- 3 性格
- 4 対人1
- 5 対人2
- 6 対人3
- 7 集団1
- 8 集団2
- 9 産業
- 10 災害
- 11 組織1
- 12 組織2
- 13 文化
- 14 犯罪
- 15 総合振り返り・まとめ(授業アンケートFURIKAの実施)

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/y4abr9raz3whqwitj2eral7mn8nmpszy>)

## 縄田 健悟

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.心理学の基礎的な知識を身に着け、それらを解説できる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.心理学の観点から、広い視野を身に着け、物事を多角的に見ることができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

古川 善也

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：木・3時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

- - - 概要 - - -

本講義では、人間行動を進化生物学の理論から説明する視点(=進化心理学)について学ぶ。ハードウェアとしての身体だけではなく、ソフトウェアとしての「こころ」や行動も自然的あるいは社会的環境への適応の結果として形成されたものとして考える進化・適応論的視点が80年代後半より急速に拡大しつつある。こうした視点は、人間行動はすべて生後の経験(学習)によって説明できるとする旧来の(極端な)伝統的心理学の価値観と相反するため、多くの論争を生み出している。一方で、進化論的視点は究極因から人間行動を説明する(おそらく唯一の)有力な仮説をいくつか提出している。人間はなぜ大規模な協力的集団を維持できるのか? 男性と女性の違いはすべてジェンダー(社会的性別)によって説明できるのか? 抑うつなどの一見すると不適応に思える性質がなぜ残ってきたのか? これらの問いに一定の答えを提供するのが本講義の目的である。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は講義形式で開講するが、授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため、こころの不思議を実際に体験することができる。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

人のこころの在り方の進化的な背景を理解する(DP1-1)(知識・理解)

環境への適応という観点から人間行動を科学的にみるようになる(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業は主に配布資料を元に行うため、各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(20分)

しっかりと復習を行い、知識を定着させること(160分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして、講義に対する意欲や参加態度(30%)：Moodle等での授業内容に関する事後課題への回答、感想、疑問点の提出  
 定期試験の成績(70%)で評価を行う。

- - - テキスト - - -

配布資料を元に行うため、テキスト購入の必要は無い。

- - - 参考書 - - -

進化と人間行動 第2版 ISBN 978-4-13-062230-1  
 進化心理学 ISBN 978-4595323867

- - - 履修上の留意点 - - -

以下の点に十分留意した上で、履修登録を行うこと。  
 ・講義中の著しい私語、スマートフォンや携帯電話、音楽プレイヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は、大幅な減点などの厳しい措置をとる。  
 ・不正な出席工作などが発覚した場合、大幅な減点などの厳しい措置をとる。  
 ・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

- - - 授業計画 - - -

- 1 スタートアップ授業(ガイダンス：授業の概要や進め方、成績評価などの説明)
- 2 進化心理学とは何か
- 3 進化心理学とは何か
- 4 利己的遺伝子
- 5 利己的遺伝子
- 6 性と進化
- 7 性と進化
- 8 利他性の進化
- 9 利他性の進化
- 10 感情の進化
- 11 感情の進化
- 12 脳と人類の進化
- 13 認知能力の進化
- 14 文化の進化
- 15 本授業のまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/6bt8j2frxsnw15u7q3gdb220issyimgc)

古川 善也

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.人のこころの在り方の進化的な背景を理解する (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.環境への適応という観点から人間行動を科学的にみることができるようになる (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

古川 善也

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：木・4時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

- - - 概要 - - -

本講義では、人間行動を進化生物学の理論から説明する視点(=進化心理学)について学ぶ。ハードウェアとしての身体だけではなく、ソフトウェアとしての「こころ」や行動も自然的あるいは社会的環境への適応の結果として形成されたものとして考える進化・適応論的視点が80年代後半より急速に拡大しつつある。こうした視点は、人間行動はすべて生後の経験(学習)によって説明できるとする旧来の(極端な)伝統的心理学の価値観と相反するため、多くの論争を生み出している。一方で、進化論的視点は究極因から人間行動を説明する(おそらく唯一の)有力な仮説をいくつか提出している。人間はなぜ大規模な協力的集団を維持できるのか? 男性と女性の違いはすべてジェンダー(社会的性別)によって説明できるのか? 抑うつなどの一見すると不適応に思える性質がなぜ残ってきたのか? これらの問いに一定の答えを提供するのが本講義の目的である。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は講義形式で開講するが、授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため、こころの不思議を実際に体験することができる。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

人のこころの在り方の進化的な背景を理解する(DP1-1)(知識・理解)

環境への適応という観点から人間行動を科学的にみることができるようになる(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業は主に配布資料を元に行うため、各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(20分)

しっかりと復習を行い、知識を定着させること(160分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして、講義に対する意欲や参加態度(30%)：Moodle等での授業内容に関する事後課題への回答、感想、疑問点の提出  
 定期試験の成績(70%)で評価を行う。

- - - テキスト - - -

配布資料を元に行うため、テキスト購入の必要は無い。

- - - 参考書 - - -

進化と人間行動 第2版 ISBN 978-4-13-062230-1  
 進化心理学 ISBN 978-4595323867

- - - 履修上の留意点 - - -

以下の点に十分留意した上で、履修登録を行うこと。

- ・講義中の著しい私語、スマートフォンや携帯電話、音楽プレイヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は、大幅な減点などの厳しい措置をとる。
- ・不正な出席工作などが発覚した場合、大幅な減点などの厳しい措置をとる。
- ・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

- - - 授業計画 - - -

- 1 スタートアップ授業(ガイダンス：授業の概要や進め方、成績評価などの説明)
- 2 進化心理学とは何か
- 3 進化心理学とは何か
- 4 利己的遺伝子
- 5 利己的遺伝子
- 6 性と進化
- 7 性と進化
- 8 利他性の進化
- 9 利他性の進化
- 10 感情の進化
- 11 感情の進化
- 12 脳と人類の進化
- 13 認知能力の進化
- 14 文化の進化
- 15 本授業のまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/zs9jc9hl92x1ee4idiynzsxs97i6brc8)

古川 善也

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.人のこころの在り方の進化的な背景を理解する (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.環境への適応という観点から人間行動を科学的にみることができるようになる (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



古川 善也

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：金・5時限 試験時間割：2025/01/22 1時限

- - - 概要 - - -

本講義では、人間行動を進化生物学の理論から説明する視点(=進化心理学)について学ぶ。ハードウェアとしての身体だけではなく、ソフトウェアとしての「こころ」や行動も自然的あるいは社会的環境への適応の結果として形成されたものとして考える進化・適応論的視点が80年代後半より急速に拡大しつつある。こうした視点は、人間行動はすべて生後の経験(学習)によって説明できるとする旧来の(極端な)伝統的心理学の価値観と相反するため、多くの論争を生み出している。一方で、進化論的視点は究極因から人間行動を説明する(おそらく唯一の)有力な仮説をいくつか提出している。人間はなぜ大規模な協力的集団を維持できるのか? 男性と女性の違いはすべてジェンダー(社会的性別)によって説明できるのか? 抑うつなどの一見すると不適応に思える性質がなぜ残ってきたのか? これらの問いに一定の答えを提供するのが本講義の目的である。

- - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は講義形式で開講するが、授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため、こころの不思議を実際に体験することができる。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

人のこころの在り方の進化的な背景を理解する(DP1-1)(知識・理解)

環境への適応という観点から人間行動を科学的にみることができるようになる(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業は主に配布資料を元に行うため、各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(20分)

しっかりと復習を行い、知識を定着させること(160分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして、講義に対する意欲や参加態度(30%)：Moodle等での授業内容に関する事後課題への回答、感想、疑問点の提出  
 定期試験の成績(70%)で評価を行う。

- - - テキスト - - -

配布資料を元に行うため、テキスト購入の必要は無い。

- - - 参考書 - - -

進化と人間行動 第2版 ISBN 978-4-13-062230-1  
 進化心理学 ISBN 978-4595323867

- - - 履修上の留意点 - - -

以下の点に十分留意した上で、履修登録を行うこと。

- ・講義中の著しい私語、スマートフォンや携帯電話、音楽プレイヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は、大幅な減点などの厳しい措置をとる。
- ・不正な出席工作などが発覚した場合、大幅な減点などの厳しい措置をとる。
- ・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

- - - 授業計画 - - -

- 1 スタートアップ授業(ガイダンス：授業の概要や進め方、成績評価などの説明)
- 2 進化心理学とは何か
- 3 進化心理学とは何か
- 4 利己的遺伝子
- 5 利己的遺伝子
- 6 性と進化
- 7 性と進化
- 8 利他性の進化
- 9 利他性の進化
- 10 感情の進化
- 11 感情の進化
- 12 脳と人類の進化
- 13 認知能力の進化
- 14 文化の進化
- 15 本授業のまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/6fva7kmw1mk0493i2yn9ajrtr4cg5db4)

古川 善也

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.人のこころの在り方の進化的な背景を理解する (DP1-1) (知識・理解)

2.環境への適応という観点から人間行動を科学的にみることができるようになる (DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 縄田 健悟

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：金・二部2時限 試験時間割：2025/01/24 夜2限

## - - - 概要 - - -

心理学とは、人間の心理過程と行動に関する学問領域である。本講義では、主に応用を中心に、心理学の主要な領域の概観を行う。

心は誰もが持っているものであり、身近に感じやすい一方で、ちょっとした思い込みから勘違いが生まれることも多い。この講義では、実証科学としての視点から、受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行う。毎回の授業内容を確認するために授業の最後にはgoogle formを小課題を提出してもらう。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

心理学の基礎的な知識を身に着け、それらを解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

心理学の観点から、広い視野を身に着け、物事を多角的に見ることが出来る。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業は主に配布資料と教科書を元に行うために、予習のみならず、しっかりと復習を行い、知識を定着させること。(180分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

授業内容の心理学知識が的確に理解できていることを基準にして、授業中の課題(30%)+定期試験の成績(70%)で評価を行う。

## - - - テキスト - - -

心理学A to B (改訂版)  
978-4-563-05253-9

## - - - 履修上の留意点 - - -

- ・当然ながら、講義中の私語や、不正な出席工作は厳禁であり、大幅な減点などの厳しい処置を行う。
- ・単位習得は容易ではない。十分な予習・復習が必要となる。
- ・「心理学A」と「心理学B」とは密接に関連しているため、あわせて履修することが望ましい。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 インTRODクシヨン：スタートアップ授業
- 2 感情
- 3 性格
- 4 対人1
- 5 対人2
- 6 対人3
- 7 集団1
- 8 集団2
- 9 産業
- 10 災害
- 11 組織1
- 12 組織2
- 13 文化
- 14 犯罪
- 15 総合振り返り・まとめ(授業アンケートFURIKAの実施)

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/uv462vbn5h45dyx8fq00e62q05njpg4>)

## 縄田 健悟

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.心理学の基礎的な知識を身に着け、それらを解説できる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.心理学の観点から、広い視野を身に着け、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 大上 渉

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：無し  
授業時間割：後期：水・4時限 試験時間割：定期試験なし

## --- 概要 ---

この教養ゼミでは、警察の科学捜査研究所において、犯罪に関する事・人の検査・鑑定などに従事してきた担当教員の経験を活かしつつ、テキスト「パワーハラ上司を科学する」(津野香奈美著)を読み解き、なぜパワーハラスメント(以下、パワーハラと称する)が起きるのか、どのような性格の上司がパワーハラを起こすのか、パワーハラ上司にならないためにはどうすればいいのかを主体的に学び、理解することを目的としている。

教養ゼミは、定期試験こそないものの、毎回予習(例、テキストの熟読や骨子の抽出など)が必要となり、受講生には相応の負担がある。したがって、その旨を理解した上で履修登録すること。

## --- 授業の進行・方法 ---

テキスト「パワーハラ上司を科学する」(津野香奈美著)を用い、アクティブ・ラーニング「話し合い学習」法に準じた形式で授業を進める。メンバー全員は毎回テキストを読み込んで授業に臨む。授業ではグループに分かれ、メンバーが筆者の主張やその根拠、またそれらに関連する自らの体験や知識などを述べ合い、議論を交えることで、理解をより深めていく。

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

パワーハラに結びつきやすい性格特性などの基礎的な知識を身につける。(DP1-1)(知識・理解)

パワーハラスメントについて、誤解や思い込みにとらわれることなく、心理学や隣接する領域の学術的知見に基づいて、パワーハラスメントに至った経緯、パワーハラを行う上司像などを正確に理解しようとする姿勢を身につける。(DP2-1)(知識・理解)

パワーハラスメントについて、誤解や思い込みにとらわれることなく、心理学や隣接する領域の学術的知見に基づいて、パワーハラスメントに至った経緯、パワーハラを行う上司像などを正確に理解し、他者に解説できる。(DP2-2)(技能)

話し合い学習法の過程において、グループの見解や自分の意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1)(態度・志向性)

話し合い学習法の予習を通じて、計画的に課題に取り組むことができる。(DP3-2)(態度・志向性)

授業を通してパワーハラスメントについて学び、心理的安全性の高い職場の実現に向けた課題に気づくことができる(DP4-1)(知識・理解)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

毎週、指定された範囲のテキストを読み込み、未知の用語や語彙、著者の主張とその根拠、受講生自身の既存の知識や経験との関連性をレポート1~2枚(A4判用紙、見出し必要、英数字は必ず半角)にまとめ、Moodleを通じて提出すること(180分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

評価に際しては、予習レポートの内容と提出状況(70%)、受講態度・取り組み姿勢(30%)などによって評価する。評価に際しては「到達目標」欄に記載した3点を満たしているかを基準にする。

なお、この授業は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

## --- テキスト ---

津野香奈美 著 「パワーハラ上司を科学する」(990円)ちくま新書 ISBN: 978-4480075345

## --- 履修上の留意点 ---

この教養ゼミは、毎回、予習(例、テキストの熟読や著者の主張の抽出など)の提出が求められる相応の負担がある。またグループディスカッションを行うので皆の前での発言が求められる。その旨を理解した上で履修登録を行うこと。以下の点についても十分留意すること。

無断の遅刻や欠席は、大幅に減点する。やむを得ず欠席する場合にはメールで連絡すること。

出席しても積極的な参加・取り組み姿勢がみられない場合、受講態度に問題がある場合には大幅に減点する。

## --- 授業計画 ---

: イントロダクション(スタートアップ授業)

: 他己紹介

: 話し合い学習法について

: 第1章 パワーハラとは何か

: 第2章 1~3 誰がパワーハラをしているのか

: 第2章 4・5 誰がパワーハラをしているのか

: 第3章 1・2 パワーハラを引き起こす上司の3類型

: 第3章 3・4 パワーハラを引き起こす上司の3類型

: 第4章 1・2 なぜパワーハラは起こるのか

: 第4章 3・4 なぜパワーハラは起こるのか

: 第4章 5・6 なぜパワーハラは起こるのか

: 第5章 1・2 パワーハラ上司にならないためには

: 第5章 3・4 パワーハラ上司にならないためには

: 第5章 5~7 パワーハラ上司にならないためには

: このゼミの振り返り・授業アンケートFURIKAの実施

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/s/](https://fukuoka-u.box.com/s/a89gjj0jaowbsa03zx8q7sxnt9itkfp)

[a89gjj0jaowbsa03zx8q7sxnt9itkfp](https://fukuoka-u.box.com/s/a89gjj0jaowbsa03zx8q7sxnt9itkfp))

## 大上 渉

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1 DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.パワーハラに結びつきやすい性格特性などの基礎的な知識を身につける。  
(DP1-1) (知識・理解)
- 2.パワーハラスメントについて、誤解や思い込みにとらわれることなく、心理学や隣接する領域の学術的知見に基づいて、パワーハラスメントに至った経緯、パワーハラを行う上司像などを正確に理解しようとする姿勢を身につける。  
(DP2-1) (知識・理解)
- 3.パワーハラスメントについて、誤解や思い込みにとらわれることなく、心理学や隣接する領域の学術的知見に基づいて、パワーハラスメントに至った経緯、パワーハラを行う上司像などを正確に理解し、他者に解説できる。 (DP2-2) (技能)
- 4.話し合い学習法の過程において、グループの見解や自分の意見を他者に明確に伝えることができる。 (DP3-1) (態度・志向性)
- 5.話し合い学習法の予習を通じて、計画的に課題を取り組むことができる。  
(DP3-2) (態度・志向性)
- 6.授業を通してパワーハラスメントについて学び、心理的安全性の高い職場の実現に向けた課題に気づくことができる (DP4-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 縄田 健悟

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
授業時間割：後期：木・3時限 試験時間割：定期試験なし

## --- 概要 ---

この教養ゼミでは、人の心の仕組みに関する心理学研究を理解することを目的としている。

この目的の下、この教養ゼミでは、学生に"教師役"として心理学の個別テーマに基づく"授業"を行ってもらおう。

自分自身で教科書を読み、まとめ、さらに自分と同じ大学生に解説する中で学びを深めてもらう。重要となるのは、内容の正確さもさることながら、できる限り分かりやすい"授業"を行うことである。これによって、心理学の知識を深めるとともにプレゼンテーション能力の向上を目指す。また、他者が行う"授業"への質問も積極的に行ってもらいたい。

学生による"授業"では、1コマで4-6名程度で7-10分程度の短い解説プレゼンテーションを行ってもらおう。これを、授業期間に繰り返し行ってもらおう。発表の機会が何度もあるという点には注意していただきたい。

授業解説では、パワーポイントにまとめ、発表し、出てきた質問に答えることが求められる。パワーポイントで作られた資料自体、また、プレゼン自体の質も評価の対象である。

発表テーマ自体は、各自が興味のあるトピックを挙げてもらい、心理学の書籍から選択して解説してもらおう形式で行っていく。それを期間中に複数回行ってもらおう。

後期の教養ゼミでは、心理学の中でも、

- ・組織心理学
- ・社会心理学
- ・教育心理学
- ・犯罪心理学

といった応用分野の書籍から選択してもらおう。

## --- 授業の進行・方法 ---

各学生からのプレゼンテーションとそれに対する質疑応答を中心に授業を進めていく。

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

心理学の基礎的な理論や知見について解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

心理学の観点から、広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-1)(知識・理解)

心理学の観点から、さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(DP2-2)(知識・理解)

心理学の観点から、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(DP3-1)(知識・理解)

心理学の課題を通じて、困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(DP3-2)(技能)

心理学に関する身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(DP4-1)(知識・理解)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

繰り返し自分の発表授業の番が回ってくるため、その準備の時間が必要となる(180分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

評価に際しては、最終提出資料の内容(30%)、プレゼンの出来栄(50%)、受講態度・課題への取組み姿勢(20%)によって評価する。また、このクラスは定期試験期間中には試験は実施しない。そのため、再試験も実施しない。

## --- テキスト ---

特になし。適宜、図書館等の書籍を利用する。

## --- 履修上の留意点 ---

教養ゼミでは、授業の準備が求められ、受講生には相應の負担がある。試験が無いからといって、単位を取りやすいわけでは決して無い。その旨を理解した上で履修登録をしていただきたい。

縄田担当の「心理学A(教養ゼミ)」と「心理学B(教養ゼミ)」は扱うテーマは違うが、プレゼンを通じて学ぶというスキル面は類似している。ともに履修できるものの演習の解説では重複する部分もあることはご承知おきの上、履修いただきたい。

## --- 授業計画 ---

- 第1回 イン트로ダクション(スタートアップ授業)
- 第2回 テーマの決定と教員による授業資料作りとプレゼン方法の解説
- 第3回 学生によるプレゼンと議論1
- 第4回 学生によるプレゼンと議論2
- 第5回 学生によるプレゼンと議論3
- 第6回 学生によるプレゼンと議論4
- 第7回 学生によるプレゼンと議論5
- 第8回 学生によるプレゼンと議論6
- 第9回 学生によるプレゼンと議論7
- 第10回 学生によるプレゼンと議論8
- 第11回 学生によるプレゼンと議論9
- 第12回 学生によるプレゼンと議論10
- 第13回 学生によるプレゼンと議論11
- 第14回 学生によるプレゼンと議論12
- 第15回 まとめと総合討議(授業アンケートFURIKAの実施)

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/oilq1b5kb1k8db8z9jvwxwnhpu9qry1o>)

## 縄田 健悟

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1 DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.心理学の基礎的な理論や知見について解説できる。(DP1-1) (知識・理解)
- 2.心理学の観点から、広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-1) (知識・理解)
- 3.心理学の観点から、さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (DP2-2) (知識・理解)
- 4.心理学の観点から、自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (DP3-1) (知識・理解)
- 5.心理学の課題を通じて、困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (DP3-2) (技能)
- 6.心理学に関する身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (DP4-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 施 光恒

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：金・1 時限 試験時間割：2024/08/01 3 時限

## 概要

本授業の位置づけであるが、政治学の入門的な授業である。代表的な政治理論・思想の概要を説明したうえで、それが現代の日本政治を理解する上でどのように関係しているかについて、論じていく。

・おもに英米圏の現代の政治理論を扱う。今学期の授業では特に、正義や公正さという理念に基づき、現代の経済社会のあり方を考える。具体的には、リベラリズム、保守主義、マルクス主義、市場経済に関する思想（ハイエク、ポランニー）などを取り上げる。これらの政治理論を通じて、現代の日本や世界の政治や経済を見る目を養う。この授業を受講すると、政治理論や政治思想の基礎が身に着く。例えば、リベラリズム、保守主義、マルクス主義、グローバル化などの背後にある理論や思想を基礎知識を学ぶことができる。加えて、それらの基礎知識を踏まえて、現代の日本や他国の政治や経済がどのような考えの下でなされているか判断し、その是非を複数の角度から議論できるようになる。また、日常的に、政治や経済、社会の現代的問題に関心を深めることが可能となる。

・基本的に講義形式で進める。回によっては、席の近い受講生と簡単なディスカッションをはさむ場合もある。講義ではパワーポイントのスライドを用いるが、スライドはすべてFUポータルなどにアップロードする。

## 授業の進行・方法

本授業は、基本的には講義を主とした授業形態で進みますが、回によっては、授業の開始と終了に5分程度のグループディスカッションを取り入れる予定です。授業ではスライドを用いる。スライドはすべてFUポータルなどにアップする予定である。

## アクティブ・ラーニング

はい / Yes

## 到達目標

リベラリズムとは何かについて基礎的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

民主主義とは何かについて基礎的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

保守主義とはどのような思想かについて基礎的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

マルクス主義の現代的意義について基礎的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

市場経済の利点について、特にハイエクの議論について基礎的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

グローバル化によって市場経済がどのような影響を被ったかについて基本的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

時事的な政治問題について政治理論の基礎的な用語を用いつつ、広い視野を養い複数の角度から議論することができる。(DP2-1)(技能)

時事的な政治問題について、新聞やネット上のニュースなどを踏まえて、複数の価値観があることを知り、それぞれの立場からの議論を説明できる。(DP2-2)(技能)

日本、あるいは自国(留学生の場合)の政治に関心を深め、日常的にニュースをチェックするようになる。(DP2-2)(態度・志向性)

## 授業時間外の学習(予習・復習)

(事前学習) 授業中に指示する配布資料や参考文献の該当箇所に目を通してくること。(60分)

(事後学習) 毎回、配布されるプリントに目を通し、授業を整理し、各単元の理解を深める。指示された参考文献の箇所を熟読する。(60分)

ほぼ毎回の授業でFUポータル上で小テストを行うので、それに回答できるかを理解の目安(複数の必要性の目安)にしてほしい。確認テストがわからない場合は、資料や参考文献を見直す。(60分)

## 成績評価基準および方法

現代の代表的な政治理論の知識を身に付け、日本を取りまく政治の現状をそれとの関連で説明できるようになっているかを評価の基準とする。具体的にどのような政治理論の知識を身に付けることになるかは、到達目標を参照してほしい。成績評価は、期末試験(80%)、レポート(20%)という配分である。期末試験については、政治理論の基礎知識を問うとともに、それを踏まえて、現代の政治的課題、およびその考えうる解決策について論理的な整合性をもって論じられるかどうかで評価する。レポートは、基礎知識を踏まえたうえで、やはり現代の政治的課題について一つ取り上げ、それについて説得力のある議論を展開できるかを見る。

## テキスト

ミラー『はじめての政治哲学』岩波書店、2019年、1,188円  
ISBN 4006004036

## 参考書

中野、柴山、施『まともな日本再生会議 グローバリズムの虚妄を撃つ』、972円 ISBN 4757222572  
柴山、佐伯編『現代社会論のキーワード』、2,700円  
ISBN 44779503604

一冊目は主に、授業の後半の回の市場経済やグローバル化に関係します。二冊目は、私が執筆している「リベラル・デモクラシー」の章が授業の参考になると思います。

## 履修上の留意点

・授業中に紹介する参考文献に興味をもち、できる限り目を通すようにしてください。

・政治に対する興味と知識を得るために、新聞、ニュース、書籍、インターネット、雑誌などを駆使して、一つの問題に関して複数の視点から情報を得るように日々心がけてください。たとえば新聞を例にとるとすれば、特定の一紙の論説や記事をそのまま信用するのではなく、それをほかの新聞や雑誌、書籍、インターネットのサイト(さまざまなブログや各種掲示板など)を参照しつつ、多角的に評価する習慣を養ってください。

・政治学Bと合わせて受講することが望ましいが(できればそうしてください)、政治学Aのみの受講もできます。

## 授業計画

- 1 授業の概要説明(スタートアップ授業)
- 2 自由民主主義(1)
- 3 自由民主主義(2)
- 4 自由民主主義(3)
- 5 保守主義(1)
- 6 保守主義(2)
- 7 保守主義(3)
- 8 マルクス主義(1)
- 9 マルクス主義(2)
- 10 市場経済の思想(1)
- 11 市場経済の思想(2)
- 12 市場経済の思想(3)
- 13 グローバル化と市場経済(1) カール・ポランニーの議論を手がかりに
- 14 グローバル化と市場経済の思想(2) 日本社会への影響
- 15 全体まとめ、および授業アンケートFUKIRAの実施

## スタートアップ授業

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/9irct2mk3fvgegnaurzy7i39a4cpr3k>)

## 施 光恒

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.リベラリズムとは何かについて基礎的な知識を得て、それを説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.民主主義とは何かについて基礎的な知識を得て、それを説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

3.保守主義とはどのような思想かについて基礎的な知識を得て、それを説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

4.マルクス主義の現代的意義について基礎的な知識を得て、それを説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

5.市場経済の利点について、特にハイエクの議論について基礎的な知識を得て、それを説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

6.グローバル化によって市場経済がどのような影響を被ったかについて基本的な知識を得て、それを説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

7.時事的な政治問題について政治理論の基礎的な用語を用いつつ、広い視野を養い複数の角度から議論することができる。  
(DP2-1) (技能)

8.時事的な政治問題について、新聞やネット上のニュースなどを踏まえて、複数の価値観があることを知り、それぞれの立場からの議論を説明できる。  
(DP2-2) (技能)

9.日本、あるいは自国 (留学生の場合) の政治に関心を深め、日常的にニュースをチェックするようになる。  
(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

## 朝倉 拓郎

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：木・5時限 試験時間割：2024/08/01 3時限

## - - - 概要 - - -

現在、日本の社会は様々な困難な問題に直面している。これらの問題を解決して住みやすい社会を実現するか、あるいは問題の解決に失敗して住みにくい社会になるかは、民主政治の担い手である私たち市民の力量にかかっている。本講義の目的は、市民としての力量を高めるために必要不可欠な政治的教養（知識、ものの見方、態度等）を身につけることである。

前期開講の「政治学A」では、政治に関わる基礎的な諸概念と、民主政治を運営するための政治制度について学ぶ。その際、概念や制度の歴史的、思想的背景を含めて説明するので、単に表面的な知識を覚えるのではなく、概念や制度の基盤となっている「ものの見方」や「考え方」を理解するように心がけてほしい。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、基本的には講義形式で進められ、適宜関連するビデオを視聴する。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

政治における基礎的な概念や制度を理解し、それらを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

政治的な概念や制度の背景にある歴史や思想について理解し、それらを説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

日本社会が直面している政治的課題に対して、基礎的な知識をふまえた上で自分なりの意見を持ち、それを説明できる。(DP3-1)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：資料を読んで授業の概要を把握し、分からない用語等があれば調べておく。（資料はFUポータルを通じて事前に配布する。）(60分)

復習：疑問点や興味が深まった点について、教員に質問したり、資料に掲載された参考文献等を利用して、さらに理解を深める。(120分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

- ・定期試験によって、到達目標1、2の達成度を評価する。(80%)
- ・課題レポートによって、到達目標3について評価する。(20%)

## - - - テキスト - - -

使用しない。資料を配付する。

## - - - 参考書 - - -

講義中に適宜紹介する。

## - - - 履修上の留意点 - - -

同じ担当者による後期開講の「政治学B」をあわせて受講すると理解が深まる。

## - - - 授業計画 - - -

- 第1回 イン트로ダクション（スタートアップ授業）
- 第2回 政治の概念（1）：国家
- 第3回 政治の概念（2）：公共性、法
- 第4回 政治の概念（3）：民主主義
- 第5回 政治の概念（4）：権力、立憲主義
- 第6回 政治の概念（5）：自由主義
- 第7回 政治の概念（6）：社会主義
- 第8回 政治の概念（7）：正義
- 第9回 政治の制度（1）：権力の分立と集中
- 第10回 政治の制度（2）：国会
- 第11回 政治の制度（3）：内閣
- 第12回 政治の制度（4）：選挙制度
- 第13回 政治の制度（5）：政党
- 第14回 政治の制度（6）：地方自治
- 第15回 政治の制度（7）：国際政治、授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/esyv6v5gq89314vgn32gulhgw0wnnx2n>)

## 朝倉 拓郎

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.政治における基礎的な概念や制度を理解し、それらを説明できる。(DP1-1)  
(知識・理解)

2.政治的な概念や制度の背景にある歴史や思想について理解し、それらを説明できる。(DP2-1) (知識・理解)

3.日本社会が直面している政治的課題に対して、基礎的な知識をふまえた上で自分なりの意見を持ち、それを説明できる。(DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 李 鍾成

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：月・2 時限 試験時間割：2024/08/01 3 時限

## - - - 概要 - - -

現代の国際社会はグローバル社会と呼ばれており、世界各国の相互依存度が高くなっているように見える。しかし、国家間には政治外交・安全保障・経済・環境などの諸問題をめぐって協力と対立が現れたりしており、それらの問題は私たちの生活に直接・間接的に影響を与えている。本講義では、国際政治に対する学問的理解を身につけることを目標とし、国際社会における諸問題と諸イシューを歴史的、実証的なアプローチで概説する。その際に、具体的な事例を取り上げて、その「背景と歴史」や「現状」を検討するために必要な「理論」について解説する。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業の方法は講師によるレクチャー形式を基本とするが、授業中に小テスト(クイズや質疑応答)を行うことがある。この授業は後期の政治学B(国際政治史と日本)につながっている。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

国家間の政治・外交の相互作用を分析する国際政治学の理論を理解し、現実の国際政治を読み解くための基礎知識を身につける。(DP1-1)(知識・理解)

問題を多様な視覚で分析し考察して能動的に解決するために必要な専門的な社会科学の手法を学び、その活用方法を身につける。(DP2-1)(技能)

国際事情や他国の動態を理解し、日本と国際社会の関係を客観的に見ることができる。(DP2-2)(知識・理解)

国際社会についての知見を深め、学生各自がそれぞれの国際観を持つとともに、国際社会の安定やSDGsの達成に貢献できる。(DP4-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：テレビ、新聞などで国際政治と国際事情に関する情報に常に接する。(60分)

予習：毎回、配布される授業レジュメに目を通し、用語や略語の意味を中心に授業を整理しておく。(60分)

復習：授業中に指定される文献を読んで予習をしておく。(60分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験70%  
 授業貢献度(ミニッツペーパー提出+小テスト)：30%

・定期試験では、到達目標のDP1(知識・理解)、(DP2-1)(技能)、そして(DP2-2)(知識・理解)を中心に評価する。特に国際政治学の理論と現実を結びつける能力が主な評価基準になる。

・ミニッツペーパーには、毎回の授業に関する感想や質問を書いてもらう。

## - - - テキスト - - -

指定教科書はないが、毎回の授業でプリントを配布し、場合によって1次資料などを紹介する。

## - - - 参考書 - - -

国際政治学 (New Liberal Arts Selection) ISBN 4641177228  
 国際関係論 (第3版) ISBN 4335002335  
 大国政治の悲劇 ISBN 4909542175

## - - - 履修上の留意点 - - -

- 1) 授業マナーを必ず守る。(私語など、講義の進行や他の学生の受講を妨げる行為を慎む。)
- 2) 各回の講義について、履修学生の意見・感想・質問等をミニッツペーパーに作成してもらい、次週にそれに対するコメントや意見交換などを行う。

## - - - 授業計画 - - -

オリエンテーション：国際政治学という学問の誕生と特徴(スタートアップ授業)

人類、戦争、そして国際社会：人類の誕生から見た国際社会とは

国際政治理論とは何か+国際政治を見る眼1：リアリズム

国際政治を見る眼2：リアリズム2+リベラリズム

国際政治を見る眼3：リベラリズム2

国際政治を見る眼4：まとめ+ゲーム理論1

国際政治を見る眼5：コンストラクティビズム

冷戦と二極体制の国際政治

一極体制の国際政治1：冷戦の終焉とアメリカの対外政策

一極体制の国際政治2：アメリカの対外政策2

国際政治における日本の外交・対外政策

国際政治イシュー：宗教、資源、テロリズム

国際政治イシュー：環境問題と国際レジーム

国際政治イシュー：ヨーロッパと中央アジアの国際政治

まとめ+授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/jlzuwqkhud6zhdhxttd1ky2wo4g1yjkwd>)

## 李 鍾成

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.国家間の政治・外交の相互作用を分析する国際政治学の理論を理解し、現実の国際政治を読み解くための基礎知識を身につける。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.問題を多様な視覚で分析し考察して能動的に解決するために必要な専門的な社会科学の手法を学び、その活用方法を身につける。(DP2-1) (技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.国際事情や他国の動態を理解し、日本と国際社会の関係を客観的に見ることができる。(DP2-2) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.国際社会についての知見を深め、学生各自がそれぞれの国際観を持つとともに、国際社会の安定やSDGsの達成に貢献できる。(DP4-2) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 廣澤 孝之

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：月・1時限 試験時間割：2024/08/01 3時限

## - - - 概要 - - -

現代日本政治の形成過程について、政党システムの変容、主要な政策課題の変遷、日本を取りまく相互作用などに着目して整理したうえで、現代日本が抱えている政策課題がどのような歴史的背景のもとにあるかを中心として講義する。

共通教育科目であることを考慮し、高校と大学の橋渡しになるよう、高校で学んだ政治・経済・日本史などの基礎知識の確認にも留意する。基礎知識の確認のため時折発問も混ぜながら、板書を含めて丁寧に講義を進める。復習のためにも自分の手を動かして講義ノートをしっかり取ることが大切である。

講義では戦後改革以後の現代日本政治外交史全般を対象とするが、今年度はとくに高度経済成長期以後の日本政治を取りまく諸問題と今後の政策課題について詳述する。なかでも現在焦点の課題となっている福祉政策など具体的政策課題への取り組みを中心に、できるだけわかりやすく講義することにしたい。

今後急激な人口減少期を迎え、従来の枠組みとは根本的に異なる体制作りが求められている現代日本社会を広く深くできる視座の開拓に資するものとなるように、授業を進めていく。

授業の理解を深めるために講義テキストだけでなく、幅広く参考文献にあたり偏らない知識の習得に努めてほしい。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

この授業は講義形式で、毎回かなりの内容を口述し、また板書しながらの授業です。重要な事項を聞き漏らさないようにし、かなり詳細にノートをとることになります。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

現代日本社会の構造について歴史的背景を踏まえて幅広く理解する。(DP1-1)(知識・理解)

現代日本政治の政策課題について、狭い価値観にとらわれず柔軟に思考する視野を開拓する。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習 事前に当該部分の教科書の内容をよく読むこと (90分)

復習 講義ノートを整理し、論点となっていた事項について理解を深めること(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験60%と平常点40%(平常点は小テスト・レポート提出等による)との総合評価とする。到達目標にある、自分の言葉で日本政治について説明できるかどうかで平常点を評価し、日本政治に関する基礎的な理解の有無を定期試験における評価の基準とする。

## - - - テキスト - - -

廣澤孝之著『日本政治の政策課題』晃洋書房、2012年、2800円,ISBN978-4-7710-2385-7

## - - - 参考書 - - -

講義のなかで適宜指示する。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 はじめに [スタートアップ授業]
- 2 現代日本社会の抱える諸課題
- 3 戦後日本政治の基本的枠組み
- 4 戦後改革から「55年体制」の成立へ
- 5 自民党支配体制の確立と変容
- 6 「政治改革」と政党システムの再編(1)
- 7 「政治改革」と政党システムの再編(2)
- 8 日本における「企業社会」の成立
- 9 日本における福祉政策の特質
- 10 新しい社会的危機と教育政策の課題
- 11 日米安保体制の成立と未完の戦後処理
- 12 国際環境の変化と新しい地域秩序の模索
- 13 新しい福祉社会の展望 企業社会を超えて
- 14 現代日本政治の政策課題
- 15 まとめ FURIKA実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/kdxee4w6mt7ib12xebdsyym5k04gnitc>)

## 廣澤 孝之

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.現代日本社会の構造について歴史的背景を踏まえて幅広く理解する。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.現代日本政治の政策課題について、狭い価値観にとらわれず柔軟に思考する  
視野を開拓する。 (DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 菅原 和行

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：水・二部2時限 試験時間割：2024/07/31 夜2限

## - - - 概要 - - -

この授業では、現代政治を理解するうえで必要な政治学の基礎概念や政治の諸制度について学びます。政治という営みは、価値の多元性を前提として、それらの間の調整や妥協を図る行為です。私たちの社会には、自由、平等、経済的繁栄などの多様な価値が存在しますが、それらがつねに調和するとは限らないため、価値の間に生じる対立を解決し、調整を図らなくてはなりません。たとえば、経済的繁栄と環境保護はしばしば衝突しますが、どちらも私たちの社会には不可欠な価値であるため、両者に折り合いをつけながら社会を維持していかなくてはなりません。また、価値間の対立は、それぞれを支持する個人や集団(政党、利益集団、国家など)間の対立でもあるため、そうした個人・集団間の対立を調整し、妥協点を探ることも必要になります。それでは、こうした政治の営みをより良いものにしていくにはどうしたらよいか、それを考えるのが政治学という学問分野です。

この授業では、政治という営みがどのようなものであるかを理解し、より良い政治のあり方を考えるため、政治学の基礎概念や政治の諸制度について学び、私たち自身が政治のアクター(行為者)として主体的に社会に関わるうえで必要な知識を修得することを目指します。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、本科目指定のテキストと教員が準備した資料をもとに講義形式で行います。各回授業では、授業内容に関わる課題についてミニッツペーパーを作成し、提出してもらいます。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

政治学の基礎概念と政治の諸制度について、自分自身の言葉で説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

政治における諸価値の対立を解決するため、自らその方策を提示できる。(DP2-1)(技能)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

各回授業に出席するにあたり、事前にテキストの該当箇所をよく読み、予習しておくこと。(90分)

各回授業のあと、ノートを見返すとともに、テキストの該当箇所や配付資料をもう一度よく読んで復習しておくこと。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：授業中に説明した政治学の諸概念、理論・学説、政治の諸制度、政策等を正しく理解し、自分の言葉で適切に説明できるかどうかを評価基準とします。

評価方法：定期試験(70%)とミニッツペーパー(30%)により、上記の評価基準の達成度を総合的に評価します。

## - - - テキスト - - -

西山隆行、向井洋子編『図録 政治学』(弘文堂、2023年) 2,750円(税込) ISBN 9784335359415  
上記のテキストに沿って授業を進めます。授業開始までに必ず購入し、毎回の授業に持参してください。

## - - - 参考書 - - -

加茂利男、大西仁、石田徹、伊藤恭彦『現代政治学[第4版]』(有斐閣、2012年) ISBN 9784641124554  
その他の文献は授業中に適宜紹介します。

## - - - 履修上の留意点 - - -

各回の授業ではミニッツペーパーを作成してもらうため、毎回の授業にきちんと出席できる方が履修してください。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 ガイダンス、政治とは何か、政治学とは何か(スタートアップ授業)
- 2 政治学の基礎概念
- 3 市民革命期までの政治思想
- 4 市民革命期以降の政治思想
- 5 政治体制
- 6 体制変動
- 7 55年体制
- 8 55年体制崩壊後の展開
- 9 民主主義の歴史
- 10 現代の民主主義
- 11 権力分立と議会
- 12 主要国の政治制度
- 13 地方自治
- 14 日本の地方自治
- 15 まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/bo9xm85yen9vtrq0km7pmr3dhykoasj1>)

## 菅原 和行

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.政治学の基礎概念と政治の諸制度について、自分自身の言葉で説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.政治における諸価値の対立を解決するため、自らその方策を提示できる。  
(DP2-1) (技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 東原 正明

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：木・3時限 試験時間割：2024/08/01 3時限

## - - - 概要 - - -

19世紀以降、世界の政治は国民国家を中心として動いてきました。しかし近年、統合を一層深めつつあるEUをはじめとして、国家を超える組織の重要性が高まっています。それと同時に、国家内において存在する、あるいは国境をまたいで結びつきを強める地域の動向も注目されるようになり、国民国家概念の相対化ともいえる事態が進行しています。

このような現状認識に立つとはいえ、二度の世界大戦を経て現在に至るまで、依然として国家が政治の中心的なアクターの一つとして存在し続けていることも事実です。また、ヨーロッパには統合の進展に対する懐疑や反対の動きも見られます。本講義ではまず、政治とは何かについて考えたのち、私たちの生活に今なお欠くことのできない現代の国家に関して様々な角度から検討します。本授業は講義形式により進め、担当者が在オーストリア日本大使館の専門調査員として勤務した経験を活かし、ヨーロッパを中心に国家に関わる様々なテーマを提示しつつ内容を深めます。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した講義資料（電子ファイルの配布を中心とする）をもとに、講義形式で行います。社会情勢等により必要な場合は、講義中に数回の小テストを実施します。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

政治とは何かということについて理解することができる(DP1-1)(知識・理解)

政治学の角度から世界の動向について理解し、多角的な視点から把握することができる(DP2-1)(態度・志向性)

国民国家について、その歴史や問題点も含めて学習することを通じて、現代世界の政治的動向について自己の見解を持つことができる(DP2-2)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、日ごろから新聞等の報道に目を通し、日本や世界の政治の動向に関心を持つておくこと。(90分)

復習として、講義の内容を整理して疑問点や問題点を確認し、次回授業に臨む準備をすること。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

講義内容をふまえ、政治とは何か、国家とは何かについて理解できているかを評価の基準とします。

原則として、定期試験のみにより評価します。ただし、社会情勢等により小テスト等の実施が必要となる場合は、定期試験60%、小テスト等40%で評価することがあります。

## - - - テキスト - - -

山本佐門『現代国家と民主政治（改訂版）』（北樹出版、2010年） ISBN978-4779302459（1800円＋税）

## - - - 参考書 - - -

政治学の第一歩 ISBN 978-4-641-15025-6  
 連邦制入門 ISBN 978-4862830722  
 政治学をつかむ ISBN 978-4641177154

## - - - 履修上の留意点 - - -

日ごろから政治への関心を持ち、積極的に学習して下さい。

私語など他の受講生の学習を妨害する行為、携帯電話、スマートフォン等の使用は禁止し、それらの行為に対しては、学生証を提示させ、退出を命じる等の措置を含めて厳正に対処します。携帯電話、スマートフォン等は講義には不要ですので、カバンの中に収納し、机上には出さないこと。

各回の配布資料はFUポータルに掲載するので、各自で印刷して講義時に持参してください。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 はじめに（スタートアップ授業）
- 2 政治現象とは
- 3 政治の定義
- 4 国家とは（1）
- 5 国家とは（2）
- 6 国家権力（1）
- 7 国家権力（2）
- 8 ナショナリズムと国家（1）
- 9 ナショナリズムと国家（2）
- 10 民族と国家
- 11 変動する国家（1）
- 12 変動する国家（2）
- 13 政治体制
- 14 新しい国のかたち
- 15 おわりに（授業アンケート FURIKAの実施）

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/h06n9nz1vd2aox4vyidf0to97qdd9v7c>

## 東原 正明

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.政治とは何かということについて理解することができる (DP1-1) (知識・理解)

2.政治学の角度から世界の動向について理解し、多角的な視点から把握することができる (DP2-1) (態度・志向性)

3.国民国家について、その歴史や問題点も含めて学習することを通じて、現代世界の政治的動向について自己の見解を持つことができる (DP2-2) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 施 光恒

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：金・1時限 試験時間割：2025/01/27 3時限

## 概要

本授業の位置づけであるが、政治学の入門的な授業である。代表的な政治理論・思想の概要を説明したうえで、それが現代の日本政治を理解する上でどのように関係してくるのかについて、論じていく。

- ・おもに英米圏の現代の政治理論を扱う。  
今学期の授業では、特に、現代の政治を理解するうえで非常に重要な「グローバル化」や「ナショナリズム」をめぐる政治理論や政治思想を扱う。グローバル化の進展、およびその反動がみられる現在の政治状況のもとで、国民国家や「ナショナルなもの」（国民意識や国民の連帯、愛国心など）の役割を検討していく。そのうえで、現代の日本やそれを取り巻く世界の政治を理解し、論じることができるようになることが目標である。  
・前半では、主に「ナショナルなもの」と自由民主主義との関連を考える。  
・後半（第11回以降あたりから）は、主に、日本のナショナル・アイデンティティについて、いくつかの観点から考察する。  
この授業を受講すると、政治理論や政治思想の基礎が身に着く。例えば、ナショナリティやエスニシティ、国民国家、グローバリズムなどに関する政治理論の基礎を学ぶことができる。また、日本のナショナル・アイデンティティに関する複数の議論を学ぶことができる。加えて、それらの基礎知識を踏まえて、現代の日本や他国の政治や経済がどのような考えの下でなされているか判断し、その是非を複数の角度から議論できるようになる。また、日常的に、政治や経済、社会の現代的問題に関心を深めることが可能となる。

- ・基本的に講義形式で進める。回によっては、席の近い受講生と簡単なディスカッションをほさむ場合もある。講義ではパワーポイントのスライドを用いるが、スライドはすべてFUポータルなどにアップロードする。

## 授業の進行・方法

本授業は、基本的に講義を主とした授業形態で進行するが、回によっては、授業の開始と終了に5分程度のグループディスカッションを取り入れる予定である。授業ではスライドを用いる。スライドはすべてFUポータルなどにアップする予定である。

## アクティブ・ラーニング

はい / Yes

## 到達目標

ネイションの起源に対する代表的な見方について基礎的な知識を得て、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

グローバル化が進むとなぜ各国内での経済的格差が拡大するかについて基礎的な知識を得て、そのメカニズムを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

グローバル化が進むとなぜ民主主義が機能不全に陥るのかについて基礎的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

自由、平等、民主主義、少数者の保護といった自由民主主義の理念と、安定したネイションとの結びつきについて基礎的な知識を得て、その関係性について説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本人の道徳意識の特徴について基礎的な知識を得て、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本のナショナル・アイデンティティについて、自由民主主義との関りという観点から基礎的な知識を得て、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現在進められているグローバル化の政策について、広い視野から見つめ、その問題点を複数の角度から指摘できる。(DP2-1)(技能)

グローバル化以後（ポストグローバル化）の世界秩序のあり方についていくつかの可能性を検討できる。(DP2-1)(技能)

欧米と比べた場合の日本人の道徳意識の特徴を理解し、それぞれの利点を説明できる。(DP2-2)(技能)

日本や自分の国（留学生の場合）の将来に主体的に関心を持ち、ニュースなどを日々チェックするようになる。(DP2-1)(態度・志向性)

## 授業時間外の学習(予習・復習)

(事前学習) 次の授業で用いる配布資料や参考文献の該当箇所目を通す。(60分)

(事後学習) 配布資料を熟読し、理解できたかどうかを確認する。(60分)

毎回FUポータルに確認テストを用意するので、それに回答し、わからないところがあれば、資料をさらに見直す。(60分)

## 成績評価基準および方法

ナショナリズムやグローバリズムに関わる現代の代表的な政治理論の知識を身に付け、日本を取りまく政治の現状をそれとの関連で説明できるようになっているかを評価の基準とする。どのような政治理論の知識を身に付けることになるかについてはさらに詳しく知りたい場合は、到達目標を参照してほしい。成績評価は、期末試験（80%）、レポート（20%）という配分である。期末試験については、政治理論の基礎知識を問うとともに、それを踏まえて、現代の政治的課題、およびその考えうる解決策について論理的な整合性をもって論じられるかどうかで評価する。レポートは、基礎知識を踏まえたうえで、やはり現代の政治的課題について一つ取り上げ、それについて説得力のある議論を展開できるかを見る。

## テキスト

施光恒『英語化は愚民化 日本の国力が地に落ちる』（集英社新書、2015年）

## 参考書

本当に日本人は流されやすいのか ISBN 4040820290  
ナショナリズムの政治学 ISBN 4779503264  
原理から考える政治学 ISBN 4589037262

うえで上げたもの以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

## 履修上の留意点

・授業中に紹介する参考文献に興味をもち、できる限り目を通すようにしてください。

・政治に対する興味と知識を得るために、新聞、ニュース、書籍、インターネット、雑誌などを駆使して、一つの問題に関して複数の視点から情報を得るように日々心がけてください。たとえば新聞を例にとるとすれば、特定の一紙の論説や記事をそのまま信用するのではなく、それをほかの新聞や雑誌、書籍、インターネットのサイト（さまざまなブログや各種掲示板など）を参照しつつ、多角的に評価する習慣を養ってください。

・政治学Aと合わせて受講することが望ましいが（できればそうしてください）、政治学Bのみの受講もできます。

## 授業計画

- 1 授業の概要説明（スタートアップ授業）
- 2 ネ이션の起源（1）
- 3 ネ이션の起源（2）
- 4 グローバル化の問題点 格差拡大はなぜ生じるのか
- 5 グローバル化の問題点 民主主義の機能不全
- 6 グローバル化の問題点 エリートの劣化と国民の分断
- 7 グローバル化の問題点（まとめ）
- 8 ナショナリティと自由民主主義（1）
- 9 ナショナリティと自由民主主義（2）
- 10 ナショナリティと自由民主主義
- 11 「ポスト・グローバル化」の世界をいかに構想するか
- 12 「海洋国家」と「大陸国家」 日本のナショナル・アイデンティティ
- 13 日本人の道徳意識 日本のナショナル・アイデンティティ
- 14 日本人の道徳意識 日本のナショナル・アイデンティティ
- 15 まとめ、およびFURIKAの実施

## スタートアップ授業

## スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/8zrv28nw216qtejzpwhsb6vupex9kfjc>)

## 施 光恒

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. ネイションの起源に対する代表的な見方について基礎的な知識を得て、説明できる。 (DP1-1) (知識・理解)
2. グローバル化が進むとなぜ各国内での経済的格差が拡大するかについて基礎的な知識を得て、そのメカニズムを説明できる。 (DP1-1) (知識・理解)
3. グローバル化が進むとなぜ民主主義が機能不全に陥るのかについて基礎的な知識を得て、それを説明できる。 (DP1-1) (知識・理解)
4. 自由、平等、民主主義、少数者の保護といった自由民主主義の理念と、安定したネイションとの結びつきについて基礎的な知識を得て、その関係性について説明できる。 (DP1-1) (知識・理解)
5. 日本人の道德意識の特徴について基礎的な知識を得て、説明できる。 (DP1-1) (知識・理解)
6. 日本のナショナル・アイデンティティについて、自由民主主義との関わりという観点から基礎的な知識を得て、説明できる。 (DP1-1) (知識・理解)
7. 現在進められているグローバル化の政策について、広い視野から見つめ、その問題点を複数の角度から指摘できる。 (DP2-1) (技能)
8. グローバル化以後 (ポストグローバル化) の世界秩序のあり方についていくつかの可能性を検討できる。 (DP2-1) (技能)
9. 欧米と比べた場合の日本人の道德意識の特徴を理解し、それぞれの利点を説明できる。 (DP2-2) (技能)
10. 日本や自分の国 (留学生の場合) の将来に主体的に関心を持ち、ニュースなどを日々チェックするようになる。 (DP2-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間 (6年間) の学びを支える基礎を身につけている (A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B、C)

## 朝倉 拓郎

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：木・5時限 試験時間割：2025/01/27 3時限

## - - - 概要 - - -

現在、日本の社会は様々な困難な問題に直面している。これらの問題を解決して住みやすい社会を実現するか、あるいは問題の解決に失敗して住みにくい社会になるかは、民主政治の担い手である私たち市民の力量にかかっている。本講義の目的は、市民としての力量を高めるために必要不可欠な政治的教養（知識、ものの見方、態度等）を身につけることである。

後期開講の「政治学B」では、日本の政治の歴史を振り返り、その上で現在の日本が抱えている政治問題について学ぶ。前期の「政治学A」と比べて、より具体的かつ喫緊の課題を取り上げていくので、単に表面的な知識を覚えるのではなく、一人の市民として当事者意識をもって能動的な学習を心がけてほしい。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、基本的には講義形式で進められ、適宜関連するビデオを視聴する。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

政治的な課題や対立を形成している諸要因を理解し、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現在の日本政治を理解する上で基礎的な歴史的知識を身につけ、それを説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

日本社会が直面している政治的問題について、基礎的な知識をふまえた上で自分の意見を持ち、それを説明できる。(DP3-1)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：資料を読んで授業の概要を把握し、分からない用語等があれば調べておく。（資料はFUポータルを通じて事前に配布する。）(60分)

復習：疑問点や興味が深まった点について、教員に質問したり、資料に掲載された参考文献等を利用して、さらに理解を深める。(120分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

- ・定期試験によって、到達目標1、2の達成度を評価する。(80%)
- ・課題レポートによって、到達目標3について評価する。(20%)

## - - - テキスト - - -

使用しない。資料を配付する。

## - - - 参考書 - - -

講義中に適宜紹介する。

## - - - 履修上の留意点 - - -

同じ担当者による前期開講の「政治学A」をあわせて受講すると理解が深まる。

## - - - 授業計画 - - -

- 第1回 イン트로ダクション（スタートアップ授業）
- 第2回 日本政治の歴史（1）：明治憲法体制
- 第3回 日本政治の歴史（2）：戦前の政党政治
- 第4回 日本政治の歴史（3）：戦争への道
- 第5回 日本政治の歴史（4）：占領期の日本
- 第6回 日本政治の歴史（5）：安保改定と高度成長
- 第7回 日本政治の歴史（6）：沖縄返還
- 第8回 日本政治の歴史（7）：55年体制の崩壊～現在
- 第9回 現代政治の諸問題（1）：安全保障問題
- 第10回 現代政治の諸問題（2）：国際社会の中の日本
- 第11回 現代政治の諸問題（3）：格差問題
- 第12回 現代政治の諸問題（4）：メディアと世論
- 第13回 現代政治の諸問題（5）：科学と政治
- 第14回 現代政治の諸問題（6）：合意形成の方法
- 第15回 現代政治の諸問題（7）：市民自治の可能性、授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/ecg362brugxwk10rcexg21ubznmr7fuk>)

## 朝倉 拓郎

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.政治的な課題や対立を形成している諸要因を理解し、それを説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.現在の日本政治を理解する上で基礎的な歴史的知識を身につけ、それを説明できる。(DP2-1) (知識・理解)

3.日本社会が直面している政治的問題について、基礎的な知識をふまえた上で自分の意見を持ち、それを説明できる。(DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



## 李 鍾成

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：月・2時限 試験時間割：2025/01/27 3時限

## - - - 概要 - - -

本講義は、主に欧米と東アジアを空間の対象にして、第1次世界大戦の勃発から現在までの国際秩序の形成過程を、戦争と平和という国際政治史の観点で概観することで、我々が住んでいる昨今の国際社会の姿をより深く理解することを目標としている。その際、理論的道具と概念として、世界システム論、帝国主義、近代国家、ナショナリズム、力の均衡などの諸理論を取り入れていく。本講義で取り上げられる内容は、大きく6つの部分で構成される。国際政治学と国際政治史の基本的な概念、第1次世界大戦前後の国際秩序の変化、第2次世界大戦と終戦後の国際社会、冷戦時代の国際政治、ポスト冷戦期と21世紀の国際秩序、そして日本の外交史の一部である。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

また、授業の方法は講師によるレクチャー形式を基本とするが、授業中に小テスト（クイズや質疑応答）を行うことがある。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

国際社会が形成されていく過程を戦争と平和の観点で理解するための基礎知識を身に着ける。(DP1-1)(知識・理解)

国際政治史の分析理論を利用して国際社会の出来事を説明できる。(DP2-1)(技能)

他国・他地域の国際政治史を学ぶことで、現在の国際社会の在り方を理解できる。(DP2-2)(態度・志向性)

現在の国際社会の姿と国際事情について、自らの考えを述べる事ができるとともに、国際社会の平和のための国家の役割について発言できる。(DP4-2)(技能)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：テレビ、新聞などで国際政治と国際事情に関する情報に常に接する。(60分)

予習：毎回、配布される授業レジュメに目を通し、用語や略語の意味を中心に授業を整理しておく。(60分)

復習：授業中に指定される文献を読んでくる。(60分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験70%

授業貢献度（ミニッツペーパー提出+小テスト）：40%

・定期試験では、到達目標のDP1（知識・理解）、(DP2-1)(技能)、そして(DP2-2)(態度・志向性)を中心に評価する。特に国際環境の形成とアクターとしての国家の動きに対する理解を主な評価対象とする。

・ミニッツペーパーには、毎回の授業に関する感想や質問を書いてもらう。

## - - - テキスト - - -

指定教科書はないが、毎回の授業でプリントを配布し、場合によって1次資料などを紹介する。

## - - - 参考書 - - -

国際政治史 - 世界戦争の時代から21世紀へ - ISBN 4815806713  
 東アジア国際政治史 ISBN 481580561X  
 オリバー・ストーンが語るもうひとつのアメリカ史 1・2・3 ISBN 4150504393

## - - - 履修上の留意点 - - -

- 1) 授業マナーを必ず守る。（私語など、講義の進行や他の学生の受講を妨げる行為を慎む。）
- 2) 各回の講義について、履修学生の意見・感想・質問等をミニッツペーパーに作成してもらい、次週にそれに対するコメントや意見交換などを行う。

## - - - 授業計画 - - -

プロログ：戦争と平和による国際政治史とは何か（スタートアップ授業）

地政学と国際政治史1

30年戦争と帝国主義、そしてナポレオン戦争

第1次世界大戦と国際政治学の誕生1

第1次世界大戦と国際政治学の誕生2

国際連盟の誕生とリベラリズムの萌芽

第2次世界大戦への道：満州事変と日中戦争

地政学とアジア・ヨーロッパの関係

地政学とアジア・ヨーロッパの関係2

日本の敗戦戦略+なぜ戦争は起きたのか

中東の国際政治史

中東の国際政治史2

国連の誕生と冷戦

ラテンアメリカの国際政治史

エピログ：未来の国際政治を語る+授業アンケート

FURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/42hz0jl80j6d5ayedaooy6u7wkr3ct14>)

## 李 鍾成

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 国際社会が形成されていく過程を戦争と平和の観点で理解するための基礎知識を身に着ける。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 国際政治史の分析理論を利用して国際社会の出来事を説明できる。(DP2-1) (技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3. 他国・他地域の国際政治史を学ぶことで、現在の国際社会の在り方を理解できる。(DP2-2) (態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4. 現在の国際社会の姿と国際事情について、自らの考えを述べることも、国際社会の平和のための国家の役割について発言できる。(DP4-2) (技能)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 廣澤 孝之

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：月・1時限 試験時間割：2025/01/27 3時限

## - - - 概要 - - -

現代世界における民主政(デモクラシー)の諸課題について講義する。現代世界における民主政はファシズムなどさまざまな反民主政治の潮流を乗り越えて、これまで発展してきたと考えられるが、各国における選挙の投票率の低下、政治的無関心の増大に示されているように、自分たちが政治の主人公であるという意識は薄れ、いくつかの国では再び独裁政治を讃美する動きすら見られようとしている。

こうした状況のなかで、現代世界におけるデモクラシーの諸原理とは何か、グローバル化しつつ世界のなかで現代のデモクラシーにどのような構造的変化が起こりつつあるかについて考察していく。

具体的な講義内容としては現代世界が抱える地球的規模の諸課題に対して、デモクラシーを諸原理とする政治制度は有効な解決策を示しうるのか、国民国家を基本的単位としてきた近代デモクラシーの諸原理とグローバル化した世界との関わり、変貌の激しい家族や共同体と政治空間との関係などについて順次考えていく。

さまざまな分野を専攻する学生が履修する共通教育科目であることを考慮し、高校と大学の橋渡しになるよう、政治・経済・世界史などの基礎知識の確認にも留意する。基礎知識の確認のため時折発問も混ぜながら、板書を含めて丁寧に講義を進める。復習のためにも講義ノートをしっかりとることが大切である。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

この授業では教科書の内容を深める形で、具体的事例を取り合ながら講義を進めていきます。集中して講義を聞き、要点を適切にノートにとることが必須です。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

現代政治理論の基礎的概念について理解する。(DP1-1)(知識・理解)

現代世界の諸課題について幅広い視座から考察する能力を養う。(DP2-1)(技能)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習 前回の講義で指示されたテキストの範囲を熟読する。(90分)

復習 講義ノートを見直し、講義で示された論点を整理し、自分の意見をまとめてみる。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験60%と平常点40%(平常点は小テスト・レポート等による)との総合評価とする。到達目標にある、自分の言葉で政治について考え、表現できることを最も重視して平常点を評価し、定期試験では現代デモクラシー論など基礎的な政治理論に関する理解の有無を基準として評価を行う。

## - - - テキスト - - -

廣澤孝之著「政治学読本」(新版)法律文化社、2022年 ISBN9784589042286

## - - - 参考書 - - -

講義のなかで適宜指示する。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 はじめに 問題提起{スタートアップ授業}
- 2 危機にたつ現代デモクラシー
- 3 デモクラシーの基本問題
- 4 近代政治原理の成立
- 5 現代デモクラシーの諸理論
- 6 グローバリゼーションとデモクラシー
- 7 課題学習 現代世界の政策課題
- 8 大統領制と議院内閣制
- 9 現代世界の政党システム
- 10 代表民主政と選挙制度
- 11 政治空間の多層化
- 12 現代公共政策
- 13 新しい公共性
- 14 共生のデモクラシー FURIKA実施
- 15 補論 日本社会におけるデモクラシーの課題

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/d5c207sb6ie0sy07c6naabxfkn52b1bc>)

## 廣澤 孝之

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.現代政治理論の基礎的概念について理解する。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】2.現代世界の諸課題について幅広い視座から考察する能力を養う。（DP2-1）  
(技能)

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 菅原 和行

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：水・二部2時限 試験時間割：2025/01/22 夜2限

## - - - 概要 - - -

この授業では、現代の政治制度と公共政策について学びます。政治という営みは、社会に存在する多様な価値の衝突や個人・集団間の対立を調整し、より良い社会を目指す行為です。こうした政治という営みを理解し、より良い政治のあり方を考えるうえでは、政治の思想や理論に加え、より実践的な側面として、具体的な政治制度や公共政策について学ぶことも必要になります。

ただ、政治制度といっても、行政組織に関するもの、政党に関するもの、選挙に関するものなど多岐に及ぶため、この授業では私たちが市民として政治に関わるうえでとくに重要なものを取り上げ、それぞれの意義や特徴について学びます。また、公共政策についても、全国規模のもの、地域限定のもの、国家間で締結されるものなど多岐に及ぶため、現代の政治においてとくに重要なものに限定し、それぞれの特徴について学びます。くわえて、公共政策を理解するうえでは、課題の設定から政策の立案、決定、執行、評価へと至る一連の過程に関する知識も必要になるため、そうした政策過程の各段階についても学習します。

以上のように、この授業では現代の政治制度や公共政策について学ぶことにより、現代の多様で複雑な社会問題の解決に向け、実践的な観点から政治や政策の知識を修得することを目指します。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、本科目指定のテキストと教員が準備した資料をもとに講義形式で行います。各回授業では、授業内容に関わる課題についてミニッツペーパーを作成し、提出してもらいます。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

各種の政治制度や公共政策について、それぞれどのようなものであるか自分自身の言葉で説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

授業で学んだ政治制度や公共政策に関する知識を活用し、現代の社会問題の解決に向け、自らその方策を提示できる。(DP2-1)(技能)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

各回授業に出席するにあたり、事前にテキストの該当箇所をよく読み、予習しておくこと。(90分)

各回授業のあと、ノートを見返すとともにテキストの該当箇所をもう一度よく読んで復習しておくこと。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：授業中に説明した政治学の諸概念や理論・学説、政治の諸制度や政策等を正しく理解し、自分の言葉で適切に説明できるかどうかを評価基準とします。

評価方法：定期試験（70％）とミニッツペーパー（30％）により、上記の評価基準の達成度を総合的に評価します。

## - - - テキスト - - -

西山隆行、向井洋子編『図録 政治学』（弘文堂、2023年） 2,750円（税込） ISBN 9784335359415  
上記のテキストを用いて授業を進めます。授業開始までに必ず購入し、毎回の授業に持参してください。

## - - - 参考書 - - -

秋吉貴雄、伊藤修一郎、北山俊哉『公共政策学の基礎 [第3版]』（有斐閣、2020年） ISBN 9784641184497

## - - - 履修上の留意点 - - -

各回の授業ではミニッツペーパーを作成してもらうため、毎回の授業にきちんと出席できる方が履修してください。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 ガイダンス、政治とは何か、政策とは何か（スタートアップ授業）
- 2 行政・官僚制の諸理論
- 3 政策過程
- 4 日本の官僚制
- 5 世論
- 6 メディア
- 7 政党
- 8 政党制
- 9 利益集団
- 10 社会運動
- 11 政治意識
- 12 選挙制度
- 13 投票行動
- 14 政府と市場
- 15 まとめ、授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/gskkeaw5eecj0b3oqu66q18cqcm3pah>)

## 菅原 和行

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 各種の政治制度や公共政策について、それぞれどのようなものであるか自分自身の言葉で説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 授業で学んだ政治制度や公共政策に関する知識を活用し、現代の社会問題の解決に向け、自らその方策を提示できる。(DP2-1) (技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 東原 正明

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：木・3時限 試験時間割：2025/01/27 3時限

## - - - 概要 - - -

民主主義国家において、国民は主権者として様々な形で政治に参加しています。この参加は、選挙における投票という形で表現されるだけではありません。デモや集会への参加、利益集団を通じての積極的な政治活動など、議会外の直接行動も含めた幅広いものとしてとらえることが重要です。こうした広範な政治参加をより意義のあるものにするためにも、私たちには民主主義についての理解を十分なものとしておくことが必要となります。

本講義では、検討の対象を代表制民主主義に絞りつつ、議会や政党、行政府などの現実政治における様々なアクターの活動や特質について説明するとともに、地方自治の現状や、政治へのマスメディアの影響についても検討します。その上で、代表制民主主義が抱える諸問題を分析し、民主主義への理解を深めます。本授業は講義形式により進めます。その際には、担当者が在オーストリア日本大使館の専門調査員として勤務した経験を活かし、ヨーロッパにおける代表制民主主義の実態についても解説します。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した講義資料（電子ファイルの配布を中心とする）をもとに、講義形式で行います。社会情勢等により必要な場合は、講義中に数回の小テストを実施します。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

代表制民主主義の理念と現実に関して理解することができる (DP1-1)(知識・理解)

社会における意思決定のあり方、手続きについて、政治学の観点から理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

現在の民主主義が抱える課題や問題点について考える上で必要な知識の取得し、大学での講義にとどまることなく、社会に出てからも主権者として主体的に行動できるようになる(DP3-1)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、日ごろから新聞等の報道に目を通し、日本や世界の政治の動向に関心を持っておくこと。(90分)

復習として、講義の内容を整理して疑問点や問題点を確認し、次回授業に臨む準備をすること。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

講義内容をふまえ、代表制民主主義の理念と現実について理解できているか、現在の民主主義が抱える課題や問題点について考える上で必要な知識の取得しているかを評価の基準とします。

原則として、定期試験のみにより評価します。ただし、社会情勢等により小テスト等の実施が必要となる場合は、定期試験60%、小テスト等40%で評価することがあります。

## - - - テキスト - - -

山本佐門『現代国家と民主政治（改訂版）』（北樹出版、2010年） ISBN978-4779302459（1800円＋税）

## - - - 参考書 - - -

民主主義対民主主義 多数決型とコンセンサス型の36カ国比較研究（原著第2版） ISBN 978-4326302338

## - - - 履修上の留意点 - - -

日ごろから政治への関心を持ち、積極的に学習して下さい。

私語など他の受講生の学習を妨害する行為、携帯電話、スマートフォン等の使用は禁止し、それらの行為に対しては、学生証を提示させ、退出を命じる等の措置を含めて厳正に対処します。携帯電話、スマートフォン等は講義には不要ですので、カバンの中に収納し、机上には出さないこと。

各回の配布資料はFUポータルに掲載するので、各自で印刷して講義時に持参してください。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 はじめに（スタートアップ授業）
- 2 政治集団
- 3 代表制民主主義
- 4 独裁体制
- 5 議会制民主主義の歴史
- 6 日本における議会制と政党制
- 7 議会制民主主義の基本要素
- 8 議会と行政府
- 9 政党と利益集団
- 10 選挙
- 11 地方自治
- 12 マスメディアと政治
- 13 国民の政治意識
- 14 代表制民主主義の現実
- 15 おわりに（授業アンケート FURIKAの実施）

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/7kxwjqr9cskr63shl0cfvy0lqmuryk1l>

## 東原 正明

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.代表制民主主義の理念と現実に関して理解することができる（DP1-1）（知識・理解）

2.社会における意思決定のあり方、手続きについて、政治学の観点から理解することができる。（DP2-1）（知識・理解）

3.現在の民主主義が抱える課題や問題点について考える上で必要な知識の取得し、大学での講義にとどまることなく、社会に出てからも主権者として主体的に行動できるようになる（DP3-1）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



## 山岸 賢一郎

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：金・1時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

## --- 概要 ---

私たちが生まれ社会的な存在としての「人」になるには、教育が不可欠である。しかしながら、その一方で教育は不確実性を伴うきわめて困難な営みであり、教育について理解するには、その理念や歴史、思想、方法、制度等から幅広く捉えていく必要がある。本授業では、教育とは何かを考えるための基礎概念、教育の歴史的発展、教育の方法や組織、教育制度などについての基本的な知識を概観する。そのうえで、学校が直面する今日的教育課題の具体的な取り組みや成果についての理解を深めていきたい。

授業の前半では、私たちがイメージするような学校が存在しない時代の子どもの暮らしぶりを踏まえて、学校や子どものイメージを問い直す。また、戦争や政治と学校教育の関わりを、戦前に国が著した教科書や、戦後の教育基本法の制定および改正などの事例に絡めて考える。さらに、教育を受ける権利や普通教育という理念について、ひいては学校に通う意味について考える。

授業の後半では、家庭教育、日本の高等教育、教育課程編成と学習指導要領、ジェンダー、学校教員の働き方など、教育・学校教育に関わる重要テーマと絡めながら、教育に関する基礎的な知識と、教育・学校教育の過去・現在・未来についての思考をさらに深めていく。

## --- 授業の進行・方法 ---

スライドを主として用い、板書で補足する講義形式の授業を実施します。スライド資料は、事前にMoodle上にアップロードしますので確認してください。授業中、折に触れて、Moodle等のwebツールを活用したワーク（個人で行うワークやグループワークなど）を行います。また、授業中や授業後に、折に触れて小レポートを提出してもらいます。

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

教育や学校に関する基礎的な知識（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法、等）を備えている。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する基礎的な知識を活用しつつ、教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考することができる。(DP2-1)(技能)

教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考しようとしている。(DP2-2)(態度・志向性)

教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感を備えている。(DP3-1)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

講義の際に指示する事前学習課題は必ず行うこと。(90分)

講義後は、講義資料や各自でとった講義ノートを用いて、学習した内容を復習しておくこと。(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

到達目標に照らして、次の2点にもとづき評価する。

・授業時に課す課題（小レポート等） 30%

授業に参加し、その内容を踏まえた上で、根拠を大切に説得的に論を展開できているか否か、を評価の基準とする。

・定期試験 70%

論述問題については、授業の内容を踏まえた上で、根拠を大切に説得的に論を展開できているか否か、を評価の基準とする。

ただし、次の2点については、加点・減点を行う。

・講義への積極的な参加（各種のワークへの積極的な参加、追加の小レポートの提出、等）については、加点する。

・講義への不参加をあからさまに示す態度が見られた場合や、他の受講者の学習の権利を奪いかねない行為が見られた場合、減点する（遅刻、私語、各種のワークへの不参加、等）。

## --- テキスト ---

テキストは特に指定しない。毎回資料を配付する。

## --- 参考書 ---

・汐見稔幸（監修・編集）・奈須正裕（監修）・木村元（編集）『教育原理（アクティベート教育学1）』ミネルヴァ書房、2020年、ISBN-13:978-4623088133

・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』東山書房、2018年、ISBN-13：978-4827815795

・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』東山書房、2019年、ISBN-13：978-4827815672

## --- 履修上の留意点 ---

教育に関わる講義に相応しい受講態度を期待する。

本講義は個人で行うワークやグループワークを含んでいる。また、講義中、発言やMoodle等のwebツールへの書き込みを求めることもある。授業計画等は、学習状況や理解度に応じて調整・変更することがある。

## --- 授業計画 ---

第1回：オリエンテーション、「子ども」とは：スタートアップ授業（動画配信）

第2回：「子ども」を歴史的に問い直す

第3回：「学校」はどこからやってきた？（西洋）

第4回：「学校」はどこからやってきた？（日本）

第5回：戦争と学校教育

第6回：政治と学校教育

第7回：「学校」に通う意味

第8回：「家庭の教育力」は衰退したか？

第9回：日本の大学生をどう見るか？

第10回：教育課程編成と学習指導要領 学習指導要領とは

第11回：教育課程編成と学習指導要領 これからの教育課程

第12回：ジェンダー・セクシャリティと教育の深い関係

第13回：いま、学校の先生であること

第14回：まとめ1 教育・学校教育の課題

第15回：まとめ2 教育・学校教育のこれから、授業アンケートの実施

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/mpropwrpa61euvmjkiyvo2rimk7hdsp>)

## 山岸 賢一郎

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.教育や学校に関する基礎的な知識（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法、等）を備えている。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.教育に関する基礎的な知識を活用しつつ、教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考することができる。（DP2-1）（技能）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考しようとしている。（DP2-2）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感を備えている。（DP3-1）（態度・志向性）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 橋場 論

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：火・2時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

## --- 概要 ---

現在学校で行われている教育は、皆さんにとってどのように見えているでしょうか。うまくいっているように見えるでしょうか。それとも、失敗しているように見えるでしょうか。もしも改善の余地があるとすれば、それはどのような点で、どのような方向に変えていけばよいのでしょうか。

教育という営みは捉えどころがなく、とても複雑なものです。それは、様々な歴史的経緯や思想に基づいて形作られてきたものです。そのため、そうした経緯や思想を知らなければ、現在や将来の教育のあり方について考えることはできません。また、教育というと「親と子ども」や「教師と児童・生徒」のみの関係に焦点化されて考えられがちであり、時には、無条件に「善いもの」として、美化されることすらあります。しかし、実際には、教育はその時々々の社会の影響を受けつつ、政治や経済の手段として用いられているという側面もあります。そのような意味で、教育を巡る問題は、社会や国家のあり方とも密接な関係を持つものなのです。

そこで、本講義では、こうした教育の性質を踏まえつつ、教育の理念や歴史、思想から教育課程に至るまで網羅的に取り上げ、解説していきます。その際には、単に歴史的、思想的な話を行うのではなく、それらを通じて、現代の教育課題に対する視野を広げられるよう、議論を展開していく予定です。

受講生の皆さんには社会を支える構成員として、さらには、教育者として求められる「教育を見る眼」を養ってもらいたいと考えています。

## --- 授業の進行・方法 ---

本授業は、担当教員による講義だけでなく、講師が設定した問いに対して、個人で意見を纏めたり、それらを受講者間で共有しディスカッションを行うなどの活動を交えながら進める予定です。

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

近代以降に公教育が発展した背景について、国民国家の成立という観点から、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

近代以降における公教育の意義や課題について、近代以降の社会の特徴を踏まえつつ、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

教育課程それ自体や教育課程の必要性について、公教育との関係から、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

学習指導要領の歴史的変遷について、その背景にある社会の状況や学力観の変化を踏まえつつ、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

公教育や教育課程に関する様々な出来事について、日常的に関心を持つことができる。(DP1-1)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：授業の内容に関連する資料や動画などを予め講読、視聴しておくよう指示をする場合があります(40分)

復習：毎回の内容については、授業後に見直したうえで、ノートに自分自身の言葉でまとめなおしてください。また、毎回、受講者から寄せられた意見や疑問などを踏まえQ&Aを授業担当者が作成し、次の授業の際に配布しますので、それに目を通すようにしてください。(100分)

その他：テレビや新聞、インターネット等の媒体に接するときは、授業で取り扱ったテーマに関する情報を逃さないよう、日常的に意識するようにしてください。(40分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

「到達目標」において示した5つの具体的な目標について、以下に掲げる成績評価方法を用いながら、それぞれの到達度を測ることとします。

授業中に提出するワークシート及び授業の事前課題：30%

毎回の授業においてワークシートにまとめ、毎回提出してもらいます。また、事前に短い文献や動画を閲覧してもらい、その内容をまとめたうえで提出するなどの課題を課すことが何回かあります。

定期試験：70%

授業全体を出題範囲とした筆記試験を実施します。

なお、遅刻・欠席をするに に関する課題を提出できないことがあり、減点の対象になりますので、注意してください。また、上記のほかに、私語や遅刻等の授業態度については、評価の際に適宜考慮します。その他、授業に出席しなかったのにも拘らず、参加したかのように装ってワークシートを提出するなどの行為については、大幅な減点の対象とします。

## --- テキスト ---

テキストは指定しません。毎回、スライド資料などを配付します。

## --- 参考書 ---

講義中に適宜紹介します。

## --- 履修上の留意点 ---

講義の形態の授業ではありますが、一方的なレクチャーに終始するのではなく、グループでのディスカッション等も交えながら進行します。積極的な参加を期待します。特に、教育について、他の学生と一緒に議論し、考えたい、という学生の履修を歓迎します。

テキストは指定しないので、授業時の配布資料等をこまめにファイリングするようにしてください。

なお、本講義は、教職科目でもあるため、それを踏まえつつ授業を進めます。新たな発見や知的刺激のある「楽しい」授業となるよう努めますが、授業に対する積極的な参加という形でのご協力をお願いします。

## --- 授業計画 ---

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業：動画配信)
- 2.教育とは何か：教育の本質と意義
- 3.近代国家の成立と公教育の展開(教育の歴史と思想：西洋)
- 4.近代国家の成立と公教育の展開(教育の歴史と思想：日本)
- 5.教育の歴史的展開と教育思想(公教育を巡る思想を中心に)
- 6.公教育を巡る現代的課題(アーミッシュを事例として)
- 7.公教育を巡る現代的課題(教員・学校の役割に注目して)
- 8.中間まとめ
- 9.教育課程編成と学習指導要領
- 10.教育課程編成に関する原理
- 11.学習指導要領の歴史的変遷
- 12.学力低下論争と教育課程
- 13.新たな学習観と教育課程
- 14.カリキュラム・マネジメント
- 15.全体まとめ(授業アンケートFURIKAの実施)

## --- スタートアップ授業 ---

## スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/bb685v4wti2515yghou75kdugg2kewv3>)

## 橋場 論

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 近代以降に公教育が発展した背景について、国民国家の成立という観点から、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 近代以降における公教育の意義や課題について、近代以降の社会の特徴を踏まえつつ、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3. 教育課程それ自体や教育課程の必要性について、公教育との関係から、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4. 学習指導要領の歴史的変遷について、その背景にある社会の状況や学力観の変化を踏まえつつ、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5. 公教育や教育課程に関する様々な出来事について、日常的に関心を持つことができる。（DP1-1）（態度・志向性）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 勝山 吉章

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

## - - - 概要 - - -

本講義は、学習指導要領の教育課程の意義や編成の方法について学びながら、経験主義教育（開発主義）と系統主義教育（注入主義）が歴史的に交互に繰り返されてきたことを紹介する。経験主義とは、児童生徒の興味関心や体験・経験を重視する児童中心主義教育であり、系統主義とはそれぞれの教科の科学性や知の構成を重視する科学中心主義を指す。日本でも西洋でも、この両者は常に教育実践や教育思想のなかで論じられてきたものである。本講義は、これら両者のメリット・デメリットを理解しながら、学校のあり方や教育課程の編成のあり方を考える。

カリキュラム・マネジメントとは、学力の三要素、知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）を経験主義と系統主義を基本原理としながら教科横断的に育むものであり、そのあり方を考察することが、本授業の主目的となる。

そしてこれら教育の経験主義や系統主義を教育の思想家がどのように論じてきたかを把握するために、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、デューイなどについて言及していく。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業内容は、テキスト、配布プリント、動画などを中心に、具体的に立体的に行っていく所存である。受講生はテキストや配布プリントの授業予定箇所をよく読み、理解しておくことが求められる。また、各授業毎に、Moodleを使って授業の理解度をはかり、それに応じて授業を進めていく。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

教育における経験主義と系統主義そしてカリキュラム・マネジメントについて理解する。(DP1-1)(知識・理解)

教育における経験主義と系統主義を踏まえて、関連諸分野についての理解を深める。(DP2-1)(知識・理解)

教育の原理・課程論を通じて他者・異文化・異文脈への理解を深める。(DP2-2)(知識・理解)

教育の原理・課程論を通して責任ある発言・行動の基礎となる知識を身につける。(DP3-1)(知識・理解)

教育の原理・課程論を通して共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・志向性を身につける。(DP4-2)(技能)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

テキストや配布プリントを事前によく読んで理解を深めておくこと。(90分)

授業を振り返って、授業内容を整理しながら自分なりの理解を進めること。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

まず何よりも日本国憲法の三原則（国民主権、基本的人権の尊重、平和主義）を体得しているかを問う。その上で、教育の理念や教育課程の編成について理解しているかどうかを、また、カリキュラムマネジメントについて自分なりの見解を有しているか否かを評価する。評価の方法は、定期試験の結果、授業中の課題、授業の際の参加状況等で総合的に評価する。その配分（％）は、履修生の受講状況次第なので明記できない。

## - - - テキスト - - -

勝山他『いま、教室に生きる教育の思想と歴史』あいり出版 ISBN978-4-86555-106-8 C3037 2000円

## - - - 参考書 - - -

安彦他『カリキュラム研究入門』勁草書房 ISBN 978-4-326-29815-0

## - - - 履修上の留意点 - - -

後半部分ではテキストを中心に授業を行う。従って、テキストを持参しない学生の受講は認められない。本講義は、西洋教育史（勝山）の授業とリンクしているので、両者の受講を勧める。なお受講中の私語、居眠り、不要な着帽、いわゆる「内職」は認められない。担当者は、視覚に障害をもっているため、学生の理解をお願いする。

## - - - 授業計画 - - -

- 1：ガイダンス（スタートアップ授業）
- 2：学習指導要領からみる教育課程の意義
- 3：学習指導要領からみる教育課程編成の方法
- 4：教育の基本的概念と近代教育学
- 5：教育の歴史と思想 - コメニウス
- 6：教育の歴史と思想 - ルソー
- 7：教育の歴史と思想 - ペスタロッチ
- 8：教育の歴史と思想 - フレーベル
- 9：教育の歴史と思想 - デューイ
- 10：教育の歴史と思想 - 沢柳政太郎と大正自由教育
- 11：戦後教育の教育課程論争 - 経験主義か系統主義か
- 12：スプートニックショックと発見学習
- 13：教科カリキュラムと経験カリキュラムの編成方法と特色
- 14：相関カリキュラム、融合カリキュラム、コア・カリキュラムの編成方法と特色
- 15：まとめ（FURIKAなどを含む）

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/qa10fdp7imztkk19mg72ljpr6tahgo5>)

## 勝山 吉章

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.教育における経験主義と系統主義そしてカリキュラム・マネジメントについて理解する。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.教育における経験主義と系統主義を踏まえて、関連諸分野についての理解を深める。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.教育の原理・課程論を通じて他者・異文化・異文脈への理解を深める。（DP2-2）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.教育の原理・課程論を通して責任ある発言・行動の基礎となる知識を身につける。（DP3-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.教育の原理・課程論を通して共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・志向性を身につける。（DP4-2）（技能）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 橋場 論

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：水・3時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

--- 概要 ---

現在学校で行われている教育は、皆さんにとってどのように見えているでしょうか。うまくいっているように見えるでしょうか。それとも、失敗しているように見えるでしょうか。もしも改善の余地があるとすれば、それはどのような点で、どのような方向に変えていけばよいのでしょうか。

教育という営みは捉えどころがなく、とても複雑なものです。それは、様々な歴史的経緯や思想に基づいて形作られてきたものです。そのため、そうした経緯や思想を知らなければ、現在や将来の教育のあり方について考えることはできません。また、教育というと「親と子ども」や「教師と児童・生徒」のみの関係に焦点化されて考えられがちであり、時には、無条件に「善いもの」として、美化されることすらあります。しかし、実際には、教育はその時々々の社会の影響を受けつつ、政治や経済の手段として用いられているという側面もあります。そのような意味で、教育を巡る問題は、社会や国家のあり方とも密接な関係を持つものなのです。

そこで、本講義では、こうした教育の性質を踏まえつつ、教育の理念や歴史、思想から教育課程に至るまで網羅的に取り上げ、解説していきます。その際には、単に歴史的、思想的な話を行うのではなく、それらを通じて、現代の教育課題に対する視野を広げられるよう、議論を展開していく予定です。

受講生の皆さんには社会を支える構成員として、さらには、教育者として求められる「教育を見る眼」を養ってほしいと考えています。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、担当教員による講義だけでなく、講師が設定した問いに対して、個人で意見を纏めたり、それらを受講者間で共有しディスカッションを行うなどの活動を交えながら進める予定です。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

近代以降に公教育が発展した背景について、国民国家の成立という観点から、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

近代以降における公教育の意義や課題について、近代以降の社会の特徴を踏まえつつ、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

教育課程自体や教育課程の必要性について、公教育との関係から、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

学習指導要領の歴史的変遷について、その背景にある社会の状況や学力観の変化を踏まえつつ、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

公教育や教育課程に関する様々な出来事について、日常的に関心を持つことができる。(DP1-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：授業の内容に関連する資料や動画などを予め講読、視聴しておくよう指示をする場合があります(40分)

復習：毎回の内容については、授業後に見直したうえで、ノートに自分自身の言葉でまとめなおしてください。また、毎回、受講者から寄せられた意見や疑問などを踏まえQ&Aを授業担当者が作成し、次の授業の際に配付しますので、それに目を通すようにしてください。(100分)

その他：テレビや新聞、インターネット等の媒体に接するときは、授業で取り扱ったテーマに関する情報を逃さないよう、日常的に意識するようにしてください。(40分)

--- 成績評価基準および方法 ---

「到達目標」において示した5つの具体的な目標について、以下に掲げる成績評価方法を用いながら、それぞれの到達度を測ることとします。

授業中に提出するワークシート及び授業の事前課題：30%

毎回の授業においてワークシートにまとめ、毎回提出してもらいます。また、事前に短い文献や動画を閲覧してもらい、その内容をまとめうえで提出するなどの課題を課すことが何回かあります。

定期試験：70%

授業全体を出題範囲とした筆記試験を実施します。

なお、遅刻・欠席をするに に関する課題を提出できないことがあり、減点の対象になりますので、注意してください。また、上記のほかに、私語や遅刻等の授業態度については、評価の際に適宜考慮します。その他、授業に出席しなかったのに、も拘らず、参加したかのように装ってワークシートを提出するなどの行為については、大幅な減点の対象とします。

--- テキスト ---

テキストは指定しません。毎回、スライド資料などを配付します。

--- 参考書 ---

講義中に適宜紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

講義の形態の授業ではありますが、一方的なレクチャーに終始するのではなく、グループでのディスカッション等も交えながら進行します。積極的な参加を期待します。特に、教育について、他の学生と一緒に議論し、考えたい、という学生の履修を歓迎します。

テキストは指定しないので、授業時の配布資料等をこまめにファイリングするようにしてください。

なお、本講義は、教職科目でもあるため、それを踏まえつつ授業を進めます。新たな発見や知的刺激のある「楽しい」授業となるよう努めますが、授業に対する積極的な参加という形でのご協力をお願いします。

--- 授業計画 ---

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業：動画配信)
- 2.教育とは何か：教育の本質と意義
- 3.近代国家の成立と公教育の展開(教育の歴史と思想：西洋)
- 4.近代国家の成立と公教育の展開(教育の歴史と思想：日本)
- 5.教育の歴史的展開と教育思想(公教育を巡る思想を中心に)
- 6.公教育を巡る現代的課題(アーミッシュを事例として)
- 7.公教育を巡る現代的課題(教員・学校の役割に注目して)
- 8.中間まとめ
- 9.教育課程編成と学習指導要領
- 10.教育課程編成に関する原理
- 11.学習指導要領の歴史的変遷
- 12.学力低下論争と教育課程
- 13.新たな学習観と教育課程
- 14.カリキュラム・マネジメント
- 15.全体まとめ(授業アンケートFURIKAの実施)

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/o9ps6do5180p0ttq9y3ret7g1onpo2ui>)

橋場 論

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 近代以降に公教育が発展した背景について、国民国家の成立という観点から、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）
2. 近代以降における公教育の意義や課題について、近代以降の社会の特徴を踏まえつつ、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）
3. 教育課程それ自体や教育課程の必要性について、公教育との関係から、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）
4. 学習指導要領の歴史的変遷について、その背景にある社会の状況や学力観の変化を踏まえつつ、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）
5. 公教育や教育課程に関する様々な出来事について、日常的に関心を持つことができる。（DP1-1）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
 理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
 DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）  
 DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）  
 DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）  
 DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



## 藤田 由美子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：水・4時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

## --- 概要 ---

本授業では、教職を目指す学生が、教育の思想、歴史、そして現代の教育課題について理解を深め、教育とは何かについて考察を行うとともに、教育課程および教育実践について考えることを目指す。

内容は、次の通りである。第一に、教育の理念・教育の思想・教育の歴史・教育課程について基礎的理解を深める。第二に、教育の理念にかかる具体的な問題として、子どもの権利、教育の公共性および機会均等について、理解を深める。第三に、子どもの貧困、社会的養護の子ども、ダイバーシティと教育、といった現代の学校教育が直面する問題について、歴史を踏まえつつ理解を深め、教育課程および教育実践へと関連づけていく。

本授業は、講義形式においては、具体的な事例をとりあげ、ワークシートを用いる学習やグループ・ディスカッション等によって、受講生ひとりひとりが主体的に学び考えることができる工夫を行う。

## --- 授業の進行・方法 ---

授業は基本的に講義形式で行うが、毎回、グループ・ディスカッションなどの方法によって学習内容の共有を行う。毎回、授業後に、Moodleを用いた論述課題または小テストに取り組んでもらう。授業期間内に1回、中間レポートを課す。

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

教育学の諸概念、教育の本質及び目標を理解できる。(DP1-1)(知識・理解)

近代教育制度の成立等教育の歴史について理解できる。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関するさまざまな思想、代表的な教育家の思想について理解できる。(DP1-1)(知識・理解)

身近な教育事象について、教育の理念および思想に関する学習内容を活用して説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会における教育課題を、歴史との関わりで説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

教育の理念・歴史・思想について、積極的に学ぶ姿勢をもっている。(DP2-1)(技能)

教育の諸事象について、多角的に考える姿勢をもっている。(DP2-1)(技能)

グループ学習などで、他者の考えを受け入れる姿勢をもっている。(DP2-2)(技能)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前学習：テキストの該当箇所をあらかじめ読んでおく(90分)

事後学習：講義内容について、ウェブサイトや図書館資料などでさらに理解を深める(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

## 1. 成績評価基準：

(1) 定期試験によって、教育学の諸概念・教育の本質及び目標、近代教育制度の成立等教育の歴史、教育に関するさまざまな思想や代表的な教育化の思想について理解し記述できているかを評価する。

(2) 中間レポートおよびMoodle課題の提出状況によって、身近な教育事象について説明できているか、現代社会における教育課題について考察ができているか、を評価する。あわせて、レポート作成ルールを遵守できているかを評価する。

(3) 授業ごとに行う個別活動や、グループ・ディスカッションなどの集団活動によって、授業への参加度および身近な教育事象についての理解や考察について評価する。

## 2. 成績評価方法：

(1) 定期試験(上記到達目標について、基本的な内容の理解度を評価する)：40%

(2) 中間レポート(レポート作成ルールの遵守、身近な教育事象や現代社会における教育課題についての考察力を評価する)：20%

(3) Moodle課題の提出状況：20%

(4) グループ・ディスカッションなど授業への参加状況：20%

## --- テキスト ---

藤田由美子・谷田川ルミ編『ダイバーシティ時代の教育の原理 多様性と新たなつながりの地平へ(第二版)』学文社、2022年9月、ISBN：978-4-7620-3134-2

## --- 参考書 ---

講義時間内に適宜提示する。

## --- 履修上の留意点 ---

1. 遅刻をしないこと
  2. 私語など、他の受講生の妨げになる行為をしないこと
  3. グループ・ディスカッションなどの学習活動に、主体的に参加するよう努めること
- \* 下記授業計画は、変更の可能性もある

## --- 授業計画 ---

第1回：オリエンテーション(スタートアップ授業：オンデマンド動画配信)

第2回：教育の理念 教育とは何か

第3回：教育の思想 先人の教育思想に学ぶ

第4回：学校教育の成立 西洋における教育の歴史より学ぶ

第5回：日本における教育の歴史(1) 近代における学校教育の普及を中心に

第6回：日本における教育の歴史(2) 戦後教育改革以降現代に至るまで

第7回：教育課程 学習指導要領、カリキュラム・マネジメント、隠れたカリキュラム

第8回：子どもの権利 子どもの権利条約に学ぶ

第9回：教育の公共性 公教育とシティズンシップ教育について考える

第10回：教育の機会均等 その理念および現代的課題

第11回：子どもの貧困 歴史、現状および課題

第12回：社会的養育に生きる子ども 教育と福祉をつなぐ

第13回：ダイバーシティと教育(1) 外国につながる子ども

第14回：ダイバーシティと教育(2) 多様な性を生きる子ども

第15回：総括 「教育について考えること」とは何か (FURIKAの実施を含む)

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/yf054r6lp4s1uj71tba3egaxbez0euq>)

藤田 由美子

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.教育学の諸概念，教育の本質及び目標を理解できる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.近代教育制度の成立等教育の歴史について理解できる。（DP1-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.教育に関するさまざまな思想，代表的な教育家の思想について理解できる。（DP1-1）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.身近な教育事象について，教育の理念および思想に関する学習内容を活用して説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.現代社会における教育課題を，歴史との関わりで説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

6.教育の理念・歴史・思想について，積極的に学ぶ姿勢をもっている。（DP2-1）（技能）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

7.教育の諸事象について，多角的に考える姿勢をもっている。（DP2-1）（技能）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

8.グループ学習などで，他者の考えを受け入れる姿勢をもっている。（DP2-2）（技能）

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

江玉 睦美

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：金・3時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

概要

本授業は、教育に関する基礎的概念や思想及び学校における教育活動の全体計画としての教育課程とその編成に関する基本的概念や原理を学ぶことによって、教育実践において必要となる基礎的な知識及び理論を習得することを目的とします。

授業の進行・方法

本講義では教育の本質に関する理解を基盤とし、教育の場としての学校における教育課程とその編成に関して理論・歴史・実践という多様な観点を取り入れて授業を進めます。マルチメディア教材を活用して子どもや地域社会、学校、保護者の現状をとらえ、それらをふまえたこれからの学びのあり方について特色ある教育課程の事例をもとに考察を深めていきます。  
 本授業は、パワーポイントを活用した講義形式で行います。毎回、講義資料として書き込み式のプリントを配布します。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べるができる(DP2-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：テキストの指定されたページを読む(40分)

予習：各回の授業テーマに関して、インターネット等を活用して情報収集する(80分)

復習：授業の終わりに提示される課題（各回の授業テーマに関する質問）に取り組む(60分)

成績評価基準および方法

定期試験 100%

- 以下の点を評価基準として、定期試験によって評価する。
- ・教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができるか（到達目標1）
  - ・学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができるか（到達目標2）
  - ・教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができるか（到達目標3）
  - ・学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができるか（到達目標4）
  - ・教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べるができるか（到達目標5）

テキスト

小川哲哉編著『教育改革と現代社会』青簡舎、2023年（2800円＋税）  
 ISBN978-4-903996-54-7  
 2023年5月改訂版発行予定

参考書

『教師教育講座第6巻教育課程論 ISBN 9784319106752  
 『中学校学習指導要領』 ISBN 978-4-827815405  
 『高等学校学習指導要領』 ISBN 978-4-827815412  
 (1) 鈴木由美子他、協同出版、2018年  
 (2) 文部科学省  
 (3) 文部科学省

履修上の留意点

不適切な受講態度や他の学生の迷惑になるような受講態度については厳しく対応します。

授業計画

第1回：イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)

授業の概要、進め方、到達目標等について  
 教育の本質 - 教育と人間 -

第2回：教育の本質 - 教育の機能と構造 -

第3回：教育の歴史と思想 ルソー

第4回：教育の歴史と思想 ペスタロッチー

第5回：教育の歴史と思想 デューイ

第6回：学校の役割と意義（学校教育が抱える諸問題を通して）

第7回：学校教育制度の変遷

第8回：教育課程の定義及び意義

第9回：教育課程の歴史

第10回：学習指導要領からみる教育課程の変遷  
 -経験主義と系統主義-

第11回：学習指導要領からみる教育課程の変遷 -ゆとり教育-

第12回：教育課程の編成原理

第13回：教育課程編成の考え方と手法

第14回：特色ある教育課程編成のあり方とカリキュラム・マネジメント

第15回：学校・家庭・地域社会の連携にもとづくこれからの学び

授業アンケートFURIKAの実施

講義の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性があります。

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/v2dv7gpt4sbgkynkrybo1y9xfir7wt0e)

江玉 睦美

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができる  
(DP1-1) (知識・理解)

2.学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができる  
(DP2-1) (知識・理解)

3.教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができる  
(DP2-1) (知識・理解)

4.学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができる  
(DP2-1) (知識・理解)

5.教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べる  
(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

江玉 睦美

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：金・4時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

概要

本授業は、教育に関する基礎的概念や思想及び学校における教育活動の全体計画としての教育課程とその編成に関する基本的概念や原理を学ぶことによって、教育実践において必要となる基礎的な知識及び理論を習得することを目的とします。

授業の進行・方法

本講義では教育の本質に関する理解を基盤とし、教育の場としての学校における教育課程とその編成に関して理論・歴史・実践という多様な観点を取り入れて授業を進めます。マルチメディア教材を活用して子どもや地域社会、学校、保護者の現状をとらえ、それらをふまえたこれからの学びのあり方について特色ある教育課程の事例をもとに考察を深めていきます。  
 本授業は、パワーポイントを活用した講義形式で行います。毎回、講義資料として書き込み式のプリントを配布します。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べるができる(DP2-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：テキストの指定されたページを読む(40分)

予習：各回の授業テーマに関して、インターネット等を活用して情報収集する(80分)

復習：授業の終わりに提示される課題（各回の授業テーマに関する質問）に取り組む(60分)

成績評価基準および方法

定期試験 100%

- 以下の点を評価基準として、定期試験によって評価する。
- ・教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができるか（到達目標1）
  - ・学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができるか（到達目標2）
  - ・教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができるか（到達目標3）
  - ・学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができるか（到達目標4）
  - ・教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べるができるか（到達目標5）

テキスト

小川哲哉編著『教育改革と現代社会』青簡舎、2023年（2800円＋税）  
 ISBN978-4-903996-54-7  
 2023年5月改訂版発行予定

参考書

『教師教育講座第6巻教育課程論 ISBN 9784319106752  
 『中学校学習指導要領』 ISBN 978-4-827815405  
 『高等学校学習指導要領』 ISBN 978-4-827815412  
 (1) 鈴木由美子他、協同出版、2018年  
 (2) 文部科学省  
 (3) 文部科学省

履修上の留意点

不適切な受講態度や他の学生の迷惑になるような受講態度については厳しく対応します。

授業計画

第1回：イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)

授業の概要、進め方、到達目標等について  
 教育の本質 - 教育と人間 -

第2回：教育の本質 - 教育の機能と構造 -

第3回：教育の歴史と思想 ルソー

第4回：教育の歴史と思想 ペスタロッチー

第5回：教育の歴史と思想 デューイ

第6回：学校の役割と意義（学校教育が抱える諸問題を通して）

第7回：学校教育制度の変遷

第8回：教育課程の定義及び意義

第9回：教育課程の歴史

第10回：学習指導要領からみる教育課程の変遷  
 -経験主義と系統主義-

第11回：学習指導要領からみる教育課程の変遷 -ゆとり教育-

第12回：教育課程の編成原理

第13回：教育課程編成の考え方と手法

第14回：特色ある教育課程編成のあり方とカリキュラム・マネジメント

第15回：学校・家庭・地域社会の連携にもとづくこれからの学び

授業アンケートFURIKAの実施

講義の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性があります。

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/385dop38m9dehz4jda5ndfaa90s62ann)

江玉 睦美

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができる  
(DP1-1) (知識・理解)

2.学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができる  
(DP2-1) (知識・理解)

3.教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができる  
(DP2-1) (知識・理解)

4.学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができる  
(DP2-1) (知識・理解)

5.教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べる  
(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 草野 舞

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：水・二部 2 時限 試験時間割：2025/01/22 夜 2 限

## - - - 概要 - - -

本講義では、教育という営みと社会との関係のこれまでとこれからについて、歴史的観点から解説を行っていきます。また、現代社会の教育課題と学校教育とくに教育課程との関係についても講義を進めていきます。「教育」と学校・家族との関係を様々な視点から捉え、理解を深めることができるよう議論を展開していく予定です。

教育に関する基礎的な知見(教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法等)を学びつつ、教育に関わる事からに関して「批判」的に考察していきましょう。同時に、教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感について理解を深めることを目指します。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した資料をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容に関する小レポートにも取り組んでいただきます。数回の授業ではグループディスカッション等を行い、講義内容に関する理解を深めていきます。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

教育に関わる基本的な知見（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法等）について理解を深める。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する事象について、様々な視点から「批判」的にひいては「主体」的に考えることができる。(DP2-1)(知識・理解)

教育をめぐる多様な価値観に触れ、倫理観と責任感をもって「教育」および「教職」に向き合うことの重要性を理解することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：次回の内容について、文献や新聞記事、インターネット等で自分なりに調べておく。(80分)

復習：授業後は、理解できなかった点やさらに深く知りたいと思った内容についてよく確認し、各回の内容について理解を深める。(100分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

「到達目標」で示した3つの目標について、以下の成績評価方法を用いながら到達度を確認することとします。

各回の授業後に提出する小レポート：40%  
定期試験：60%

## - - - テキスト - - -

適宜資料を配布します。授業内容にかかわる参考図書・参考資料についても、授業の際に適宜紹介します。

## - - - 履修上の留意点 - - -

講義内容によっては、グループディスカッション等を行う場合があります。積極的な参加を求めます。

## - - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション（スタートアップ授業：動画配信）
2. 教育と子ども
3. 教育と社会
4. 近代学校の成立
5. 近代の教育思想
6. 子どもと家族
7. 現代的な教育課題
8. 中間まとめ
9. 日本の教育課程の歩み
10. 教育課程開発の新しい動き
11. 教育課程の思想と構造
12. 教育課程の編成
13. カリキュラム・マネジメント
14. 今日の課題と教育課程の関係
15. 全体のまとめ

授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/kuv9sftkvu9y61svhw0irldjzmg3epin>)

## 草野 舞

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.教育に関わる基本的な知見（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法等）について理解を深める。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.教育に関する事象について、様々な視点から「批判」的にひいては「主体的に考えることができる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.教育をめぐる多様な価値観に触れ、倫理観と責任感をもって「教育」および「教職」に向き合うことの重要性を理解することができる。（DP2-2）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



## 山岸 賢一郎

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：金・1時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

## --- 概要 ---

私たちが生まれ社会的な存在としての「人」になるには、教育が不可欠である。しかしながら、その一方で教育は不確実性を伴うきわめて困難な営みであり、教育について理解するには、その理念や歴史、思想、方法、制度等から幅広く捉えていく必要がある。本授業では、教育とは何かを考えるための基礎概念、教育の歴史的発展、教育の方法や組織、教育制度などについての基本的な知識を概観する。そのうえで、学校が直面する今日的教育課題の具体的な取り組みや成果についての理解を深めていきたい。

授業の前半では、私たちがイメージするような学校が存在しない時代の子どもの暮らしを踏まえて、学校や子どものイメージを問い直す。また、戦争や政治と学校教育の関わりを、戦前に国が著した教科書や、戦後の教育基本法の制定および改正などの事例に絡めて考える。さらに、教育を受ける権利や普通教育という理念について、ひいては学校に通う意味について考える。

授業の後半では、家庭教育、日本の高等教育、教育課程編成と学習指導要領、ジェンダー、学校教員の働き方など、教育・学校教育に関わる重要テーマと絡めながら、教育に関する基礎的な知識と、教育・学校教育の過去・現在・未来についての思考をさらに深めていく。

## --- 授業の進行・方法 ---

スライドを主として用い、板書で補足する講義形式の授業を実施します。スライド資料は、事前にMoodle上にアップロードしますので確認してください。授業中、折に触れて、Moodle等のwebツールを活用したワーク（個人で行うワークやグループワークなど）を行います。また、授業中や授業後に、折に触れて小レポートを提出してもらいます。

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

教育や学校に関する基礎的な知識（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法、等）を備えている。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する基礎的な知識を活用しつつ、教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考することができる。(DP2-1)(技能)

教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考しようとしている。(DP2-2)(態度・志向性)

教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感を備えている。(DP3-1)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

講義の際に指示する事前学習課題は必ず行うこと。(90分)

講義後は、講義資料や各自でとった講義ノートを用いて、学習した内容を復習しておくこと。(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

到達目標に照らして、次の2点にもとづき評価する。

- ・授業時に課す課題（小レポート等） 30%  
授業に参加し、その内容を踏まえた上で、根拠を大切に説得的に論を展開できているか否か、を評価の基準とする。
- ・定期試験 70%  
論述問題については、授業の内容を踏まえた上で、根拠を大切に説得的に論を展開できているか否か、を評価の基準とする。

ただし、次の2点については、加点・減点を行う。

- ・講義への積極的な参加（各種のワークへの積極的な参加、追加の小レポートの提出、等）については、加点する。
- ・講義への不参加をあからさまに示す態度が見られた場合や、他の受講者の学習の権利を奪いかねない行為が見られた場合、減点する（遅刻、私語、各種のワークへの不参加、等）。

## --- テキスト ---

テキストは特に指定しない。毎回資料を配付する。

## --- 参考書 ---

- ・汐見稔幸（監修・編集）・奈須正裕（監修）・木村元（編集）『教育原理（アクティベート教育学1）』ミネルヴァ書房、2020年、ISBN-13:978-4623088133
- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』東山書房、2018年、ISBN-13：978-4827815795
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』東山書房、2019年、ISBN-13：978-4827815672

## --- 履修上の留意点 ---

教育に関わる講義に相応しい受講態度を期待する。本講義は個人で行うワークやグループワークを含んでいる。また、講義中、発言やMoodle等のwebツールへの書き込みを求めることもある。授業計画等は、学習状況や理解度に応じて調整・変更することがある。

## --- 授業計画 ---

- 第1回：オリエンテーション、「子ども」とは：スタートアップ授業（動画配信）
- 第2回：「子ども」を歴史的に問い直す
- 第3回：「学校」はどこからやってきた？（西洋）
- 第4回：「学校」はどこからやってきた？（日本）
- 第5回：戦争と学校教育
- 第6回：政治と学校教育
- 第7回：「学校」に通う意味
- 第8回：「家庭の教育力」は衰退したか？
- 第9回：日本の大学生をどう見るか？
- 第10回：教育課程編成と学習指導要領 学習指導要領とは
- 第11回：教育課程編成と学習指導要領 これからの教育課程
- 第12回：ジェンダー・セクシャリティと教育の深い関係
- 第13回：いま、学校の先生であること
- 第14回：まとめ1 教育・学校教育の課題
- 第15回：まとめ2 教育・学校教育のこれから、授業アンケートの実施

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/qjkmje9k372sli3lpw8oc9x4ea0xhe62>)

## 山岸 賢一郎

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.教育や学校に関する基礎的な知識（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法、等）を備えている。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.教育に関する基礎的な知識を活用しつつ、教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考することができる。（DP2-1）（技能）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考しようとしている。（DP2-2）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感を備えている。（DP3-1）（態度・志向性）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 橋場 論

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：火・2時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

--- 概要 ---

現在学校で行われている教育は、皆さんにとってどのように見えているでしょうか。うまくいっているように見えるでしょうか。それとも、失敗しているように見えるでしょうか。もしも改善の余地があるとすれば、それはどのような点で、どのような方向に変えていけばよいのでしょうか。

教育という営みは捉えどころがなく、とても複雑なものです。それは、様々な歴史的経緯や思想に基づいて形作られてきたものです。そのため、そうした経緯や思想を知らなければ、現在や将来の教育のあり方について考えることはできません。また、教育というと「親と子ども」や「教師と児童・生徒」のみの関係に焦点化されて考えられがちであり、時には、無条件に「善いもの」として、美化されることすらあります。しかし、実際には、教育はその時々々の社会の影響を受けつつ、政治や経済の手段として用いられているという側面もあります。そのような意味で、教育を巡る問題は、社会や国家のあり方とも密接な関係を持つものなのです。

そこで、本講義では、こうした教育の性質を踏まえつつ、教育の理念や歴史、思想から教育課程に至るまで網羅的に取り上げ、解説していきます。その際には、単に歴史的、思想的な話を行うのではなく、それらを通じて、現代の教育課題に対する視野を広げられるよう、議論を展開していく予定です。

受講生の皆さんには社会を支える構成員として、さらには、教育者として求められる「教育を見る眼」を養ってもらいたいと考えています。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、担当教員による講義だけでなく、講師が設定した問いに対して、個人で意見を纏めたり、それらを受講者間で共有しディスカッションを行うなどの活動を交えながら進める予定です。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

近代以降に公教育が発展した背景について、国民国家の成立という観点から、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

近代以降における公教育の意義や課題について、近代以降の社会の特徴を踏まえつつ、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

教育課程自体や教育課程の必要性について、公教育との関係から、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

学習指導要領の歴史的変遷について、その背景にある社会の状況や学力観の変化を踏まえつつ、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

公教育や教育課程に関する様々な出来事について、日常的に関心を持つことができる。(DP1-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：授業の内容に関連する資料や動画などを予め講読、視聴しておくよう指示をする場合があります(40分)

復習：毎回の内容については、授業後に見直したうえで、ノートに自分自身の言葉でまとめなおしてください。また、毎回、受講者から寄せられた意見や疑問などを踏まえQ&Aを授業担当者が作成し、次の授業の際に配付しますので、それに目を通すようにしてください。(100分)

その他：テレビや新聞、インターネット等の媒体に接するときは、授業で取り扱ったテーマに関する情報を逃さないよう、日常的に意識するようにしてください。(40分)

--- 成績評価基準および方法 ---

「到達目標」において示した5つの具体的な目標について、以下に掲げる成績評価方法を用いながら、それぞれの到達度を測ることとします。

授業中に提出するワークシート及び授業の事前課題：30%  
毎回の授業においてワークシートにまとめ、毎回提出してもらいます。また、事前に短い文献や動画を閲覧してもらい、その内容をまとめうえで提出するなどの課題を課すことが何回かあります。

定期試験：70%  
授業全体を出題範囲とした筆記試験を実施します。

なお、遅刻・欠席をするに に関する課題を提出できないことがあり、減点の対象になりますので、注意してください。また、上記のほかに、私語や遅刻等の授業態度については、評価の際に適宜考慮します。その他、授業に出席しなかったのにも拘らず、参加したかのように装ってワークシートを提出するなどの行為については、大幅な減点の対象とします。

--- テキスト ---

テキストは指定しません。毎回、スライド資料などを配付します。

--- 参考書 ---

講義中に適宜紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

講義の形態の授業ではありますが、一方的なレクチャーに終始するのではなく、グループでのディスカッション等も交えながら進行します。積極的な参加を期待します。特に、教育について、他の学生と一緒に議論し、考えたい、という学生の履修を歓迎します。

テキストは指定しないので、授業時の配布資料等をこまめにファイリングするようにしてください。

なお、本講義は、教職科目でもあるため、それを踏まえつつ授業を進めます。新たな発見や知的刺激のある「楽しい」授業となるよう努めますが、授業に対する積極的な参加という形でのご協力をお願いします。

--- 授業計画 ---

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業：動画配信)
- 2.教育とは何か：教育の本質と意義
- 3.近代国家の成立と公教育の展開(教育の歴史と思想：西洋)
- 4.近代国家の成立と公教育の展開(教育の歴史と思想：日本)
- 5.教育の歴史的展開と教育思想(公教育を巡る思想を中心に)
- 6.公教育を巡る現代的課題(アーミッシュを事例として)
- 7.公教育を巡る現代的課題(教員・学校の役割に注目して)
- 8.中間まとめ
- 9.教育課程編成と学習指導要領
- 10.教育課程編成に関する原理
- 11.学習指導要領の歴史的変遷
- 12.学力低下論争と教育課程
- 13.新たな学習観と教育課程
- 14.カリキュラム・マネジメント
- 15.全体まとめ(授業アンケートFURIKAの実施)

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/0g6iiclfs6qbl3n4359z16akzh88w31j>)

## 橋場 論

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 近代以降に公教育が発展した背景について、国民国家の成立という観点から、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）
2. 近代以降における公教育の意義や課題について、近代以降の社会の特徴を踏まえつつ、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）
3. 教育課程それ自体や教育課程の必要性について、公教育との関係から、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）
4. 学習指導要領の歴史的変遷について、その背景にある社会の状況や学力観の変化を踏まえつつ、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）
5. 公教育や教育課程に関する様々な出来事について、日常的に関心を持つことができる。（DP1-1）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 勝山 吉章

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

## - - - 概要 - - -

本講義は、学習指導要領の教育課程の意義や編成の方法について学びながら、経験主義教育（開発主義）と系統主義教育（注入主義）が歴史的に交互に繰り返されてきたことを紹介する。経験主義とは、児童生徒の興味関心や体験・経験を重視する児童中心主義教育であり、系統主義とはそれぞれの教科の科学性や知の構成を重視する科学中心主義を指す。日本でも西洋でも、この両者は常に教育実践や教育思想のなかで論じられてきたものである。本講義は、これら両者のメリット・デメリットを理解しながら、学校のあり方や教育課程の編成のあり方を考える。

カリキュラム・マネジメントとは、学力の三要素、知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）を経験主義と系統主義を基本原理としながら教科横断的に育むものであり、そのあり方を考察することが、本授業の主目的となる。

そしてこれら教育の経験主義や系統主義を教育の思想家がどのように論じてきたかを把握するために、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、デューイなどについて言及していく。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業内容は、テキスト、配布プリント、動画などを中心に、具体的に立体的に行っていく所存である。受講生はテキストや配布プリントの授業予定箇所をよく読み、理解しておくことが求められる。また、各授業毎に、Moodleを使って授業の理解度をはかり、それに応じて授業を進めていく。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

教育における経験主義と系統主義そしてカリキュラム・マネジメントについて理解する。(DP1-1)(知識・理解)

教育における経験主義と系統主義を踏まえて、関連諸分野についての理解を深める。(DP2-1)(知識・理解)

教育の原理・課程論を通じて他者・異文化・異文脈への理解を深める。(DP2-2)(知識・理解)

教育の原理・課程論を通して責任ある発言・行動の基礎となる知識を身につける。(DP3-1)(知識・理解)

教育の原理・課程論を通して共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・志向性を身につける。(DP4-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

テキストや配布プリントを事前によく読んで理解を深めておくこと。(90分)

授業を振り返って、授業内容を整理しながら自分なりの理解を進めること。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

まず何よりも日本国憲法の三原則（国民主権、基本的人権の尊重、平和主義）を体得しているかを問う。その上で、教育の理念や教育課程の編成について理解しているかどうかを、また、カリキュラムマネジメントについて自分なりの見解を有しているか否かを評価する。評価の方法は、定期試験の結果、授業中の課題、授業の際の参加状況等で総合的に評価する。その配分（％）は、履修生の受講状況次第なので明記できない。

## - - - テキスト - - -

勝山他『いま、教室に生きる教育の思想と歴史』あいり出版 ISBN978-4-86555-106-8 C3037 2000円

## - - - 参考書 - - -

安彦他『カリキュラム研究入門』勁草書房 ISBN 978-4-326-29815-0

## - - - 履修上の留意点 - - -

後半部分ではテキストを中心に授業を行う。従って、テキストを持参しない学生の受講は認められない。本講義は、西洋教育史（勝山）の授業とリンクしているので、両者の受講を勧める。なお受講中の私語、居眠り、不要な着帽、いわゆる「内職」は認められない。担当者は、視覚に障害をもっているため、学生の理解をお願いする。

## - - - 授業計画 - - -

- 1：ガイダンス（スタートアップ授業）
- 2：学習指導要領からみる教育課程の意義
- 3：学習指導要領からみる教育課程編成の方法
- 4：教育の基本的概念と近代教育学
- 5：教育の歴史と思想 - コメニウス
- 6：教育の歴史と思想 - ルソー
- 7：教育の歴史と思想 - ペスタロッチ
- 8：教育の歴史と思想 - フレーベル
- 9：教育の歴史と思想 - デューイ
- 10：教育の歴史と思想 - 沢柳政太郎と大正自由教育
- 11：戦後教育の教育課程論争 - 経験主義か系統主義か
- 12：スプートニックショックと発見学習
- 13：教科カリキュラムと経験カリキュラムの編成方法と特色
- 14：相関カリキュラム、融合カリキュラム、コア・カリキュラムの編成方法と特色
- 15：まとめ（FURIKAなどを含む）

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/nleeiv10tfqi7l6wvss7jluirodvklkd>)

## 勝山 吉章

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.教育における経験主義と系統主義そしてカリキュラム・マネジメントについて理解する。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.教育における経験主義と系統主義を踏まえて、関連諸分野についての理解を深める。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.教育の原理・課程論を通じて他者・異文化・異文脈への理解を深める。（DP2-2）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.教育の原理・課程論を通して責任ある発言・行動の基礎となる知識を身につける。（DP3-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.教育の原理・課程論を通して共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・志向性を身につける。（DP4-2）（態度・志向性）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 橋場 論

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：水・3時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

--- 概要 ---

現在学校で行われている教育は、皆さんにとってどのように見えているでしょうか。うまくいっているように見えるでしょうか。それとも、失敗しているように見えるでしょうか。もしも改善の余地があるとすれば、それはどのような点で、どのような方向に変えていけばよいのでしょうか。

教育という営みは捉えどころがなく、とても複雑なものです。それは、様々な歴史的経緯や思想に基づいて形作られてきたものです。そのため、そうした経緯や思想を知らなければ、現在や将来の教育のあり方について考えることはできません。また、教育というと「親と子ども」や「教師と児童・生徒」のみの関係に焦点化されて考えられがちであり、時には、無条件に「善いもの」として、美化されることすらあります。しかし、実際には、教育はその時々々の社会の影響を受けつつ、政治や経済の手段として用いられているという側面もあります。そのような意味で、教育を巡る問題は、社会や国家のあり方とも密接な関係を持つものなのです。

そこで、本講義では、こうした教育の性質を踏まえつつ、教育の理念や歴史、思想から教育課程に至るまで網羅的に取り上げ、解説していきます。その際には、単に歴史的、思想的な話を行うのではなく、それらを通じて、現代の教育課題に対する視野を広げられるよう、議論を展開していく予定です。

受講生の皆さんには社会を支える構成員として、さらには、教育者として求められる「教育を見る眼」を養ってもらいたいと考えています。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、担当教員による講義だけでなく、講師が設定した問いに対して、個人で意見を纏めたり、それらを受講者間で共有しディスカッションを行うなどの活動を交えながら進める予定です。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

近代以降に公教育が発展した背景について、国民国家の成立という観点から、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

近代以降における公教育の意義や課題について、近代以降の社会の特徴を踏まえつつ、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

教育課程それ自体や教育課程の必要性について、公教育との関係から、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

学習指導要領の歴史的変遷について、その背景にある社会の状況や学力観の変化を踏まえつつ、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

公教育や教育課程に関する様々な出来事について、日常的に関心を持つことができる。(DP1-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：授業の内容に関連する資料や動画などを予め講読、視聴しておくよう指示をする場合があります(40分)

復習：毎回の内容については、授業後に見直したうえで、ノートに自分自身の言葉でまとめなおしてください。また、毎回、受講者から寄せられた意見や疑問などを踏まえQ&Aを授業担当者が作成し、次の授業の際に配付しますので、それに目を通すようにしてください。(100分)

その他：テレビや新聞、インターネット等の媒体に接するときは、授業で取り扱ったテーマに関する情報を逃さないよう、日常的に意識するようにしてください。(40分)

--- 成績評価基準および方法 ---

「到達目標」において示した5つの具体的な目標について、以下に掲げる成績評価方法を用いながら、それぞれの到達度を測ることとします。

授業中に提出するワークシート及び授業の事前課題：30%

毎回の授業においてワークシートにまとめ、毎回提出してもらいます。また、事前に短い文献や動画を閲覧してもらい、その内容をまとめうえで提出するなどの課題を課すことが何回かあります。

定期試験：70%

授業全体を出題範囲とした筆記試験を実施します。

なお、遅刻・欠席をするに に関する課題を提出できないことがあり、減点の対象になりますので、注意してください。また、上記のほかに、私語や遅刻等の授業態度については、評価の際に適宜考慮します。その他、授業に出席しなかったのにも拘らず、参加したかのように装ってワークシートを提出するなどの行為については、大幅な減点の対象とします。

--- テキスト ---

テキストは指定しません。毎回、スライド資料などを配付します。

--- 参考書 ---

講義中に適宜紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

講義の形態の授業ではありますが、一方的なレクチャーに終始するのではなく、グループでのディスカッション等も交えながら進行します。積極的な参加を期待します。特に、教育について、他の学生と一緒に議論し、考えたい、という学生の履修を歓迎します。

テキストは指定しないので、授業時の配布資料等をこまめにファイリングするようにしてください。

なお、本講義は、教職科目でもあるため、それを踏まえつつ授業を進めます。新たな発見や知的刺激のある「楽しい」授業となるよう努めますが、授業に対する積極的な参加という形でのご協力をお願いします。

--- 授業計画 ---

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業：動画配信)
- 2.教育とは何か：教育の本質と意義
- 3.近代国家の成立と公教育の展開(教育の歴史と思想：西洋)
- 4.近代国家の成立と公教育の展開(教育の歴史と思想：日本)
- 5.教育の歴史的展開と教育思想(公教育を巡る思想を中心に)
- 6.公教育を巡る現代的課題(アーミッシュを事例として)
- 7.公教育を巡る現代的課題(教員・学校の役割に注目して)
- 8.中間まとめ
- 9.教育課程編成と学習指導要領
- 10.教育課程編成に関する原理
- 11.学習指導要領の歴史的変遷
- 12.学力低下論争と教育課程
- 13.新たな学習観と教育課程
- 14.カリキュラム・マネジメント
- 15.全体まとめ(授業アンケートFURIKAの実施)

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/izyw6krjn5raw7tbvx4buqdhqrln3d6>)

## 橋場 論

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 近代以降に公教育が発展した背景について、国民国家の成立という観点から、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）

2. 近代以降における公教育の意義や課題について、近代以降の社会の特徴を踏まえつつ、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）

3. 教育課程それ自体や教育課程の必要性について、公教育との関係から、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）

4. 学習指導要領の歴史的変遷について、その背景にある社会の状況や学力観の変化を踏まえつつ、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）

5. 公教育や教育課程に関する様々な出来事について、日常的に関心を持つことができる。（DP1-1）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



## 藤田 由美子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：水・4時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

## --- 概要 ---

本授業では、教職を目指す学生が、教育の思想、歴史、そして現代の教育課題について理解を深め、教育とは何かについて考察を行うとともに、教育課程および教育実践について考えることを目指す。

内容は、次の通りである。第一に、教育の理念・教育の思想・教育の歴史・教育課程について基礎的理解を深める。第二に、教育の理念にかかる具体的な問題として、子どもの権利、教育の公共性および機会均等について、理解を深める。第三に、子どもの貧困、社会的養護の子ども、ダイバーシティと教育、といった現代の学校教育が直面する問題について、歴史を踏まえつつ理解を深め、教育課程および教育実践へと関連づけていく。

本授業は、講義形式においては、具体的な事例をとりあげ、ワークシートを用いる学習やグループ・ディスカッション等によって、受講生ひとりひとりが主体的に学び考えることができる工夫を行う。

## --- 授業の進行・方法 ---

授業は基本的に講義形式で行うが、毎回、グループ・ディスカッションなどの方法によって学習内容の共有を行う。毎回、授業後に、Moodleを用いた論述課題または小テストに取り組んでもらう。授業期間内に1回、中間レポートを課す。

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

教育学の諸概念、教育の本質及び目標を理解できる。(DP1-1)(知識・理解)

近代教育制度の成立等教育の歴史について理解できる。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関するさまざまな思想、代表的な教育家の思想について理解できる。(DP1-1)(知識・理解)

身近な教育事象について、教育の理念および思想に関する学習内容を活用して説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会における教育課題を、歴史との関わりで説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

教育の理念・歴史・思想について、積極的に学ぶ姿勢をもっている。(DP2-1)(技能)

教育の諸事象について、多角的に考える姿勢をもっている。(DP2-1)(技能)

グループ学習などで、他者の考えを受け入れる姿勢をもっている。(DP2-2)(技能)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前学習：テキストの該当箇所をあらかじめ読んでおく(90分)

事後学習：講義内容について、ウェブサイトや図書館資料などでさらに理解を深める(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

## 1. 成績評価基準：

(1) 定期試験によって、教育学の諸概念・教育の本質及び目標、近代教育制度の成立等教育の歴史、教育に関するさまざまな思想や代表的な教育化の思想について理解し記述できているかを評価する。

(2) 中間レポートおよびMoodle課題の提出状況によって、身近な教育事象について説明できているか、現代社会における教育課題について考察ができているか、を評価する。あわせて、レポート作成ルールを遵守できているかを評価する。

(3) 授業ごとに行う個別活動や、グループ・ディスカッションなどの集団活動によって、授業への参加度および身近な教育事象についての理解や考察について評価する。

## 2. 成績評価方法：

(1) 定期試験(上記到達目標について、基本的な内容の理解度を評価する)：40%

(2) 中間レポート(レポート作成ルールの遵守、身近な教育事象や現代社会における教育課題についての考察力を評価する)：20%

(3) Moodle課題の提出状況：20%

(4) グループ・ディスカッションなど授業への参加状況：20%

## --- テキスト ---

藤田由美子・谷田川ルミ編『ダイバーシティ時代の教育の原理 多様性と新たなつながりの地平へ(第二版)』学文社、2022年9月、ISBN：978-4-7620-3134-2

## --- 参考書 ---

講義時間内に適宜提示する。

## --- 履修上の留意点 ---

1. 遅刻をしないこと
  2. 私語など、他の受講生の妨げになる行為をしないこと
  3. グループ・ディスカッションなどの学習活動に、主体的に参加するよう努めること
- \* 下記授業計画は、変更の可能性もある

## --- 授業計画 ---

第1回：オリエンテーション(スタートアップ授業：オンデマンド動画配信)

第2回：教育の理念 教育とは何か

第3回：教育の思想 先人の教育思想に学ぶ

第4回：学校教育の成立 西洋における教育の歴史より学ぶ

第5回：日本における教育の歴史(1) 近代における学校教育の普及を中心に

第6回：日本における教育の歴史(2) 戦後教育改革以降現代に至るまで

第7回：教育課程 学習指導要領、カリキュラム・マネジメント、隠れたカリキュラム

第8回：子どもの権利 子どもの権利条約に学ぶ

第9回：教育の公共性 公教育とシティズンシップ教育について考える

第10回：教育の機会均等 その理念および現代的課題

第11回：子どもの貧困 歴史、現状および課題

第12回：社会的養育に生きる子ども 教育と福祉をつなぐ

第13回：ダイバーシティと教育(1) 外国につながる子ども

第14回：ダイバーシティと教育(2) 多様な性を生きる子ども

第15回：総括 「教育について考えること」とは何か (FURIKAの実施を含む)

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/pr40hwbe6gdlma6te6vz775rifyggt26>)

## 藤田 由美子

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.教育学の諸概念，教育の本質及び目標を理解できる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.近代教育制度の成立等教育の歴史について理解できる。（DP1-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.教育に関するさまざまな思想，代表的な教育家の思想について理解できる。（DP1-1）（知識・理解）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.身近な教育事象について，教育の理念および思想に関する学習内容を活用して説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.現代社会における教育課題を，歴史との関わりで説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

6.教育の理念・歴史・思想について，積極的に学ぶ姿勢をもっている。（DP2-1）（技能）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

7.教育の諸事象について，多角的に考える姿勢をもっている。（DP2-1）（技能）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

8.グループ学習などで，他者の考えを受け入れる姿勢をもっている。（DP2-2）（技能）

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 江玉 睦美

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：金・3時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

## - - - 概要 - - -

本授業は、教育に関する基礎的概念や思想及び学校における教育活動の全体計画としての教育課程とその編成に関する基本的概念や原理を学ぶことによって、教育実践において必要となる基礎的な知識及び理論を習得することを目的とします。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

本講義では教育の本質に関する理解を基盤とし、教育の場としての学校における教育課程とその編成に関して理論・歴史・実践という多様な観点を取り入れて授業を進めます。マルチメディア教材を活用して子どもや地域社会、学校、保護者の現状をとらえ、それらをふまえたこれからの学びのあり方について特色ある教育課程の事例をもとに考察を深めていきます。

本授業は、パワーポイントを活用した講義形式で行います。毎回、講義資料として書き込み式のプリントを配布します。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べるができる(DP2-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：テキストの指定されたページを読む(40分)

予習：各回の授業テーマに関して、インターネット等を活用して情報収集する(80分)

復習：授業の終わりに提示される課題（各回の授業テーマに関する質問）に取り組む(60分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験 100%

以下の点を評価基準として、定期試験によって評価する。

- ・教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができるか（到達目標1）
- ・学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができるか（到達目標2）
- ・教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができるか（到達目標3）
- ・学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができるか（到達目標4）
- ・教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べることができるか（到達目標5）

## - - - テキスト - - -

小川哲哉編著『教育改革と現代社会』青簡舎、2023年（2800円＋税）

ISBN978-4-903996-54-7

2023年5月改訂版発行予定

## - - - 参考書 - - -

『教師教育講座第6巻教育課程論 ISBN 9784319106752

『中学校学習指導要領』 ISBN 978-4-827815405

『高等学校学習指導要領』 ISBN 978-4-827815412

(1) 鈴木由美子他、協同出版、2018年

(2) 文部科学省

(3) 文部科学省

## - - - 履修上の留意点 - - -

不適切な受講態度や他の学生の迷惑になるような受講態度については厳しく対応します。

## - - - 授業計画 - - -

第1回：イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)

授業の概要、進め方、到達目標等について  
 教育の本質 - 人間と教育 -

第2回：教育の本質 - 教育の機能と構造 -

第3回：教育の歴史と思想 ルソー

第4回：教育の歴史と思想 ペスタロッチー

第5回：教育の歴史と思想 デューイ

第6回：学校の役割と意義（学校教育が抱える諸問題を通して）

第7回：学校教育制度の変遷

第8回：教育課程の定義及び意義

第9回：教育課程の歴史

第10回：学習指導要領からみる教育課程の変遷

-経験主義と系統主義-

第11回：学習指導要領からみる教育課程の変遷 -ゆとり教育-

第12回：教育課程の編成原理

第13回：教育課程編成の考え方と手法

第14回：特色ある教育課程編成のあり方とカリキュラム・マネジメント

第15回：学校・家庭・地域社会の連携にもとづくこれからの学び

授業アンケートFURIKAの実施

講義の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性があります。

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/sux6492fxnfiwv0fc3o0kvpjwew0n0tm>)

江玉 睦美

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

- 1.教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができる (DP1-1) (知識・理解)
- 2.学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができる (DP2-1) (知識・理解)
- 3.教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができる (DP2-1) (知識・理解)
- 4.学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができる (DP2-1) (知識・理解)
- 5.教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べるることができる (DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 江玉 睦美

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：金・4時限 試験時間割：2025/01/24 6時限

## - - - 概要 - - -

本授業は、教育に関する基礎的概念や思想及び学校における教育活動の全体計画としての教育課程とその編成に関する基本的概念や原理を学ぶことによって、教育実践において必要となる基礎的な知識及び理論を習得することを目的とします。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

本講義では教育の本質に関する理解を基盤とし、教育の場としての学校における教育課程とその編成に関して理論・歴史・実践という多様な観点を取り入れて授業を進めます。マルチメディア教材を活用して子どもや地域社会、学校、保護者の現状をとらえ、それらをふまえたこれからの学びのあり方について特色ある教育課程の事例をもとに考察を深めていきます。

本授業は、パワーポイントを活用した講義形式で行います。毎回、講義資料として書き込み式のプリントを配布します。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べるができる(DP2-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：テキストの指定されたページを読む(40分)

予習：各回の授業テーマに関して、インターネット等を活用して情報収集する(80分)

復習：授業の終わりに提示される課題（各回の授業テーマに関する質問）に取り組む(60分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験 100%

以下の点を評価基準として、定期試験によって評価する。  
・教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができるか（到達目標1）  
・学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができるか（到達目標2）  
・教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができるか（到達目標3）  
・学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができるか（到達目標4）  
・教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べることができるか（到達目標5）

## - - - テキスト - - -

小川哲哉編著『教育改革と現代社会』青簡舎、2023年（2800円＋税）

ISBN978-4-903996-54-7

2023年5月改訂版発行予定

## - - - 参考書 - - -

『教師教育講座第6巻教育課程論 ISBN 9784319106752

『中学校学習指導要領』 ISBN 978-4-827815405

『高等学校学習指導要領』 ISBN 978-4-827815412

(1) 鈴木由美子他、協同出版、2018年

(2) 文部科学省

(3) 文部科学省

## - - - 履修上の留意点 - - -

不適切な受講態度や他の学生の迷惑になるような受講態度については厳しく対応します。

## - - - 授業計画 - - -

第1回：イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)

授業の概要、進め方、到達目標等について  
教育の本質 - 教育と人間 -

第2回：教育の本質 - 教育の機能と構造 -

第3回：教育の歴史と思想 ルソー

第4回：教育の歴史と思想 ペスタロッチー

第5回：教育の歴史と思想 デューイ

第6回：学校の役割と意義（学校教育が抱える諸問題を通して）

第7回：学校教育制度の変遷

第8回：教育課程の定義及び意義

第9回：教育課程の歴史

第10回：学習指導要領からみる教育課程の変遷

-経験主義と系統主義-

第11回：学習指導要領からみる教育課程の変遷 -ゆとり教育-

第12回：教育課程の編成原理

第13回：教育課程編成の考え方と手法

第14回：特色ある教育課程編成のあり方とカリキュラム・マネジメント

第15回：学校・家庭・地域社会の連携にもとづくこれからの学び

授業アンケートFURIKAの実施

講義の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性があります。

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/vc3692r4bd4awa96t76f3zq61i6oz81i>)

江玉 睦美

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

- 1.教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができる (DP1-1) (知識・理解)
- 2.学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができる (DP2-1) (知識・理解)
- 3.教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができる (DP2-1) (知識・理解)
- 4.学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができる (DP2-1) (知識・理解)
- 5.教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べるができる (DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 草野 舞

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：水・二部 2 時限 試験時間割：2025/01/22 夜 2 限

## - - - 概要 - - -

## 授業の内容

本講義では、教育という営みと社会との関係のこれまでとこれからについて、歴史的観点から解説を行っていきます。また、現代社会の教育課題と学校教育とくに教育課程との関係についても講義を進めていきます。「教育」と学校・家族との関係を様々な視点から捉え、理解を深めることができるよう議論を展開していく予定です。

教育に関する基礎的な知見(教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法等)を学びつつ、教育に関わる事からに関して「批判」的に考察していきましょう。同時に、教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感について理解を深めることを目指します。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した資料をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容に関する小レポートにも取り組んでいただきます。数回の授業ではグループディスカッション等を行い、講義内容に関する理解を深めていきます。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

教育に関わる基本的な知見（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法等）について理解を深める。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する事象について、様々な視点から「批判」的にひいては「主体」的に考えることができる。(DP2-1)(知識・理解)

教育をめぐる多様な価値観に触れ、倫理観と責任感をもって「教育」および「教職」に向き合うことの重要性を理解することができる。(DP2-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：次回の内容について、文献や新聞記事、インターネット等で自分なりに調べておく。(80分)

復習：授業後は、理解できなかった点やさらに深く知りたいと思った内容についてよく確認し、各回の内容について理解を深める。(100分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

「到達目標」で示した3つの目標について、以下の成績評価方法を用いながら到達度を確認することとします。

各回の授業後に提出する小レポート：40%  
 定期試験：60%

## - - - テキスト - - -

適宜資料を配布します。授業内容にかかわる参考図書・参考資料についても、授業の際に適宜紹介します。

## - - - 履修上の留意点 - - -

講義内容によっては、グループディスカッション等を行う場合があります。積極的な参加を求めます。

## - - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション（スタートアップ授業：動画配信）
  2. 教育と子ども
  3. 教育と社会
  4. 近代学校の成立
  5. 近代の教育思想
  6. 子どもと家族
  7. 現代的な教育課題
  8. 中間まとめ
  9. 日本の教育課程の歩み
  10. 教育課程開発の新しい動き
  11. 教育課程の思想と構造
  12. 教育課程の編成
  13. カリキュラム・マネジメント
  14. 今日の課題と教育課程の関係
  15. 全体のまとめ
- 授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/e5e0lfgbjewm4js3q7ssxvthnfe87rbo>

## 草野 舞

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.教育に関わる基本的な知見（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法等）について理解を深める。（DP1-1）（知識・理解）

2.教育に関する事象について、様々な視点から「批判」的にひいては「主体」的に考えることができる。（DP2-1）（知識・理解）

3.教育をめぐる多様な価値観に触れ、倫理観と責任感をもって「教育」および「教職」に向き合うことの重要性を理解することができる。（DP2-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



## 江玉 睦美

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：金・5時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

## --- 概要 ---

近年、幼児期の教育に関する話題が様々取り上げられています。幼児期の教育は、人間教育における出発点ともいう重要なものであり、OECDも各国の「幼稚園・保育園の質」に関する調査を実施するなど、これまで以上にその重要性が認識されています。学生にとっては将来、親として、地域社会の一員として、中には教師や保育者など子どもにかかわる者として、何かしらの形ですべての学生が幼児期の教育に携わる存在であるといえます。しかし、一般的には大学での教育内容をみると、資格取得のための専門科目以外では、幼児教育について学ぶ機会があまりないのが現状です。そこで、本講義では幼児教育の歴史や思想といった基礎的な学習に基づいた幼児教育への理解と関心を育てることを目的とします。

## --- 授業の進行・方法 ---

本授業では、パワーポイントを活用した講義形式で行います。また、メディア教材を活用しながら幼稚園や保育園、認定こども園での教育・保育や子どもの姿を実際にとらえながら進めていきます。授業では書き込み式のプリントを資料として配布します。

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

幼児教育の重要性について述べるができる(DP1-1)(知識・理解)

フレーベルの幼児教育思想について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

わが国における子育て支援の現状と課題について説明することができる(DP4-2)(態度・志向性)

子育て支援や幼児教育の今後のあり方について述べるができる(DP4-2)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：指定された内容に関する資料やデータを調べる(120分)

復習：授業の終わりに提示される課題(各回の授業テーマに関する質問)に取り組む(60分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

定期試験 100%

以下の点を評価基準として、定期試験によって評価する。  
 ・幼児教育の重要性について述べるができるか(到達目標1)  
 ・フレーベルの幼児教育思想について説明することができるか(到達目標2)  
 ・わが国における子育て支援の現状と課題について理解し、子育てや幼児教育の今後のあり方について述べるができるか(到達目標3, 4)

## --- テキスト ---

特定のテキストはしません。毎時間資料を配布します

## --- 参考書 ---

『保育白書』 ISBN 978-4-89464-291-1  
 『森のようちえん』 ISBN 978-4-7592-6746-4  
 『保育臨床相談』 ISBN 9784762826580  
 (1) 全国保育団体連絡会・保育研究所、ひとなる書房、2022年  
 (2) 今村光章編著、解放出版社、2013年  
 (3) 小田豊他、北大路書房、2009年

## --- 履修上の留意点 ---

毎時間、質問カードを配布します。不適切な受講態度や他の学生の迷惑になるような受講態度については厳しく対応します。

## --- 授業計画 ---

第1回 イン트로ダクション：スタートアップ授業(動画配信)

授業の概要、進め方、到達目標等について幼児教育の基本について

第2回 幼児教育の歴史 Kindergarten創設以前

第3回 幼児教育の歴史 Kindergarten

第4回 幼児教育の歴史 森のようちえん

第5回 幼児教育の歴史 日本における幼児教育

第6回 フレーベルの幼児教育思想 幼児期の子ども

第7回 フレーベルの幼児教育思想 遊び

第8回 フレーベルの幼児教育思想 環境

第9回 幼児教育の構造

第10回 幼児理解の重要性

第11回 幼児教育がかかえる問題 園を取り巻く環境

第12回 幼児教育がかかえる問題 待機児童

第13回 幼児教育がかかえる問題 虐待

第14回 幼児期における家庭教育

第15回 子育て支援の現状と課題

授業アンケートFURIKAの実施

授業の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性があります。

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/4t25rp10dzpogej61hy0v8gckc38lvv6>)

江玉 睦美

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー ( DP )

1. 幼児教育の重要性について述べる事ができる ( DP1-1 ) ( 知識・理解 )

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性  
理念1 【 学び続けていくための確かな基礎 】2. フレーベルの幼児教育思想について説明する事ができる  
( DP2-1 ) ( 知識・理解 )DP1-1 大学4年間 ( 6年間 ) の学びを支える基礎を身につけている ( A、  
B、C )3. わが国における子育て支援の現状と課題について説明する事ができる  
( DP4-2 ) ( 態度・志向性 )DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている  
( A、B、C )4. 子育て支援や幼児教育の今後のあり方について述べる事ができる ( DP4-2 )  
( 態度・志向性 )理念2 【 多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い  
視野と柔軟さ 】DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事  
を多角的に見ることができる ( A、B、C )DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔  
軟に接することができる ( A、B、C )

理念3 【 自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ 】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる ( A、  
C )DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発  
揮できる ( B、C )

理念4 【 地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性 】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活  
用・応用・工夫ができる ( A、B )DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長  
に貢献することができる ( B、C )

## 中世古 貴彦

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：前期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

## - - - 概要 - - -

現代社会において教育は誰もが経験するものであるが、その経験ゆえに表面的な事象にとらわれながら理解してしまいがちなものである。本授業では、誰もが経験してきたような教育にまつわる様々な「あたりまえ」を、教育社会学的な視点から問い直す。

大学生は、中等教育の修了者であり、高等教育の享受者であり、教育の在り方を変える主体となりえる市民でもある。また、将来親となった場合は、自分の子どもが享受する教育に関して、大きな関心を抱くはずである。社会の在り方から影響を受けながらも、社会を形作る一助ともなる教育について、改めて立ち止まって考える機会を持つことは、大学生にとって有意義な学びとなるだろう。

本授業では、「あたりまえ」を問い直すための教育社会学的な論点、データ、歴史的経緯などを踏まえた、学生同士のディスカッションを多く取り入れる。重要な点については授業内でも補足説明するが、受講者は事前に教科書の当該章を読了したうえで出席しなければならない(反転授業)。また、授業中は積極的に議論に参加しなければならない(アクティブ・ラーニング)。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

・受講生は教科書の各回の該当章を事前に精読し、独自に調べた内容なども踏まえて予習のメモを作成し、授業に持参する(時々提出を求める)。

・授業では座席をある程度指定する。教科書を読んだことを前提に、スライド資料に基づき教員が解説を加えるが、学生同士のディスカッションや、それを踏まえた発言の機会を多く設ける。

・授業後は、教科書や授業での議論をよく振り返り、期日までにミニレポートをMoodleから提出する。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

社会的事象について、歴史的経緯やデータを踏まえて考察できる。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する様々な事象について、多角的に考察することができる。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回の授業に際し、教科書の該当章を事前に読み込み、疑問や関心を持ったことについて独自に調べておく。(120分)

当該週の授業や他の学生との議論を踏まえ、ミニレポートを毎回提出する。(60分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

・授業中の議論への積極的な参加(30%)  
教科書や他の学生との議論を踏まえた聴きごたえのある発言には加点する。

・毎回のミニレポートの提出回数、量、質(70%)  
教科書、独自に調べた情報、他の学生との議論等を踏まえているか、誤字脱字や文章のねじれがないか等も重要である。授業中の出席確認、予習課題の作成状況とも突合するため、ミニレポートの提出だけでは単位認定できない。

このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

## - - - テキスト - - -

片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和編, 2017 『半径5メートルからの教育社会学』大槻書店. ISBN: 9784272412389

## - - - 履修上の留意点 - - -

・予習をしない、議論に参加しない(私語、スマホ、居眠り等も含む)などの消極的な受講態度は、複数回の注意で単位不認定に相当する。

## - - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 学力の獲得は平等なのか?
3. 高等教育への進学とジェンダー
4. 高学歴社会における教育機会と費用負担
5. 学校に「行っていない」子どもたち
6. 貧困世帯の子どもたち
7. 学校の外で学ぶ子どもたち
8. 前半のまとめ: 「大学生になること」「学校に通うこと」を問い直す
9. 「英語は全員が学ぶもの」という自明性を疑う
10. 部活動は学校において合理的な活動か?
11. 子どもの安全・安心を脅かす「教育」
12. 教育から職業への移行と就職活動
13. 「いじめ」問題がつくる視角と死角
14. 少年犯罪についての認識とメディア
15. 総括、授業アンケート

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/urvwr9b0fptt486q4e2itzv7mdz841co>

## 中世古 貴彦

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.社会的事象について、歴史的経緯やデータを踏まえて考察できる。(DP1-1)  
(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.教育に関する様々な事象について、多角的に考察することができる。  
(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 和田 徹也

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：水・二部 1 時間 試験時間割：2024/07/31 夜 1 限

## 概要

本講義は、教育基本法第14条「政治教育」(条文見出し)に規定されている「政治的教養」の学習を行います。「政治的教養」とは、民主政治、政党、憲法、地方自治等、現代民主政治上の各種の制度についての知識、現実の政治の理解力およびこれに対する公正な判断力、民主国家の公民として必要な政治道徳及び政治的理念などであるとされています。そこで本講義では、この「政治的教養」の と について社会科学の視点から考察します。したがってまず、社会科学の概念内容を検討することから始めます。次に、指定テキストである『「憲法改正」の真実』の解説によって「政治的教養」の総論的要素を認識してください。

さらに、「政治的教養」の各論的要素として重要な概念の一つである、「民主主義」と「立憲主義」の概念をしっかりと把握してください。次に「ポピュリズム」と「民主主義」、「ポピュリズム」と「立憲主義」の相互関係を明らかにします。さらに重要な概念としてははずせないのは、憲法上の「国民」には、「主権者の地位にある全体としての国民」と「人権主体である国民諸個人」と、それぞれ異なる二つの意味があるということです。この二つの有機的連関性を学びます。四つめとして、自然権を基礎とする理想的・道徳的な「人権」と実定化された「憲法上の人権」の違いを明らかにします。

最後は、司法制度改革について、とりわけ刑事裁判における裁判員制度の問題点について検討します。まず人身の自由や刑事手続などに関連する項目の学習を踏まえて裁判員制度について批判的検討を行います。

## 授業の進行・方法

授業は講義形式で行いますが、毎回の授業では、学習項目の内容について十分な予習をしているのかを質疑応答をし理解を深めていきましょう。この「質疑応答」は成績評価事項でもあります。

## アクティブ・ラーニング

いいえ / No

## 到達目標

社会科学の視点の涵養：社会科学とは何かについて、基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

自然科学と対比し社会科学の学問上の特色を理解できる。(DP2-1)(知識・理解)

民主主義、立憲主義の意義について理解できる。(DP2-2)(技能)

民主主義が立憲主義を破壊するとはどのようなことが説明できる。(DP2-1)(技能)

憲法上の「国民」概念について理解できる。(DP2-2)(知識・理解)

道徳的な「人権」と憲法上の「人権」の違いを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

刑事裁判における裁判員制度の問題点について説明できる。(DP3-1)(知識・理解)

## 授業時間外の学習(予習・復習)

指定した文献や資料は最低3回は読んでおくこと。(120分)

授業計画に即して事前に専門用語などを調べ理解しておくこと(120分)

講義終了後に授業内容をノートに整理しておくこと(100分)

## 成績評価基準および方法

・本講義における政治学、憲法学の基礎的な概念などについて理解しているかが評価の基準とする。

・定期試験80%、課題提出や発表状況など(20%)を評価方法とする。

## テキスト

樋口 陽一 小林 節 『「憲法改正」の真実』(集英社新書、2016年) 定価760円+税

ISBN978-4-08-720826-9

横大道 聡 吉田 俊弘 『憲法のリテラシー』(有斐閣、2022年) 定価2700円+税

ISBN978-4-641-22825-2

## 参考書

『憲法の良識』 ISBN 978-4-02-273764-9

『代表制民主主義はなぜ失敗したのか』 ISBN

978-4-721194-8

『専門知は、もういらぬのか：無知礼賛と民主主義』

ISBN 978-4-622-08816-5

・尚、授業中にも適宜紹介する。

## 履修上の留意点

(1)講義では、スマートフォン、タブレット端末またはノートパソコンを使って検索してもらう項目があるので、いずれかを持参してください。

(2)上記のテキストや参考書3冊をはじめ人文・社会科学系の本は日頃からよく読んでおくこと。

## 授業計画

1 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)

2、3 社会科学とは何か

4~8 テキスト『「憲法改正」の真実』読解(授業では、ポピュリズムと民主主義・立憲主義との解説含む)

9~14 テキスト『憲法のリテラシー』(インターロード 憲法をどう教えるのか どのように主権者を育てるのか 人権をどう教えるのか)読解

15 刑事司法改革としての裁判員制度

## スタートアップ授業

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/](https://fukuoka-u.box.com/s/360zdsaignbci4g0nnn11px7ryybv726c)

[s/360zdsaignbci4g0nnn11px7ryybv726c](https://fukuoka-u.box.com/s/360zdsaignbci4g0nnn11px7ryybv726c))

## 添付ファイル

シラバス授業計画2 社会科学とは何か

(シラバス授業計画2 社会科学とは何か.docx)

## 和田 徹也

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 社会科学の視点の涵養: 社会科学とは何かについて、基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。 (DP1-1) (知識・理解)

A: 知識・理解, B: 技能, C: 態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 自然科学と対比し社会科学の学問上の特色を理解できる。 (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている (A, B, C)

3. 民主主義、立憲主義の意義について理解できる。 (DP2-2) (技能)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている (A, B, C)

4. 民主主義が立憲主義を破壊するとはどのようなことが説明できる。 (DP2-1) (技能)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5. 憲法上の「国民」概念について理解できる。 (DP2-2) (知識・理解)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (A, B, C)

6. 道徳的な「人権」と憲法上の「人権」の違いを説明できる。 (DP1-1) (知識・理解)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる (A, B, C)

7. 刑事裁判における裁判員制度の問題点について説明できる。 (DP3-1) (知識・理解)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる (A, C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる (B, C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる (A, B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる (B, C)

## 勝山 吉章

期別: 前期 単位数: 2 開講年次: 1 授業の種類: 対面授業科目 授業形態: 演習 実務経験: 無し 科目水準: 入門 試験実施: 無し  
授業時間割: 前期: 木・2 時限 試験時間割: 定期試験なし

## --- 概要 ---

「恋…何という魅力ある言葉だ。私はこの言葉を口にする時、何かしら心のときめきを感じる。しかし、悲しいかな、私は恋を知らない。恋とはヴェールに覆われた遠い彼方にあるものだ。私はどれほど恋に憧れたことか。しかし、遂に私はその実体を知らないまま終わってしまった…私の青春は一体何であったのか、私の青春は遂に何も残さずに終わった。否中断された。こんな遺書を残して、私は新しい世界に入っていくと。再び七隈の学園に戻って、書物をひもとくことは永久にないだろう…」

これは、福岡大学の前身校である福岡高等商業学校を学業半ばに繰り上げ卒業し、1945年4月12日、特攻隊員として知覧を飛び立ち戦死した安部静彦の遺書である。先の大戦では、多くの学生たちが学業半ばにしてペンを持つ手に銃をもち、戦場に行きそして戦没した。福岡大学も例外ではない。高度な教養をもつ彼らは、美辞麗句に飾られた戦争の本質を見抜き、日本の敗戦を予想しながら死地に向かっていった。そして残りわずかな人生と真剣に向き合い、多くの手記を残した。その手記からは、自らの死を納得させようとする苦悩と、あくまでも学生であることの誇りを窺い知ることができる。

今の君たちは、自由に書物を読むことができ、スポーツをしたり恋をすることができる。そして10年後、20年後、30年後の自分自身を思い浮かべることができるだろう。しかし、書物を読むことも、恋をすることも、10年後はおろか明日もなかった学生たちがいたことを君たちには知って欲しい。彼らが残した手記を読むことで、平和であること、自由があることの大切さを知ってもらいたい。

この授業はゼミ形式で行う。戦没学生の手記や、関連する動画などを見ながら、ありのままの感想を述べ合っていきたい。

## --- 授業の進行・方法 ---

この授業はゼミ形式で行う。戦没学生の手記や、関連する動画などを見ながら、ありのままの感想を述べ合っていきたい。また各授業毎に、Moodleを使って授業の理解度をはかり、応じて授業を進めていく。

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

第二次大戦と学徒出陣について基礎的な知識を身につける。(DP1-1)(知識・理解)

戦没学生について、もっと深く知ろうとする。(DP2-1)(知識・理解)

戦争という憎悪のなかにあっても、異文化への敬意をもった学生がいたことを知る。(DP2-2)(知識・理解)

自分の見解を的確に言語化し、かつ他者の発言を傾聴して、丁寧に議論しようとする意欲を持つ。(DP3-1)(知識・理解)

困難な状況にあっても、生きることの素晴らしさを知る。(DP3-2)(態度・志向性)

困難な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを発揮できる。(DP4-1)(知識・理解)

共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・志向性を身につける。(DP4-2)(技能)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

あらかじめテキストを読んで、感想をまとめておく。(90分)

授業後に、論議の内容を整理しておく。(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

まず何よりも日本国憲法の三原則(国民主権、基本的人権の尊重、平和主義)を体得しているかを問う。その上で、ゼミであることから、全ての授業に出席し、自らの感想、意見、見解を述べることを評価の基準とする。したがって、授業の参加状況、ゼミでの意見の表出、課題の提出などを総合的に判断する。なお、定期試験中に試験をしたり、追試験及び再試験をすることはしない。

## --- テキスト ---

新版 きけ わだつみのこえ 日本戦没学生の手記 岩波文庫 ISBN 9784003315712 1,210円

## --- 参考書 ---

ドイツ戦没学生の手紙 岩波新書 ISBN 400400022-X

## --- 履修上の留意点 ---

ゼミ科目であることから、特別な場合を除き、全出席を求める。また、ゼミでは自らの意見を積極的に述べるのが必須となる。

担当者は、眼病を患っていることについて、受講学生の理解をお願いしたい。

## --- 授業計画 ---

1. ガイダンス(スタートアップ)
2. 戦没学生の手記を読む(1)
3. 戦没学生の手記を読む(2)
4. 戦没学生の手記を読む(3)
5. 戦没学生の手記を読む(4)
6. 戦没学生の手記を読む(5)
7. 戦没学生の手記を読む(6)
8. 戦没学生の手記を読む(7)
9. 戦没学生の手記を読む(8)
10. 戦没学生の手記を読む(9)
11. 戦没学生の手記を読む(10)
12. 戦没学生の手記を読む(11)
13. 戦没学生の手記を読む(12)
14. 戦没学生の手記を読む(13)
15. まとめ。(FURIKAなどを含む)

## --- スタートアップ授業 ---

## スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ba9kbvhtk9sza2e6hhu53vr2w5d11tra>)

## 勝山 吉章

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1 DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.第二次大戦と学徒出陣について基礎的な知識を身につける。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.戦没学生について、もっと深く知ろうとする。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.戦争という憎悪のなかにあっても、異文化への敬意をもった学生がいたことを知る。(DP2-2) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.自分の見解を的確に言語化し、かつ他者の発言を傾聴して、丁寧に議論しようとする意欲を持つ。(DP3-1) (知識・理解)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.困難な状況にあっても、生きることの素晴らしさを知る。(DP3-2) (態度・志向性)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

6.困難な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを発揮できる。(DP4-1) (知識・理解)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

7.共同体の課題を当事者として捉えようとする態度・志向性を身につける。(DP4-2) (技能)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 橋場 論

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：木・2時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

--- 概要 ---

大学は、今や18歳人口の50%以上が進学する教育機関です。一昔前は限られた人々だけが進学していた大学も、現在では多くの人々に対して開かれた教育機関へと発展を遂げました。ほぼ全ての人が入学するようになって久しい小学校・中学校・高等学校と比べれば、大学は、社会における位置づけや役割が最も急激に変化した(変化している)教育機関であるともいえます。

だからこそ、世の中には大学に関する様々な考え方を持っている人々がいます。そして、何らかの考え方に基づいて社会(大学の外)から大学が批判されることもあれば、大学の中で異なる価値観に基づいた主張が衝突することもあります。しかし、大学を巡って交わされる議論の多くは、必ずしもうまくかみ合わずに終わってしまいがちです。こうした状況は、大学に関わる多くの人々が、実のところ、大学について良く知らないことによって生じるものだと考えられます。

皆さんは、現在、大学に所属して学んでいます。この講義を受講する段階では、大学に入学してから少なくとも半年以上を過ごしているはずですが、自身が籍を置いている大学という教育機関についてどの程度理解しているでしょうか。また、世の中に存在する大学に関する様々な考え方について、どれが妥当で、どれが妥当でないのか、根拠をもって判断できるでしょうか。

本講義では、世の中に存在する様々な大学観を想定しつつ、授業のテーマとして複数の疑問を取り上げます。そのうえで、歴史や海外との比較、制度上の位置付けなどの観点から掘り下げて検討していくことを通じて、皆さんが所属する教育機関である大学について理解を深めていきたいと思えます。

なお、2020年度以降、コロナ禍によって大学教育は大きな変更が迫られ、大学教育の意味や大学の存在意義が改めて問い直されました。本講義では、このような現在進行形で起こっている問題にも目を配りつつ、授業を進行していく予定です。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は担当教員によるレクチャーに加え、設定された問いに対して受講生が個人で意見をまとめたり、グループで意見交換やディスカッションを行うなどの活動を交えながら展開していきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

大学という教育機関に関して、歴史的・比較的・制度的視点から、その特徴を説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

世の中にあふれる「大学観」について、授業を通じて得た知識を用いながら、その内容の妥当性を検討することができる。(DP1-1)(技能)

自らが学ぶ大学という教育機関について、常に関心や疑問を持ちつつ、大学生活を送ることができる。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

復習：毎回の授業の内容について、自分の言葉でノートなどにまとめなおしてください。アウトプットしなければ、本当に理解できているかどうか確認できませんので、必ず取り組むように心がけてください。(120分)

その他：日常的に、テレビや新聞、インターネットなどを通じて、大学に関する様々な情報を得るようにしてください。また、友人やご家族などと大学に関する話をしてみてください。(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

到達目標として掲げた3つの目標について、以下の成績評価方法をとることによって、どの程度達成できているかを評価します。

【成績評価方法】

A) 授業で課した課題への取り組み状況(授業態度を含む)：30%

(到達目標の ~ について評価を行なう)

B) 定期試験：70%

(到達目標の ~ について評価を行なう)

遅刻・欠席をすると課題を提出できないことがあり、結果として減点の対象となりますので、注意してください。なお、授業やグループワークに参加していないのにも拘らず、あたかも参加したかのように装ってワークシートを提出する行為については、厳しく対応します。

--- テキスト ---

テキストは指定しません。毎回、スライド資料などを配布します。

--- 履修上の留意点 ---

一方的なレクチャーだけでなく、グループでのディスカッション等も交えながら進行する予定です。そうした活動への積極的な参加をよろしくお願ひします。大学(教育)について、「他の学生と一緒に議論し考えたい!」という学生の履修を歓迎します。

なお、テキストは指定しないので、授業時の配布資料等をこまめにファイリングしてください。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション(スタートアップ授業：動画配信)
2. なぜ、コロナ禍の学生は課題に追われたのか?( )
3. なぜ、コロナ禍の学生は課題に追われたのか?( )
4. 大学教育は社会に出てから役立つものであるべきか?( )
5. 大学教育は社会に出てから役立つものであるべきか?( )
6. 大学は何のための教育機関なのか?( )
7. 大学は何のための教育機関なのか?( )
8. 中間まとめ
9. 「公平」「公正」な大学入試制度とはどのようなものか?( )
10. 「公平」「公正」な大学入試制度とはどのようなものか?( )
11. 学費はどのように使われているのか?
12. コロナ禍における学費返還運動をどう考えれば良いのか?
13. 誰が教育費を負担すべきか?
14. 大学は多くなりすぎたのか?
15. まとめ(授業アンケートFURIKAの実施)

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/asnsogjq2tpnw1yeom0t7lxx1pmy7h7>)

## 橋場 論

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー ( DP )

1. 大学という教育機関に関して、歴史的・比較的・制度的視点から、その特徴を説明することができる。 ( DP2-1 ) ( 知識・理解 )

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性  
理念1 【 学び続けていくための確かな基礎 】

2. 世の中にあふれる「大学観」について、授業を通じて得た知識を用いながら、その内容の妥当性を検討することができる。 ( DP1-1 ) ( 技能 )

DP1-1 大学4年間 ( 6年間 ) の学びを支える基礎を身につけている ( A、B、C )

3. 自らが学ぶ大学という教育機関について、常に関心や疑問を持ちつつ、大学生活を送ることができる。 ( DP4-2 ) ( 態度・志向性 )

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている ( A、B、C )

理念2 【 多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ 】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる ( A、B、C )

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる ( A、B、C )

理念3 【 自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ 】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる ( A、C )

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる ( B、C )

理念4 【 地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性 】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる ( A、B )

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる ( B、C )

## 中世古 貴彦

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：後期：木・4時限 試験時間割：定期試験なし

## - - - 概要 - - -

大規模な教育制度（例：義務教育）を敷く現代社会において、教育は誰もが平等に享受できるものであるはずである。しかし、そこには様々な「格差」が潜んでおり、民主的な制度であるはずの教育が、社会的な格差を固定ないし拡大している（と批判されても仕方がない）ことさである。本授業では、我々が（もしかしたらそうと気付かずに）その中を生きてきた教育にまつわる様々な格差を、教育社会学的な視点から取り上げ、議論する。

大学生は、中等教育の修了者であり、高等教育の享受者であり、教育の在り方を変える主体となりえる市民でもある。また、将来親となった場合は、自分の子どもが享受する教育に関して、大きな関心を抱くはずである。社会の在り方から影響を受けながらも、社会を形作る一助ともなる教育について、改めて立ち止まって考える機会を持つことは、大学生にとって有意義な学びとなるだろう。

本授業では、教育に潜む様々な格差を焙り出すための教育社会学的な論点、データ、歴史的経緯などを踏まえた、学生同士のディスカッションを多く取り入れる。重要な点については授業内でも補足説明するが、受講者は事前に教科書の当該章を読了したうえで出席しなければならない(反転授業)。また、授業中は積極的に議論に参加しなければならない(アクティブ・ラーニング)。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

・受講生は教科書の各回の該当章を事前に精読し、独自に調べた内容なども踏まえて予習のメモを作成し、授業に持参する(時々提出を求める)。

・授業では座席をある程度指定する。教科書を読んだことを前提に、スライド資料に基づき教員が解説を加えるが、学生同士のディスカッションや、それを踏まえた発言の機会を多く設ける。

・授業後は、教科書や授業での議論をよく振り返り、期日までにミニレポートをMoodleから提出する。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

教育における格差に関して基礎的な知識を身に付け、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する様々な事象について、多角的に考察することができる。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回の授業に際し、教科書の該当章を事前に読み込み、疑問や関心を持ったことについて独自に調べておく。(120分)

当該週の授業や他の学生との議論を踏まえ、ミニレポートを毎回提出する。(60分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

・授業中の議論への積極的な参加(30%)  
教科書や他の学生との議論を踏まえた聴きごたえのある発言には加点する。

・毎回のミニレポートの提出回数、量、質(70%)  
教科書、独自に調べた情報、他の学生との議論等を踏まえているか、誤字脱字や文章のねじれがないか等も重要である。授業中の出席確認、予習課題の作成状況とも突合するため、ミニレポートの提出だけでは単位認定できない。

このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

## - - - テキスト - - -

中村高康・松岡亮二編著, 2021 『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房。ISBN: 9784623092604

## - - - 履修上の留意点 - - -

・予習をしない、議論に参加しない(私語、スマホ、居眠り等も含む)などの消極的な受講態度は、複数回の注意で単位不認定に相当する。

## - - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 教育は社会の中で行われている
3. 教育内容・方法は社会と深く関わっている
4. 教育は階層社会の現実から切り離せない
5. 「平等」なはずの義務教育にも学校間格差がある
6. 制度が隔離する高校生活
7. 教師は社会的存在である
8. 保護者・子どもの言動の背後にあるものを見据える
9. 教師はどのように生徒と関わってきたのか
10. 非行は学校教育と密接に結びついている
11. 進路が実質的に意味する生徒の未来
12. 「性別」で子どもの可能性を制限しないために
13. 日本の学校も多文化社会の中にある
14. 特別活動と部活動に忍びよる格差
15. 総括、授業アンケート

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/nmv3q7ibpavaeoalblvds83m9j7sokz2>

## 中世古 貴彦

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.教育における格差に関して基礎的な知識を身に付け、それらを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.教育に関する様々な事象について、多角的に考察することができる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 江玉 睦美

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：金・2時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

## --- 概要 ---

近年、子どもたちがみせる様々な姿が教育問題として取り上げられています。それらは、今という時代の中で学校、家庭、地域社会といった子どもたちを取り囲む環境とのかかわりで語られ、「最近の子どもは昔とは違う」という言葉がよく使われます。こうした状況の中で、実際に、昔に比べて子どもたちはどれだけ変わったのでしょうか、その結果、どのような問題が起きているのでしょうか、なぜ子どもたちは変わったのでしょうか、いくつかの問いが出てきます。これらの問いをときほぐし、教育の対象である子どもの今ある姿をとらえることが教育において重要なことだと考えます。

そこで本講義では、子どもたちが発達するうえでみられる問題について取り上げ、その背景にあるもの、問題のメカニズム、これからの社会や教育において必要なことについて考えていくことを目的とします。

## --- 授業の進行・方法 ---

講義内容においては、近年の子どもたちの姿を視聴覚教材や統計資料などを用いて実態把握する、発達上の問題を明確にし、要因について考える、改善のために必要なことについて考える、この3点をポイントとします。

本授業では、パワーポイントを活用した講義形式で行います。毎回、書き込み式のプリントを資料として配布します。

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

人間の発達について、発達の定義など基礎的な知識について説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

子どもの発達過程と各発達段階にみられる特徴を正確に述べることができるか(DP2-1)(知識・理解)

近年の子どもたちにみられる発達上の問題について背景や要因を理解し、今後のあり方を講義内容をふまえて自分の考えとして表現することができる(DP4-2)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：各回の授業テーマに関する資料やデータを調べる(120分)

復習：授業の終わりに提示される課題(各回の授業テーマに関する質問)に取り組む(60分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

定期試験 100%

- ・発達の定義や原理について説明することができるか(到達目標1)
- ・子どもの発達過程と各発達段階にみられる特徴を正確に述べることができるか(到達目標2)
- ・近年の子どもたちにみられる発達上の問題について背景や要因を理解し、今後のあり方までを講義内容をふまえて自分の考えとしてまとめることができるか(到達目標3)

以上の点を評価基準として、定期試験によって評価する。

## --- テキスト ---

テキストは指定しません。必要な資料は適宜、配布します。

## --- 参考書 ---

日本子ども資料年鑑2024 ISBN 9784877583903  
社会福祉法人恩賜財団母子愛育会愛育研究所編  
KTC中央出版  
2024年2月上旬発刊

## --- 履修上の留意点 ---

毎時間、質問カードを配布します。不適切な受講態度や他の学生の迷惑になる受講態度については厳しく対応します。

## --- 授業計画 ---

第1回 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)

授業の概要、進め方、到達目標等について  
発達の定義、発達と教育との関係

第2回 身体の発達

第3回 認知の発達

第4回 言葉の発達と読書行動

第5回 社会性の発達と子どもの仲間関係

第6回 子どもと遊び 遊びの要素

第7回 子どもと遊び 遊びの教育的意義

第8回 乳児期における人格の発達

第9回 幼児期における人格の発達

第10回 児童期における人格の発達

第11回 青年期における人格の発達

第12回 子どもの生活リズム 生活習慣の形成

第13回 子ども理解 (幼児期)

第14回 子ども理解 (児童期～青年期)

第15回 これからの社会と子どもの発達

授業アンケートFURIKAの実施

授業の進度は受講者の理解の状況を見ながら変更する可能性があります。

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/s/](https://fukuoka-u.box.com/s/immufs6rkrf73zp9rmrx4oypx3yuy77vc)

[immufs6rkrf73zp9rmrx4oypx3yuy77vc](https://fukuoka-u.box.com/s/immufs6rkrf73zp9rmrx4oypx3yuy77vc))

江玉 睦美

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.人間の発達について、発達の定義など基礎的な知識について説明することができる（DP1-1）（知識・理解）

2.子どもの発達過程と各発達段階にみられる特徴を正確に述べることができるか（DP2-1）（知識・理解）

3.近年の子どもたちにみられる発達上の問題について背景や要因を理解し、今後のあり方を講義内容をふまえて自分の考えとして表現することができる（DP4-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 草野 舞

期別:後期 単位数:2 開講年次:1 授業の種類:対面授業科目 授業形態:講義 実務経験:無し 科目水準:入門 試験実施:有り  
授業時間割:後期:水・二部1時限 試験時間割:2025/01/22 夜1限

## - - - 概要 - - -

## 授業の内容

「子どもは保護されるべき存在である」「親は子どもを養育すべく存在する」「子どもは学校に通うべき存在である」ということを「当たり前」と捉える人は多いでしょう。しかし、そのような「子どもの保護」や「学校」の仕組みはいつから、どのような理由で始まったのでしょうか。本講義では、学校の成立やイギリスを中心とした児童保護策の展開・それに関連する法制度などを整理することで、「教育」についての「当たり前」のもとになっているものについて考えることを目標とします。また、歴史的なものの見方・考え方を通して、現代の「教育課題」とされる事象について客観的に思考する態度を身につけることも目指します。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成した資料をもとに講義形式で行います。毎回の授業内容に関する小レポートにも取り組んでいただきます。数回の授業ではグループディスカッション等を行い、講義内容に関する理解を深めていきます。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

はい / Yes

## - - - 到達目標 - - -

教育をめぐるこれまでの法制度やそこでの子ども・家族の捉えられ方について理解を深める。(DP1-1)(知識・理解)

現代の「教育課題」とされる事象について、客観的・多角的に思考することができる。(DP2-1)(態度・志向性)

イギリスにおける児童保護の歴史的展開について理解し、子ども観や家族観の変遷について説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習:次回のテーマについて、自分自身の興味関心に基づいた情報収集を行う(80分)

復習:授業後は、理解できなかった点やさらに深く知りたいと思った内容についてよく確認し、各回の内容について理解を深める。(100分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

「到達目標」で示した3つの目標について、以下の成績評価方法を用いながら到達度を確認することとします。

各回の授業後に提出する小レポート:40%

定期試験:60%

## - - - テキスト - - -

適宜資料を配布します。授業内容にかかわる参考図書・参考資料についても、授業の際に適宜紹介します。

## - - - 履修上の留意点 - - -

講義内容によっては、グループディスカッション等を行う場合があります。積極的な参加を求めます。

## - - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業:動画配信)
2. 近代以前の生活世界と子ども
3. 「エミール」にみるルソーの教育論
4. 「子ども」の発見
5. 近代学校の成立
6. 子どもの保護と教育の展開 労働から教育へ 児童労働問題の展開
7. 子どもの保護と教育の展開 19世紀の児童保護立法とその特徴
8. 子どもの保護と教育の展開 イギリス児童虐待防止法の展開
9. 子どもの保護と教育の展開 優生学の登場
10. 子どもの保護と教育の展開 学校給食の成立
11. 子どもの保護と教育の展開 健康診断の成立
12. 現代社会における教育課題 「子どもの貧困」問題への取り組み
13. 現代社会における教育課題 児童虐待問題の現状と課題
14. 現代社会における教育課題 子どもと家族について
15. 全体のまとめ  
授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/fzm8u6da2r899vo62def79k9cye0raeo>)

## 草野 舞

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1.教育をめぐるこれまでの法制度やそこでの子ども・家族の捉えられ方について理解を深める。(DP1-1)(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1【学び続けていくための確かな基礎】

2.現代の「教育課題」とされる事象について、客観的・多角的に思考することができる。(DP2-1)(態度・志向性)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

3.イギリスにおける児童保護の歴史的展開について理解し、子ども観や家族観の変遷について説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

理念2【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 古川 不可知

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：月・5 時間 試験時間割：2024/08/01 6 時間

## - - - 概要 - - -

文化人類学とは、フィールドワークを通して「他者」の文化を学ぶと同時に、自分たちの「当たり前」を問い直してゆく学問である。本講義では、衣食住や儀礼といったトピックごとに、世界各地のさまざまな実践を紹介しながら、文化人類学の基礎的な考え方と概念を学んでゆく。講義全体の目的は、他者を理解するための基本的な視点を獲得するとともに、私たち自身が「当たり前」として見過ごしてきた事柄を再発見し、問い直し続けられる態度を身につけることである。

本講義は基本的にスライドを用いた講義形式で実施し、必要に応じて画像や映像資料を提示する。各回ではリアクションペーパーを提出し、自らの気づきや見解を言語化することを求める。

いわゆるグローバル化が進み、さまざまな文化の人々と隣り合って暮らす現在、他者を理解し、自らの常識とは本当に常識なのだろうかと考えるための学問的な知識と技術は、ますます重要なものとなっている。また「他者」とは必ずしも遠くの国の人々ではない。国内の他地域や大学内であっても異なる文化は存在するし、隣に座っている人も「他者」でありうる。人類学的な思考を身につけることは、この社会に生きるうえでの重要な手がかりとなるだろう。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

教員が作成した講義資料(moodleにアップロード)に基づき、講義形式で行う。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

異文化を理解し、自らの当たり前を問い直すために必要な知識と態度を身につけており、それらを説明できる(DP1-1)(技能)

文化人類学の基礎的な概念と考え方を身につけており、それらを説明できる(DP2-1)(知識・理解)

さまざまな他者の文化を理解するための方法論として、フィールドワークという考え方の基礎を身につけており、それを説明できる(DP4-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業資料に予め目を通す(80分)

授業中に紹介した参考資料に目を通す。もしくは授業中に示した概念を用いて身の回りを観察する。(100分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(70%)：文化人類学の主要な概念について正確に把握しているかを評価の基準とする

リアクションペーパー(30%)：世の中の事象を文化人類学の考え方を通して、自らの言葉で記述できているかを評価の基準とする

## - - - テキスト - - -

Moodleに授業資料をアップロードします

## - - - 参考書 - - -

『文化人類学の思考法』 ISBN 479071733X

## - - - 履修上の留意点 - - -

映像を通して見る異文化の実践は、ときに「残酷」「不快」と感じられることがあるかもしれません。そうした先入観を乗り越えることも本講義の目的の一つですので、予め了解しておいてください。

## - - - 授業計画 - - -

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業)(動画配信)
- 2.フィールドワークと民族誌(1)
- 3.フィールドワークと民族誌(2)
- 4.食と生業(1)
- 5.食と生業(2)
- 6.装いと住まい(1)
- 7.装いと住まい(2)
- 8.呪術と宗教(1)
- 9.呪術と宗教(2)
- 10.呪術と宗教(3)
- 11.贈与と売買(1)
- 12.贈与と売買(2)
- 13.民族と国家(1)
- 14.民族と国家(2)
- 15.まとめ 授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ric8gxsc21rbcqe6cluj8acazk1zau34>)

古川 不可知

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.異文化を理解し、自らの当たり前を問い直すために必要な知識と態度を身につけており、それらを説明できる (DP1-1) (技能)

2.文化人類学の基礎的な概念と考え方を身につけており、それらを説明できる (DP2-1) (知識・理解)

3.さまざまな他者の文化を理解するための方法論として、フィールドワークという考え方の基礎を身につけており、それを説明できる (DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 宮岡 真央子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：水・2 時限 試験時間割：2024/08/01 6 時限

## - - - 概要 - - -

文化人類学は、これまで異文化（他者）を主な研究対象として発展してきた学問である。異文化を知ることにより、自文化において「あたりまえ」であると思われるものが決して「あたりまえ」ではないことを発見し、それと同時に、異文化にも自文化にも共通するものの考え方やしくみが多くあることにも気づき、それらの経験から人類の文化の豊かさや可能性について考察してきた。そして今日では、他者から学びよりよい世界のあり方を考察することを重要な目標に掲げている。

本授業は講義形式で行う。まず文化という概念、ヒトという生物の特徴、言語などについて概観したうえで、文化人類学的方法的特徴であるフィールドワークと民族誌について述べる。続いて、親族、家族、宗教、儀礼、性などの項目ごとに具体的事例を取り上げながら、文化的存在としての人について考察し、文化人類学のもの見方や考え方を概説する。

文化人類学を通じて、よりよい社会のあり方を考える契機としてほしい。異文化と他者に強い関心をもち、自分にとって自明なもの見方や考え方を批判的にとらえ直す意欲のある人の受講を期待する。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業ではスライドを用い、必要に応じて板書で補足する講義形式の授業を実施する。授業資料はMoodleを通じて配布するので、事前に入手し、予習にも用いてほしい。授業終了時に提示する問いへの応答や授業に関するコメントなどはMoodleを通じて行ってもらおう。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

文化人類学の基本的な理論・知識を理解する。(DP1-1)(知識・理解)

文化人類学の立場から、人間が営む文化事象について具体的に説明することができる。(DP2-1)(技能)

自己の文化を他者の文化と照らし合わせながら、相対化して考えることができる。(DP2-2)(技能)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、教科書の指定された箇所や配付資料を事前に読み、わからない語句を調べる、身近な具体例を調べるなどしておく。(45分)

復習として、ノート整理を通じて学習内容を確認し、理解を確かなものとし、興味・関心を抱いた事項について文献等を用いて調べ、さらに理解・考察を深める。(45分)

日頃から国内外の多様なニュース、情報に積極的に接し、授業で学んだことと関連付けて考え、物事を複数の視点から多角的にとらえ思考する力を養うよう心がける。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(100%)により評価する。

試験では、授業内容に沿って、文化人類学の基本的概念・理論についての知識の習得度を測るとともに、身近な具体的事例について文化人類学の見方に基づき相対的な視点から説明する能力の有無を問う。

## - - - テキスト - - -

上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編『東アジアで学ぶ文化人類学』、昭和堂、2017年、本体2,200円＋税、ISBN 978-4-8122-1612-5  
 授業はmoodleを通じて配布する資料を用いて進めるため、購入は必須ではない。

## - - - 参考書 - - -

文化人類学[カレッジ版](第4版) ISBN 978-4-260-04220-8  
 文化人類学入門(増補改訂版) ISBN 978-4-12-190560  
 現代社会人類学 ISBN 978-4-335-56075-0  
 その他については、授業中に適宜紹介する。

## - - - 履修上の留意点 - - -

配布資料は、各自が事前にmoodleから取得し印刷して持参する形とする。詳細は受講生に別途連絡する。

## - - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 文化とは
3. ヒトの特徴
4. 言語のしくみ
5. フィールドワークと民族誌
6. 親族というつながり
7. 家族というまとまり
8. 宗教・信仰
9. 通過儀礼
10. 性差のとらえ方
11. ジェンダーとセクシュアリティ
12. 食
13. 贈与・交換
14. 生業と経済
15. 講義のまとめ、授業アンケートの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ftfli0ib11e4jxxztge57fweg95z80b>)

宮岡 真央子

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.文化人類学の基本的な理論・知識を理解する。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.文化人類学の立場から、人間が営む文化事象について具体的に説明することができる。(DP2-1) (技能)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.自己の文化を他者の文化と照らし合わせながら、相対化して考えることができる。(DP2-2) (技能)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 宮岡 真央子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：水・1時限 試験時間割：2024/08/01 6時限

## - - - 概要 - - -

文化人類学は、これまで異文化(他者)を主な研究対象として発展してきた学問である。異文化を知ることにより、自文化において「あたりまえ」であると思われるものが決して「あたりまえ」ではないことを発見し、それと同時に、異文化にも自文化にも共通するものの考え方やしくみが多くあることにも気づき、それらの経験から人類の文化の豊かさや可能性について考察してきた。そして今日では、他者から学びよりよい世界のあり方を考察することを重要な目標に掲げている。

本授業は講義形式で行う。まず文化という概念、ヒトという生物の特徴、言語などについて概観したうえで、文化人類学的方法的特徴であるフィールドワークと民族誌について述べる。続いて、親族、家族、宗教、儀礼、性などの項目ごとに具体的事例を取り上げながら、文化的存在としての人について考察し、文化人類学のもの見方や考え方を概説する。

文化人類学を通じて、よりよい社会のあり方を考える契機としてほしい。異文化と他者に強い関心をもち、自分にとって自明なもの見方や考え方を批判的にとらえ直す意欲のある人の受講を期待する。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業ではスライドを用い、必要に応じて板書で補足する講義形式の授業を実施する。授業資料はMoodleを通じて配布するので、事前に入手し、予習にも用いてほしい。授業終了時に提示する問いへの応答や授業に関するコメントなどはMoodleを通じて行ってもらおう。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

文化人類学の基本的な理論・知識を理解する。(DP1-1)(知識・理解)

文化人類学の立場から、人間が営む文化事象について具体的に説明することができる。(DP2-1)(技能)

自己の文化を他者の文化と照らし合わせながら、相対化して考えることができる。(DP2-2)(技能)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、教科書の指定された箇所や配付資料を事前に読み、わからない語句を調べる、身近な具体例を調べるなどしておく。(45分)

復習として、ノート整理を通じて学習内容を確認し、理解を確かなものとし、興味・関心を抱いた事項について文献等を用いて調べ、さらに理解・考察を深める。(45分)

日頃から国内外の多様なニュース、情報に積極的に接し、授業で学んだことと関連付けて考え、物事を複数の視点から多角的にとらえ思考する力を養うよう心がける。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(100%)により評価する。

試験では、授業内容に沿って、文化人類学の基本的概念・理論についての知識の習得度を測るとともに、身近な具体的事例について文化人類学の見方に基づき相対的な視点から説明する能力の有無を問う。

## - - - テキスト - - -

上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編『東アジアで学ぶ文化人類学』、昭和堂、2017年、本体2,200円+税、ISBN 978-4-8122-1612-5  
 授業はmoodleを通じて配布する資料を用いて進めるため、購入は必須ではない。

## - - - 参考書 - - -

文化人類学[カレッジ版](第4版) ISBN 978-4-260-04220-8  
 文化人類学入門(増補改訂版) ISBN 978-4-12-190560  
 現代社会人類学 ISBN 978-4-335-56075-0  
 その他については、授業中に適宜紹介する。

## - - - 履修上の留意点 - - -

配布資料は、各自が事前にmoodleから取得し印刷して持参する形とする。詳細は受講生に別途連絡する。

## - - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 文化とは
3. ヒトの特徴
4. 言語のしくみ
5. フィールドワークと民族誌
6. 親族というつながり
7. 家族というまとまり
8. 宗教・信仰
9. 通過儀礼
10. 性差のとらえ方
11. ジェンダーとセクシュアリティ
12. 食
13. 贈与・交換
14. 生業と経済
15. 講義のまとめ、授業アンケートの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/eyek1pupqdc7vp4vmvj5b0ztdycr5m5>

## 宮岡 真央子

全学部学科: DP1-1, DP2-1 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.文化人類学の基本的な理論・知識を理解する。(DP1-1) (知識・理解)

2.文化人類学の立場から、人間が営む文化事象について具体的に説明することができる。(DP2-1) (技能)

3.自己の文化を他者の文化と照らし合わせながら、相対化して考えることができる。(DP2-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 中村 亮

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：月・3 時限 試験時間割：2024/08/01 6 時限

## - - - 概要 - - -

本授業は、文化人類学の基礎的な理論と事例を学ぶ講義形式の授業です。

文化人類学とは、自文化とは異なる文化においてフィールドワークをおこない、現地の人びとの視点から異文化を理解してゆく学問です。異文化理解をつうじて、人間の生活様式の固有性、多様性、普遍性について考察することで「人間とは何か？」を探求することが文化人類学の目的です。

グローバル化がすすむ現代社会では、自文化を理解したうえで、異文化と適切につき合うことが重要です。自文化を知るためには「当たり前」を問い直す批判的思考が必要です。そのような批判的思考を、文化比較によって養うことができるのが文化人類学です。

授業では、文化人類学の方法・理論・学説史・事例（日本、タンザニア、スーダンなど）をつうじて、多様な文化的価値観について学習します。「授業資料」を使用して授業をすすめます。理解を助けるために、教員が作成した写真・映像資料をもちいます。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

・授業は、教員が作成した授業資料や画像・映像などをもちいた講義形式です。

・スライドを使用して授業をおこないます。

・授業資料や関連資料は、毎回Moodleにアップロードするので事前に確認してください。

\*Moodleの使用方法や「登録キー」は授業中に説明

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

文化人類学の基礎知識を身につけている(DP1-1)(知識・理解)

文化人類学の関連分野の基礎知識を身につけている(DP2-1)(知識・理解)

文化相対主義の心構えについて理解している(DP4-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業資料をもちいての予習(90分)

授業資料・参考文献などをもちいての復習(参考文献は授業中に紹介)(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(100%)：文化人類学に関する基礎的な方法と理論を理解し、自分の言葉で説明しながら論じることができるかを評価基準とします。

## - - - テキスト - - -

Moodleにアップする「授業資料」をテキストとして使用します。各自でプリントアウトして必ず授業に持参してください。

## - - - 参考書 - - -

波平恵美子編『文化人類学[カレッジ版]』医学書院、2011年 ISBN 978-260-01317-8

綾部恒雄編『文化人類学20の理論』弘文堂、2006年 ISBN 4-335-56112-1

- ・その他の参考書は授業中に適宜紹介
- ・参考書を購入する必要はない

## - - - 履修上の留意点 - - -

・大学は主体的に学ぶ場であることを自覚し、授業中の私語などの迷惑行為を慎むこと。

## - - - 授業計画 - - -

1. スタートアップ授業(動画配信)：シラバス確認・授業資料の取得方法・教員紹介など

2. 文化人類学の概要

3. 人間と文化

4. フィールドワーク

5. 個人と家族

6. 婚姻制度

7. 人生と通過儀礼

8. 儀礼論の展開

9. 中間まとめ

10. さまざまな宗教と信仰

11. 宗教と自然観

12. 健康・病気・医療

13. 人間と死

14. 21世紀の文化人類学

15. 講義まとめ、FURIKAアンケート

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/s/](https://fukuoka-u.box.com/s/m0ywyn8kw0cei1kxc4byxy8mknsmb7wm)

[m0ywyn8kw0cei1kxc4byxy8mknsmb7wm](https://fukuoka-u.box.com/s/m0ywyn8kw0cei1kxc4byxy8mknsmb7wm))

中村 亮

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP4-2

- 1.文化人類学の基礎知識を身につけている (DP1-1) (知識・理解)
- 2.文化人類学の関連分野の基礎知識を身につけている (DP2-1) (知識・理解)
- 3.文化相対主義の心構えについて理解している (DP4-2) (態度・志向性)

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



中村 亮

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：月・二部 1 時間 試験時間割：2024/07/29 夜 1 限

- - - 概要 - - -

本授業は、文化人類学の基礎的な理論と事例を学ぶ講義形式の授業です。

文化人類学とは、自文化とは異なる文化においてフィールドワークをおこない、現地の人びとの視点から異文化を理解してゆく学問です。異文化理解をつうじて、人間の生活様式の固有性、多様性、普遍性について考察することで「人間とは何か？」を探究することが文化人類学の目的です。

グローバル化がすすむ現代社会では、自文化を理解したうえで、異文化と適切につき合うことが重要です。自文化を知るためには「当たり前」を問い直す批判的思考が必要です。そのような批判的思考を、文化比較によって養うことができるのが文化人類学です。

授業では、文化人類学の方法・理論・学説史・事例（日本、タンザニア、スーダンなど）をつうじて、多様な文化的価値観について学習します。「授業資料」を使用して授業をすすめます。理解を助けるために、教員が作成した写真・映像資料をもちいます。

- - - 授業の進行・方法 - - -

・授業は、教員が作成した授業資料や画像・映像などをもちいた講義形式です。

・スライドを使用して授業をおこないます。

・授業資料や関連資料は、毎回Moodleにアップロードするので事前に確認してください。

\*Moodleの使用方法や「登録キー」は授業中に説明

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

文化人類学の基礎知識を身につけている(DP1-1)(知識・理解)

文化人類学の関連分野の基礎知識を身につけている(DP2-1)(知識・理解)

文化相対主義の心構えについて理解している(DP4-2)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業資料をもちいての予習(90分)

授業資料・参考文献などをもちいての復習(参考文献は授業中に紹介)(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(100%)：文化人類学に関する基礎的な方法と理論を理解し、自分の言葉で説明しながら論じることができるかを評価基準とします。

- - - テキスト - - -

Moodleにアップする「授業資料」をテキストとして使用します。各自でプリントアウトして必ず授業に持参してください。

- - - 参考書 - - -

波平恵美子編『文化人類学[カレッジ版]』医学書院、2011年 ISBN 978-260-01317-8

綾部恒雄編『文化人類学20の理論』弘文堂、2006年 ISBN 4-335-56112-1

- ・その他の参考書は授業中に適宜紹介
- ・参考書を購入する必要はない

- - - 履修上の留意点 - - -

・大学は主体的に学ぶ場であることを自覚し、授業中の私語などの迷惑行為を慎むこと。

- - - 授業計画 - - -

1. スタートアップ授業(動画配信)：シラバス確認・授業資料の取得方法・教員紹介など

2. 文化人類学の概要

3. 人間と文化

4. フィールドワーク

5. 個人と家族

6. 婚姻制度

7. 人生と通過儀礼

8. 儀礼論の展開

9. 中間まとめ

10. さまざまな宗教と信仰

11. 宗教と自然観

12. 健康・病気・医療

13. 人間と死

14. 21世紀の文化人類学

15. 講義まとめ、FURIKAアンケート

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/](https://fukuoka-u.box.com/s/8eu127i2lmvc2mmwjrcsc7ky3xhwuxpx)

[s/8eu127i2lmvc2mmwjrcsc7ky3xhwuxpx](https://fukuoka-u.box.com/s/8eu127i2lmvc2mmwjrcsc7ky3xhwuxpx))

中村 亮

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP4-2

- 1.文化人類学の基礎知識を身につけている (DP1-1) (知識・理解)
- 2.文化人類学の関連分野の基礎知識を身につけている (DP2-1) (知識・理解)
- 3.文化相対主義の心構えについて理解している (DP4-2) (態度・志向性)

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 中村 亮

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：前期：月・2 時限 試験時間割：定期試験なし

## --- 概要 ---

本授業は、文化人類学や異文化理解に興味のある学生を対象としたゼミナール（少人数の受講生によるゼミ形式）である。

文化人類学とは、異文化を理解すると同時に、自文化もしくは自分自身についても相対的に理解してゆく学問である。文化の多様性が尊重される21世紀において、異文化理解を専門とする文化人類学の考え方がますます重要視されている。

ゼミのすすめ方：フィールドワーク、贈与、文化遺産、アニミズム、呪術、通過儀礼、信仰などの文化人類学に関連するテーマから三つ選択し（テーマは第二回目の授業で決定）、それぞれについて、調べ、発表し、議論する。一つのテーマに4回分の授業時間をあてる。具体的には、テーマに関する講義【1回分】をしたうえで、テーマに関する発表と議論【3回分】を学生主体でおこなう。このセットを3回実施することで、文化人類学の基本的な考え方だけでなく、論理的思考法についても学ぶことを本授業の目的とする。

注意点：ゼミ形式なので、受講生には積極的な発言や取り組みが求められる。ゼミの一員であることを自覚し、分担発表は責任をもって必ずおこなうこと。当然のことながら無断欠席は厳禁である。なお、この授業の成績評価は、ゼミへの参加態度、発表、課題レポートによっておこなう。

## --- 授業の進行・方法 ---

- ・授業は、講義形式と演習（ゼミ）形式を組み合わせる実施
- ・話し合いで決定したテーマにもとづくグループワークとグループ発表（3回）を実施
- ・授業の進行における割合：講義（20%）、グループワークとグループ発表（80%）

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

文化人類学の基礎的な知識を身につけている(DP1-1)(知識・理解)

異文化理解における文化相対主義の大切さを理解している(DP2-1)(知識・理解)

授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる(DP2-2)(知識・理解)

問題意識を探索し、それを論理的に説明することができる(DP3-1)(態度・志向性)

文化人類学に関連する諸領域の基礎的な知識を用いて、文化相対主義や文化多様性について自分の見解を述べる事ができる(DP4-1)(知識・理解)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

授業資料をもちいての予習やテーマについての発表準備(60分)

発表資料や参考文献をもちいての復習（参考文献は授業中に紹介）(60分)

日ごろから文化的事象に関心をもち関連情報を収集(60分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

ゼミへの参加態度（20%）：積極性を評価（授業理解度・議論での発言・発表準備への取り組みなど）

発表（40%）：理解力とレジュメ内容を評価（先行研究の正しい引用＋自分なりの考察ができるか）

課題レポート（40%）：論理性を評価（発表時の質問・コメント・議論などをふまえ、論理的に記述できるか）

注意：本授業では定期試験を実施しないため再試験も実施しない

## --- テキスト ---

- ・必要に応じて授業中に配布
- ・授業資料などはMoodleをつうじて共有
- \*Moodleの使い方や「登録キー」は授業中に説明

## --- 参考書 ---

波平恵美子編『文化人類学 [ カレッジ版 ]』医学書院、2011年 ISBN 978-260-01317-8

- ・その他の参考書は授業中に紹介
- ・参考書を購入する必要はない

## --- 履修上の留意点 ---

- ・ゼミの一員であることを自覚し、発表などに責任をもつこと
- ・無断欠席は厳禁
- ・受講生の人数に応じて「授業計画」を一部変更する場合があります

## --- 授業計画 ---

1. スタートアップ授業（動画配信）：シラバス確認・ゼミのすすめ方・講師紹介など
2. 授業ガイダンス、グループ分け、テーマ決定
3. テーマ1についての講義
4. 発表と議論
5. 発表と議論
6. 発表と議論、テーマ1のまとめ
7. テーマ2についての講義
8. 発表と議論
9. 発表と議論
10. 発表と議論、テーマ2のまとめ
11. テーマ3についての講義
12. 発表と議論
13. 発表と議論
14. 発表と議論、テーマ3のまとめ
15. ゼミの総括、FURIKAアンケートの実施

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/5y4gq71gfz7cj8uns7ihwcvdts8h4bq1>

中村 亮

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1 DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.文化人類学の基礎的な知識を身につけている (DP1-1) (知識・理解)
- 2.異文化理解における文化相対主義の大切さを理解している (DP2-1) (知識・理解)
- 3.授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる (DP2-2) (知識・理解)
- 4.問題意識を探求し、それを論理的に説明することができる (DP3-1) (態度・志向性)
- 5.文化人類学に関連する諸領域の基礎的な知識を用いて、文化相対主義や文化多様性について自分の見解を述べる (DP4-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

古川 不可知

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：月・5 時限 試験時間割：2025/01/27 6 時限

- - - 概要 - - -

文化人類学とは、フィールドワークを通して「他者」の文化を学ぶと同時に、自分たちの「当たり前」を問い直してゆく学問である。本講義の目的は、2000年代以降の文化人類学が何を問題とし、どのような議論がおこなわれてきたのかを概観することで、急速な変化を続ける現代社会について多角的な観点から考察する態度を身につけることである。

本講義は基本的にスライドを用いた講義形式で実施し、必要に応じて画像や映像資料を提示する。各回ではリアクションペーパーを提出し、自らの気づきや見解を言語化することを求める。

現在いわゆるグローバル化は地球上を覆い尽くし、遠くにいる「他者」という従来の想像力は失効しつつある。また技術や社会の変化によって、私たちの社会の「当たり前」もまた揺るがされ続けている。こうした状況下において、「他者」の研究を標榜する人類学は何を語りうるのだろうか。

一つだけ例を挙げれば、生殖医療技術の発展や同性婚の浸透は一人の子供に複数の同性の親がいることを可能として家族の概念を混乱させ、しばしば「保守」主義的な反動も引き起こしている。だが世界を見渡してみれば、父親や母親が複数いる社会は、むしろ一妻一夫の社会よりも多数派なのである。ある意味で文化人類学は、私たちの未来をすでに生きている人々を研究してきたのであり、本講義ではますます変化の度を高める現代を生きるための手がかりを人類学の観点から見出してゆきたい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

教員が作成した講義資料(moodleにアップロード)に基づき、講義形式で行う。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

2000年代以降の文化人類学および人文知が扱ってきた問題系の概要を把握しており、それらを説明できる(DP1-1)(知識・理解)

分野や人間の領域を超えて広がる人類学の知と態度を通して、多角的な視野を身につけている(DP2-2)(態度・志向性)

現代社会の諸問題に対して当事者の視点からアプローチするための知と態度を身につけている(DP4-2)(技能)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業資料に予め目を通す(80分)

授業中に紹介した参考資料に目を通す。もしくは授業中に示した概念を用いて身の回りを観察する。(100分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(70%)：現代人類学の主要な概念について正確に把握しているかを評価の基準とする

リアクションペーパー(30%)：現代社会の事象を、文化人類学の考え方を通して自らの言葉で記述できているかを評価の基準とする

- - - テキスト - - -

Moodleに授業資料をアップロードします

- - - 参考書 - - -

『文化人類学の思考法』 ISBN 479071733X

『21世紀の文化人類学』 ISBN 4788515822

『詳論 文化人類学』 ISBN 4623082717

- - - 履修上の留意点 - - -

・「文化人類学 A」を受講していることが望ましい。未履修の場合は参考書を読んでおくこと  
 ・映像を通して見る異文化の実践は、ときに「残酷」「不快」と感じられることがあるかもしれません。そうした先入観を乗り越えることも本講義の目的の一つですので、予め了解しておいてください。

- - - 授業計画 - - -

- 1.イントロダクション(スタートアップ授業)(動画配信)
- 2.フィールドワークと他者を書くこと
- 3.家族とは誰か
- 4.死と文化
- 5.医療と病
- 6.通過儀礼
- 7.多種の人類学
- 8.科学と技術の人類学
- 9.インフラストラクチャーの人類学
- 10.グローバル化と人類学
- 11.開発と人類学
- 12.観光の人類学(1)
- 13.観光の人類学(2)
- 14.歩く身体と存在をめぐって
- 15.まとめ 授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/mxvayl2gsgsnxzgq0wk3poowxemyqxtc>)

古川 不可知

全学部学科: DP1-1,DP2-2 DP4-2

1.2000年代以降の文化人類学および人文知が扱ってきた問題系の概要を把握しており、それらを説明できる (DP1-1) (知識・理解)

2.分野や人間の領域を超えて広がる人類学の知と態度を通して、多角的な視野を身につけている (DP2-2) (態度・志向性)

3.現代社会の諸問題に対して当事者の視点からアプローチするための知と態度を身につけている (DP4-2) (技能)

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 宮岡 真央子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：水・2 時間 試験時間割：2025/01/27 6 時間

## - - - 概要 - - -

近代以降今日までの人の移動にともなって生きてきた、自らとは文化的背景が異なる他者（以下、文化的他者）との出会いに焦点を当て、多様な文化の共存のあり方について考察する。なお、本授業は講義形式で行う。

人類は大航海時代以来、大洋を越えた移動により、従来その存在すら知ることのなかった文化的他者との出会いを経験するようになった。今日、それはわたしたちの日常生活のなかでも進行している。ある集団や個人が文化的他者と出会うとき、衝突や排除のみならず、交渉や交流も展開する。そこにおいては、新たな文化やアイデンティティが生まれることもある。このような世界史的展開と現代社会の動向について、文化人類学的に考察をする。

授業では、まず人と土地との結びつきについて確認したうえで、近代の植民地主義、そこで用いられてきた「人種」概念や同化政策、そして植民地状況下での文化の構築について学ぶ。続いて、異なる文化的背景を抱える諸集団が隣接して暮らす状況で生成するエスニシティのあり方について、先住民、少数民族などを例に概説する。さらに、移民や難民について当事者の日常的な視点から知ったうえで、日本において行政を中心に謳われる「多文化共生」の課題や可能性について考察する。また、私たちが他者と出会う最も身近な場としての観光についても取り上げたい。

以上をふまえ、多様な他者とともに暮らし、多様な文化が共存するよりよいあり方について、受講生自身の問題として考える機会とする。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業ではスライドを用い、必要に応じて板書で補足する講義形式の授業を実施する。授業資料はMoodleを通じて配布するので、事前に入手し、予習にも用いてほしい。授業終了時に提示する問いへの応答、授業に関するコメントなどはMoodleを通じて行ってもらおう。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

文化人類学の基本的な理論・知識を理解する。(DP1-1)(知識・理解)

近代以降の人の移動と文化的他者との出会いの諸現象について、文化人類学の見方に則って具体的に説明できる。(DP2-2)(技能)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、教科書の指定された箇所と配布資料を事前に読み、わからない語句などを調べておく。(45分)

復習として、学習内容を確認して理解を確かなものとし、興味・関心を抱いた事項について文献等を用いて調べ、さらに理解・考察を深める。(45分)

日頃から国内外の多様なニュース、情報に積極的に接し、物事を複数の視点から多角的にとらえ思考する力を養うよう心がける。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験により評価する。(100%)

定期試験では、授業内容に沿って、文化人類学における基礎的知識、基本的なものの見方や考え方についての理解度を測るとともに、具体的事例についてこれらを用いて説明・論述する能力の有無を問う。

## - - - テキスト - - -

上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編『東アジアで学ぶ文化人類学』、昭和堂、2017年、本体2,200円＋税、ISBN 978-4-8122-1612-5

授業はmoodleを通じて配布する資料を用いて進めるため、購入は必須ではない。

## - - - 参考書 - - -

「先住民」とはだれか ISBN 9784790714385

土地所有の政治史 ISBN 9784938774

驚異と占有：新世界の驚き ISBN 9784622046943

綾部恒雄監修『講座 世界の先住民民族 ファースト・ピー

プルズの現在 第1-10巻』明石書店、2005-8年

その他、授業中に適宜紹介する。

## - - - 履修上の留意点 - - -

配布資料は、各自が事前にmoodleから取得し印刷して持参する形とする。詳細は受講生に別途連絡する。

## - - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 人と土地との結びつき
3. 近代植民地の誕生
4. 「人種」概念と同化政策
5. 植民地状況における文化の構築
6. 先住民の誕生、国家との交渉
7. エスニシティの覚醒
8. アイデンティティの複数性
9. マイノリティと国家
10. 移民、難民、ディアスポラ
11. トランスナショナリズム
12. 移民と暮らす社会
13. 「多文化共生」
14. 観光における他者との出会い
15. 講義のまとめ、授業アンケートの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/s/](https://fukuoka-u.box.com/s/lvijwakpj5h4fz20zz0w1hx29beg1kcg)

[lvijwakpj5h4fz20zz0w1hx29beg1kcg](https://fukuoka-u.box.com/s/lvijwakpj5h4fz20zz0w1hx29beg1kcg))

宮岡 真央子

全学部学科: DP1-1,DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.文化人類学の基本的な理論・知識を理解する。(DP1-1) (知識・理解)

2.近代以降の人の移動と文化的他者との出会いの諸現象について、文化人類学の見方に則って具体的に説明できる。(DP2-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 宮岡 真央子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：水・1時限 試験時間割：2025/01/27 6時限

## - - - 概要 - - -

近代以降今日までの人の移動にともなって生きてきた、自らとは文化的背景が異なる他者（以下、文化的他者）との出会いに焦点を当て、多様な文化の共存のあり方について考察する。なお、本授業は講義形式で行う。

人類は大航海時代以来、大洋を越えた移動により、従来その存在すら知ることのなかった文化的他者との出会いを経験するようになった。今日、それはわたしたちの日常生活のなかでも進行している。ある集団や個人が文化的他者と出会うとき、衝突や排除のみならず、交渉や交流も展開する。そこにおいては、新たな文化やアイデンティティが生まれることもある。このような世界史的展開と現代社会の動向について、文化人類学的に考察をする。

授業では、まず人と土地との結びつきについて確認したうえで、近代の植民地主義、そこで用いられてきた「人種」概念や同化政策、そして植民地状況下での文化の構築について学ぶ。続いて、異なる文化的背景を抱える諸集団が隣接して暮らす状況で生成するエスニシティのあり方について、先住民、少数民族などを例に概説する。さらに、移民や難民について当事者の日常的な視点から知ったうえで、日本において行政を中心に謳われる「多文化共生」の課題や可能性について考察する。また、私たちが他者と出会う最も身近な場としての観光についても取り上げたい。

以上をふまえ、多様な他者とともに暮らし、多様な文化が共存するよりよいあり方について、受講生自身の問題として考える機会とする。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業ではスライドを用い、必要に応じて板書で補足する講義形式の授業を実施する。授業資料はMoodleを通じて配布するので、事前に入手し、予習にも用いてほしい。授業終了時に提示する問いへの応答、授業に関するコメントなどはMoodleを通じて行ってもらおう。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

文化人類学の基本的な理論・知識を理解する。(DP1-1)(知識・理解)

近代以降の人の移動と文化的他者との出会いの諸現象について、文化人類学の見方に則って具体的に説明できる。(DP2-2)(技能)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習として、教科書の指定された箇所と配布資料を事前に読み、わからない語句などを調べておく。(45分)

復習として、学習内容を確認して理解を確かなものとし、興味・関心を抱いた事項について文献等を用いて調べ、さらに理解・考察を深める。(45分)

日頃から国内外の多様なニュース、情報に積極的に接し、物事を複数の視点から多角的にとらえ思考する力を養うよう心がける。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験により評価する。(100%)

定期試験では、授業内容に沿って、文化人類学における基礎的知識、基本的なものの見方や考え方についての理解度を測るとともに、具体的事例についてこれらを用いて説明・論述する能力の有無を問う。

## - - - テキスト - - -

上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編『東アジアで学ぶ文化人類学』、昭和堂、2017年、本体2,200円＋税、ISBN 978-4-8122-1612-5

授業はmoodleを通じて配布する資料を用いて進めるため、購入は必須ではない。

## - - - 参考書 - - -

「先住民」とはだれか ISBN 9784790714385

土地所有の政治史 ISBN 9784938774

驚異と占有：新世界の驚き ISBN 9784622046943

綾部恒雄監修『講座 世界の先住民族 ファースト・ピー

プルズの現在 第1-10巻』明石書店、2005-8年

その他、授業中に適宜紹介する。

## - - - 履修上の留意点 - - -

配布資料は、各自が事前にmoodleから取得し印刷して持参する形とする。詳細は受講生に別途連絡する。

## - - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 人と土地との結びつき
3. 近代植民地の誕生
4. 「人種」概念と同化政策
5. 植民地状況における文化の構築
6. 先住民の誕生、国家との交渉
7. エスニシティの覚醒
8. アイデンティティの複数性
9. マイノリティと国家
10. 移民、難民、ディアスポラ
11. トランスナショナリズム
12. 移民と暮らす社会
13. 「多文化共生」
14. 観光における他者との出会い
15. 講義のまとめ、授業アンケートの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/w4c3l5r9rp8lsovmwygwrhpsqzfcntz>)

宮岡 真央子

全学部学科: DP1-1,DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.文化人類学の基本的な理論・知識を理解する。(DP1-1) (知識・理解)

2.近代以降の人の移動と文化的他者との出会いの諸現象について、文化人類学の見方に則って具体的に説明できる。(DP2-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 中村 亮

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：月・3 時間 試験時間割：2025/01/27 6 時間

## - - - 概要 - - -

本授業は、文化人類学の観点から「環境」と「開発」について学ぶ講義形式の授業です。

21世紀人類は地球規模の環境問題に直面しています。限りある資源を持続的に利用してゆくことが世界共通の課題です。地球規模（グローバル）での環境や開発の問題解決のためには何よりもまず、地域（ローカル）での資源利用・管理の知恵や技術について知る必要があります。そのためには、住民の視点に立って地域の生活文化を理解することができる文化人類学の方法が有効です。

授業では、環境保全や観光開発などの問題について、文化人類学の観点から学習します。理解を助けるために、教員が作成した授業資料や世界各地の写真・映像資料を使用します。

日本の里山や里海の事例に加えて、海外の事例（タンザニア、スーダン、エジプトなど）も学ぶことで、比較文化の視点を養います。これによって、現代の環境や開発をめぐる問題を考える際に、なぜ「文化相対主義」や「グローバル」な姿勢が重要なのか、また、文化人類学に何ができるのか、について考察します。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

・授業は、教員が作成した授業資料や画像・映像などを持ちいた講義形式です。

・スライドを使用して授業をおこないます。

・授業資料や関連資料は毎回Moodleにアップロードするので事前に確認してください。

\*Moodleの使い方や「登録キー」については授業中に説明

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

文化人類学の観点からグローバル/ローカルに展開する環境や開発の問題について考え説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

環境や開発をめぐる諸問題について、文化人類学および関連分野の基礎知識を身につけている(DP2-2)(態度・志向性)

文化相対主義の心構えについて理解している(DP4-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業資料を持ちいての予習(90分)

授業資料・参考文献などを持ちいての復習(参考文献は授業中に紹介)(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(100%)：環境と開発の文化人類学に関する基礎的な理論と学説史を理解し、自分の言葉で説明して論じることができるかを評価基準とします。

## - - - テキスト - - -

Moodleにアップする「授業資料」をテキストとして使用します。各自でプリントアウトして必ず授業に持参してください。

## - - - 参考書 - - -

池谷和信編『地球環境問題の人類学』世界思想社、2003年 ISBN 978-4-7907-1018-9

リオール・ノラン『開発人類学：基本と実践』古今書院、2013年 ISBN 978-4-7722-3112-1

・その他の参考書は授業中に適宜紹介  
 ・参考書の購入の必要はない

## - - - 履修上の留意点 - - -

・文化人類学の基礎的な知識を習得していると理解が深まるので「文化人類学A」を受講していることが望ましい。  
 ・大学は主体的に学ぶ場であることを自覚し、授業中の私語などの迷惑行為を慎むこと。

## - - - 授業計画 - - -

1. スタートアップ授業(動画配信)：シラバス確認・授業資料の取得方法・教員紹介など

2. 環境の人類学1：文化人類学の概要

3. 環境の人類学2：クジラは誰のものか？

4. 開発の人類学1：開発と発展

5. 開発の人類学2：ESDとSDGs

6. 日本と西欧の自然観

7. 日本の祭礼文化

8. 日本の漁民文化

9. 中間まとめ

10. 環境保全の課題1：エジプトの海洋保護区

11. 環境保全の課題2：スーダンの海洋保護区

12. 観光開発の課題：タンザニアの世界遺産

13. 環境・開発と信仰：タンザニアの精霊信仰

14. 環境・開発と儀礼：タンザニアの男子割礼

15. 講義まとめ、FURIKAアンケートの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/9mtfpatowa6b6voe1ixmyrd6qfu20run>)

中村 亮

全学部学科: DP1-1,DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.文化人類学の観点からグローバル/ローカルに展開する環境や開発の問題について考え説明することができる (DP1-1) (知識・理解)

2.環境や開発をめぐる諸問題について、文化人類学および関連分野の基礎知識を身につけている (DP2-2) (態度・志向性)

3.文化相対主義の心構えについて理解している (DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 中村 亮

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：月・二部 1 時間 試験時間割：2025/01/20 夜 1 限

## - - - 概要 - - -

本授業は、文化人類学の観点から「環境」と「開発」について学ぶ講義形式の授業です。

21世紀人類は地球規模の環境問題に直面しています。限りある資源を持続的に利用してゆくことが世界共通の課題です。地球規模（グローバル）での環境や開発の問題解決のためには何よりもまず、地域（ローカル）での資源利用・管理の知恵や技術について知る必要があります。そのためには、住民の視点に立って地域の生活文化を理解することができる文化人類学の方法が有効です。

授業では、環境保全や観光開発などの問題について、文化人類学の観点から学習します。理解を助けるために、教員が作成した授業資料や世界各地の写真・映像資料を使用します。

日本の里山や里海の事例に加えて、海外の事例（タンザニア、スーダン、エジプトなど）も学ぶことで、比較文化の視点を養います。これによって、現代の環境や開発をめぐる問題を考える際に、なぜ「文化相対主義」や「グローバル」な姿勢が重要なのか、また、文化人類学に何ができるのか、について考察します。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

・授業は、教員が作成した授業資料や画像・映像などを持ちいた講義形式です。

・スライドを使用して授業をおこないます。

・授業資料や関連資料は毎回Moodleにアップロードするので事前に確認してください。

\*Moodleの使い方や「登録キー」については授業中に説明

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

文化人類学の観点からグローバル/ローカルに展開する環境や開発の問題について考え説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

環境や開発をめぐる諸問題について、文化人類学および関連分野の基礎知識を身につけている(DP2-2)(態度・志向性)

文化相対主義の心構えについて理解している(DP4-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業資料を持ちいての予習(90分)

授業資料・参考文献などを持ちいての復習(参考文献は授業中に紹介)(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験(100%)：環境と開発の文化人類学に関する基礎的な理論と学説史を理解し、自分の言葉で説明して論じることができるかを評価基準とします。

## - - - テキスト - - -

Moodleにアップする「授業資料」をテキストとして使用します。各自でプリントアウトして必ず授業に持参してください。

## - - - 参考書 - - -

池谷和信編『地球環境問題の人類学』世界思想社、2003年 ISBN 978-4-7907-1018-9

リオール・ノラン『開発人類学：基本と実践』古今書院、2013年 ISBN 978-4-7722-3112-1

・その他の参考書は授業中に適宜紹介  
 ・参考書の購入の必要はない

## - - - 履修上の留意点 - - -

・文化人類学の基礎的な知識を習得していると理解が深まるので「文化人類学A」を受講していることが望ましい。  
 ・大学は主体的に学ぶ場であることを自覚し、授業中の私語などの迷惑行為を慎むこと。

## - - - 授業計画 - - -

1. スタートアップ授業(動画配信)：シラバス確認・授業資料の取得方法・教員紹介など

2. 環境の人類学1：文化人類学の概要

3. 環境の人類学2：クジラは誰のものか？

4. 開発の人類学1：開発と発展

5. 開発の人類学2：ESDとSDGs

6. 日本と西欧の自然観

7. 日本の祭礼文化

8. 日本の漁民文化

9. 中間まとめ

10. 環境保全の課題1：エジプトの海洋保護区

11. 環境保全の課題2：スーダンの海洋保護区

12. 観光開発の課題：タンザニアの世界遺産

13. 環境・開発と信仰：タンザニアの精霊信仰

14. 環境・開発と儀礼：タンザニアの男子割礼

15. 講義まとめ、FURIKAアンケートの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/yjsc2t2fuossiweaag0s4bd062vq9leb>)

中村 亮

全学部学科: DP1-1,DP2-2 DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.文化人類学の観点からグローバル/ローカルに展開する環境や開発の問題について考え説明することができる (DP1-1) (知識・理解)

2.環境や開発をめぐる諸問題について、文化人類学および関連分野の基礎知識を身につけている (DP2-2) (態度・志向性)

3.文化相対主義の心構えについて理解している (DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 宮岡 真央子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
授業時間割：後期：月・3時限 試験時間割：定期試験なし

## --- 概要 ---

人は文化を営む存在である。文化人類学は、個別具体的な社会における人の暮らし方や考え方を知ることから、文化の多様性・個性／一様性・普遍性について考え、人間とはどのような存在かを知り、考えてきた。今日では、自分と他者とのよりよい関わり方、よりよい社会のあり方を探ることをも重要な目標としている。

本授業は、初回の対面授業でまず受講生と相談し、家族、婚姻、経済、儀礼、ジェンダー、観光、記憶など、文化人類学の主要な研究テーマのなかから3つ程度、授業で取り扱うテーマを選定する。各テーマについて、教員が講義をした後、各受講生が参考書などをもとに調べ、それを持ち寄っておこなうグループワークにより、内容をとりまとめ、全体に向けて発表する。これらを通じて、文化人類学の基本的な考え方や理論を学ぶとともに、これらを自分に身近な事象に引きつけて認識・思考・議論することを目指す。

学期末には、授業を通じて得た問題意識をもとに各自テーマをさらに掘り下げる形でフィールドワークや文献調査を行い、レポートに仕上げる。

以上をふまえ、多様な他者とともに暮らし、多様な文化が共存する世界のあり方について、受講生自身の問題として考える機会とする。

受講生には積極的姿勢と旺盛な学習意欲を期待する。

## --- 授業の進行・方法 ---

演習形式で行う。対面授業のはじめに相談して選定したテーマについて、それぞれ4回分程度の授業で取り扱う。

その4回のなかでは初めにまず教員による講義で概要を学ぶ。それをふまえて受講生各自が課題としてさらに身近な事例や参考文献などを用いて詳しく調べ、授業でその結果を持ち寄って2回のグループワークを行い、都度簡単に進捗を報告する。最後にこの成果をとりまとめた発表を全体に向けて行う。この流れを各テーマで繰り返す。

テーマによっては学内でのフィールドワーク、図書館での文献調査などを授業内で行うことも視野に入れている。

## --- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

## --- 到達目標 ---

文化人類学の基本的な理論や知識を習得する。(DP1-1)(知識・理解)

文化相対主義の意味を理解している。(DP2-1)(知識・理解)

文化人類学と文化相対主義の考え方にに基づき、具体的な文化的事象を説明できる。(DP2-2)(技能)

グループワークなどの他者との議論において、責任ある発言ができる。(DP3-1)(態度・志向性)

文化人類学の諸テーマに関する調査に計画的に取り組むことができる。(DP3-2)(技能)

文化人類学の思考方法やアプローチを用いて、文化と社会をめぐる具体的な諸事象を検討することができる。(DP4-1)(技能)

文化と社会をめぐる諸事象を自分自身と結びつけて具体的に考えようとする姿勢をもつ。(DP4-2)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

授業で取り扱うテーマに関し、各種調査を実施する。(120分)

学期中を通じて、期末レポート作成に向けた準備を進める。(60分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

(1)各自の調査 30%、(2)グループワーク 40%、(3)期末レポート 30%を目安として総合的に評価する。

(1)は、課題に対する考察や調査の深度を評価基準とする。(2)は、積極性および発言・役割による貢献の度合いを評価基準とする。(3)は、明確な問題意識、その問題に対する具体的記述と考察・結論、授業で学習・考察したことからや自らの調査などで得た知識・問題意識の応用、出典明記などの諸条件の有無を評価基準とする。

なお、このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

## --- テキスト ---

特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

## --- 参考書 ---

よくわかる文化人類学 [第2版] ISBN 9784623056965

日本で学ぶ文化人類学 ISBN 9784812221051

ようこそ文化人類学へ ISBN 9784812216064

そのほか、授業中に適宜紹介する。

## --- 履修上の留意点 ---

ゼミであるため無断欠席は厳禁とする。欠席回数が多い場合、単位取得は難しい。

この授業で扱う内容は、文化人類学Aの内容と一部重複しうる。しかし、本授業でグループワークによって課題に取り組むことが、さらなる理解と思索を深める機会となることはいうまでもない。

## --- 授業計画 ---

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 自己紹介、授業の進行方法の確認、テーマ選定
3. テーマ1についての講義
4. グループワークと進捗報告
5. グループワークと進捗報告
6. 全体発表と議論、テーマ1のまとめ
7. テーマ2についての講義
8. グループワークと進捗報告
9. グループワークと進捗報告
10. 全体発表と議論、テーマ2のまとめ
11. テーマ3についての講義
12. グループワークと進捗報告
13. グループワークと進捗報告
14. 全体発表と議論、テーマ3のまとめ
15. 授業のまとめ、授業アンケート実施

選択したテーマの内容とその調査方法、授業の進捗などの諸条件に鑑み、上記計画に一部変更が生じる可能性もある。

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/t09btye50ycx0142bomaqxb1sbfxiv>)

## 宮岡 真央子

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1 DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.文化人類学の基本的な理論や知識を習得する。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.文化相対主義の意味を理解している。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.文化人類学と文化相対主義の考え方にに基づき、具体的な文化的事象を説明できる。(DP2-2) (技能)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.グループワークなどの他者との議論において、責任ある発言ができる。(DP3-1) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.文化人類学の諸テーマに関する調査に計画的に取り組むことができる。(DP3-2) (技能)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

6.文化人類学の思考方法やアプローチを用いて、文化と社会をめぐる具体的な諸事象を検討することができる。(DP4-1) (技能)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

7.文化と社会をめぐる諸事象を自分自身と結びつけて具体的に考えようとする姿勢をもつ。(DP4-2) (態度・志向性)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 守谷 賢輔

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：火・1時限 試験時間割：2025/01/20 6時限

## - - - 概要 - - -

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」であると学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人はどれほどいるのでしょうか。それらが私たちの生活とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれませんが。他方で、新型コロナウイルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えて人もいます。

いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことは、憲法と密接不可分です。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためにはどのような社会や国家が望ましいのかを考えることと結びついており、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠なものです。

望ましい社会や国家のあり方の具体的内容は、人によって異なるものであり1つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成したレジュメをもとに、スライドを用いながら講義形式で行います。また、憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をどうかどうかを受講生に委ねます）。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(技能)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでください。その際には、日常生活や日々のニュースとどのように関係しているのかを考えてください。(40分)

授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点、理解できなかった論点および疑問に感じた点を確認し、ノートを作ってください。(70分)

参考文献を読み、理解できなかった論点および疑問に感じた点に関して理解に努めてください。(70分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していること、多様な論点の相互関係を理解していることを評価の基準とします。

授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、1回につき1～3点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

## - - - テキスト - - -

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之  
『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）

ISBN:4589037513

価格：¥2,530

講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

## - - - 参考書 - - -

古典で読む憲法 ISBN 4641131856

憲法主義 ISBN 9784335000911

教職課程のための憲法入門 ISBN 4335359799

レジュメに掲げている参考図書

## - - - 履修上の留意点 - - -

法学や政治学を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。

真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

## - - - 授業計画 - - -

1. 憲法の基本概念（スタートアップ授業）
2. 人身の自由と刑事手続上の権利
3. 思想良心の自由
4. 信教の自由と政教分離
5. 生存権
6. 教育を受ける権利
7. 学問の自由と教師の教育の自由
8. 勤労の権利と労働基本権
9. 個人の尊重と幸福追求権
10. 法の下での平等
11. 日本憲法史
12. 平和主義
13. 国会と内閣
14. 裁判所
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。

[https://fukuoka-u.box.com/s/](https://fukuoka-u.box.com/s/dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqq5o)

[dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqq5o](https://fukuoka-u.box.com/s/dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqq5o)

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/](https://fukuoka-u.box.com/s/1lwz47dgo6slpvgxju78syjhm5lbk0xj)

[s/1lwz47dgo6slpvgxju78syjhm5lbk0xj](https://fukuoka-u.box.com/s/1lwz47dgo6slpvgxju78syjhm5lbk0xj))

## 守谷 賢輔

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1) (知識・理解)

2.習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1) (技能)

3.習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2) (技能)

4.現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1) (知識・理解)

5.習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 守谷 賢輔

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：水・1時限 試験時間割：2025/01/20 6時限

## - - - 概要 - - -

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」であると学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人はどれほどいるのでしょうか。それらが私たちの生活とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれませんが。他方で、新型コロナウイルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えて人もいます。

いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことは、憲法と密接不可分です。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためにはどのような社会や国家が望ましいのかを考えることと結びついており、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠なものです。

望ましい社会や国家のあり方の具体的内容は、人によって異なるものであり1つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成したレジュメをもとに、スライドを用いながら講義形式で行います。また、憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をどうかどうかを受講生に委ねます）。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(技能)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでください。その際には、日常生活や日々のニュースとどのように関係しているのかを考えてください。(40分)

授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点、理解できなかった論点および疑問に感じた点を確認し、ノートを作ってください。(70分)

参考文献を読み、理解できなかった論点および疑問に感じた点に関して理解に努めてください。(70分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していること、多様な論点の相互関係を理解していることを評価の基準とします。

授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、1回につき1～3点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

## - - - テキスト - - -

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之  
『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）

ISBN:4589037513

価格：¥2,530

講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

## - - - 参考書 - - -

古典で読む憲法 ISBN 4641131856

憲法主義 ISBN 9784335000911

教職課程のための憲法入門 ISBN 4335359799

レジュメに掲げている参考図書

## - - - 履修上の留意点 - - -

法学や政治学を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。

真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

## - - - 授業計画 - - -

1. 憲法の基本概念（スタートアップ授業）
2. 人身の自由と刑事手続上の権利
3. 思想良心の自由
4. 信教の自由と政教分離
5. 生存権
6. 教育を受ける権利
7. 学問の自由と教師の教育の自由
8. 勤労の権利と労働基本権
9. 個人の尊重と幸福追求権
10. 法の下での平等
11. 日本憲法史
12. 平和主義
13. 国会と内閣
14. 裁判所
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。

<https://fukuoka-u.box.com/s/dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqqeq5o>

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/0hfpog7z0iaeygxh6dqqoox13yk4quyj>)

## 守谷 賢輔

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.憲法に関する基本的知識を習得していること。（DP1-1）（知識・理解）

2.習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。（DP2-1）（技能）

3.習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。（DP2-2）（技能）

4.現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。（DP3-1）（知識・理解）

5.習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。（DP4-2）（技能）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 守谷 賢輔

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：水・5時限 試験時間割：2025/01/20 6時限

## - - - 概要 - - -

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」であると学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人はどれほどいるのでしょうか。それらが私たちの生活とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれませんが。他方で、新型コロナウイルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えて人もいます。

いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことは、憲法と密接不可分です。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためにはどのような社会や国家が望ましいのかを考えることと結びついており、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠なものです。

望ましい社会や国家のあり方の具体的内容は、人によって異なるものであり1つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成したレジュメをもとに、スライドを用いながら講義形式で行います。また、憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をどうかどうかを受講生に委ねます）。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(技能)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでください。その際には、日常生活や日々のニュースとどのように関係しているのかを考えてください。(40分)

授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点、理解できなかった論点および疑問に感じた点を確認し、ノートを作ってください。(70分)

参考文献を読み、理解できなかった論点および疑問に感じた点に関して理解に努めてください。(70分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していること、多様な論点の相互関係を理解していることを評価の基準とします。

授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、1回につき1～3点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

## - - - テキスト - - -

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之  
『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）

ISBN:4589037513

価格：¥2,530

講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

## - - - 参考書 - - -

古典で読む憲法 ISBN 4641131856

憲法主義 ISBN 9784335000911

教職課程のための憲法入門 ISBN 4335359799

レジュメに掲げている参考図書

## - - - 履修上の留意点 - - -

法学や政治学を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。

真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

## - - - 授業計画 - - -

1. 憲法の基本概念（スタートアップ授業）
2. 人身の自由と刑事手続上の権利
3. 思想良心の自由
4. 信教の自由と政教分離
5. 生存権
6. 教育を受ける権利
7. 学問の自由と教師の教育の自由
8. 勤労の権利と労働基本権
9. 個人の尊重と幸福追求権
10. 法の下での平等
11. 日本憲法史
12. 平和主義
13. 国会と内閣
14. 裁判所
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。

<https://fukuoka-u.box.com/s/dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqqeq5o>

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/kn7pru02vz2lshatd1mt82yeclwd9r99>)

## 守谷 賢輔

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.憲法に関する基本的知識を習得していること。（DP1-1）（知識・理解）

2.習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。（DP2-1）（技能）

3.習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。（DP2-2）（技能）

4.現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。（DP3-1）（知識・理解）

5.習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。（DP4-2）（技能）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 守谷 賢輔

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：火・1時限 試験時間割：2024/07/26 6時限

## --- 概要 ---

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」であると学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人はどれほどいるのでしょうか。それらが私たちの生活とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれませんが。他方で、新型コロナウイルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えて人もいます。

いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことは、憲法と密接不可分です。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためにはどのような社会や国家が望ましいのかを考えることと結びついており、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠なものです。

望ましい社会や国家のあり方の具体的内容は、人によって異なるものであり1つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。

## --- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成したレジュメをもとに、スライドを用いながら講義形式で行います。また、憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をどうかどうかを受講生に委ねます）。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(技能)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでください。その際には、日常生活や日々のニュースとどのように関係しているのかを考えてください。(40分)

授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点、理解できなかった論点および疑問に感じた点を確認し、ノートを作ってください。(70分)

参考文献を読み、理解できなかった論点および疑問に感じた点に関して理解に努めてください。(70分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していること、多様な論点の相互関係を理解していることを評価の基準とします。

授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、1回につき1～3点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

## --- テキスト ---

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之  
『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）

ISBN:4589037513

価格：¥2,530

講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

## --- 参考書 ---

古典で読む憲法 ISBN 4641131856

憲法主義 ISBN 9784335000911

教職課程のための憲法入門 ISBN 4335359799

レジュメに掲げている参考図書

## --- 履修上の留意点 ---

法学や政治学を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。

真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

## --- 授業計画 ---

1. 憲法の基本概念（スタートアップ授業）
2. 人身の自由と刑事手続上の権利
3. 思想良心の自由
4. 信教の自由と政教分離
5. 生存権
6. 教育を受ける権利
7. 学問の自由と教師の教育の自由
8. 勤労の権利と労働基本権
9. 個人の尊重と幸福追求権
10. 法の下での平等
11. 日本憲法史
12. 平和主義
13. 国会と内閣
14. 裁判所
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。

[https://fukuoka-u.box.com/s/](https://fukuoka-u.box.com/s/dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqqeq5o)

[dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqqeq5o](https://fukuoka-u.box.com/s/dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqqeq5o)

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ski30tndj7tfexbd5tjp1aasrt7afd1t1>)

## 守谷 賢輔

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1) (知識・理解)

2.習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1) (技能)

3.習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2) (技能)

4.現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1) (知識・理解)

5.習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 守谷 賢輔

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：金・2時限 試験時間割：2025/01/20 6時限

## --- 概要 ---

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」であると学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人はどれほどいるのでしょうか。それらが私たちの生活とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれませんが。他方で、新型コロナウイルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えて人もいます。

いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことは、憲法と密接不可分です。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためにはどのような社会や国家が望ましいのかを考えることと結びついており、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠なものです。

望ましい社会や国家のあり方の具体的内容は、人によって異なるものであり1つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。

## --- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成したレジュメをもとに、スライドを用いながら講義形式で行います。また、憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をどうかどうかを受講生に委ねます）。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(技能)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでください。その際には、日常生活や日々のニュースとどのように関係しているのかを考えてください。(40分)

授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点、理解できなかった論点および疑問に感じた点を確認し、ノートを作ってください。(70分)

参考文献を読み、理解できなかった論点および疑問に感じた点に関して理解に努めてください。(70分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していること、多様な論点の相互関係を理解していることを評価の基準とします。

授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、1回につき1～3点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

## --- テキスト ---

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之  
『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）

ISBN:4589037513

価格：¥2,530

講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

## --- 参考書 ---

古典で読む憲法 ISBN 4641131856

憲法主義 ISBN 9784335000911

教職課程のための憲法入門 ISBN 4335359799

レジュメに掲げている参考図書

## --- 履修上の留意点 ---

法学や政治学を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。

真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

## --- 授業計画 ---

1. 憲法の基本概念（スタートアップ授業）
2. 人身の自由と刑事手続上の権利
3. 思想良心の自由
4. 信教の自由と政教分離
5. 生存権
6. 教育を受ける権利
7. 学問の自由と教師の教育の自由
8. 勤労の権利と労働基本権
9. 個人の尊重と幸福追求権
10. 法の下での平等
11. 日本憲法史
12. 平和主義
13. 国会と内閣
14. 裁判所
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。

[https://fukuoka-u.box.com/s/](https://fukuoka-u.box.com/s/dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqqeq5o)

[dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqqeq5o](https://fukuoka-u.box.com/s/dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqqeq5o)

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/s/](https://fukuoka-u.box.com/s/ry8zk1718u7rl4x7sonuvu1ot4u7y3pb)

[ry8zk1718u7rl4x7sonuvu1ot4u7y3pb](https://fukuoka-u.box.com/s/ry8zk1718u7rl4x7sonuvu1ot4u7y3pb))

## 守谷 賢輔

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.憲法に関する基本的知識を習得していること。（DP1-1）（知識・理解）

2.習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。（DP2-1）（技能）

3.習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。（DP2-2）（技能）

4.現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。（DP3-1）（知識・理解）

5.習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。（DP4-2）（技能）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 守谷 賢輔

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：水・5時限 試験時間割：2024/07/26 6時限

## --- 概要 ---

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」であると学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人はどれほどいるのでしょうか。それらが私たちの生活とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれませんが。他方で、新型コロナウイルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えて人もいます。

いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことは、憲法と密接不可分です。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためにはどのような社会や国家が望ましいのかを考えることと結びついており、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠なものです。

望ましい社会や国家のあり方の具体的内容は、人によって異なるものであり1つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。

## --- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成したレジュメをもとに、スライドを用いながら講義形式で行います。また、憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をかどうかを受講生に委ねます）。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(技能)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次の授業内容に該当する教科書の解説を読んでください。その際には、日常生活や日々のニュースとどのように関係しているのかを考えてください。(40分)

授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点、理解できなかった論点および疑問に感じた点を確認し、ノートを作ってください。(70分)

参考文献を読み、理解できなかった論点および疑問に感じた点に関して理解に努めてください。(70分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していること、多様な論点の相互関係を理解していることを評価の基準とします。

授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、1回につき1～3点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

## --- テキスト ---

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之  
『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）

ISBN:4589037513

価格：¥2,530

講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

## --- 参考書 ---

古典で読む憲法 ISBN 4641131856

憲法主義 ISBN 9784335000911

教職課程のための憲法入門 ISBN 4335359799

レジュメに掲げている参考図書

## --- 履修上の留意点 ---

法学や政治学を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。

真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

## --- 授業計画 ---

1. 憲法の基本概念（スタートアップ授業）
2. 人身の自由と刑事手続上の権利
3. 思想良心の自由
4. 信教の自由と政教分離
5. 生存権
6. 教育を受ける権利
7. 学問の自由と教師の教育の自由
8. 勤労の権利と労働基本権
9. 個人の尊重と幸福追求権
10. 法の下での平等
11. 日本憲法史
12. 平和主義
13. 国会と内閣
14. 裁判所
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。

<https://fukuoka-u.box.com/s/dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqqeq5o>

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/6tudomyvr8uepv8yyych1vghsersnfgzs>)

## 守谷 賢輔

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1) (知識・理解)

2.習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1) (技能)

3.習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2) (技能)

4.現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1) (知識・理解)

5.習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 守谷 賢輔

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：金・2時限 試験時間割：2024/07/26 6時限

## --- 概要 ---

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」であると学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人はどれほどいるのでしょうか。それらが私たちの生活とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれませんが。他方で、新型コロナウイルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えて人もいます。

いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことは、憲法と密接不可分です。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためにはどのような社会や国家が望ましいのかを考えることと結びついており、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠なものです。

望ましい社会や国家のあり方の具体的内容は、人によって異なるものであり1つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。

## --- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成したレジュメをもとに、スライドを用いながら講義形式で行います。また、憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をどうかどうかを受講生に委ねます）。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(技能)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次の授業内容に該当する教科書の解説を読んでください。その際には、日常生活や日々のニュースとどのように関係しているのかを考えてください。(40分)

授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点、理解できなかった論点および疑問に感じた点を確認し、ノートを作ってください。(70分)

参考文献を読み、理解できなかった論点および疑問に感じた点に関して理解に努めてください。(70分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

定期試験の成績で評価します(100点)。憲法に関する基本的知識を習得していること、多様な論点の相互関係を理解していることを評価の基準とします。

授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、1回につき1~3点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

## --- テキスト ---

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之  
『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）

ISBN:4589037513

価格：¥2,530

講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

## --- 参考書 ---

古典で読む憲法 ISBN 4641131856

憲法主義 ISBN 9784335000911

教職課程のための憲法入門 ISBN 4335359799

レジュメに掲げている参考図書

## --- 履修上の留意点 ---

法学や政治学を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。

真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

## --- 授業計画 ---

1. 憲法の基本概念（スタートアップ授業）
2. 人身の自由と刑事手続上の権利
3. 思想良心の自由
4. 信教の自由と政教分離
5. 生存権
6. 教育を受ける権利
7. 学問の自由と教師の教育の自由
8. 勤労の権利と労働基本権
9. 個人の尊重と幸福追求権
10. 法の下での平等
11. 日本憲法史
12. 平和主義
13. 国会と内閣
14. 裁判所
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。

<https://fukuoka-u.box.com/s/dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqqeq5o>

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/bi70vipnhfvf896b822p9erp151f79d0>)

## 守谷 賢輔

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1) (知識・理解)

2.習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1) (技能)

3.習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2) (技能)

4.現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1) (知識・理解)

5.習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 守谷 賢輔

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：金・二部 1 時間 試験時間割：2024/07/26 夜 1 限

## --- 概要 ---

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」であると学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人はどれほどいるのでしょうか。それらが私たちの生活とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれませんが。他方で、新型コロナウイルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えて人もいます。

いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことは、憲法と密接不可分です。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためにはどのような社会や国家が望ましいのかを考えることと結びついており、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠なものです。

望ましい社会や国家のあり方の具体的内容は、人によって異なるものであり1つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。

## --- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成したレジュメをもとに、スライドを用いながら講義形式で行います。また、憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です(重い内容を含む動画については、閲覧をどうかどうかを受講生に委ねます)。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(技能)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでください。その際には、日常生活や日々のニュースとどのように関係しているのかを考えてください。(40分)

授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点、理解できなかった論点および疑問に感じた点を確認し、ノートを作ってください。(70分)

参考文献を読み、理解できなかった論点および疑問に感じた点に関して理解に努めてください。(70分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

定期試験の成績で評価します(100点)。憲法に関する基本的知識を習得していること、多様な論点の相互関係を理解していることを評価の基準とします。

授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、1回につき1~3点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

## --- テキスト ---

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之  
『新・どうなっている!?日本国憲法〔第3版〕』(法律文化社、2016年)

ISBN:4589037513

価格：¥2,530

講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

## --- 参考書 ---

古典で読む憲法 ISBN 4641131856

憲法主義 ISBN 9784335000911

教職課程のための憲法入門 ISBN 4335359799

レジュメに掲げている参考図書

## --- 履修上の留意点 ---

法学や政治学を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。

真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

## --- 授業計画 ---

1. 憲法の基本概念(スタートアップ授業)
2. 人身の自由と刑事手続上の権利
3. 思想良心の自由
4. 信教の自由と政教分離
5. 生存権
6. 教育を受ける権利
7. 学問の自由と教師の教育の自由
8. 勤労の権利と労働基本権
9. 個人の尊重と幸福追求権
10. 法の下での平等
11. 日本憲法史
12. 平和主義
13. 国会と内閣
14. 裁判所
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。

<https://fukuoka-u.box.com/s/dupfkbxyptc4hpptmvb0d1kpwbmqqeq5o>

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/q3n30t3jyhv15eenpjv6rqe5b4isr9jc>)

## 守谷 賢輔

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1) (知識・理解)

2.習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1) (技能)

3.習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2) (技能)

4.現在および将来の社会を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1) (知識・理解)

5.習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2) (技能)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 田中 孝和

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：月・3時限 試験時間割：2024/07/24 3時限

## 概要

毎日の生活を送るうえで行政と私たちの関わり、ましてや法的なかわり、を認識することはあまりないかもしれませんが、しかし、道路交通を例にあげると（参考：本授業指定教科書第1講義〔出典はテキストの箇所に記載〕など）、自動車の運転には運転免許を取得する必要があります。法律上、免許を取得せずに公道を走ることではできません。なぜ免許を取得する必要があるのでしょうか。また、免許を受けたら好き勝手に車の運転が可能でしょうか。いうまでもなく、わたしたちは法令にのっとり運転を行うことが求められます。その違反者（無免許運転者やスピード違反者など交通の安全を妨げる者など）には、免許の停止、取消やさまざまな制裁（刑事罰など）が科される可能性があります。これらは道路交通に関する法令に規定されています。このように道路交通に限らず、行政と私たちの関係について規定している法令は数多く存在しています。また、違法行為により運転免許が取り消されるとしたら、行政によりどのような手続をとるのか、その免許の取消に納得がいかない場合は誰にどのようにして不服を主張すればよいでしょうか。

本講義では、法学の科目（いうまでもありませんが、行政活動に対する政府の在り方やその活動の是非を評価する授業ではありません）として（上記のような道路交通のほか食品衛生、環境など、一つ一つの法令を検討するのではなく）どのように行政活動がなされているのか、どのような方法を用いて行政の目的を実現するのか、行政が私たちにに対してした活動に納得がいかない場合にどのように対処すればよいのか、行政と私たちとの法的なかわり、働きかけの方法、行政救済などを学習していくこととします。授業時間に教授できる内容は限られていますので、行政の私たちに對する働きかけ、組織、行政の活動に納得がいかない場合に私たちがとり得る方法につき、ごく基本的なことがらを学習し、理解してもらいます。

第1回目であるスタートアップ授業は、授業名とした「行政活動と法」の授業の理解を助けるために法学の基本的なことがらを理解してもらうための授業（ただし、時間の都合上、最低限度のことしかできませんので、各自法学に関する初學者向けの本を読んでみてください）を行います。

本授業は講義形式で行います。なお、上記を見ていただいてもわかりやすいように、膨大な分量を授業で取扱うことになります。授業をしっかりと受講していただきたいので、毎回予習、復習を入念にしてのぞんでください。

## 授業の進行・方法

授業はすべて講義形式で行います。毎回の授業にて 教科書を用い（指定した教科書を必ず購入の上、授業に持参してください）、授業中に教科書で言及している例、定義を読みながら重要な箇所に印、線を入れるなどしてもらい、理解に努めてもらいます。配布資料には授業理解のための条文や裁判例などが記載されています。これも見ながら授業を行います（授業の前日までにFU\_boxにアップロードします。こちらも授業中参照してください（印刷の上持参いただくか電子機器を用いてください。電子機器につきパソコン、タブレットの使用を前提とします））。しばしば理解を助けるために、スクリーンに新聞記事の必要箇所あるいはwebサイトを紹介する場合があります（出典は配布資料及び記事、サイトに記述）。を用いて受講者が理解しやすいように授業を進行します。

## アクティブ・ラーニング

いいえ / No

## 到達目標

行政の活動につき、法律上どのように決められているのか、基礎的な知識をみにつけることができる。(DP1-1)(知識・理解)

法学を介して行政の活動について理解することができる(DP1-1)(知識・理解)

法学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(DP2-1)(知識・理解)

## 授業時間外の学習(予習・復習)

予習：次回学習する回につき、指定教科書を読むこと。(120分)

復習：今回授業にて学習した箇所につき、指定教科書、配布資料を確認すること。(120分)

## 成績評価基準および方法

・定期試験 100点：行政活動と法について、基本的な知識（用語理解、行政活動の内容及び手続、行政活動に対する不服に対する方法（手続きを含む））が理解できているかどうかを様々な解答パターンを用いて問うこととします。

授業の進行状況により（行わない場合もある）、受講者の理解を確認するため授業時間内外に評価（いわゆる小テスト）を行う場合があります。問題に正解の場合、成績評価の参考とします。授業アンケートFURIKAも含め通信機器（スマートフォン）などで解答してもらった場合もありますので、充電をしておいてください。

## テキスト

宇賀克也編『ブリッジブック行政法〔第3版〕』（信山社、2017年）ISBN:9784797223576  
最新版が出る場合はそれによる（教科書販売には最新版が入ることになる）。

## 参考書

吉田利宏『つかむ・つかえる行政法』 ISBN 978-4589038777  
道垣内弘人『プレップ 法学を学ぶ前に〔第2版〕』（弘文堂、2017年）をはじめ、法学について基本的なことがらが記述された文献を見てみることをおすすめします。

## 履修上の留意点

授業中に指定教科書を常に使用することにより授業を展開します。このため、教科書は必ず入手、持参していただくこととなります。履修の最低限の条件です。教科書を持参していない方について授業中、その理由を問いただす場合があります。

連絡事項は基本的にFUポータルもしくはメールで行います。常にこれらを確認しておいてください。連絡を見ていない不利益は、各自で負っていただきます。受講者の皆さんからの連絡は必ず大学のメール（cis）を利用してください。

## 授業計画

- 1 本授業の説明および本授業を受講する際に必要な法学の基本的知識の説明：スタートアップ授業（動画配信）
- 2 行政はどのような活動をしているのか
- 3 行政は法に従って活動する 法治主義（1）
- 4 行政は法に従って活動する 法治主義（2）
- 5 行政活動を行うためにどのような組織が作られているか 行政組織法
- 6 行政が国民の権利を制限をしたり義務を課したりする手法 行政行為（1）
- 7 行政が国民の権利を制限をしたり義務を課したりする手法 行政行為（2）
- 8 行政による協力の要請 行政指導
- 9 行政が法を作る？ 行政立法
- 10 行政と契約する場合がある 行政契約
- 11 もし私たちが行政が課した義務に従わなかった場合には 行政上の強制執行
- 12 行政活動に必要な手続 行政手続法
- 13 行政の活動に納得がいかない場合 行政に不服を申し立てる
- 14 行政の活動に納得がいかない場合 裁判所に訴える 授業アンケート FURIKA実施
- 15 行政の活動に納得がいかない場合 裁判所に訴える 授業アンケート FURIKA実施（予備）

受講者の理解に応じて、または授業の進行状況により、一部授業計画を変更する場合があります。その場合は、受講者に事前に伝えます。

## スタートアップ授業

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/3227f606c5xhfvj4ntha5xzjf6b3bn98>)

田中 孝和

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.行政の活動につき、法律上そのように決められているのか、基礎的な知識を身につけることができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.法学を介して行政の活動について理解することができる (DP1-1) (知識・理解)

3.法学を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる (DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 城野 一憲

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：有り 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：月・5時限 試験時間割：2024/07/24 3時限

## - - - 概要 - - -

この授業では、日本国憲法による基本的人権の保障について学ぶことを通じて、現代社会における憲法や法律の機能についての理解を深めてもらいたいと思います。

大学での憲法の学習では、憲法による基本的人権の保障が、実際にはどのようにして実現されているのかを理解することが大切になります。また、人権はなぜ保障されるのか、人権はどこまで保障されるべきなのかを考えることも重要です。

憲法は、他の法分野や社会科学の学問分野とも深いかわりを持っています。人権思想を理解する上では、過去の人権侵害の歴史を真摯に見つめ、理解する必要があります。憲法訴訟では、民法や刑法などの法令の違憲性が争点になるため、そうした法令の意義や機能もふまえる必要があります。憲法が保障している様々な権利は、国会の作る法律や政府の政策によっても実現されているため、国や地方の政治過程の知識もあった方がいいでしょう。この点については、講義担当者の中央省庁での法制執務の経験もふまえて解説します。ニュースや報道を通じて、社会ではどのような憲法問題や人権問題が提起されているのかにも関心を持ってほしいと思います。

授業では、日本国憲法の第三章が保障している権利、いわば、憲法上の権利について、その内容や歴史的な沿革、関連する判例や立法、社会問題もふまえて講義します。一般に「権利」と呼ばれているものは、権能、特権、免除権、請求権のいずれかの形態をとると考えられています。憲法上の権利の形態や機能について、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

この授業は、担当教員による講義です。各回の授業では、講義を聴きながら、ノートや担当教員が事前に配布・アップロードするレジュメなどにメモを取るようになっています。

各回の授業の終わりには、その回の講義の内容をまとめたり、担当教員への質問を記入したりするためのミニッツペーパーを配布します。ミニッツペーパーについては、回収した上で、その次の回の授業の冒頭に、担当教員が解説や回答をします。

なお、講義の予習や受講、復習などに使用するレジュメやパワーポイントのスライドは、随時、FUボックスにアップロードします。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

日本国憲法が保障する基本的人権の意義や内容について基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

基本的人権と関連する現代社会の諸問題について自己の意見を述べ、文章で表現することができる。(DP1-1)(技能)

法学についての基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：テキストのあらかじめ指定された範囲を読み、理解できないところや疑問があるところがあればノートなどに書き出す(90分)

復習：授業中に記入したレジュメやノートを、授業後に担当教員がアップロードする講義資料と照らし合わせながら授業内容を確認する(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験80%、平常点(ミニッツペーパー)20%

定期試験では、憲法学や法学の基礎的な用語について問う選択式の問題と、基本的人権に関する理論や制度について論じる記述式の問題を出題する。

## - - - テキスト - - -

斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法(第2版)』  
(2021年)

ISBN:9784335358968

## - - - 履修上の留意点 - - -

私語やスマートフォンの通話など、授業の妨害となる行為は禁止します。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 ガイダンス、憲法の歴史(スタートアップ授業)
- 2 基本的人権と権利の理論
- 3 幸福追求権
- 4 平等権
- 5 選挙権
- 6 思想・良心の自由
- 7 信教の自由
- 8 言論・出版の自由
- 9 集会・結社の自由
- 10 職業選択の自由
- 11 婚姻の自由
- 12 社会権
- 13 財産権
- 14 人身の自由
- 15 まとめ・FURIKA

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/js18xqm8bt7b0evg5yegn5keibk9ecyp>)

## 城野 一憲

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.日本国憲法が保障する基本的人権の意義や内容について基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

2.基本的人権と関連する現代社会の諸問題について自己の意見を述べ、文章で表現することができる。（DP1-1）（技能）

3.法学についての基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

三宮 希

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：水・5時限 試験時間割：2024/07/24 3時限

--- 概要 ---

大学生活では、これまでより自由に行動することができるようになります。しかしその分様々なトラブルに遭遇することもあるかもしれません。その中には、法の知識があることで回避できたり、適切な対処ができるものも少なくありません。

この講義では、具体的な事例を通して法が生活の中にどのように関係しているのかを学びます。

交通事故やアルバイト、アパートやマンションの賃貸借など、生活の中で起こりうるトラブルをテーマとして取り上げます。最新のニュースや皆さんの関心などの状況から、一部内容を変更をする場合があります。ご了承ください。

法の関係する事柄は身の回りにも多く存在しています。この講義を通して、そうした様々な事柄にも関心を持っていただければと思います。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、FUポータル上で事前に配布する講義資料をもとに講義形式で行います。講義内容の理解を確認するため、FUポータルを利用した小テストに解答していただきます。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

民法を中心に、法律の基礎的な知識を身につける。(DP1-1)(知識・理解)

生活の中で起こる法律問題について、問題点を把握し、適切な判断をすることができる。(DP1-1)(技能)

具体的な問題を、法律の知識に基づいて考え、自分の言葉で説明することができる。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前に講義のテーマについて下調べをして、まとめておいてください。(90分)

講義後、講義内容について自分の言葉で説明できるように確認してください。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準

法律の基礎的な知識を身につけているか(到達目標1)、法律問題について、問題点を把握し、適切な判断をすることができるか(到達目標2)、具体的な問題について、法律の知識に基づいて考え、自分の言葉で説明することができるか(到達目標3)を評価基準とします。

評価方法

定期試験70%  
 小テスト・ミニッツペーパー合わせて30%

--- テキスト ---

テキストは使用しません。  
 講義資料を毎回配布(FUポータル上)します。

--- 参考書 ---

『ポケット六法 令和6年版』編集代表 佐伯仁志 大村敦志 荒木尚志 ISBN 978-4-641-00924-0

--- 履修上の留意点 ---

講義資料はFUポータル上で配布します。各自プリントアウト、ダウンロード等を行い、講義に臨んでください。生活の中での法律問題を扱いますので、日ごろからニュース等を見て、関心を持つようにしてください。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション(スタートアップ授業)
2. 未成年の法律問題
3. クーリングオフの法律問題
4. 交通事故の法律問題1(事故の責任など)
5. 交通事故の法律問題2(示談など)
6. アルバイトの法律問題1(労働条件・賃金など)
7. アルバイトの法律問題2(労災など)
8. アパート・マンションの賃貸借の法律問題(原状回復義務など)
9. 寄託(物を預ける・預かる)の法律問題
10. 代理の法律問題と銀行預金トラブル
11. 保証の法律問題(連帯保証・奨学金など)
12. 弁護士とその周辺にかかる法律問題
13. 婚姻の法律問題
14. 離婚の法律問題
15. 身近な手続きについて  
 まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/4fjff1dhxc2vwkbnj16gp05ugu8usm7>

## 三宮 希

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.民法を中心に、法律の基礎的な知識を身につける。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.生活の中で起こる法律問題について、問題点を把握し、適切な判断をすることができる。（DP1-1）（技能）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.具体的な問題を、法律の知識に基づいて考え、自分の言葉で説明することができる。（DP2-1）（技能）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 守谷 賢輔

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：水・4時限 試験時間割：2024/07/24 3時限

## --- 概要 ---

人権という言葉を知らない人は、おそらくいないでしょう。人権は尊重されなければならない「大切なもの」だといわれますが、人権とは何か、人権を尊重されるのは誰か、尊重しなければならないのは誰かを正確に答えることはできるでしょうか。また、尊重されなければならない人権が、私たちの生活とどのように関わっているのかを具体的に説明できるでしょうか。

日常生活での何気ない会話やインターネットを自由に閲覧すること、アルバイトをしてお金を稼ぐといった当たり前に行っていることは、実のところ人権と切り離して考えることはできないものです。新型コロナウイルスをめぐる政府の対応も人権問題の1つです。

この講義では、憲法が保障する人権の内容や限界などを判例を中心に考察します。過去および現在の人権問題は社会や国家のあり方を映し出しています。どのような社会や国家が望ましいのかを主体的に考えながら、人権保障のあり方を考察してください。

憲法や人権の勉強は、条文や関連する用語の暗記だと思っている人がいるかもしれませんが、暗記はまったく無意味です。条文の文言の解釈は多様であり、人権問題をいかに解決するかの考え方も様々あります。また、社会や国家のあるべき姿は、人によって異なります。暗記することが憲法の勉強と考えている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。

## --- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成したレジュメをもとに、スライドを用いながら講義形式で行います。また、憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧するかどうかを受講生に委ねます）。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

人権に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースから、どのような人権問題が生じているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

日常生活をおくることと人権保障の関係を、具体例を挙げて説明し、人権の現代的課題を説明できること。(DP3-1)(態度・志向性)

過去および現在の人権問題の考察を通じて、社会や国家のあり方を考えることができること。(DP4-2)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでおいてください。(40分)

復習：授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点、理解できなかった論点および疑問に感じた点を確認し、ノートを作ってください。(70分)

参考文献を読み、理解できなかった論点および疑問に感じた点に関して理解に努めてください。(70分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

## (1) 評価基準

憲法が保障する人権に関する基本的知識を身につけていること、および多様な論点の相互関係を理解していることを評価の基準とします。

## (2) 評価方法

小テスト(50点)と定期試験(50点)で評価します。小テストは、毎回の授業後に実施します。授業内容に関する3~4の設問にFUポータル上で回答してもらいます(50点)。翌週の授業で問題の解説を行います。

授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、1回につき1~3点を付与し、それを定期試験の点数に加算します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

## --- テキスト ---

君塚正臣編『大学生のための憲法〔第2版〕』（法律文化社、2024年）

ISBN：9784589043344

価格：¥2,750

講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

## --- 参考書 ---

基本的人権の事件簿〔第7版〕 ISBN 9784641281554

事例問題から考える憲法 ISBN 4641227020

「憲法上の権利」入門 ISBN 4589040166

## --- 履修上の留意点 ---

憲法や法学などの法律学の科目を履修済みまたは履修中であるほうが、授業をより良く理解できます。

真剣に勉強する気がない人、単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

## --- 授業計画 ---

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 表現の自由（1）
3. 表現の自由（2）
4. 表現の自由（3）
5. 集会・結社の自由
6. 職業選択の自由
7. 財産権
8. 国務請求権と参政権
9. 幸福追求権（1）
10. 幸福追求権（2）
11. 法の下での平等（1）
12. 法の下での平等（2）
13. 人権の享有主体
14. 人権の適用範囲
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。

<https://fukuoka-u.box.com/s/nnd40iulxzk5cyfhd0agutaotrij1ifm>

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/d7x01io7ud1arwgf946rlens73rphv3w>)

## 守谷 賢輔

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.人権に関する基本的知識を習得していること。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。（DP2-1）（技能）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.習得した基本的知識を用いて、日々のニュースから、どのような人権問題が生じているかを考えることができること。（DP2-2）（技能）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

4.日常生活をおくることと人権保障の関係を、具体例を挙げて説明し、人権の現代的課題を説明できること。（DP3-1）（態度・志向性）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.過去および現在の人権問題の考察を通じて、社会や国家のあり方を考えることができること。（DP4-2）（態度・志向性）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



## 野田 龍一

期別: 前期 単位数: 2 開講年次: 1 授業の種類: 対面授業科目 授業形態: 講義 実務経験: 無し 科目水準: 入門 試験実施: 有り  
授業時間割: 前期: 木・二部 2 時間 試験時間割: 2024/07/25 夜 2 限

## --- 概要 ---

本科目の位置づけ:  
商学部で学ばれた方にとって必要な契約法の基礎を学びます。

この科目のねらい:  
わたしたちは、日々契約と向き合っています。コンビニでの買い物・地下鉄乗車・学食での食事・大学での授業・バイト・アパート賃貸借・奨学金貸与などです。  
18歳になると、わたしたちは、自分の意思で決めて(自己決定)、その結果については、自分で責任を負わねばなりません(自己責任)。思わぬ落とし穴もあります。悪徳商法に巻き込まれないためにも、契約法をしっかり勉強しましょう。

難しいと思われがちな法律学が役に立つことを実感しましょう。

## 授業概要:

私たちの日常生活の中から、わかりやすい具体例を取り上げます。福岡で起きた身近な事件が中心となります。クーリングオフ・靈感商法・デート商法・交通事故の示談などです。これらの具体例に即して、何が問題なのか(問題の確認)、どうすれば法律的に解決できるか(解決の可能性)を、考えます。そのさい、契約の種類と構造について頭に入れることが、とても重要です。最後に、その問題を法体系の中で位置づけ、今後の課題について検討します。

## 授業を受ける意義:

この授業を受ければ、きっと契約法に親しみが湧いてきます。商学部では、いろいろな法律専門科目を受講することができます。契約法を突破口に、法学を本格的に勉強し、各種国家試験受験に役立ててみませんか。

## 注意:

毎回プリントを配布します。プリントの内容は、FUポータルには掲載しません。

## --- 授業の進行・方法 ---

1週間前に、授業担当者が、次の授業テーマを予告します。そのテーマについて、各自で、あらかじめ考えておきます。授業の冒頭で、授業のあらましや資料を掲載したプリントを配布します。そのプリントに即して、授業を受けます。事実関係の確認・法規の適用・解決の妥当性に留意します。さらに、授業内容が、さらにどのように発展してゆくのか、法体系全体の中で、どのように位置づけられるかについて、考えます。

おしまいに、将来に残された課題について、検討を加えます。  
なお、授業内容は、FUポータルでは掲載しません。ご注意ください。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

契約法の基本概念や用語についての知識を身につける。(DP1-1)(知識・理解)

契約に関する紛争を法学及その他の隣接する学問領域から多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

契約法の問題を、年齢・性別・民族などの相違をふまえてとらえることができる。(DP2-2)(知識・理解)

契約法に関する問題に則して自己決定とそれに伴う自己責任の意味を理解できる。(DP3-1)(知識・理解)

契約問題の解決に向けて一市民として主体的・積極的に貢献することができる。(DP4-2)(技能)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

1週間前に予告された契約法に関する課題について考える。(90分)

授業の最後に出された問題について自分の意見をまとめる。(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

## 評価基準:

評価のポイントは、身近な問題を、法律問題として正しく把握しているか、その法律問題を解決するスキルを身に付けているか、そして、身に付けているスキルを活用して、法律問題を正しく解決できるか、の3点です。

## 評価方法:

定期試験答案の成績を100%として評価します。

## --- テキスト ---

テキストは使用しません。講義のレジュメを毎回授業でプリント配布しテキストに代えます。

## --- 参考書 ---

『ポケット六法令和6年版』 有斐閣 ISBN 978-4-641-00924-0

## --- 履修上の留意点 ---

契約法は、身近な法領域です。他人事ではなく、各自の問題として、積極的に授業に臨んでください。  
『六法』は、令和6年版であれば、『ポケット六法』でなくても、かまいません。

## --- 授業計画 ---

- 第01回 契約法は面白い(スタートアップ授業)  
第02回 ネガティブオプションはなぜ拘束しないのか。  
第03回 クーリングオフができるとき、できないとき  
第04回 バイト契約の諸問題  
第05回 フリーランス契約の諸問題  
第06回 アパート・マンション賃貸借のトラブル  
第07回 保証契約・根保証・身元保証  
第08回 就活・内々定・内定の法律問題  
第09回 婚約の不当破棄・婚姻・離婚  
第10回 デート商法・ホストの売掛金  
第11回 交通事故の示談とその拘束力  
第12回 ねずみ講・マルチ商法・ネットでの売買  
第13回 パックツアー先での事故  
第14回 弁護士報酬の法律問題  
第15回 全体のまとめ及び授業アンケートFURIKAの実施

授業は、講義形式で実施します。

新しい法律問題が発生したときは、以上のテーマを変更することがあります。

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
(<https://fukuoka-u.box.com/s/wfib1u2k73darvlgah0q5dwvdlgtgkdk1>)

野田 龍一

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 契約法の基本概念や用語についての知識を身につける。(DP1-1) (知識・理解)

A: 知識・理解, B: 技能, C: 態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 契約に関する紛争を法律学及その他の隣接する学問領域から多角的に見ることができる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3. 契約法の問題を、年齢・性別・民族などの相違をふまえてとらえることができる。(DP2-2) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4. 契約法に関する問題に則して自己決定とそれに伴う自己責任の意味を理解できる。(DP3-1) (知識・理解)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5. 契約問題の解決に向けて一市民として主体的・積極的に貢献することができる。(DP4-2) (技能)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

武居 一正

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：水・5時限 試験時間割：2025/01/15 3時限

--- 概要 ---

法律についての基礎知識、または身近な法律問題に関する知識は、家庭人として、職業人として、社会人として一般的に身につけておく必要がある。

具体的には、家庭における法（婚姻・出生と親子関係・未成年者・高齢者・死亡と相続）、職場における法（労働基準法・雇用機会均等法）、社会生活における法（財産権の保障・消費生活と法・情報化と法・不法行為と救済）、憲法に関する諸問題などについて学ぶ予定です。

また、特にわが国の政治の動きにも目を向けて、重要な動きがあればこれについても憲法・行政法などの観点から論評したいと考えています。

--- 授業の進行・方法 ---

基本的に教科書に沿って講義を進めます。パワーポイントによる論点などの整理を見せながら、その時点での話題なども取り入れて、これを解説する形なるべく分かりやすく講義を行います。質問はいつでも歓迎です。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

社会人に必要な法知識を身に付け、これについて説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本国民として政治の仕組みや運営など、特に民主主義について理解している。(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：テキストをよく読んで下さい。分からないところに印を付けて、講義の時に質問するなどの理解する努力をして下さい。

(120分)

復習：講義を受けたら記憶の新しい間にもう一度要点を確認して下さい。(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

定期試験(100%)による。具体的にはシラバスに掲げた到達目標に達しているかどうかで採点します。

--- テキスト ---

平野武・潤『私たちと法(4訂版)』法律文化社、2022年  
 参考書・その他の教材 『ポケット六法』有斐閣、2024年

--- 履修上の留意点 ---

法律は初めて学ぶ科目だと思いますから、最初は分からないことが沢山あっても何の問題もありません。でも、理解するためのちょっとした努力は必要です。教科書は最低でも3回くらいは目を通して下さい。そうすれば何を扱い、何を説明しようとしているのか、どんな議論があるのかなどどんな事が自然に分かってきます。それでも分からないことがあれば、その部分に印を付けて、講義でそこに係わることを注意して聞くようにして下さい。講義で詳しく話さなかった場合には、すぐに質問して下さい。質問は何時でも大歓迎です。

--- 授業計画 ---

1. 法とは何か？(スタートアップ授業)法の意味、法の制定、法治主義、法の解釈 法とは何か、法の意味や役割について学びます。
2. 裁判の仕組み 司法権とは、裁判所の種類、違憲審査権、裁判員制度 我が国の司法制度について学びます。
3. 家庭生活と法 親族、出生をめぐり、親子関係、結婚、離婚、死亡・相続 家族に関する法について学びます。親子関係に関する法改正についても解説します。
4. 犯罪と刑罰 罪刑法定主義、不遡及、明確性、法定手続 刑法の基本的事柄について学びます。
5. 労働と社会保障 労働者の権利・保護、生存権と社会保障、年金 労働者の権利および社会保障の仕組みについて学びます。
6. 消費者の保護 契約、消費者保護法、クーリングオフ、ローン契約 消費者保護および契約について学びます。
7. 被害の救済 不法行為、債務不履行、損害賠償 不法行為と被害者救済について学びます。
8. 環境をめぐり法的問題 環境権、環境法、循環型社会 公害と環境問題について学びます。
9. 情報と法 マスコミの役割、プライバシーと名誉の保護、情報公開、個人情報保護 情報をめぐり法的問題について学びます。
10. 教育を受ける権利 学問の自由、教育権、学校でのいじめ 社会権としての教育権について学びます。
11. 医療をめぐり法 医療過誤と薬害、生命倫理、インフォームド・コンセント 医療過誤や薬害をめぐり法的問題について学びます。
12. 国民権 民主主義、参政権、選挙制度、パブリック・コメント 民主主義、国民権、政治参加について学びます。
13. 基本的人権の保障 基本的人権の意味、人権の内容、人権の保障 基本的人権の意義および保障について学びます。
14. 平和主義 第9条の解釈、自衛権、平和安全保障法制 平和主義について、最近の動きも含め、学びます。
15. まとめ 授業アンケートFURIKAの実施、  
 まとめとして、現代社会と法について考えます。また、試験についても情報提供します。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/q79qy6lx50agzz8ce7qnau33js5iiz9p)

## 武居 一正

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.社会人に必要な法知識を身に付け、これについて説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.日本国民として政治の仕組みや運営など、特に民主主義について理解している。  
(DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

村林 聖子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：木・5時限 試験時間割：2025/01/15 3時限

- - - 概要 - - -

中学校や高校での校則や交通ルールなど、法は私たちが縛りつけるものであると意識する場面が多いですが、法は日々の暮らしを成り立たせているものでもあります。  
 本科目は、日々の暮らしに法がいかに関係しているかを理解することにより、現実の様々な問題に対して法的な関心をもち法的に考察する力を養うことを目的としています。日常の行動や出来事、日々のニュースがどのような法的意味をもっているかを理解できるようになることが目標です。  
 授業は講義形式で行います。

- - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、担当教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。  
 各回の授業終了後、Moodleでリアクション（質問・感想等）を受け付け、次回授業の冒頭で回答・コメントします。講義内容の理解に役立ててください。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

法学の基礎的な用語や概念を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現実の諸問題を法的に把握できる。(DP2-1)(知識・理解)

現実の諸問題に法的な関心を持ち、考察することができる。(DP1-1)(態度・志向性)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：前回の講義内容を確認した上で、講義資料を一読してください。(60分)

復習：講義資料を見直し、講義内容についての理解を確認してください。(120分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

ミニテスト40点 + 定期試験60点（計100点）  
 【ミニテスト】講義内容の基本的な理解を確認するために3回実施します（3回で合計40点）。Moodleを用い、授業時間外に解答の入力をさせていただきます。  
 【定期試験】講義内容の基本的な理解を確認し、考察し適切に記述することができているかを評価します。

- - - テキスト - - -

テキストは使用しません。  
 担当教員が作成した講義資料を使用します。

- - - 参考書 - - -

堅田研一『法学入門』（成文堂、2023年） ISBN 978-4-7923-0713-4  
 石山文彦・山本紘之・堀川信一(編)『ウォーミングアップ 法学 [第2版]』（ナカニシヤ出版、2022年） ISBN 978-4-7795-1565-1  
 中山竜一『ヒューマニティーズ 法学』（岩波書店、2009年） ISBN 978-4-00-028323-6  
 さらに理解を深めるための参考にしてください。

- - - 履修上の留意点 - - -

- ・講義資料は授業時に配布します。
- ・講義資料のpdfファイルは事前にFU-boxにアップします。予習や欠席時に役立ててください。
- ・Moodleのコース登録が必須です。登録方法については、第1回のスタートアップ授業とFUポータルで案内します。第3回の授業までに登録してください。
- ・本科目についての連絡はFUポータルのお知らせで行います。

- - - 授業計画 - - -

- 1.イントロダクション【スタートアップ授業】（講義の概要、講義の進め方、成績評価の方法など）  
 法と社会 (1) 運転免許と交通事故 日々の暮らしと法の関わり 運転免許
- 2.法と社会 (1) 民事上の責任
- 3.法と社会 (1) 行政上の責任  
 刑事上の責任
- 4.法と社会 (2)法の分類
- 5.法と社会 (3)近代と現代
- 6.法と強制 (1)刑罰
- 7.法と強制 (2)行政罰と行政処分
- 8.法と強制 (3)強制執行、損害賠償
- 9.法と裁判 (1)裁判
- 10.法と裁判 (1)裁判 続き
- 11.法と裁判 (2)刑事裁判
- 12.法と裁判 (3)民事裁判  
 (4)行政裁判  
 (5)裁判外紛争解決
- 13.法と裁判 (6)裁判員制度
- 14.法と裁判 (6)裁判員制度 続き
- 15.まとめ（ふりかえり、定期試験に関する説明、授業アンケートFURIKAの実施）

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/ssnud43duy4wnbdsopgmui6k2j1n6sfa)

## 村林 聖子

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

- 1.法学の基礎的な用語や概念を説明できる。（DP1-1）（知識・理解）
- 2.現実の諸問題を法的に把握できる。（DP2-1）（知識・理解）
- 3.現実の諸問題に法的な関心を持ち、考察することができる。（DP1-1）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

三宮 希

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：金・2時限 試験時間割：2025/01/15 3時限

--- 概要 ---

わたしたちは、日々のニュースなどで万引きや特殊詐欺といった様々な刑事事件の報道に接しています。この講義では、刑事事件についての理解を深めることを目的とし、刑事事件をめぐる手続きについて具体的に、わかりやすく学びます。逮捕をされたらどんなことが行われるのか、刑事裁判はどのようなものなのか、裁判のあとはどうなるのかとどります。そのうえで、現代の日本における刑事訴訟手続きをめぐる重要な課題について考えます。最新のニュースなどの事情から、順序や内容を一部変更する場合があります。ご了承ください。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は配布する講義資料をもとに講義形式で行います。資料の配布についてはFUポータルを利用する場合がありますので、講義での指示にしたがってください。毎回提起する問題について、各自考えてください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

刑事事件・刑事訴訟手続きについての基本的な用語を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

報道される刑事事件を理解できる。(DP1-1)(技能)

日本の刑事訴訟手続きがかかえる課題を考察し、自分の言葉で説明できる。(DP2-1)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

示された問題について調べ、まとめておいてください。(90分)

示された問題を中心に講義内容を整理し、自分の言葉で説明できるようにしてください。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準  
 刑事事件・刑事訴訟手続きに関する基本的な用語や概念を理解しているか(到達目標1・2)、日本の刑事訴訟手続きがかかえる課題について、意見を明確に述べるができるか(到達目標3)を評価基準とします。

評価方法  
 定期試験70%  
 ミニツッペーパー・小テストをあわせて30%

--- テキスト ---

テキストは使用しません。講義資料を毎回配布します。

--- 参考書 ---

『ポケット六法 令和6年版』編集代表 佐伯仁志 大村敦志 荒木尚志 ISBN 978-4-641-00924-0  
 『法廷傍聴へ行こう』井上薫 ISBN 978-4-587-032043  
 別途講義内で指示する場合があります。

--- 履修上の留意点 ---

日ごろからニュースを見るなど、刑事事件に関心を持つようになしてください。刑事訴訟手続きがかかえる問題について、積極的に調べ、自分の意見を述べられるようにしてください。

--- 授業計画 ---

1. スタートアップ授業(ガイダンス)
2. 捜査
3. 逮捕
4. 取り調べ
5. 弁護人にかかわる問題
6. 検察官による起訴
7. 不起訴処分
8. 検察審査会
9. 裁判員制度
10. 死刑制度と再審制度
11. 刑務所のかかえる問題
12. 少年犯罪と家庭裁判所
13. 少年院のかかえる問題
14. 保護観察
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/2ytebkuqx4bb2nvlz3aet58iew47ih6f)

## 三宮 希

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. 刑事事件・刑事訴訟手続きについての基本的な用語を説明できる。（DP1-1）  
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 報道される刑事事件を理解できる。（DP1-1）（技能）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3. 日本の刑事訴訟手続きがかかえる課題を考察し、自分の言葉で説明できる。（DP2-1）（技能）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



## 守谷 賢輔

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：水・4時限 試験時間割：2025/01/15 3時限

## --- 概要 ---

国政選挙の投票率は50%程度であり、地方選挙になると投票率が30%ほどしかないところや、選挙すら行われなところもあります。こうした状況は、政治が自分たちの生活に身近なものと感じることができず、政治に無関心な人が多いからでしょうか。選挙で投票しても政治は変わらない、と諦めているからでしょうか。あるいは、関心はあっても、「素人」には近寄りたくない難解さを感じている人もいるかもしれません。他方で、消費税増税や新型コロナウイルスに関する政府の対応を見て、政治に関心をもった人もいます。

いずれにしても、政治が私たちの生活に多大な影響を及ぼしていることは間違いありません。したがって、「損をしない」ために政治の仕組みに関する一定の知識を習得し、賢い市民となることに大きな意義があります。また、社会の担い手である私たち一人ひとりは、今を生きる私たちだけでなく将来世代も視野に入れ、何が望ましい統治のあり方なのかを考え、より良い社会をつくっていく重要な責務を負っています。

## --- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成したレジュメをもとに、スライドを用いながら講義形式で行います。また、統治の問題をより具体的にイメージしてもらうために、動画を閲覧してもらう場合があります（重い内容を含む動画については、閲覧をどうかを受講生に委ねます）。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

憲法が定める統治の仕組みに関する基本的知識を習得し、それを自分の言葉で説明できること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

日々のニュースをみて、憲法が定める統治の仕組みとの関連を考えることができること。(DP2-2)(技能)

統治を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(態度・志向性)

習得した基本的知識を用いて、より良い統治のあり方を主体的に考えることが出来ること。(DP4-2)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでおいてください。その際には、日常生活や日々のニュースとどのように関係しているのかを考えてください。(40分)

授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点、理解できなかった論点および疑問に感じた点を確認し、ノートを作ってください。(70分)

参考文献を読み、理解できなかった論点および疑問に感じた点に関して理解に努めてください。(70分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

## (1) 評価基準

憲法が定める統治に関する基本的知識を身につけていること、および多様な論点の相互関係を理解していることを評価の基準とします。

## (2) 評価方法

小テスト(50点)と定期試験(50点)で評価します。

小テストは、毎回の授業後に実施します。授業内容に関する3~4の設問にFUポータル上で回答してもらいます(50点)。翌週の授業で問題の解説を行います。

授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、1回につき1~3点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

## --- テキスト ---

大久保卓治ほか編『憲法入門！市民講座』（法律文化社、2020年）

ISBN: 9784589040688

価格：2,420円

講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトしてください。

## --- 参考書 ---

古典で読む憲法 ISBN 4641131856

トピックからはじめる統治制度〔第2版〕 ISBN 4641227802

事例問題から考える憲法 ISBN 4641227020

## --- 履修上の留意点 ---

憲法、法学、政治学を履修済みまたは履修中であるほうが、授業をより良く理解できます。

真剣に勉強する気がない人、単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

## --- 授業計画 ---

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 国会と内閣
3. 国会（1）
4. 国会（2）
5. 国会（3）
6. 内閣
7. 裁判所（1）
8. 裁判所（2）
9. 違憲審査制と憲法訴訟（1）
10. 違憲審査制と憲法訴訟（2）
11. 違憲審査制と憲法訴訟（3）
12. 地方自治
13. 国民主権と天皇制
14. 憲法改正
15. まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。

<https://fukuoka-u.box.com/s/8e896iodolgx4awdo1qge5h8b7s48sqk>

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/8pg7f60ukpbxy78pihivrtkurh35x6c>)

## 守谷 賢輔

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.憲法が定める統治の仕組みに関する基本的知識を習得し、それを自分の言葉で説明できること。(DP1-1) (知識・理解)

2.習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1) (技能)

3.日々のニュースをみて、憲法が定める統治の仕組みとの関連を考えることができること。(DP2-2) (技能)

4.統治を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1) (態度・志向性)

5.習得した基本的知識を用いて、より良い統治のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 村林 聖子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：金・二部 1 時限 試験時間割：2025/01/24 夜 1 限

## - - - 概要 - - -

中学校や高校での校則や交通ルールなど、法は私たちを縛りつけるものであると意識する場面が多いですが、法は日々の暮らしを成り立たせているものでもあります。

本科目は、日々の暮らしに法がいかに関係しているかを理解することにより、現実の様々な問題に対して法的な関心をもち法的に考察する力を養うことを目的としています。日常の行動や出来事、日々のニュースがどのような法的意味をもっているかを理解できるようになることが目標です。

授業は講義形式で行います。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、担当教員が作成した講義資料をもとに講義形式で行います。

各回の授業終了後、Moodleでリアクション(質問・感想等)を受け付け、次回授業の冒頭で回答・コメントします。講義内容の理解に役立ててください。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

法学の基礎的な用語や概念を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現実の諸問題を法的に把握できる。(DP2-1)(知識・理解)

現実の諸問題に法的な関心を持ち、考察することができる。  
(DP1-1)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：前回の講義内容を確認した上で、講義資料を一読してください。(60分)

復習：講義資料を見直し、講義内容についての理解を確認してください。(120分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

ミニテスト40点 + 定期試験60点(計100点)

【ミニテスト】講義内容の基本的な理解を確認するために3回実施します(3回で合計40点)。Moodleを用い、授業時間外に解答の入力をしていただきます。

【定期試験】講義内容の基本的な理解を確認し、考察し適切に記述することができているかを評価します。

## - - - テキスト - - -

テキストは使用しません。  
担当教員が作成した講義資料を使用します。

## - - - 参考書 - - -

堅田研一『法学入門』(成文堂、2023年) ISBN 978-4-7923-0713-4

石山文彦・山本紘之・堀川信一(編)『ウォーミングアップ 法学[第2版]』(ナカニシヤ出版、2022年) ISBN 978-4-7795-1565-1

中山竜一『ヒューマニティーズ 法学』(岩波書店、2009年) ISBN 978-4-00-028323-6

さらに理解を深めるための参考にしてください。

## - - - 履修上の留意点 - - -

- ・講義資料は授業時に配布します。
- ・講義資料のpdfファイルは事前にFU-boxにアップします。予習や欠席時に役立ててください。
- ・Moodleのコース登録が必須です。登録方法については、第1回のスタートアップ授業とFUポータルで案内します。第3回の授業までに登録してください。
- ・本科目についての連絡はFUポータルのお知らせで行います。

## - - - 授業計画 - - -

- 1.イントロダクション【スタートアップ授業】(講義の概要、講義の進め方、成績評価の方法など)  
法と社会 (1)運転免許と交通事故 日々の暮らしと法の関わり 運転免許
- 2.法と社会 (1) 民事上の責任
- 3.法と社会 (1) 行政上の責任  
刑事上の責任
- 4.法と社会 (2)法の分類
- 5.法と社会 (3)近代と現代
- 6.法と強制 (1)刑罰
- 7.法と強制 (2)行政罰と行政処分
- 8.法と強制 (3)強制執行、損害賠償
- 9.法と裁判 (1)裁判
- 10.法と裁判 (1)裁判 続き
- 11.法と裁判 (2)刑事裁判
- 12.法と裁判 (3)民事裁判  
(4)行政裁判  
(5)裁判外紛争解決
- 13.法と裁判 (6)裁判員制度
- 14.法と裁判 (6)裁判員制度 続き
- 15.まとめ (ふりかえり、定期試験に関する説明、授業アンケートFURIKAの実施)

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/9cyt2ytk7bn8ofrbqyzjdcmourjq4ky>)

## 村林 聖子

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

- 1.法学の基礎的な用語や概念を説明できる。(DP1-1) (知識・理解)
- 2.現実の諸問題を法的に把握できる。(DP2-1) (知識・理解)
- 3.現実の諸問題に法的な関心を持ち、考察することができる。(DP1-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 畑中 久彌

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：後期：金・5時限 試験時間割：定期試験なし

## - - - 概要 - - -

人間は、守るべき行為の仕方を設定し、それに違反した者に一定の制裁を加えることによって、集団としての生生活動を維持してきました。小さな集団から膨大な人々から成る集団に至るまで、多かれ少なかれそのような営みを有しています。それが社会規範です。法は社会規範の一つとして重要な役割を果たしています。

法が具体的にどのような形で存在するかは、時代によっても地域によっても異なりますが、この授業では近代から現代にかけての日本の法令を中心に上げ、法令の基本的な仕組みと法の一般的な原則を学びます。

ただ、法令の基本的な仕組みや法の一般的な原則は、例えば「罪刑法定主義」や「法の不遡及の原則」というように非常に抽象的な言葉で表現されており、なかなか身近に感じられないところがあります。そこで、ニュース等、可能な限り身近な話題を紹介しながら授業を進めます。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

・授業は、教員が作成した講義資料（パワーポイント等）をもとに講義形式で行います。  
 ・授業内容を確認するために、ほぼ毎回の授業で小テストを行います。小テストはFUポータル授業支援の「小テスト」機能を用いて行います。  
 ・レポートを一回提出します。出題および提出は、FUポータル授業支援の「小テスト」機能を用います。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

法という社会規範の特徴と日本における法の全体像を理解し、説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

法が様々な学問や社会的営みに関わっていることを理解し、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：次回の講義のテーマについて下調べをしておく。(90分)

復習：授業資料を見直し、テーマに関する理解を定着させる。小テストがある場合にはそれを解く。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

## 1. 評価基準

社会規範としての法の特徴と歴史及び基本的な法令の特徴を理解し、それらを説明することができるかを評価基準とします。

## 2. 評価方法

授業時又は授業後小テスト(60%)、最終レポート1回(40%)で評価します。

3. 本科目は開講期間内評価科目であり定期試験を実施しないため、追試験・再試験を受験することはできません。

## - - - テキスト - - -

テキストは用いません。授業時に参考資料を配布又は配信します。

## - - - 履修上の留意点 - - -

・本科目は開講期間評価科目であり定期試験を実施しないため、追試験・再試験を受験することはできません。  
 ・「授業の進行・方法」欄に小テストを記載しています。小テストの提出期限は、一週間後の授業開始時刻までです。  
 ・期限ギリギリに提出しようとする、機器の不具合等で期限に間に合わなくなることがあります。早めに提出して下さい。そのために一週間の期間を取っていますので、体調不良等のやむを得ない理由によるものではない限り、期限に間に合わなかった場合の提出は認めません。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 イントロダクション（スタートアップ授業）
- 2 憲法（日本における憲法の歴史）
- 3 憲法（社会問題から見る憲法の諸原則）
- 4 民法（公法と私法、社会問題からみる民法の諸原則）
- 5 民法（民法の体系、消費者問題）
- 6 社会問題から見る労働法の諸原則
- 7 商事法、倒産法
- 8 裁判制度の概観、民事訴訟法（私人の権利救済の方法）
- 9 刑法（様々な刑罰）
- 10 刑法（刑法の諸原則）
- 11 刑事訴訟法（捜査と公訴、冤罪事件）
- 12 福祉と法（社会問題から見る社会保障法）
- 13 国際法（戦争を中心に）
- 14 法令の全体像と歴史
- 15 法の解釈、授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/qujgzivlahxf4n28vw4ncv5g96iog7n7>

## 畑中 久彌

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.法という社会規範の特徴と日本における法の全体像を理解し、説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

2.法が様々な学問や社会的営みに関わっていることを理解し、説明することができる。（DP2-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 井手 靖子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：木・1時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

## - - - 概要 - - -

本講義においては、社会におけるいくつかの主要なトピックを取り上げ、それらのテーマに対して社会的な視点を教授することで、社会に対してこれまでとは違った考え方を獲得出来ることを主眼としています。

授業内容としては、工業化・脱工業化や都市化、家族の変容、恋愛の変容など、いくつかのトピックを取り上げていきます。それらのテーマが時代の変遷をどのように辿ってきたかといった歴史的な変容を踏まえた上で、そこで何が問題とされているのか、それらの問題に対してどのように向き合うべきかを示唆します。また、必要に応じてビデオの鑑賞も行い、社会問題に対する多面的なアプローチの方法も提示することで、「社会」をより身近に、より柔軟に受け止められるよう、講義をすすめていきます。なお、本授業は講義形式で行います。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で行います。講義は教員の用意した資料(レジュメ等)を用い、レジュメに沿って進行していきます。原則として、講義はシラバスに準じて行いますが、学生の理解を促す目的で前回分の復習を行うことで、シラバス通りに進行しない場合はシラバス内容の変更がなされる場合もあります。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

講義を通して社会における基礎知識を身に着ける(DP1-1)(知識・理解)

社会の様々な問題に対して独自の視点で社会を切り開く能力を身につける(DP2-1)(知識・理解)

社会における一員として様々な問題を自らの問題として引き受け、積極的に社会参加できる態度を身につける(DP3-1)(態度・志向性)

社会学を通して様々な分野への多様な知識の必要性を認識し、積極的に理解しようとする姿勢を培う(DP4-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

配布した資料を事前に目を通し、わからない部分があれば、事前に自ら調べておくこと(60分)

関連する問題を自ら調べ、仮説を立てておくこと(60分)

受講した講義内容を踏まえ、質問を考えておくこと(60分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

評価方法：学期末の定期試験を80%、平常点として講義中での積極的発言および小レポート等で20%、その総合で評価を行います。

評価基準：身近な出来事を既存の枠組みにとらわれることなく、論理的かつ社会的な視点で論じることができるか、常に社会に対する問題意識を持ち、積極的に自らの意見を「自分のことば」で論じることができるか、で評価します。

## - - - テキスト - - -

図書の指定はありません。

## - - - 参考書 - - -

講義中において適宜紹介します。

## - - - 履修上の留意点 - - -

常に社会問題に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。また、固定概念や一般常識にとらわれず、自由な発想と柔軟な姿勢を心がけてください。質問や要望については随時受け付けます。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 本講義の説明と社会的思考について(スタートアップ授業)
- 2 産業社会論とは
- 3 産業化社会
- 4 工業化と脱工業化の具体的様相
- 5 生産局面における工業化と脱工業化
- 6 消費局面における工業化と脱工業化
- 7 政治局面における工業化と脱工業化  
資本主義と社会主義
- 8 日本の社会運動
- 9 文化変動論
- 10 映画鑑賞
- 11 都市とは何か
- 12 日本の都市社会学の変容
- 13 都市における多様化と画一
- 14 地域社会の高齢化と少子化
- 15 日本社会の変容とその視座、授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/a4v51wyvmebgu88kbdu0fk1a16wbshe>)

井手 靖子

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.講義を通して社会における基礎知識を身につける (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.社会の様々な問題に対して独自の視点で社会を切り開く能力を身につける (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.社会における一員として様々な問題を自らの問題として引き受け、積極的に社会参加できる態度を身につける (DP3-1) (態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.社会学を通して様々な分野への多様な知識の必要性を認識し、積極的に理解しようとする姿勢を培う (DP4-2) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 井手 靖子

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：木・2時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

## --- 概要 ---

本講義においては、社会におけるいくつかの主要なトピックを取り上げ、それらのテーマに対して社会学的な視点を教授することで、社会に対してこれまでとは違った考え方を獲得出来ることを主眼としています。

授業内容としては、工業化・脱工業化や都市化、家族の変容、恋愛の変容など、いくつかのトピックを取り上げていきます。それらのテーマが時代の変遷をどのように辿ってきたかといった歴史的な変容を踏まえた上で、そこで何が問題とされているのか、それらの問題に対してどのように向き合うべきかを示唆します。また、必要に応じてビデオの鑑賞も行い、社会問題に対する多面的なアプローチの方法も提示することで、「社会」をより身近に、より柔軟に受け止められるよう、講義をすすめていきます。なお、本授業は講義形式で行います。

## --- 授業の進行・方法 ---

授業は講義形式で行います。講義は教員の用意した資料(レジュメ等)を用い、レジュメに沿って進行していきます。原則として、講義はシラバスに準じて行いますが、学生の理解を促す目的で前回分の復習を行うことで、シラバス通りに進行しない場合はシラバス内容の変更がなされる場合もあります。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

講義を通して社会における基礎知識を身に着ける(DP1-1)(知識・理解)

社会の様々な問題に対して独自の視点で社会を切り開く能力を身につける(DP2-1)(知識・理解)

社会における一員として様々な問題を自らの問題として引き受け、積極的に社会参加できる態度を身につける(DP3-1)(態度・志向性)

社会学を通して様々な分野への多様な知識の必要性を認識し、積極的に理解しようとする姿勢を培う(DP4-2)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

配布した資料を事前に目を通し、わからない部分があれば、事前に自ら調べておくこと(60分)

関連する問題を自ら調べ、仮説を立てておくこと(60分)

受講した講義内容を踏まえ、質問を考えておくこと(60分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

評価方法：学期末の定期試験を80%、平常点として講義中での積極的発言および小レポート等で20%、その総合で評価を行います。

評価基準：身近な出来事を既存の枠組みにとらわれることなく、論理的かつ社会学的な視点で論じることができるか、常に社会に対する問題意識を持ち、積極的に自らの意見を「自分のことば」で論じることができるか、で評価します。

## --- テキスト ---

図書の指定はありません。

## --- 参考書 ---

講義中において適宜紹介します。

## --- 履修上の留意点 ---

常に社会問題に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。また、固定概念や一般常識にとらわれず、自由な発想と柔軟な姿勢を心がけてください。質問や要望については随時受け付けます。

## --- 授業計画 ---

- 1 本講義の説明と社会学的思考について(スタートアップ授業)
- 2 産業社会論とは
- 3 産業化社会
- 4 工業化と脱工業化の具体的様相
- 5 生産局面における工業化と脱工業化
- 6 消費局面における工業化と脱工業化
- 7 政治局面における工業化と脱工業化
- 資本主義と社会主義
- 8 日本の社会運動
- 9 文化変動論
- 10 映画鑑賞
- 11 都市とは何か
- 12 日本の都市社会学の変容
- 13 都市における多様化と画一
- 14 地域社会の高齢化と少子化
- 15 日本社会の変容とその視座、授業アンケートFURIKAの実施

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/1c9b6qhs6zt9c82xu39g3rc80ritxno3>)

## 井手 靖子

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 講義を通して社会における基礎知識を身につける (DP1-1) (知識・理解)

A: 知識・理解, B: 技能, C: 態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2. 社会の様々な問題に対して独自の視点で社会を切り開く能力を身につける (DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3. 社会における一員として様々な問題を自らの問題として引き受け、積極的に社会参加できる態度を身につける (DP3-1) (態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4. 社会学を通して様々な分野への多様な知識の必要性を認識し、積極的に理解しようとする姿勢を培う (DP4-2) (態度・志向性)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 高岡 弘幸

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：月・4時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

## - - - 概要 - - -

「幽霊」や「妖怪」は、人間が自然環境との関係や社会関係の中から生み出してきた文化的な創造物である。これを逆に述べるならば、幽霊や妖怪の資料の分析を通じて、人びとの自然との関係や人間関係の特徴が浮かび上がってくることになるだろう。特に「幽霊」は、江戸時代以降、「まち」や「都市」に出現することが一般的であった。

そこで、この授業では、講義形式で、「幽霊」の資料の分析を中心に、前近代(平安～江戸時代)、近代を経て現代に至る都市社会のそれぞれの時代の特徴を把握し、変容の様子を明らかにすることを目的としている。

言うまでもなく、現代の日本は「都市」の時代である。つまり、「都市」を考えるとということは、現代の私たちの価値観や社会(人間)関係、生活がどのように変化してきたのか、そして、今後、どのように変化していくのかを考えることでもあるわけである。

履修にあたり、都市社会学の他、宗教社会学や歴史社会学、関連分野として民俗学や文化人類学、歴史学など、幅広く読書をすすめて欲しい。とりわけ、受講生自身の生活環境を理解することこそ、現代社会の怪異の特徴を理解することにつながることを覚えておいて欲しい。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

パワーポイントによるスライドを主として用い、補足説明などを板書で行なう講義形式の授業を実施する。

授業で用いる参考資料は、授業中に通知したうえで、事前にFUポータル上にアップロードするので、指示にしたがって確認をすること。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

社会学の基礎的な知識を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本の宗教や怪異を含む民間信仰の特徴に関して理解を深める。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業で説明した専門用語を、具体的な事例をもとに理解しておくこと。(90分)

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

社会学に関する基本的な概念や専門用語を正確に理解できているか、また、日本の宗教や怪異を含む民間信仰の特徴が理解できているかを評価の基準とする。

定期試験(100%)で評価する。

## - - - テキスト - - -

特に指定しない。適宜、事前に資料を配布する。

## - - - 参考書 - - -

場所を消費する ISBN 4-588-00769-6

幽霊 近世都市が生み出した化物 ISBN 10-4642058338

妖怪学新考 ISBN 978-4-86248-180-1

事前に購入する必要はない。

## - - - 履修上の留意点 - - -

必要に応じてDVD教材を使用する予定である。

## - - - 授業計画 - - -

イントロダクション(スタートアップ授業)

集合表象としての怪異・妖怪：社会学の基礎

アニメ『もののけ姫』の解説(1)：アニミズムと呪術

同上(2)：日本の神と妖怪

シャーマニズム

古代都市(平安京)：官僚制社会と怨霊

「鬼」と「天狗」：空間認識と怪異

高知と富山の「異界マップ」：妖怪と幽霊の差異

怖い幽霊の誕生(1)：近世都市の構造

同上(2)：ジェンダーと幽霊

近代的都市伝説：「口裂け女」

学校と病院の怪談：「場所性」の怪異

幽霊が語る都市の現在：「非・場所性」の怪異

「ケータイ」する異界

妖怪ウォッチブームと異界の変容

まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

([https://fukuoka-u.box.com/s/](https://fukuoka-u.box.com/s/rnoja18u2r67xago0tg9d1xi5qka4wny)

[rnoja18u2r67xago0tg9d1xi5qka4wny](https://fukuoka-u.box.com/s/rnoja18u2r67xago0tg9d1xi5qka4wny))

高岡 弘幸

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.社会学の基礎的な知識を説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.日本の宗教や怪異を含む民間信仰の特徴に関して理解を深める。(DP2-1)  
(知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

高岡 弘幸

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：月・3時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

- - - 概要 - - -

「幽霊」や「妖怪」は、人間が自然環境との関係や社会関係の中から生み出してきた文化的な創造物である。これを逆に述べるならば、幽霊や妖怪の資料の分析を通じて、人びとの自然との関係や人間関係の特徴が浮かび上がってくることになるだろう。特に「幽霊」は、江戸時代以降、「まち」や「都市」に出現することが一般的であった。

そこで、この授業では、講義形式で、「幽霊」の資料の分析を中心に、前近代(平安~江戸時代)、近代を経て現代に至る都市社会のそれぞれの時代の特徴を把握し、変容の様子を明らかにすることを目的としている。

言うまでもなく、現代の日本は「都市」の時代である。つまり、「都市」を考えるとということは、現代の私たちの価値観や社会(人間)関係、生活がどのように変化してきたのか、そして、今後、どのように変化していくのかを考えることでもあるわけである。

履修にあたり、都市社会学の他、宗教社会学や歴史社会学、関連分野として民俗学や文化人類学、歴史学など、幅広く読書をすすめて欲しい。とりわけ、受講生自身の生活環境を理解することこそ、現代社会の怪異の特徴を理解することにつながることを覚えておいて欲しい。

- - - 授業の進行・方法 - - -

パワーポイントによるスライドを主として用い、補足説明などを板書で行なう講義形式の授業を実施する。

授業で用いる参考資料は、授業中に通知したうえで、事前にFUポータル上にアップロードするので、指示にしたがって確認をすること。

- - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

- - - 到達目標 - - -

社会学の基礎的な知識を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本の宗教や怪異を含む民間信仰の特徴に関して理解を深める。(DP2-1)(知識・理解)

- - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業で説明した専門用語を、具体的な事例をもとに理解しておくこと。(90分)

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。(90分)

- - - 成績評価基準および方法 - - -

社会学に関する基本的な概念や専門用語を正確に理解できているか、また、日本の宗教や怪異を含む民間信仰の特徴が理解できているかを評価の基準とする。

定期試験(100%)で評価する。

- - - テキスト - - -

特に指定しない。適宜、事前に資料を配布する。

- - - 参考書 - - -

場所を消費する ISBN 4-588-00769-6  
 幽霊 近世都市が生み出した化物 ISBN 10-4642058338  
 妖怪学新考 ISBN 978-4-86248-180-1  
 事前に購入する必要はない。

- - - 履修上の留意点 - - -

必要に応じてDVD教材を使用する予定である。

- - - 授業計画 - - -

イントロダクション(スタートアップ授業)  
 集合表象としての怪異・妖怪：社会学の基礎  
 アニメ『もののけ姫』の解読(1)：アニミズムと呪術  
 同上(2)：日本の神と妖怪  
 シャーマニズム  
 古代都市(平安京)：官僚制社会と怨霊  
 「鬼」と「天狗」：空間認識と怪異  
 高知と富山の「異界マップ」：妖怪と幽霊の差異  
 怖い幽霊の誕生(1)：近世都市の構造  
 同上(2)：ジェンダーと幽霊  
 近代的都市伝説：「口裂け女」  
 学校と病院の怪談：「場所性」の怪異  
 幽霊が語る都市の現在：「非・場所性」の怪異  
 「ケータイ」する異界  
 妖怪ウォッチブームと異界の変容  
 まとめ・授業アンケートFURIKAの実施

- - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/wc7lsl4xj6eth3ltxd5lwb14215ppbmd)

高岡 弘幸

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.社会学の基礎的な知識を説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.日本の宗教や怪異を含む民間信仰の特徴に関して理解を深める。(DP2-1)  
(知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 花野 裕康

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：金・3時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

## --- 概要 ---

この講義は、社会学A、Bにおける前半の科目で、社会学の入門（「わたし」から社会まで）を学ぶものです（Aだけでの受講でももちろん構いません）。具体的には、

(1)社会の中の「わたし」（みなさん一人一人のことです）を出発点に考察していきます。

(2)社会学の基礎概念である「行為」「コミュニケーション」「言語」「集団」「時代」について、この順序で学びます。つまり「わたし」から徐々に考察範囲を広げていきます。

(3)上記(1)(2)の考察は単に抽象的な概念学習にとどまらず、常に具体的社会現象を題材とします。その事で「わたし」から社会までの基礎概念を他の具体的な社会現象にも適用できる応用力を培います。

(4)最終的にその応用として「わたしと社会」というテーマを扱い、これまで学んできた基礎概念を駆使しつつ考察します。

## --- 授業の進行・方法 ---

・講義形式の科目です。スクリーンに投影したスライド（動画や音声もあり）を見ながら口頭で講義進行していきます。黒板は使いません。配布資料もありません。受講者のみなさんはスライドと私の説明を見ながら聴きながらノートを取って行ってください。  
・「コメントスクリーン」というアプリを使用し、授業中、受講者が匿名でスクリーン上にコメントをリアルタイムで流せるようにします。「スライドをひとつ戻してください」「今の概念について再度説明してください」「後ろの方で私語がうるさいので注意してください」「もう少し教室を暗くしてください」など、授業内容に関連がある事柄を自由にコメントしてください。  
・授業中のミニッツペーパーも数回実施しますが、これは成績には関係ありません。あくまで授業内容の理解度や感想を得るためです。次週にいくつか匿名で紹介します。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

社会学に対する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

若者としての「わたし」と社会との関係についての知識と理解が身につく、社会における自身の立ち位置について、その歴史の変遷も含めて説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

社会学に対する知識と理解に基づいて、他者や異文化などと適切にコミュニケーションできるスキルを持てる。(DP2-2)(技能)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：毎回の講義終了時に指示した課題（次回講義テーマに関わるもの）について、関連書籍およびインターネット上の情報に当たって知識を得ておいてください。(90分)

復習：毎回の講義後に当該講義テーマについて要点を整理した上で、自身の考えを文章化しておいてください。(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

評価基準：

(1)社会学の基礎概念を理解および説明できるか(到達目標1)、  
(2)応用力としての「若者と社会」について社会的に考察できるか(到達目標2&3)  
の2点を採点基準とします。

評価方法：定期試験（100%）のみによります。他の評価方法は使いません。

## --- テキスト ---

使用しません。

## --- 参考書 ---

使用しません。

## --- 履修上の留意点 ---

きちんと出席していないと単位取得はおぼつかないで特別な理由がない限り休まずに出席するようにしてください。コメントスクリーンでの発言をはじめ、積極的に授業に参加してください。居眠り・私語・許可された場合以外でのスマホ使用等、授業に無関係な事は行わず授業に集中するようにお願いします。

## --- 授業計画 ---

第01回 スタートアップ授業(動画配信)

・授業の進め方  
・社会学とはどのような学問か

第02回 出発点としての「わたし」

・花野の「わたし」の紹介  
・その紹介から受講者の「わたし」を振り返り書き留める

第03回 みなさんそれぞれの「わたし」

・受講者の「わたし」を匿名で数枚紹介  
・「わたし」の数だけある「社会」と唯一の「社会」との関係について

第04回 「わたし」のふるまい

・自意識について  
・自意識の社会性について

第05回 「わたし」のふるまいの諸相

・行動と行為の違い  
・さまざまな行為類型

第06回 「わたし」と「あなた」とのふるまいあい

・コミュニケーションとは何か  
・コミュニケーションの諸相

第07回 コミュニケーションの成立と不成立

・期待の相補性について  
・役割概念について

第08回 コミュニケーションにおける「情報」

・しぐさについて  
・ことばについて

第09回 「ことば」の行く先と受け止め先

・リアルな場での場合  
・ネット上での場合

第10回 人々の「集まり方」

・集まり方の諸相  
・群衆と集団

第11回 集団の「問題」

・集団成立の条件の「裏」  
・いじめについて

第12回 「時代」と社会の変遷

・「時代」とは何か  
・日本社会の時代を区切る

第13回 日本社会の時代変遷

・戦前の1時代  
・戦後の3時代

第14回 「わたしと社会」

・花野の「わたしと社会」の紹介  
・受講者の「わたしと社会」を振り返り書き留める

第15回 社会の中の「わたし」

・受講者の「わたしと社会」を匿名で数枚紹介  
・講義の総まとめ  
・FURIKA回答実施

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/nmqifa4b21qvx9ea4rgd0mm94hlagzo0>)

## 花野 裕康

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.社会学に対する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。（DP1-1）  
（知識・理解）

2.若者としての「わたし」と社会との関係についての知識と理解が身につく、  
社会における自身の立ち位置について、その歴史の変遷も含めて説明できる。  
（DP2-1）（知識・理解）

3.社会学に対する知識と理解に基づいて、他者や異文化などと適切にコミュニ  
ケーションできるスキルを持てる。（DP2-2）（技能）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、  
B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている  
（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い  
視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事  
を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔  
軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、  
C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発  
揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活  
用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長  
に貢献することができる（B、C）



## 花野 裕康

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：金・4時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

## --- 概要 ---

この講義は、社会学A、Bにおける前半の科目で、社会学の入門（「わたし」から社会まで）を学ぶものです（Aだけでの受講でももちろん構いません）。具体的には、

(1)社会の中の「わたし」（みなさん一人一人のことです）を出発点に考察していきます。

(2)社会学の基礎概念である「行為」「コミュニケーション」「言語」「集団」「時代」について、この順序で学びます。つまり「わたし」から徐々に考察範囲を広げていきます。

(3)上記(1)(2)の考察は単に抽象的な概念学習にとどまらず、常に具体的社会現象を題材とします。その事で「わたし」から社会までの基礎概念を他の具体的な社会現象にも適用できる応用力を培います。

(4)最終的にその応用として「わたしと社会」というテーマを扱い、これまで学んできた基礎概念を駆使しつつ考察します。

## --- 授業の進行・方法 ---

- ・講義形式の科目です。スクリーンに投影したスライド（動画や音声もあり）を見ながら口頭で講義進行していきます。黒板は使いません。配布資料もありません。受講者のみなさんはスライドと私の説明を見ながら聴きながらノートを取って行ってください。
- ・「コメントスクリーン」というアプリを使用し、授業中、受講者が匿名でスクリーン上にコメントをリアルタイムで流せるようにします。「スライドをひとつ戻してください」「今の概念について再度説明してください」「後ろの方で私語がうるさいので注意してください」「もう少し教室を暗くしてください」など、授業内容に関連がある事柄を自由にコメントしてください。
- ・授業中のミニッツペーパーも数回実施しますが、これは成績には関係ありません。あくまで授業内容の理解度や感想を得るためです。次週にいくつか匿名で紹介します。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

社会学に対する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

若者としての「わたし」と社会との関係についての知識と理解が身につく、社会における自身の立ち位置について、その歴史の変遷も含めて説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

社会学に対する知識と理解に基づいて、他者や異文化などと適切にコミュニケーションできるスキルを持てる。(DP2-2)(技能)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：毎回の講義終了時に指示した課題（次回講義テーマに関わるもの）について、関連書籍およびインターネット上の情報に当たって知識を得ておいてください。(90分)

復習：毎回の講義後に当該講義テーマについて要点を整理した上で、自身の考えを文章化しておいてください。(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

評価基準：

- (1)社会学の基礎概念を理解および説明できるか(到達目標1)、
  - (2)応用力としての「若者と社会」について社会的に考察できるか(到達目標2&3)
- の2点を採点基準とします。

評価方法：定期試験（100%）のみによります。他の評価方法は用いられません。

## --- テキスト ---

使用しません。

## --- 参考書 ---

使用しません。

## --- 履修上の留意点 ---

きちんと出席していないと単位取得はおぼつかないで特別な理由がない限り休まずに出席するようにしてください。コメントスクリーンでの発言をはじめ、積極的に授業に参加してください。居眠り・私語・許可された場合以外でのスマホ使用等、授業に無関係な事は行わず授業に集中するようにお願いします。

## --- 授業計画 ---

第01回 スタートアップ授業(動画配信)

- ・授業の進め方
- ・社会学とはどのような学問か

第02回 出発点としての「わたし」

- ・花野の「わたし」の紹介
- ・その紹介から受講者の「わたし」を振り返り書き留める

第03回 みなさんそれぞれの「わたし」

- ・受講者の「わたし」を匿名で数枚紹介
- ・「わたし」の数だけある「社会」と唯一の「社会」との関係について

第04回 「わたし」のふるまい

- ・自意識について
- ・自意識の社会性について

第05回 「わたし」のふるまいの諸相

- ・行動と行為の違い
- ・さまざまな行為類型

第06回 「わたし」と「あなた」とのふるまいあい

- ・コミュニケーションとは何か
- ・コミュニケーションの諸相

第07回 コミュニケーションの成立と不成立

- ・期待の相補性について
- ・役割概念について

第08回 コミュニケーションにおける「情報」

- ・しぐさについて
- ・ことばについて

第09回 「ことば」の行く先と受け止め先

- ・リアルな場での場合
- ・ネット上での場合

第10回 人々の「集まり方」

- ・集まり方の諸相
- ・群衆と集団

第11回 集団の「問題」

- ・集団成立の条件の「裏」
- ・いじめについて

第12回 「時代」と社会の変遷

- ・「時代」とは何か
- ・日本社会の時代を区切る

第13回 日本社会の時代変遷

- ・戦前の1時代
- ・戦後の3時代

第14回 「わたしと社会」

- ・花野の「わたしと社会」の紹介
- ・受講者の「わたしと社会」を振り返り書き留める

第15回 社会の中の「わたし」

- ・受講者の「わたしと社会」を匿名で数枚紹介
- ・講義の総まとめ
- ・FURIKA回答実施

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/c2s0ejb7t7h9l0jstvnhxridklhz3uo>)

花野 裕康

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.社会学に対する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。（DP1-1）  
（知識・理解）

2.若者としての「わたし」と社会との関係についての知識と理解が身につく、  
社会における自身の立ち位置について、その歴史の変遷も含めて説明できる。  
（DP2-1）（知識・理解）

3.社会学に対する知識と理解に基づいて、他者や異文化などと適切にコミュニ  
ケーションできるスキルを持てる。（DP2-2）（技能）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、  
B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている  
（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い  
視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事  
を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔  
軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、  
C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発  
揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活  
用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長  
に貢献することができる（B、C）

平田 暢

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：水・4時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

--- 概要 ---

この授業は、現実に行っている現象や趨勢の分析を通して現代社会を考察していくことを目的とする。「趨勢」とは、「時代の趨勢」という言葉が使われるように、現状から読み取ることのできる傾向や動向、成り行きを意味する。

まず、身近なものとして家族の変容や少子化、最近話題の格差や社会的不平等といった個々の趨勢や現象の分析を行い、現象の原因やプロセスを考察する。それらの作業を通して、現代社会をもっとも根底的な部分で動かしている趨勢は何なのか、またその中心原理がどのようなものであるか考察する。あわせて、戦後の日本社会がたどってきた道筋と直面する問題、解決すべき課題等も明らかにしていきたい。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、事前に配布した「STOP and THINK」という問いが含まれる資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行う。資料は、事前にFUポータルにアップロードするので、授業前に確認し、問いについて考えておくこと。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

- 1.現代社会の趨勢に関する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
- 2.現代社会の個別の現象に関する知識と理解が身につく、原因やプロセスも含めて説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習

資料は早めに配布するので、事前に内容に目を通し、理解できない点や疑問点を自分の課題として明らかにしておくこと。また、資料中の「STOP and THINK」の問いを考えておくこと。(90分)

復習

授業後は、事前の疑問点や課題が解決できたか否かの確認と、「STOP and THINK」の内容を中心に資料を見直しておくこと。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準

現代社会の趨勢と現代社会の個別の現象に関する知識が身につく、説明できること(到達目標1&2)を評価の基準とする。

評価方法

定期試験の成績のみで評価する(100%)。

--- テキスト ---

使用しない。講義中に資料を配布する。

--- 参考書 ---

- 原純輔・盛山和夫(著),1999,『社会階層 豊かさの中の不平等』,東京大学出版会.  
 ISBN-13: 978-4130530125  
 真木悠介(著),2003,『時間の比較社会学』,岩波現代文庫.  
 ISBN-13: 978-4006001087  
 山田昌弘(著),2007,『希望格差社会 「負け組」の絶望感が日本を引き裂く』,ちくま文庫.  
 ISBN-13: 978-4480423085  
 篠原清夫・栗田真樹(編著),2016,『大学生のための社会学入門』,晃洋書房.  
 ISBN-13: 978-4771027176

--- 履修上の留意点 ---

- 1)履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を視聴しておくこと。
- 2)時間割を確認し、必修科目との重複など、スケジュールに不具合がないことを確認しておくこと。
- 3)毎回の講義資料は原則としてインターネットを通じて配布するので、FUポータルをチェックすること。

--- 授業計画 ---

- 1 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
- 2 社会学とはどのような学問か
- 3 家族の変容(1)
- 4 家族の変容(2)
- 5 少子化の進展(1)
- 6 少子化の進展(2)
- 7 社会的不平等と格差(1)
- 8 社会的不平等と格差(2)
- 9 社会の情報化と監視(1)
- 10 社会の情報化と監視(2)
- 11 社会的ジレンマと環境問題(1)
- 12 社会的ジレンマと環境問題(2)
- 13 地域社会の変容(1)
- 14 地域社会の変容(2)
- 15 全体のまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/0avnhy2k5wv2620ql2vhyw40lde236p)

平田 暢

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1.現代社会の趨勢に関する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.2.現代社会の個別の現象に関する知識と理解が身につく、原因やプロセスも含めて説明できる。 (DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 森 康司

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：前期：水・1時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

## - - - 概要 - - -

社会学とは、私たちの生活する社会の諸現象について、一歩下がって客観的に捉えなおす学問である。受講者には、それぞれが「個人的なこと」「当たり前のこと」のように思っていることについて、いったん立ち止まり、振り返りつつ、捉え直してゆく作業が求められることになる。

本講義では、社会現象へアプローチする方法を例示するために、産業化を切り口とする。

産業化のインパクトは、家族、地域社会、働き方、環境など広範囲に及んだが、好ましい影響ばかりではなく、様々な副作用をもたらした。

まずは社会学の視点から、「産業社会」と呼ばれる社会の特徴と、産業化が社会全体に与えたインパクトについて概観する。そして、産業構造の変化によって、私達の生活はどのように変化し、どのような課題を抱えているかを、特に地域社会と環境問題に注目しながら考察していく。

内容は社会情勢の変化、受講生の希望などによって、わずかに変更する場合がある。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

本授業は、パワーポイントを用いた講義形式で行う。理解を促すために、適宜映像資料も使用する。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

現代社会を理解する上で必要な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日常や常識を批判的に見つめ直すことの意義を理解し、社会学的想像力を身につける。(DP2-1)(技能)

現代社会に関する知識を用いて、自分とは異なる属性を持つ他者について理解できる。(DP2-2)(技能)

社会問題について自ら分析し、説明できる。(DP4-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

事前学習として、ポータルサイトに掲載している資料を読むこと。文献や資料を読んでくる必要がある時は、授業にて指示する。(90分)

事後学習として、授業資料を精読すること。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

## 評価基準

到達目標にどの程度達しているかが基準となる。

## 評価方法

定期試験90%、授業で使用する映像資料への小レポート10%。

## - - - テキスト - - -

テキストは使用しない。

授業で使用する資料は、事前にポータルサイトに掲載するので、各自印刷するなどして準備すること。

## - - - 履修上の留意点 - - -

「社会科」が苦手であったり、「社会科」の知識がなくても大丈夫だが、社会現象や現代人の生き方に関心がある事が望ましい。

「概説社会学」を受講しているとより理解が深まりやすいが、受講していなくても受講可能な内容となっている。

## - - - 授業計画 - - -

第1回：スタートアップ授業(イントロダクション)

第2回：産業化とは

第3回：産業化と地域社会

第4回：産業化と家族機能の変化

第5回：地域社会とは何か

第6回：都市とは何か

第7回：農山村の現状と課題

第8回：都市への人口集中は続くのか

第9回：地域の絆を考える(1)絆を強くすれば自殺は減るのか

第10回：地域の絆を考える(2)大規模災害にどう備えるか

第11回：地域の絆を考える(3)地域社会と福祉

第12回：産業化と環境問題(1)環境問題の変容

第13回：産業化と環境問題(2)消費社会と環境問題

第14回：産業化と環境問題(3)受益権と受苦圏

第15回：生活環境主義(授業アンケートの実施)

## - - - スタートアップ授業 - - -

## スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ezxgke89wmt2og2havp6s4hyminqs3fe>)

## 森 康司

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.現代社会を理解する上で必要な知識と理解が身につく、説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.日常や常識を批判的に見つめ直すことの意義を理解し、社会学的想像力を身につける。(DP2-1) (技能)

3.現代社会に関する知識を用いて、自分とは異なる属性を持つ他者について理解できる。(DP2-2) (技能)

4.社会問題について自ら分析し、説明できる。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 本多 康生

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：火・3時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

## - - - 概要 - - -

社会学とは、人間が集散的に織りなす社会を考察の対象とする学問である。本講義では、現代の様々な社会事象を分析し理解するために、社会学の理論や物の見方を、家族・宗教・労働・地域社会・医療・障害・教育・メディア・現代文化・環境問題・ジェンダーなどのテーマに即して解説し、社会の構造や仕組みに対する基本的認識を深める手ほどきを行う。特に、身近な問題からグローバルな社会事象までを総合的に分析する社会学の問題把握の特性を、重点的に教授していく。

授業は、ニュース・ドキュメンタリーなどの視聴覚資料を活用しつつ、パワーポイントを用いた講義形式で行う。それによって、受講者それぞれが現代社会の諸問題に関する社会的理解や合意形成の手掛かりを得ることを目指す。毎回、リアクションペーパーの提出を課すので、自身の意見や質問などを考えながら受講してほしい。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成したスライド資料をもとに講義形式で行う。資料は、事前に Moodle からダウンロードまたは印刷しておくこと。講義後には、当該回のテーマに対して自身の見解を記したリアクションペーパーを Moodle 経由で提出してもらう。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

1. 現代社会に関する基礎的な知識を身につけ、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
2. 社会的な物の見方を理解し、現代の様々な社会事象について多角的な視野から考察できる。(DP2-1)(知識・理解)
3. 他者の多様な考え方や価値観に触れることで、自身の見解や立場を相対化し、問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

毎回の講義後に、ノートや配付レジュメを見直して復習した上で、リアクションペーパーを提出すること。(180分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

各回の受講後に提出するリアクションペーパー(30%)、中間レポート(20%)、定期試験の成績(50%)。

リアクションペーパー：各回の授業内容を理解した上で、当該テーマについて独自の見解を述べられているかどうかを評価基準とする。(到達目標3)

中間レポート・定期試験：社会学の基礎的概念と物の見方を理解した上で、現代の様々な社会事象について、多角的な視野から考察できているかどうかを評価基準とする。(到達目標1・2)

## - - - テキスト - - -

教科書は使用しない。講義毎にレジュメを配布する。

## - - - 履修上の留意点 - - -

受講にあたって特別な知識は必要としないが、テレビや新聞報道の記事などを通じて、時事問題に関心を持ってほしい。

毎回のリアクションペーパーの提出や中間レポートの作成など、非常に大きな負担があることを理解した上で受講してもらいたい。

授業中の私語等には、厳格に対処する。

## - - - 授業計画 - - -

講義内容や順序は、受講者の理解度に応じて変更される可能性がある。

- 1 インTRODクシヨン(スタートアップ授業)
- 2 社会学のパラドクス
- 3 家族を社会学する
- 4 宗教を社会学する
- 5 産業・労働を社会学する
- 6 地域社会を社会学する
- 7 医療を社会学する
- 8 障害を社会学する
- 9 教育を社会学する
- 10 メディアを社会学する
- 11 現代文化を社会学する
- 12 環境問題を社会学する
- 13 ジェンダーを社会学する
- 14 フィールドワーク入門
- 15 総括・授業アンケートFURIKA の実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/5wt95h640ahx1x7yjhkrs1n9lrn1mvwp>)

## 本多 康生

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1. 現代社会に関する基礎的な知識を身につけ、説明できる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2. 社会学的な物の見方を理解し、現代の様々な社会事象について多角的な視野から考察できる。（DP2-1）（知識・理解）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.3. 他者の多様な考え方や価値観に触れることで、自身の見解や立場を相対化し、問い直す姿勢を持つ。（DP2-2）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



## 開田 奈穂美

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：火・2時限 試験時間割：2024/07/25 4時限

## --- 概要 ---

## 授業の内容

社会学とは、近代以降に生まれた比較的新しい学問であり、現代まで続く人間が作り出した社会の特徴を問うものである。社会学はきわめて多様なテーマを問うことができる学問である。経済格差や少子化、グローバル化など、現代社会に起こっているさまざまな問題を社会学はどのように解明できるのだろうか。

この講義の前半では、社会学がこれまで積み上げてきた現代社会を理解するための概念や枠組みについて学ぶ。後半では、家族や地域社会、消費などいくつかの個別領域について検討し、現代社会をとりまく問題に対する社会的アプローチを身につけていく。

## --- 授業の進行・方法 ---

この授業は講義形式で行います。授業資料は前日までにインターネットを通じて配布しますので、当日はPCを持参したり印刷したりして、資料を閲覧できる状態で授業に参加してください。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

現代社会に関する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会に起こっている様々な事象についての知識と理解が身につく、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

社会のマクロな潮流について理解することを通じて、他者や異文化への想像力を身につける。(DP2-2)(知識・理解)

現代社会に起こる様々な問題について知識と理解を深め、社会の問題を当事者として捉えようとする志向や態度を身につける。(DP3-1)(知識・理解)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習 毎回の講義終了後、次回の講義テーマについて指示するので、次回講義までにそのテーマについて知りたいこと、わからないことについて考えておくこと。(90分)

復習 講義の内容および自分が提出したフィードバック等を踏まえて、事前の疑問や課題が解決されたかを確認する。(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

定期試験70%、授業参加度30%として評価する。定期試験では、授業の基本的な内容の理解度と、理解した内容を具体的事例に応用する能力を判定する。授業参加度は、授業時に提出してもらった教員へのフィードバックや、授業の中で課す小課題の提出内容によって授業への理解度を判断するものである。

## --- テキスト ---

特に使用しない、授業中に資料等を配布する。

## --- 参考書 ---

社会福祉士養成講座編集委員会編、2014『新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム【第3版】』中央法規出版 ISBN 9784805839300

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2019『社会学(新版)』有斐閣 ISBN 9784641053892

## --- 履修上の留意点 ---

履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を見てから出席すること。また時間割を確認し、スケジュールにあわせて出席できることを前提にして、履修を考えること。

毎回の講義資料は、原則としてインターネットを通じて配布する。また、ウェブ上のアンケート機能などを通じて小課題の提出を指示することがあるので、タブレットやスマートフォンなど、インターネットにアクセスできるデバイスを持参することが望ましい。

## --- 授業計画 ---

1. イントロダクション：スタートアップ授業
2. 近代社会の特徴
3. 社会学の成立
4. 社会指標と社会移動
5. 社会階層と日本型格差社会
6. 経済・労働市場と階層
7. 社会変動と近代化
8. 人口と福祉国家
9. 生活の理解・消費社会論
10. 生活の質を測る
11. 家族という社会現象
12. 現代日本の家族変容
13. 地域とコミュニティ
14. 都市化と地域社会
15. 全体のふりかえり、FURIKAの実施

講義の進度は、受講者の理解の状況に応じて変更する可能性がある。

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/xtstqevy3brtki991w28pf9w7pt96y8g>

## 開田 奈穂美

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.現代社会に関する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)  
(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.現代社会に起こっている様々な事象についての知識と理解が身につく、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

3.社会のマクロな潮流について理解することを通じて、他者や異文化への想像力を身につける。(DP2-2) (知識・理解)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

4.現代社会に起こる様々な問題について知識と理解を深め、社会の問題を当事者として捉えようとする志向や態度を身につける。(DP3-1) (知識・理解)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 開田 奈穂美

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：火・5 時限 試験時間割：2024/07/25 4 時限

## --- 概要 ---

## 授業の内容

社会学とは、近代以降に生まれた比較的新しい学問であり、現代まで続く人間が作り出した社会の特徴を問うものである。社会学はきわめて多様なテーマを問うことができる学問である。経済格差や少子化、グローバル化など、現代社会に起こっているさまざまな問題を社会学はどのように解明できるのだろうか。

この講義の前半では、社会学がこれまで積み上げてきた現代社会を理解するための概念や枠組みについて学ぶ。後半では、家族や地域社会、消費などいくつかの個別領域について検討し、現代社会をとりまく問題に対する社会的アプローチを身につけていく。

## --- 授業の進行・方法 ---

この授業は講義形式で行います。授業資料は前日までにインターネットを通じて配布しますので、当日はPCを持参したり印刷したりして、資料を閲覧できる状態で授業に参加してください。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

現代社会に関する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会に起こっている様々な事象についての知識と理解が身につく、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

社会のマクロな潮流について理解することを通じて、他者や異文化への想像力を身につける。(DP2-2)(知識・理解)

現代社会に起こる様々な問題について知識と理解を深め、社会の問題を当事者として捉えようとする志向や態度を身につける。(DP3-1)(知識・理解)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習 毎回の講義終了後、次回の講義テーマについて指示するので、次回講義までにそのテーマについて知りたいこと、わからないことについて考えておくこと。(90分)

復習 講義の内容および自分が提出したフィードバック等を踏まえて、事前の疑問や課題が解決されたかを確認する。(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

定期試験70%、授業参加度30%として評価する。定期試験では、授業の基本的な内容の理解度と、理解した内容を具体的事例に応用する能力を判定する。授業参加度は、授業時に提出してもらった教員へのフィードバックや、授業の中で課す小課題の提出内容によって授業への理解度を判断するものである。

## --- テキスト ---

特に使用しない、授業中に資料等を配布する。

## --- 参考書 ---

社会福祉士養成講座編集委員会編、2014『新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム【第3版】』中央法規出版 ISBN 9784805839300

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2019『社会学(新版)』有斐閣 ISBN 9784641053892

## --- 履修上の留意点 ---

履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を見てから出席すること。また時間割を確認し、スケジュールにあわせて出席できることを前提にして、履修を考えること。

毎回の講義資料は、原則としてインターネットを通じて配布する。また、ウェブ上のアンケート機能などを通じて小課題の提出を指示することがあるので、タブレットやスマートフォンなど、インターネットにアクセスできるデバイスを持参することが望ましい。

## --- 授業計画 ---

1. イントロダクション：スタートアップ授業
2. 近代社会の特徴
3. 社会学の成立
4. 社会指標と社会移動
5. 社会階層と日本型格差社会
6. 経済・労働市場と階層
7. 社会変動と近代化
8. 人口と福祉国家
9. 生活の理解・消費社会論
10. 生活の質を測る
11. 家族という社会現象
12. 現代日本の家族変容
13. 地域とコミュニティ
14. 都市化と地域社会
15. 全体のふりかえり、FURIKAの実施

講義の進度は、受講者の理解の状況に応じて変更する可能性がある。

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/gua3d8va06ze8s1zjp3oguh44r1i9fo8>)

## 開田 奈穂美

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.現代社会に関する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)  
(知識・理解)

2.現代社会に起こっている様々な事象についての知識と理解が身につく、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.社会のマクロな潮流について理解することを通じて、他者や異文化への想像力を身につける。(DP2-2) (知識・理解)

4.現代社会に起こる様々な問題について知識と理解を深め、社会の問題を当事者として捉えようとする志向や態度を身につける。(DP3-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 本多 康生

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：月・二部2時限 試験時間割：2024/07/29 夜2限

## --- 概要 ---

社会学とは、人間が集散的に織りなす社会を考察の対象とする学問である。本講義では、現代の様々な社会事象を分析し理解するために、社会学の理論や物の見方を、家族・宗教・労働・地域社会・医療・障害・教育・メディア・現代文化・環境問題・ジェンダーなどのテーマに即して解説し、社会の構造や仕組みに対する基本的認識を深める手ほどきを行う。特に、身近な問題からグローバルな社会事象までを総合的に分析する社会学の問題把握の特性を、重点的に教授していく。

授業は、ニュース・ドキュメンタリーなどの視聴覚資料を活用しつつ、パワーポイントを用いた講義形式で行う。それによって、受講者それぞれが現代社会の諸問題に関する社会的理解や合意形成の手掛かりを得ることを目指す。毎回、リアクションペーパーの提出を課すので、自身の意見や質問などを考えながら受講してほしい。

## --- 授業の進行・方法 ---

授業は、教員が作成したスライド資料をもとに講義形式で行う。資料は、事前に Moodle からダウンロードまたは印刷しておくこと。講義後には、当該回のテーマに対して自身の見解を記したリアクションペーパーを Moodle 経由で提出してもらう。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

1. 現代社会に関する基礎的な知識を身につけ、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
2. 社会的な物の見方を理解し、現代の様々な社会事象について多角的な視野から考察できる。(DP2-1)(知識・理解)
3. 他者の多様な考え方や価値観に触れることで、自身の見解や立場を相対化し、問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

ノートや配付レジュメを見直したり、授業中に紹介した文献に目を通すなど、各講義の後に復習をすること。(180分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

各回の受講後に提出するリアクションペーパー(30%)、中間レポート(20%)、定期試験の成績(50%)。

リアクションペーパー：各回の授業内容を理解した上で、当該テーマについて独自の見解を述べられるかどうかを評価基準とする。(到達目標3)

中間レポート・定期試験：社会学の基礎的概念と物の見方を理解した上で、現代の様々な社会事象について、多角的な視野から考察できているかどうかを評価基準とする。(到達目標1・2)

## --- テキスト ---

教科書は使用しない。講義毎にレジュメを配布する。

## --- 履修上の留意点 ---

受講にあたって特別な知識は必要としないが、テレビや新聞報道の記事などを通じて、時事問題に関心を持ってほしい。

授業中の私語等には、厳格に対処する。

## --- 授業計画 ---

講義内容や順序は、受講者の理解度に応じて変更される可能性がある。

- 1 イントロダクション(スタートアップ授業)
- 2 社会学のパラドクス
- 3 家族を社会学する
- 4 宗教を社会学する
- 5 産業・労働を社会学する
- 6 地域社会を社会学する
- 7 医療を社会学する
- 8 障害を社会学する
- 9 教育を社会学する
- 10 メディアを社会学する
- 11 現代文化を社会学する
- 12 環境問題を社会学する
- 13 ジェンダーを社会学する
- 14 フィールドワーク入門
- 15 総括・授業アンケートFURIKAの実施

## --- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/poxmavec3lyk1bw6y1d710k51yhk5nct>

## 本多 康生

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1.1. 現代社会に関する基礎的な知識を身につけ、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2.2. 社会学的な物の見方を理解し、現代の様々な社会事象について多角的な視野から考察できる。(DP2-1)(知識・理解)

3.3. 他者の多様な考え方や価値観に触れることで、自身の見解や立場を相対化し、問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 井手 靖子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：木・1時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

## - - - 概要 - - -

今日の社会問題をどのように考えるべきか、そもそも、社会問題とは何か、社会問題に対して社会がどのように捉えているのか、情報化社会といわれる今日、その情報をどのように受け止めるべきなのか。

本講義では、身の回りの出来事だけではなく、現代社会への関心を深め、社会学的なものの見方や説明の仕方を学ぶ方法を提供します。現代社会への関心を深めるために、日本社会が直面している重要な社会問題のいくつかを取り上げ、社会学の概念や理論を用いて説明を行っていきます。私たちが社会にいかに関わり込まれているかということ、つまり社会的存在であることを丁寧に考えいく中で、社会を生きること、社会と向き合うことについて考えを深めてもらいたいと思います。また、講義の中でビデオの鑑賞を行い、映像から自由な発想を獲得してもらいたいと考えます。なお、本授業は講義形式で行います。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で行います。講義は教員の用意した資料(レジュメ等)を用い、レジュメに沿って進行していきます。原則として、講義はシラバスに準じて行いますが、学生の理解を促す目的で前回分の復習を行うことで、シラバス通りに進行しない場合はシラバス内容の変更がなされる場合もあります。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

社会におけるさまざまな問題の基礎知識を身につける(DP1-1)(知識・理解)

さまざまなコミュニティのなかで、人間同士の関係性がどのような過程で構築されてきたのか、今後どのように変容するかを想定する力を養う(DP2-1)(態度・志向性)

社会における一員として、社会のさまざまな問題を自らの問題として捉え、多様な視点から問題に取り組む姿勢を養う(DP4-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

配布した資料に事前に目を通し、わからない語句や概念があれば、事前に調べておくこと(60分)

関連する社会問題を想定し、それに対する仮説を立てておくこと(60分)

受講した講義内容を踏まえ、質問を考えておくこと(60分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

評価方法：学期末の定期試験を80%、平常点として講義中での積極的発言および小レポート等で20%、その総合で評価を行います。

評価基準：身近な出来事を既存の枠組みにとらわれることなく、論理的かつ社会学な視点で論じることができるか、常に社会に対する問題意識を持ち、積極的に自らの意見を「自分のことば」で論じることができるか、で評価します。

## - - - テキスト - - -

図書の指定は特にありません。

## - - - 参考書 - - -

講義中において適宜紹介します。

## - - - 履修上の留意点 - - -

常に社会問題に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。また、固定概念や一般常識にとらわれず、自由な発想と柔軟な姿勢を心がけてください。質問や要望については随時受け付けます。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 講義の概要と現代社会の諸問題(スタートアップ授業)
- 2 家族の変容(1)-産業化と家族-
- 3 家族の変容(2)-現代家族の変容-
- 4 家族の変容(3)-家事と育児-
- 5 家族の変容(4)-ジェンダー-
- 6 家族の変容(5)-就職と結婚-
- 7 家族の変容(6)-女性にとっての結婚・男性にとっての結婚
- 8 -家族の変容(6)-日本の少子化-
- 9 映画鑑賞-映画を通してみる女性問題
- 10 現代天皇制の諸相(1)-象徴天皇制の成立-
- 11 現代天皇制の諸相(2)-大衆天皇制の登場-
- 12 現代天皇制の諸相(3)-万世一系と女性天皇論-
- 13 恋愛論(1)-ロマンティック・ラブ・イデオロギー-
- 14 恋愛論(2)-「あそび」としての恋愛-
- 15 総括-「社会学」を通してみる社会、授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/uxro1t833h6dndm9mfpg0x4xx6lww7lc>

## 井手 靖子

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.社会におけるさまざまな問題の基礎知識を身につける（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.さまざまなコミュニティのなかで、人間同士の関係性がどのような過程で構築されてきたのか、今後どのように変容するかを想定する力を養う（DP2-1）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

3.社会における一員として、社会のさまざまな問題を自らの問題として捉え、多様な視点から問題に取り組む姿勢を養う（DP4-2）（態度・志向性）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



## 井手 靖子

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：木・2時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

## - - - 概要 - - -

今日の社会問題をどのように考えるべきか、そもそも、社会問題とは何か、社会問題に対して社会がどのように捉えているのか、情報化社会といわれる今日、その情報をどのように受け止めるべきなのか。

本講義では、身の回りの出来事だけではなく、現代社会への関心を深め、社会学的なものの見方や説明の仕方を学ぶ方法を提供します。現代社会への関心を深めるために、日本社会が直面している重要な社会問題のいくつかを取り上げ、社会学の概念や理論を用いて説明を行っていきます。私たちが社会にいかに関わり込まれているかということ、つまり社会的存在であることを丁寧に考えいく中で、社会を生きること、社会と向き合うことについて考えを深めてもらいたいと思います。また、講義の中でビデオの鑑賞を行い、映像から自由な発想を獲得してもらいたいと考えます。なお、本授業は講義形式で行います。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は講義形式で行います。講義は教員の用意した資料(レジュメ等)を用い、レジュメに沿って進行していきます。原則として、講義はシラバスに準じて行いますが、学生の理解を促す目的で前回分の復習を行うことで、シラバス通りに進行しない場合はシラバス内容の変更がなされる場合もあります。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

社会におけるさまざまな問題の基礎知識を身につける(DP1-1)(知識・理解)

さまざまなコミュニティのなかで、人間同士の関係性がどのような過程で構築されてきたのか、今後どのように変容するかを想定する力を養う(DP2-1)(態度・志向性)

社会における一員として、社会のさまざまな問題を自らの問題として捉え、多様な視点から問題に取り組む姿勢を養う(DP4-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

配布した資料に事前に目を通し、わからない語句や概念があれば、事前に調べておくこと(60分)

関連する社会問題を想定し、それに対する仮説を立てておくこと(60分)

受講した講義内容を踏まえ、質問を考えておくこと(60分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

評価方法：学期末の定期試験を80%、平常点として講義中での積極的発言および小レポート等で20%、その総合で評価を行います。

評価基準：身近な出来事を既存の枠組みにとらわれることなく、論理的かつ社会学な視点で論じることができるか、常に社会に対する問題意識を持ち、積極的に自らの意見を「自分のことば」で論じることができるか、で評価します。

## - - - テキスト - - -

図書の指定は特にありません。

## - - - 参考書 - - -

講義中において適宜紹介します。

## - - - 履修上の留意点 - - -

常に社会問題に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。また、固定概念や一般常識にとらわれず、自由な発想と柔軟な姿勢を心がけてください。質問や要望については随時受け付けます。

## - - - 授業計画 - - -

- 1 講義の概要と現代社会の諸問題(スタートアップ授業)
- 2 家族の変容(1)-産業化と家族-
- 3 家族の変容(2)-現代家族の変容-
- 4 家族の変容(3)-家事と育児-
- 5 家族の変容(4)-ジェンダー-
- 6 家族の変容(5)-就職と結婚-
- 7 家族の変容(6)-女性にとっての結婚・男性にとっての結婚
- 8 -家族の変容(6)-日本の少子化-
- 9 映画鑑賞-映画を通してみる女性問題
- 10 現代天皇制の諸相(1)-象徴天皇制の成立-
- 11 現代天皇制の諸相(2)-大衆天皇制の登場-
- 12 現代天皇制の諸相(3)-万世一系と女性天皇論-
- 13 恋愛論(1)-ロマンティック・ラブ・イデオロギー-
- 14 恋愛論(2)-「あそび」としての恋愛-
- 15 総括-「社会学」を通してみる社会、授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/i0qih068rz69xzptkyft6g7hipvrzubn>)

## 井手 靖子

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.社会におけるさまざまな問題の基礎知識を身につける (DP1-1) (知識・理解)

2.さまざまなコミュニティのなかで、人間同士の関係性がどのような過程で構築されてきたのか、今後どのように変容するかを想定する力を養う (DP2-1) (態度・志向性)

3.社会における一員として、社会のさまざまな問題を自らの問題として捉え、多様な視点から問題に取り組む姿勢を養う (DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

## 高岡 弘幸

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：月・2時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

## - - - 概要 - - -

人間は一人きりで生きていくことはできない。生まれたときから家族・親戚、学校、会社あるいは友人・知人関係、サークル、インターネットの輪といった、何らかの集団や組織に所属することになる。では、そうした集団・組織の内部での人間関係はどのように決められているのだろうか。

つまり、この授業では、講義形式で、日本人が、まったく疑問を抱くことなく、当たり前のように結ぶ人間関係の具体的な事例の紹介と分析をとおして、社会学の考え方と基礎知識、分析方法を学ぶことを目的としている。

また、こうした課題は、日常生活と切り離された、教室の内側だけでおさまるものではない。受講生自身の、トラブルも含む、さまざまな人間関係の経験と記憶、さらには、新聞、テレビ、インターネットなど各種メディアに、授業と関連する出来事や事件があふれ返っている。この授業を履修するにあたり、日頃から、「人間関係」「集団・組織」をキーワードとして、さまざまな情報を収集するよう心掛けてもらいたい。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

パワーポイントによるスライドを主として用い、補足説明などを板書で行なう講義形式の授業を実施する。

授業で用いる参考資料は、授業中に通知したうえで、事前にFUポータル上にアップロードするので、指示にしたがって確認をすること。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

社会学の基礎的な知識を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本人の人間関係の特徴に関して理解を深める。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業で説明した専門用語を、具体的な事例をもとに理解しておくこと。(90分)

次の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

社会学に関する基本的な概念や専門用語を正確に理解できているか、また、日本人の人間関係の社会学的な特徴を理解できているかを評価の基準とする。

定期試験(100%)で評価する。

## - - - テキスト - - -

特に指定しない。適宜、事前に資料を配布する。

## - - - 参考書 - - -

希望格差社会 ISBN 978-4-480-42308-5

下流社会 ISBN 4-334-03321-0

無縁社会 ISBN 978-4-16-373380-7

事前に購入する必要はない。

## - - - 履修上の留意点 - - -

必要に応じてDVD教材を使用する予定である。

## - - - 授業計画 - - -

イントロダクション(スタートアップ授業)  
 アニメ『となりのトトロ』の解説(1)：本家・分家関係、文化資本、家格

同上(2)：村人を行動に駆り立てるものとは？

日本的社會：世間と贈与・互酬性、タテ社会

西欧の市民社会と都市：日本の世間との比較

日本的人間関係を規定する力：空気

社会の構造を探る：異人(stranger)

村八分再考(1)：犯人探し・確定の方法

同上(2)：何が罪の重さを決めるのか？

同上(3)：連座と縁座(罪をかぶる範囲)・ケガレ

日本の近代化(1)：社会の変化

同上(2)：学歴社会の誕生と変容

同上(3)：一億総中流社会・消費社会

同上(4)：下流社会・格差社会・ネット依存症

まとめ・授業アンケートFURIKAの実施。

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/kegqwjl8wjbnkwmg93mzcrh1jq39ct1g>)

高岡 弘幸

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

- 1.社会学の基礎的な知識を説明できる。(DP1-1) (知識・理解)
- 2.日本人の人間関係の特徴に関して理解を深める。(DP2-1) (知識・理解)

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）  
DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）  
DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）  
DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 高岡 弘幸

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：月・3時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

## - - - 概要 - - -

人間は一人きりで生きていくことはできない。生まれたときから家族・親戚、学校、会社あるいは友人・知人関係、サークル、インターネットの輪といった、何らかの集団や組織に所属することになる。では、そうした集団・組織の内部での人間関係はどのように決められているのだろうか。

つまり、この授業では、講義形式で、日本人が、まったく疑問を抱くことなく、当たり前のように結ぶ人間関係の具体的な事例の紹介と分析をとおして、社会学の考え方と基礎知識、分析方法を学ぶことを目的としている。

また、こうした課題は、日常生活と切り離された、教室の内側だけでおさまるものではない。受講生自身の、トラブルも含む、さまざまな人間関係の経験と記憶、さらには、新聞、テレビ、インターネットなど各種メディアに、授業と関連する出来事や事件があふれ返っている。この授業を履修するにあたり、日頃から、「人間関係」「集団・組織」をキーワードとして、さまざまな情報を収集するよう心掛けてもらいたい。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

パワーポイントによるスライドを主として用い、補足説明などを板書で行なう講義形式の授業を実施する。

授業で用いる参考資料は、授業中に通知したうえで、事前にFUポータル上にアップロードするので、指示にしたがって確認をすること。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

社会学の基礎的な知識を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本人の人間関係の特徴に関して理解を深める。(DP2-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

授業で説明した専門用語を、具体的な事例をもとに理解しておくこと。(90分)

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

社会学に関する基本的な概念や専門用語を正確に理解できているか、また、日本人の人間関係の社会学的な特徴を理解できているかを評価の基準とする。  
 定期試験(100%)で評価する。

## - - - テキスト - - -

特に指定しない。適宜、事前に資料を配布する。

## - - - 参考書 - - -

希望格差社会 ISBN 978-4-480-42308-5

下流社会 ISBN 4-334-03321-0

無縁社会 ISBN 978-4-16-373380-7

事前に購入する必要はない。

## - - - 履修上の留意点 - - -

必要に応じてDVD教材を使用する予定である。

## - - - 授業計画 - - -

イントロダクション(スタートアップ授業)  
 アニメ『となりのトトロ』の解説(1)：本家・分家関係、文化資本、家格

同上(2)：村人を行動に駆り立てるものとは？

日本的社會：世間と贈与・互酬性、タテ社会

西欧の市民社会と都市：日本の世間との比較

日本的人間関係を規定する力：空気

社会の構造を探る：異人(stranger)

村八分再考(1)：犯人探し・確定の方法

同上(2)：何が罪の重さを決めるのか？

同上(3)：連座と縁座(罪をかぶる範囲)・ケガレ

日本の近代化(1)：社会の変化

同上(2)：学歴社会の誕生と変容

同上(3)：一億総中流社会・消費社会

同上(4)：下流社会・格差社会・ネット依存症

まとめ・授業アンケートFURIKAの実施。

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/wpi1ko0y8xegci7i6nwrur2bsfhmtphi>)

高岡 弘幸

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

- 1.社会学の基礎的な知識を説明できる。(DP1-1) (知識・理解)
- 2.日本人の人間関係の特徴に関して理解を深める。(DP2-1) (知識・理解)

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 花野 裕康

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：金・3時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

## - - - 概要 - - -

この授業は、社会学A、Bにおける後半の科目で、社会学の応用を学ぶものです（Bだけでの受講でも十分理解できるように授業するので問題ありません）。具体的には、社会学Aで学んだ事柄の簡単な復習を経て、

(1)いくつかの社会事象を「のぞき穴」としつつ、そこから社会のありさまを具体的に見ていきます。

(2)(1)における社会のありさまは、ひとつには横の広がり、つまり現在におけるさまざまな社会のすがたです。これを考察します。

(3)(1)における社会のありさまは、もうひとつには縦の広がり、つまり過去から現在における社会の変遷です。これを考察します。

(4)最終的に、特定の社会事象から見た社会のありさまを時間的空間的な広さと深みをもったものとして理解し、なおかつ他の社会現象に対してもその理解を応用できるようになることを目標とします。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

・講義形式の科目です。スクリーンに投影したスライド（動画や音声もあり）を見ながら口頭で講義進行していきます。黒板は使いません。配布資料もありません。受講者のみなさんはスライドと私の説明を見ながら聴きながらノートを取って行ってください。  
・「コメントスクリーン」というアプリを使用し、授業中、受講者が匿名でスクリーン上にコメントをリアルタイムで流せるようにします。「スライドをひとつ戻してください」「今の概念について再度説明してください」「後ろの方で私語がうるさいので注意してください」「もう少し教室を暗くしてください」など、授業内容に関連がある事柄を自由にコメントしてください。  
・授業中のミニッツペーパーも数回実施しますが、これは成績には関係ありません。あくまで授業内容の理解度や感想を得るためです。次週にいくつか匿名で紹介します。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

特定の社会事象を社会的に理解した上で、そこから社会全体を考察することができる。(DP1-1)(技能)

さまざまな社会事象を社会的に理解した上で、それらから社会を多角的に考察することができる。(DP2-1)(技能)

多角的に考察した社会像を基に、さまざまな他者や異文化について自ら考察し理解を深めることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：毎回の講義終了時に指示した課題（次回講義テーマに関わるもの）について、関連書籍およびインターネット上の情報に当たって知識を得ておいてください。(90分)

毎回の講義後に当該講義テーマについて要点を整理した上で、自身の考えを文章化しておいてください。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：

(1)いくつかの社会事象から社会全体を考察できるか(到達目標1&2)、  
(2)応用力として「さまざまな他者や文化」について自ら社会的に考察できるか(到達目標3)  
の2点を採点基準とします。

評価方法：定期試験（100%）のみによります。他の評価方法は用いません。

## - - - テキスト - - -

使用しません。

## - - - 参考書 - - -

使用しません。

## - - - 履修上の留意点 - - -

きちんと出席していないと単位取得はおぼつかないで特別な理由がない限り休まずに出席するようにしてください。こちらからの問いかけには答えるなど、積極的に授業に参加してください。居眠り・私語・許可された場合以外でのスマホ使用等、授業に無関係な事は行わず授業に集中するようにお願いします。

## - - - 授業計画 - - -

第01回 スタートアップ授業(動画配信)

- ・授業の進め方
- ・社会学とはどのような学問か（社会学Aの概要紹介）

第02回 文化から社会を見る

- ・文明と文化の違い
- ・日本文化の特殊性

第03回 文化相対主義

- ・文化相対主義とは何か
- ・日本文化と韓流文化

第04回 消費から社会を見る

- ・「消費」とは何か
- ・消費するモノの3価値

第05回 高度消費社会

- ・消費の文化的価値
- ・消費の精神的価値

第06回 メディアと社会

- ・「メディア」概念について
- ・メディアとコミュニケーション

第07回 メディアの疑似性

- ・疑似環境
- ・疑似イベント

第08回 ネットと社会

- ・メディアとしてのネット
- ・ネットは社会の何を変えたか

第09回 ネットのセカイ

- ・セカイ系とネット
- ・シン・セカイ系とネット

第10回 音楽と社会

- ・音楽の社会的役割
- ・アウラの消失と文化産業化

第11回 音楽のデジタル化

- ・ピンチとしてのデジタル化
- ・チャンスとしてのデジタル化

第12回 性と社会

- ・「性」とは何か
- ・性の多様性、性差の多様性

第13回 性の「取り扱い」

- ・性の多様性と一様性
- ・文化や消費と性

第14回 社会の中の問題

- ・社会病理と社会問題
- ・社会問題論の2理論
- ・受講者の「さまざまな社会」を振り返り書き留める

第15回

- 受講者の「さまざまな社会」を匿名で数枚紹介
- ・講義の総まとめ
- ・FURIKA回答実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/5n75605u1rny9ahpyxmoca9yuuo7d31p>)

## 花野 裕康

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.特定の社会事象を社会的に理解した上で、そこから社会全体を考察することができる。(DP1-1) (技能)

2.さまざまな社会事象を社会的に理解した上で、それらから社会を多角的に考察することができる。(DP2-1) (技能)

3.多角的に考察した社会像を基に、さまざまな他者や異文化について自ら考察し理解を深めることができる。(DP2-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 花野 裕康

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：金・4時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

## - - - 概要 - - -

この授業は、社会学A、Bにおける後半の科目で、社会学の応用を学ぶものです（Bだけの受講でも十分理解できるように授業するので問題ありません）。具体的には、社会学Aで学んだ事柄の簡単な復習を経て、

(1)いくつかの社会事象を「のぞき穴」としつつ、そこから社会のありさまを具体的にみていきます。

(2)(1)における社会のありさまは、ひとつには横の広がり、つまり現在におけるさまざまな社会のすがたです。これを考察します。

(3)(1)における社会のありさまは、もうひとつには縦の広がり、つまり過去から現在における社会の変遷です。これを考察します。

(4)最終的に、特定の社会事象から見た社会のありさまを時間的空間的な広さと深みをもったものとして理解し、なおかつ他の社会現象に対してもその理解を応用できるようになることを目標とします。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

・講義形式の科目です。スクリーンに投影したスライド（動画や音声もあり）を見ながら口頭で講義進行していきます。黒板は使いません。配布資料もありません。受講者のみなさんはスライドと私の説明を見ながら聴きながらノートを取って行ってください。  
・「コメントスクリーン」というアプリを使用し、授業中、受講者が匿名でスクリーン上にコメントをリアルタイムで流せるようにします。「スライドをひとつ戻してください」「今の概念について再度説明してください」「後ろの方で私語がうるさいので注意してください」「もう少し教室を暗くしてください」など、授業内容に関連がある事柄を自由にコメントしてください。  
・授業中のミニッツペーパーも数回実施しますが、これは成績には関係ありません。あくまで授業内容の理解度や感想を得るためです。次週にいくつか匿名で紹介します。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

特定の社会事象を社会的に理解した上で、そこから社会全体を考察することができる。(DP1-1)(技能)

さまざまな社会事象を社会的に理解した上で、それらから社会を多角的に考察することができる。(DP2-1)(技能)

多角的に考察した社会像を基に、さまざまな他者や異文化について自ら考察し理解を深めることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習：毎回の講義終了時に指示した課題（次回講義テーマに関わるもの）について、関連書籍およびインターネット上の情報に当たって知識を得ておいてください。(90分)

毎回の講義後に当該講義テーマについて要点を整理した上で、自身の考えを文章化しておいてください。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

評価基準：

(1)いくつかの社会事象から社会全体を考察できるか(到達目標1&2)、  
(2)応用力として「さまざまな他者や文化」について自ら社会的に考察できるか(到達目標3)  
の2点を採点基準とします。

評価方法：定期試験（100%）のみによります。他の評価方法は用いません。

## - - - テキスト - - -

使用しません。

## - - - 参考書 - - -

使用しません。

## - - - 履修上の留意点 - - -

きちんと出席していないと単位取得はおぼつかないで特別な理由がない限り休まずに出席するようにしてください。こちらからの問いかけには答えるなど、積極的に授業に参加してください。居眠り・私語・許可された場合以外でのスマホ使用等、授業に無関係な事は行わず授業に集中するようにお願いします。

## - - - 授業計画 - - -

第01回 スタートアップ授業(動画配信)

- ・授業の進め方
- ・社会学とはどのような学問か（社会学Aの概要紹介）

第02回 文化から社会を見る

- ・文明と文化の違い
- ・日本文化の特殊性

第03回 文化相対主義

- ・文化相対主義とは何か
- ・日本文化と韓流文化

第04回 消費から社会を見る

- ・「消費」とは何か
- ・消費するモノの3価値

第05回 高度消費社会

- ・消費の文化的価値
- ・消費の精神的価値

第06回 メディアと社会

- ・「メディア」概念について
- ・メディアとコミュニケーション

第07回 メディアの疑似性

- ・疑似環境
- ・疑似イベント

第08回 ネットと社会

- ・メディアとしてのネット
- ・ネットは社会の何を変えたか

第09回 ネットのセカイ

- ・セカイ系とネット
- ・シン・セカイ系とネット

第10回 音楽と社会

- ・音楽の社会的役割
- ・アウラの消失と文化産業化

第11回 音楽のデジタル化

- ・ピンチとしてのデジタル化
- ・チャンスとしてのデジタル化

第12回 性と社会

- ・「性」とは何か
- ・性の多様性、性差の多様性

第13回 性の「取り扱い」

- ・性の多様性と一様性
- ・文化や消費と性

第14回 社会の中の問題

- ・社会病理と社会問題
- ・社会問題論の2理論
- ・受講者の「さまざまな社会」を振り返り書き留める

第15回

- 受講者の「さまざまな社会」を匿名で数枚紹介
- ・講義の総まとめ
- ・FURIKA回答実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/morh1k4p8l5nfifu7pzf8n16n6k9i7bv>)

## 花野 裕康

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.特定の社会事象を社会的に理解した上で、そこから社会全体を考察することができる。（DP1-1）（技能）

2.さまざまな社会事象を社会的に理解した上で、それらから社会を多角的に考察することができる。（DP2-1）（技能）

3.多角的に考察した社会像を基に、さまざまな他者や異文化について自ら考察し理解を深めることができる。（DP2-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 森 康司

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：火・1時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

## --- 概要 ---

社会学とは、様々な社会現象について、先入観にとらわれることなく、一歩下がって客観的に捉えなおす学問である。その際、それぞれが無意識のうちに抱いている常識や先入観を相対化し、改めて社会現象に対峙する事が求められる。本授業では、それぞれが抱いている常識や先入観を自覚してもらい、それを疑いながら、現代社会が抱える各種の問題、中でも若者に関連するなかなか表面化しづらい問題について考察していく。

具体的には、まず「若者がニート化している／凶悪化している」という世間のイメージを、統計データを用いながら問い直すことから始める。

さらに、少子化の大きな要因とされる未婚化晩婚化が、「結婚したくないからしない」のか、「結婚したいけどできない」のかを、統計データを用いながら考察する。

そして、大人の世界でも生じる「いじめ（ハラスメント）」の構造や、情報メディアの発達によって若者の対人関係がどのように変化したのかを、過去の経験を相対化してもらいながら考察していく。

内容は社会情勢の変化、受講生の希望などによって、わずかに変更する場合がある。

## --- 授業の進行・方法 ---

本授業は、パワーポイントを用いた講義形式で行う。理解を促すために、適宜映像資料も使用する。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

現代社会を理解する上で必要な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日常や常識を批判的に見つめ直すことの意義を理解し、社会学的想像力を身につける。(DP2-1)(技能)

現代社会に関する知識を用いて、自分とは異なる属性を持つ他者について理解できる。(DP2-2)(技能)

社会問題について自ら分析し、説明できる。(DP4-2)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前学習として、参考書やポータルサイト掲載の資料を読むこと。文献や資料を読む必要がある場合は、授業にて指示する。(90分)

事後学習として、授業資料を精読すること。(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

## 評価基準

到達目標にどの程度達しているかが基準となる。

## 評価方法

定期試験90%、授業で使用する映像資料への小レポート10%。

## --- テキスト ---

テキストは使用しない。

授業で使用する資料は、事前にポータルサイトに掲載するので、各自印刷するなどして準備すること。

## --- 参考書 ---

社会学で描く現代社会のスケッチ ISBN 978-4860154851

## --- 履修上の留意点 ---

「社会科」が苦手であったり、「社会科」の知識がなくても大丈夫だが、社会現象や現代人の生き方に関心がある事が望ましい。

授業資料だけに頼らず、口頭での説明を注意して聞き、必要に応じてメモを取る事。

## --- 授業計画 ---

第1回：スタートアップ授業（イントロダクション）

第2回：若者はニート化したか(1)（日本の経営とは）

第3回：若者はニート化したか(2)（非正規雇用の増大）

第4回：若者はニート化したか(3)（女性の就業）

第5回：若者はニート化したか(4)（「ニート」の実像）

第6回：サービス産業と感情労働

第7回：未婚化・晩婚化(1)（少子化はなぜ進むか）

第8回：未婚化・晩婚化(2)（結婚難の実情）

第9回：未婚化・晩婚化(3)（男女交際の変化と結婚難）

第10回：若者はキレやすくなったか(1)（検証：少年犯罪）

第11回：若者はキレやすくなったか(2)（子供・若者像の変容）

第12回：なぜいじめを止められないのか(1)（いじめは増えたのか）

第13回：なぜいじめを止められないのか(2)（いじめの四層構造論）

第14回：若者的コミュニケーションの現在(1)（コミュニケーションとは）

第15回：若者的コミュニケーションの現在(2)（SNSはなぜ流行するのか、授業アンケートの実施）

## --- スタートアップ授業 ---

## スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/8ygr5sukpt30v0syx1ycykk2o8i7aqqx>)

## 森 康司

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.現代社会を理解する上で必要な知識と理解が身につく、説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.日常や常識を批判的に見つめ直すことの意義を理解し、社会学的想像力を身につける。(DP2-1) (技能)

3.現代社会に関する知識を用いて、自分とは異なる属性を持つ他者について理解できる。(DP2-2) (技能)

4.社会問題について自ら分析し、説明できる。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 森 康司

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
授業時間割：後期：火・2時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

## --- 概要 ---

社会学とは、様々な社会現象について、先入観にとらわれることなく、一歩下がって客観的に捉えなおす学問である。その際、それぞれが無意識のうちに抱いている常識や先入観を相対化し、改めて社会現象に対峙する事が求められる。本授業では、それぞれが抱いている常識や先入観を自覚してもらい、それを疑いながら、現代社会が抱える各種の問題、中でも若者に関連するなかなか表面化しづらい問題について考察していく。

具体的には、まず「若者がニート化している/凶悪化している」という世間のイメージを、統計データを用いながら問い直すことから始める。

さらに、少子化の大きな要因とされる未婚化晩婚化が、「結婚したくないからしない」のか、「結婚したいけどできない」のかを、統計データを用いながら考察する。

そして、大人の世界でも生じる「いじめ(ハラスメント)」の構造や、情報メディアの発達によって若者の対人関係がどのように変化したのかを、過去の経験を相対化してもらいながら考察していく。

内容は社会情勢の変化、受講生の希望などによって、わずかに変更する場合がある。

## --- 授業の進行・方法 ---

本授業は、パワーポイントを用いた講義形式で行う。理解を促すために、適宜映像資料も使用する。

## --- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

## --- 到達目標 ---

現代社会を理解する上で必要な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日常や常識を批判的に見つめ直すことの意義を理解し、社会学的想像力を身につける。(DP2-1)(技能)

現代社会に関する知識を用いて、自分とは異なる属性を持つ他者について理解できる。(DP2-2)(技能)

社会問題について自ら分析し、説明できる。(DP4-2)(態度・志向性)

## --- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前学習として、参考書やポータルサイト掲載の資料を読むこと。文献や資料を読む必要がある場合は、授業にて指示する。(90分)

事後学習として、授業資料を精読すること。(90分)

## --- 成績評価基準および方法 ---

## 評価基準

到達目標にどの程度達しているかが基準となる。

## 評価方法

定期試験90%、授業で使用する映像資料への小レポート10%。

## --- テキスト ---

テキストは使用しない。

授業で使用する資料は、事前にポータルサイトに掲載するので、各自印刷するなどして準備すること。

## --- 参考書 ---

社会学で描く現代社会のスケッチ ISBN 978-4860154851

## --- 履修上の留意点 ---

「社会科」が苦手であったり、「社会科」の知識がなくても大丈夫だが、社会現象や現代人の生き方に関心がある事が望ましい。

授業資料だけに頼らず、口頭での説明を注意して聞き、必要に応じてメモを取る事。

## --- 授業計画 ---

第1回：スタートアップ授業(イントロダクション)

第2回：若者はニート化したか(1)(日本の経営とは)

第3回：若者はニート化したか(2)(非正規雇用の増大)

第4回：若者はニート化したか(3)(女性の就業)

第5回：若者はニート化したか(4)(「ニート」の実像)

第6回：サービス産業と感情労働

第7回：未婚化・晩婚化(1)(少子化はなぜ進むか)

第8回：未婚化・晩婚化(2)(結婚難の実情)

第9回：未婚化・晩婚化(3)(男女交際の変化と結婚難)

第10回：若者はキレやすくなったか(1)(検証：少年犯罪)

第11回：若者はキレやすくなったか(2)(子供・若者像の変容)

第12回：なぜいじめを止められないのか(1)(いじめは増えたのか)

第13回：なぜいじめを止められないのか(2)(いじめの四層構造論)

第14回：若者的コミュニケーションの現在(1)(コミュニケーションとは)

第15回：若者的コミュニケーションの現在(2)(SNSはなぜ流行するのか、授業アンケートの実施)

## --- スタートアップ授業 ---

## スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/y2gbjz2l2zkwp6v45ta5e9cqdj1bepy>)

## 森 康司

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.現代社会を理解する上で必要な知識と理解が身につく、説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.日常や常識を批判的に見つめ直すことの意義を理解し、社会学的想像力を身につける。(DP2-1) (技能)

3.現代社会に関する知識を用いて、自分とは異なる属性を持つ他者について理解できる。(DP2-2) (技能)

4.社会問題について自ら分析し、説明できる。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

平田 暢

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：水・4時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

--- 概要 ---

概念とは理論に関連した、物や行動、認識結果、現象などの正確な定義である。命題とは概念間の関係についての言明であり、判断を言葉で表したものである。多くの社会学者が、現代社会を説明するために概念や命題を提案してきた。

本授業では、大きく分けて、社会(的なもの)が個人を拘束する側面と、個々人の行動が集積されて社会現象が起こる側面の2つに注目し、それらにかかわる概念や命題を考察することを目的とする。前者の文脈では、「与えられた役割が、普通の人を残酷行為に駆り立てる凶器となりうる」現象などを、後者の文脈では「ある状況が起こりそうだと考えて人々が行動すると、そう思わなければ起こらなかったはずの状況が実現してしまう」現象などを紹介し、解説を加えていく。

--- 授業の進行・方法 ---

授業は、事前に配布した「STOP and THINK」という問いが含まれる資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行う。資料は、事前にFUポータルにアップロードするので、講義前に確認し、問いについて考えておくこと。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

1.社会学の概念や命題の基本的な考え方と基礎的な知識、理解が身につく、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2.社会学の個別の概念や命題に関する知識と理解が身につく、具体的な現象にあてはめて説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習

資料は早めに配布するので、事前に内容に目を通し、理解できない点や疑問点を自分の課題として明らかにしておくこと。また、資料中の「STOP and THINK」の問いを考えておくこと。(90分)

復習

授業後は、事前の疑問点や課題が解決できたか否かの確認と、「STOP and THINK」の内容を中心に講義資料を見直しておくこと。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

評価基準

社会学の複数の概念や命題に関する知識と理解が身につく、説明できること(到達目標1&2)を評価の基準とする。

評価方法

定期試験の成績のみで評価する(100%)。

--- テキスト ---

使用しない。講義中に資料を配布する。

--- 参考書 ---

作田啓一・井上俊(編著),1986,『命題コレクション社会学』,筑摩書房。

ISBN-13: 978-4480852922

E.デュルケム(著),宮島喬(訳),1985,『自殺論』,中公文庫。

ISBN-13: 978-4122012561

M.ウェーバー(著),大塚久雄(訳),1989,『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』,岩波文庫。

ISBN-13: 978-4003420935

篠原清夫・栗田真樹(編著),2016,『大学生のための社会学入門』,晃洋書房。

ISBN-13: 978-4771027176

--- 履修上の留意点 ---

- 履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を視聴しておくこと。
- 時間割を確認し、必修科目との重複など、スケジュールに不具合がないことを確認しておくこと。
- 毎回の講義資料は原則としてインターネットを通じて配布するので、FUポータルをチェックすること。

--- 授業計画 ---

- イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
- 社会学の概念・命題とはどのようなものか
- 自殺論(Durkheim)
- 犯罪の潜在的な機能(Durkheim)
- 役割の功罪(Milgram/Zimbardo)
- 自由からの逃走(Fromm)
- 合理化と官僚制(1)(Weber)
- 合理化と官僚制(2)(Weber)
- 社会のリスク化(Beck)
- 予言の自己成就と中範囲の理論(1)(Merton)
- 予言の自己成就と中範囲の理論(2)(Merton)
- 囚人のジレンマとナッシュ均衡
- 社会的決定のパラドックス(1)
- 社会的決定のパラドックス(2)
- 全体のまとめ、授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/izakmskbpn9xdmlqqnig2ib57k3rh6l3>)

平田 暢

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1.社会学の概念や命題の基本的な考え方と基礎的な知識、理解が身につく、説明できる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2.社会学の個別の概念や命題に関する知識と理解が身につく、具体的な現象にあてはめて説明できる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



## 開田 奈穂美

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：火・4時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

## - - - 概要 - - -

この講義では、社会学の基本的な概念や思考方法を紹介しながら、現代社会における様々な問題を把握する視点を獲得することを目的としている。自分の役割や社会の中での地位をどう獲得するのかといったミクロな視点から、社会問題がなぜ生まれ、どうして解決することが難しいのかといったマクロな視点までを含めて、社会学とかかわりのある法や経済といった近接領域との関係にも触れながら授業を進めていく。講義の後半では、具体的な社会問題に触れながら、貧困や犯罪を「他人事」「自己責任」としてのみ理解するのではない、他者への想像力と広い視野を身につけることを目標とする。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

この授業は講義形式で行います。授業資料は前日までにインターネットを通じて配布しますので、当日はPCを持参したり印刷したりして、資料を閲覧できる状態で授業に参加してください。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

現代社会に関する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会に起こっている様々な事象についての知識と理解が身につく、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

具体的な社会問題の事例と、それが起こる背景について理解することを通じて、他者や異文化への想像力を身につける。(DP2-2)(知識・理解)

現代社会に起こる様々な問題について知識と理解を深め、社会問題を当事者として捉えようとする志向や態度を身につける。(DP3-1)(知識・理解)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

予習 毎回の講義終了後、次回の講義テーマについて指示するので、次回講義までにそのテーマについて知りたいこと、わからないことについて考えておくこと。(90分)

復習 講義の内容および自分が提出したフィードバック等を踏まえて、事前の疑問や課題が解決されたかを確認する。(90分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

定期試験70%、授業参加度30%として評価する。定期試験では、授業の基本的な内容の理解度と、理解した内容を具体的な事例に応用する能力を判定する。授業参加度は、授業時に提出してもらった教員へのフィードバックや、授業の中で課す小課題の提出内容によって授業への理解度を判断するものである。

## - - - テキスト - - -

特に使用しない、授業中に資料を配布する。

## - - - 参考書 - - -

社会福祉士養成講座編集委員会編、2014『新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム【第3版】』中央法規出版 ISBN 9784805839300  
 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2019『社会学(新版)』有斐閣 ISBN 9784641053892

## - - - 履修上の留意点 - - -

履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を見てから出席すること。また時間割を確認し、スケジュールにあわせて出席できることを前提にして、履修を考えること。

毎回の講義資料は原則としてインターネットを通じて配布する。また、ウェブ上のアンケート機能などを通じて小課題の提出を指示することがあるので、タブレットやスマートフォンなど、インターネットにアクセスできるデバイスを持参することが望ましい。

## - - - 授業計画 - - -

1. イントロダクション：スタートアップ授業
2. 社会的行為と秩序
3. 社会的役割と自己
4. 社会的役割と地位
5. 法と社会の関係
6. 法と社会の関係
7. 具体的な社会問題 犯罪・非行
8. 具体的な社会問題 新しい貧困問題
9. 具体的な社会問題 家族・恋人関係
10. 具体的な社会問題 学校をめぐる問題
11. 具体的な社会問題 社会的排除と包摂
12. 社会的ジレンマ
13. 社会的ジレンマの解消方法
14. 社会関係資本
15. 全体のふりかえり、FURIKAの実施

講義の進度は、受講者の理解の状況に応じて変更する可能性がある。

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/o0gwki23h6ifdgy35bpbnz5nwh5i1s35>

## 開田 奈穂美

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.現代社会に関する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。（DP1-1）  
（知識・理解）

2.現代社会に起こっている様々な事象についての知識と理解が身につく、物事を多角的に見ることができる。（DP2-1）（知識・理解）

3.具体的な社会問題の事例と、それが起こる背景について理解することを通じて、他者や異文化への想像力を身につける。（DP2-2）（知識・理解）

4.現代社会に起こる様々な問題について知識と理解を深め、社会問題を当事者として捉えようとする志向や態度を身につける。（DP3-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

開田 奈穂美

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：2025/01/16 4時限

概要

この講義では、社会学の基本的な概念や思考方法を紹介しながら、現代社会における様々な問題を把握する視点を獲得することを目的としている。自分の役割や社会の中での地位をどう獲得するのかといったミクロな視点から、社会問題がなぜ生まれ、どうして解決することが難しいのかといったマクロな視点までを含めて、社会学とかかわりのある法や経済といった近接領域との関係にも触れながら授業を進めていく。講義の後半では、具体的な社会問題に触れながら、貧困や犯罪を「他人事」「自己責任」としてのみ理解するのではない、他者への想像力と広い視野を身につけることを目標とする。

授業の進行・方法

この授業は講義形式で行います。授業資料は前日までにインターネットを通じて配布しますので、当日はPCを持参したり印刷したりして、資料を閲覧できる状態で授業に参加してください。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

現代社会に関する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会に起こっている様々な事象についての知識と理解が身につく、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

具体的な社会問題の事例と、それが起こる背景について理解することを通じて、他者や異文化への想像力を身につける。(DP2-2)(知識・理解)

現代社会に起こる様々な問題について知識と理解を深め、社会問題を当事者として捉えようとする志向や態度を身につける。(DP3-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習 毎回の講義終了後、次回の講義テーマについて指示するので、次回講義までにそのテーマについて知りたいこと、わからないことについて考えておくこと。(90分)

復習 講義の内容および自分が提出したフィードバック等を踏まえて、事前の疑問や課題が解決されたかを確認する。(90分)

成績評価基準および方法

定期試験70%、授業参加度30%として評価する。定期試験では、授業の基本的な内容の理解度と、理解した内容を具体的な事例に応用する能力を判定する。授業参加度は、授業時に提出してもらった教員へのフィードバックや、授業の中で課す小課題の提出内容によって授業への理解度を判断するものである。

テキスト

特に使用しない、授業中に資料を配布する。

参考書

社会福祉士養成講座編集委員会編、2014『新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム【第3版】』中央法規出版 ISBN 9784805839300  
 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2019『社会学（新版）』有斐閣 ISBN 9784641053892

履修上の留意点

履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を見てから出席すること。また時間割を確認し、スケジュールにあわせて出席できることを前提にして、履修を考えること。毎回の講義資料は原則としてインターネットを通じて配布する。また、ウェブ上のアンケート機能などを通じて小課題の提出を指示することがあるので、タブレットやスマートフォンなど、インターネットにアクセスできるデバイスを持参することが望ましい。

授業計画

1. イントロダクション：スタートアップ授業
2. 社会的行為と秩序
3. 社会的役割と自己
4. 社会的役割と地位
5. 法と社会の関係
6. 法と社会の関係
7. 具体的な社会問題 犯罪・非行
8. 具体的な社会問題 新しい貧困問題
9. 具体的な社会問題 家族・恋人関係
10. 具体的な社会問題 学校をめぐる問題
11. 具体的な社会問題 社会的排除と包摂
12. 社会的ジレンマ
13. 社会的ジレンマの解消方法
14. 社会関係資本
15. 全体のふりかえり、FURIKAの実施

講義の進度は、受講者の理解の状況に応じて変更する可能性がある。

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/xexab2qeh5zbalyv5qpraxls2expvcw1)

## 開田 奈穂美

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.現代社会に関する基礎的な知識と理解が身につく、説明できる。（DP1-1）  
（知識・理解）

2.現代社会に起こっている様々な事象についての知識と理解が身につく、物事を多角的に見ることができる。（DP2-1）（知識・理解）

3.具体的な社会問題の事例と、それが起こる背景について理解することを通じて、他者や異文化への想像力を身につける。（DP2-2）（知識・理解）

4.現代社会に起こる様々な問題について知識と理解を深め、社会問題を当事者として捉えようとする志向や態度を身につける。（DP3-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

## 本多 康生

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：月・二部 2 時間 試験時間割：2025/01/20 夜 2 限

## - - - 概要 - - -

社会学とは、人間が集散的に織りなす社会を考察の対象とする学問である。本講義では、現代の様々な社会事象を分析し理解するために、社会学の理論や物の見方を、具体的な社会問題・社会病理現象に即して解説し、社会の構造や仕組みに対する基本的認識を深める手ほどきを行う。特に、身近な問題からグローバルな社会事象までを総合的に分析する社会学の問題把握の特性を、重点的に教授していく。

授業は、ニュース・ドキュメンタリー・映画などの視聴覚資料を活用しつつ、パワーポイントを用いた講義形式で行う。それによって、受講者それぞれが現代社会の諸問題に関する社会的理解や合意形成の手掛かりを得ることを目指す。毎回、リアクションペーパーの提出を課すので、自身の意見や質問などを考えながら受講してほしい。

## - - - 授業の進行・方法 - - -

授業は、教員が作成したスライド資料をもとに講義形式で行う。資料は、事前に Moodle からダウンロードまたは印刷しておくこと。講義後には、当該回のテーマに対して自身の見解を記したりリアクションペーパーを Moodle 経由で提出してもらう。

## - - - アクティブ・ラーニング - - -

いいえ / No

## - - - 到達目標 - - -

1. 現代社会に関する基礎的な知識を身につけ、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
2. 社会的な物の見方を理解し、現代の様々な社会事象について多角的な視野から考察できる。(DP2-1)(知識・理解)
3. 他者の多様な考え方や価値観に触れることで、自身の見解や立場を相対化し、問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

## - - - 授業時間外の学習(予習・復習) - - -

ノートや配付レジュメを見直したり、授業中に紹介した文献に目を通すなど、各講義の後に復習をすること。(180分)

## - - - 成績評価基準および方法 - - -

各回の受講後に提出するリアクションペーパー(30%)、定期試験の成績(70%)。

リアクションペーパー：各回の授業内容を理解した上で、当該テーマについて独自の見解を述べられているかどうかを評価基準とする。(到達目標3)

定期試験：社会学の基礎的概念と物の見方を理解した上で、現代の様々な社会事象について、多角的な視野から考察できているかどうかを評価基準とする。(到達目標1・2)

## - - - テキスト - - -

教科書は使用しない。講義毎にレジュメを配布する。

## - - - 履修上の留意点 - - -

受講にあたって特別な知識は必要としないが、テレビや新聞報道の記事などを通じて、時事問題に関心を持ってほしい。

## - - - 授業計画 - - -

講義内容や順序は、受講者の理解度に応じて変更する可能性がある。

- 1 イントロダクション(スタートアップ授業)
- 2 社会的孤立
- 3 児童虐待
- 4 いじめ
- 5 自殺問題
- 6 犯罪被害
- 7 監視社会
- 8 消費社会
- 9 ニート
- 10 性の多様性
- 11 医療化
- 12 高齢者介護
- 13 リスク社会
- 14 環境問題
- 15 総括・授業アンケートFURIKAの実施

## - - - スタートアップ授業 - - -

スタートアップ授業  
<https://fukuoka-u.box.com/s/fjcykyb16lfwlmbav9q8euc6flpkrojg>

## 本多 康生

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー(DP)

1.1. 現代社会に関する基礎的な知識を身につけ、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.2. 社会学的な物の見方を理解し、現代の様々な社会事象について多角的な視野から考察できる。(DP2-1)(知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.3. 他者の多様な考え方や価値観に触れることで、自身の見解や立場を相対化し、問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

山崎 好裕

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：火・5時限 試験時間割：2024/08/01 3時限

概要

この講義を受講しようかな、と考えている皆さんは、いろいろな学部の学生さんで、大学に入学してすぐの人が多くと思います。現代の社会では経済が重要だから、社会に出る前にどうしても勉強しておきたい。だけど、経済学は数学も使うから難しそうだし、金融と為替とかややこしいことが多そうだなあ…。こんなふうに考えていませんか。そんな皆さんに、私の担当している教養経済学の講義はうってつけです。面白く分かりやすい講義を聞いているうちに、自然と経済学の基本が身についていることに気が付くでしょう。しかも、それだけではなく、ここで勉強することは、世の中で生きて働いていることばかりですから、すぐに役に立つはずですよ。

経済学は、ミクロとマクロという2つの分野から成っています。ミクロ経済学が人々の暮らし方や働き方の原理を考える分野であるのに対して、マクロ経済学は国民全体が織り成す経済の動向や政府の経済政策の原理を考える分野です。こう考えるとミクロ（ちっちゃい）とか、マクロ（でっかい）と名付けられている意味もよく分かりますよね。ですから、どっちが身近で分かりやすいかと質問されても、それは微妙です。両方の分野が相俟って経済学の全体を構成しているわけです。「経済学A」の講義では、そのなかのミクロ経済学を学びます。

私がとってもわかりやすく解説をします。質問があればその場で挙手してください。皆さんと有意義な議論ができることを期待しています。反転授業を意識した授業進行です。

授業の進行・方法

事前にテキストを予習していることを前提に内容説明を行います。また、必要に応じて授業中に議論も行います。

授業後は各自振り返りを行い、授業課題に解答することで理解を深めます。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

ミクロ経済学の基本的な考え方について知識が身に付いている。(DP1-1)(知識・理解)

経済生活のなかで合理的に判断し行動する技能がある。(DP1-2)(技能)

仕事やビジネスの現場で常に効率的な解決策を探る志向性を獲得している。(DP2-1)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

授業の前にはテキストを事前に読んでください。(90分)

授業の後にはテキストとノートを読み、Moodleの課題に解答してください。(90分)

成績評価基準および方法

この授業は、社会を生きていく常識として、ミクロ経済学の基礎的な知識を身につけることを目的としています。ですから、合理的な考え方が身に付いているか、経済を考える枠組みが頭の中にあるか、簡単な経済計算ができるか、ということをもとに評価します。

定期試験の点数で90%、moodle課題への解答状況で10%分の評価を出します。試験問題は、文章の穴埋め問題が6問30点、短文の正誤を × で答える問題が8問40点、計算問題が30点となります。穴埋め問題では語群を与えますので、そこから選んでください。計算問題はテキストにある問題から、そのままのかたちで出題されます。

テキスト

山崎好裕『おもしろ経済数学』2006年、ミネルヴァ書房。ISBN 978-4-623-04526-6

参考書

必要があれば、授業中に随時紹介します。

履修上の留意点

私の担当している「経済学B」とあわせて履修すると、経済学の全体像を分かりやすく理解することができます。

授業計画

- 1 はじめに（スタートアップ授業）
- 2 消費生活の数学(1)
- 3 消費生活の数学(2)
- 4 売上増大の数学(1)
- 5 売上増大の数学(2)
- 6 企業経営の数学(1)
- 7 企業経営の数学(2)
- 8 勢力均衡の数学(1)
- 9 勢力均衡の数学(2)
- 10 資産運用の数学(1)
- 11 資産運用の数学(2)
- 12 景気循環の数学(1)
- 13 景気循環の数学(2)
- 14 数学コラムのまとめ
- 15 おわりに

\* スマホから授業アンケートFURIKAに回答してもらいます。

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/6pmot76p2xlx83i8t5oqmtq7boudelev)

山崎 好裕

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.ミクロ経済学の基本的な考え方について知識が身に付いている。（DP1-1）  
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.経済生活のなかで合理的に判断し行動する技能がある。（DP1-2）（技能）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

3.仕事やビジネスの現場で常に効率的な解決策を探す志向性を獲得している。（DP2-1）（態度・志向性）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



李 錦東

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：金・2 時限 試験時間割：2024/08/01 3 時限

概要

このクラスは、経済学の基本的思考方法を身につけることを目指したクラスです。

経済学を初めて学ぶ学生にとって、経済学の教科書は「分かったような、分からないような」という気分させられることもあります。また、経済学で学ぶ内容は、「現実の世の中とは、違うんじゃないか」と思う人もいるでしょう。本クラスは、受講生がもつ「経済学」と「現実の世のなか」に関わる疑問点などを、講師と受講生との間で質疑応答やディスカッションを通じて理解していきます。また、それぞれの疑問点に関する事項をどう深く理解すればよいのかなどを考えて行きます。

このクラスで元気に議論することによって、日々の暮らしを豊かにすることへのヒントを得ながら、経済学に関するしっかりとした基盤を作って行きましょう。

授業の進行・方法

本授業は、講義形式で行いますが、上述したように担当講師による一方的な授業ではありません。

参加者の皆さんに、積極的な参加（質問に答える、意見を述べる、ディスカッション、関連事項を事前に/事後に調べるなど）を求めます。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

経済学の基本的な発想をみにつけることが出来る。(DP1-1)(知識・理解)

経済学に関する主要キーワード(100個程度)を理解し、自分の言葉で説明できる。(DP1-2)(知識・理解)

新聞の経済面や社会面の記事などに関心をもち、経済に関する記事を少々楽しく読めるようになる。(DP2-1)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習に60分、復習に120分程度を目途に取組みましょう。とくに復習を重視してください。授業で学んだ事項を確実に自分のものにしてください。勉強には、丸暗記も必要ですが、本クラスでは、自分で論理的な筋を立てながら、理解できるようにしてください。(180分)

成績評価基準および方法

1. 定期試験 60%
  2. 中間ミニテスト(2回程度) 20%
  3. 授業参加態度(20%)。
- 担当教員の質疑に対する積極的な参加・応答、授業に対する建設的な提案など

期末に1,2,3を総合して、評定します。総合点数、60点以上が合格となります。

定期試験や中間ミニテストの評価基準は、授業で取り上げた経済学の基本的な発想や専門用語及びキーワードをちゃんと理解し、人に説明できるか・応用できるかになります。

テキスト

1. 可能なら主要参考図書(ミクロ編)を手に入れましょう(しかし、無理して3日分の食費を削るなど、新しい本を購入する必要はありません)。
2. 授業の進行は、『マンキュー経済学(ミクロ編)』をベースに作成したスライド(PPT)を利用します。
3. 必要に応じて、スライドの一部、著作権に抵触しない必要最小限の量を参考資料として配布します。

参考書

主要参考図書：

1. N. Gregory Mankiw 『マンキュー経済学 I ミクロ編(第4版)』東洋経済新報社、2019年、4,400円、ISBN:9784492315194
2. N. Gregory Mankiw 『マンキュー経済学 マクロ編(第4版)』東洋経済新報社、2019年、4,400円、ISBN:9784492315200

マンキュー経済学は、第4版が最新版ですが、その以前の版も核心内容は基本的に同じですので、3版などを利用しても差支えはありません。

必要に応じて、スライドの一部を参考資料として配布する場合がありますが、なるべく経済学の本を手にして、じっくり読みましょう。

履修上の留意点

復習をしっかりとやりましょう。また、経済面や社会面の記事やニュースをちゃんと聞く・読む習慣をつけましょう。

授業計画

1. 第1回\*イントロダクションは、スタートアップ授業(動画配信)です。第2回以降の授業は対面授業で行います(予定、授業の総回数は15回)。

2. 授業は、基本的に授業計画に沿って進めますが、限界的变化は必至であり、受講生の理解度やその他の状況変化にあわせ、フレキシブルに調整していきます。

- 1\*イントロダクション(スタートアップ授業。授業の進め方・社会科学の考え方・経済学の考え方など)
- 2 経済学の考え方(経済学の十大原理)
- 3 経済学者らしく考える
- 4 相互依存と貿易
- 5 需要と供給の作用
- 6 弾力性
- 7 政府の政策と需要・供給
- 8 市場の効率性(消費者余剰)
- 9 課税の費用
- 10 国際貿易で得するのは?
- 11 外部性
- 12 財の分類
- 13 生産の費用
- 14 競争市場における企業
- 15 まとめ(FURIKA実施予定)

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/cfd2zr1gzejz5x944od2oac7h0xwyyk4)

## 李 錦東

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー ( DP )

1.経済学の基本的な発想をみにつけることができる。 (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.経済学に関する主要キーワード ( 100個程度 ) を理解し、自分の言葉で説明できる。 (DP1-2) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間 ( 6年間 ) の学びを支える基礎を身につけている ( A、B、C )

3.新聞の経済面や社会面の記事などに興味をもち、経済に関する記事を少々楽しく読めるようになる。 (DP2-1) (態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている ( A、B、C )

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる ( A、B、C )

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる ( A、B、C )

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる ( A、C )

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる ( B、C )

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる ( A、B )

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる ( B、C )

瀬戸林 政孝

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：水・5 時限 試験時間割：2024/08/01 3 時限

--- 概要 ---

この講義では、我々の身の周りで行われている様々な商品の取引の仕組みが、どのように形成されてきたのかについて、歴史の視点から講じていきます。

市場経済の歴史は古く、経済が発展していく中で市場取引は行われてきました。しかしながら、発展の一方で、商品の取引を行う商人の中には不正を行う商人もたびたび現れます。商人たちに不正を行わせないようにするために、市場取引が上手くいくための仕組みもまた変化してきました。そこで、この講義では、歴史の中で行われてきた商品の取引や商品の市場を取り上げ、そこで行われていた市場取引や取引の仕組みについて紹介していきます。

事前学習として指定した参考書等の該当部分を事前に読んでおくことをすすめます。特に、日本史、世界史の理解に不安のある学生は、高校の日本史及び世界史教科書等を用いて、基本的な理解を深めておく必要があります。また、不定期に小テストを実施するので、授業内で指示された用語などを自分の言葉で説明できるように復習しておくこと。

本授業は講義形式で行います。

--- 授業の進行・方法 ---

この講義では、毎回レジュメを用いて講義を行います。そのレジュメは講義時間の数日前にメールを通じて配布しますので必ずメールをチェックしてください。レジュメはそのメールに記載されたアドレスからFU BOXを通じてダウンロードして必ずプリントアウトして講義に参加してください。講義中には、そのレジュメを使って講義内容を理解し、また、講義内容の理解を深めるためにそのレジュメに必要なと思った講義の内容を記入してください。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

我々を取り巻く市場取引がどのように行われてきたのかを理解し、説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

本講義の理解及び専門的な知識の習得を通じて、経済史の視点から市場取引について理解し、様々な市場における問題の解決策にアプローチできる能力を身につけている。(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習ではレジュメや参考文献、参考書等で内容を確認する。レジュメに記載された予習問題を解く。(90分)

復習では配付したレジュメ、参考文献を用いて、授業内容の確認をし、レジュメの復習問題を解く。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

定期試験の成績を基本とする。  
 配点は、小テスト30%、定期試験70%を目安とする。  
 到達目標に記載された基準などをもって評価する。

--- テキスト ---

特に指定しない。

--- 参考書 ---

必要に応じて、随時紹介するが、主要参考書は以下の通りである。  
 金井雄一他編『世界経済の歴史』名古屋大学出版会、2010年 (ISBN: 9784815806422) 3,024円。  
 Kazuko Furuta, and Linda. Grove, ( eds. ), Imitation, counterfeiting and the quality of goods in modern Asian history ( Singapore : Springer, 2017 ) (ISBN:9789811037511) 13,813yen.

--- 履修上の留意点 ---

テキスト・参考書を購入する必要はありません。不定期に講義の内容に関する小テストを実施します。

--- 授業計画 ---

1. スタートアップ(イントロダクション)
2. 市場経済と市場取引
3. 市場取引が上手くいくために ( マグリブ商人 )
4. 市場取引が上手くいくために ( 株仲間 )
5. 市場取引が上手くいくために ( 買弁 )
6. 市場取引が上手くいくために ( 多角的懲罰戦略 )
7. 市場取引が上手くいくために ( 多角的懲罰戦略 )
8. 近代中国における工業化と綿花取引
9. 近代中国における工業化と電力取引
10. アジアの商品取引
11. アジアの商品取引
12. アジアの商品取引
13. アジア等の商品取引
14. 取引と不正、そして解決へ
15. 取引と不正、そして解決へ ( FURIKAの実施 )

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/sm4w5a112agjjpwhn823m4kxa5g2u11a)

瀬戸林 政孝

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.我々を取り巻く市場取引がどのように行われてきたのかを理解し、説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.本講義の理解及び専門的な知識の習得を通じて、経済史の視点から市場取引について理解し、様々な市場における問題の解決策にアプローチできる能力を身につけている。(DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

楊 光洙

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：前期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

概要

経済とは、モノやサービスの生産・分配・消費に関することです。経済学とは、限られた資源（人的・物的）の選択とその利用の仕方（効率・公平等）について研究する学問です。私たちの日常生活ではつねに経済活動が行われており、様々な経済問題に直面しています。それをどう分析しどう解決すべきかについて考えるのが本授業のテーマです。

この授業の目的は、受講者自らが経済学の基礎理論をベースに日常生活で直面する経済問題を考察するためのアカデミック・スキル（調査力、分析力）と考える力（問題発見、解決力、論理力、創造力）の向上を手助けすることです。

本授業では、経済学をはじめて学ぶ学生のための基礎理論（ミクロ経済学入門・マクロ経済学入門）を学修するとともに、それに関連する実際の経済現象（日本経済の時事問題）を議論します。授業では経済理論を学修するだけでなく、経済の現実問題について自分なりの見解を形成する（身につける）ことを目指します。

授業の進行・方法

本授業は、講義形式とディスカッション形式による双方向型授業です。授業は専門知識の一方向的な伝達ではなく、経済原理（理論）をベースに関連の現実問題（実際）について、受講者自らが経済現象を考察（応用）することを基本とします。

授業では受講者自らが経済問題の事例について、調査・分析（インターネット検索、アプリケーション等の活用）するとともに、グループワーク形式で意見を交換（議論、コミュニケーション）しながら、問題の発見と解決策の導出を学修します。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

1.経済学の基礎知識を身につけ、日常生活の経済現象が説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2.経済問題を様々な分野と関連付け、物事を多角的に見ることが出来る。(DP2-1)(知識・理解)

授業時間外の学習(予習・復習)

授業前（予習）：授業計画をベースに関連の専門用語や基礎理論をあらかじめ調べておく。(90分)

授業後（復習）：講義資料をベースに授業内容を自分なりにノートにまとめておく。(90分)

成績評価基準および方法

・評価基準：経済理論を理解しているか（到達目標1）、現実の経済現象を的確に把握しているか（到達目標2）、実際の経済問題を理解し、自分なりの見解を身につけているか（到達目標3）について、それぞれの達成度を評価の基準とする。

・評価方法：成績は、第8回授業中の中間テスト（50%：レポート、筆記試験）と第15回授業中の期末テスト（50%：レポート、筆記試験）に、毎回授業で行うMinute Paperの解答内容を反映させて（到達目標1～3の達成度）として、総合的に評価する。

定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

テキスト

テキストは指定しません。資料を配布します。

参考書

授業中に適宜紹介します。

履修上の留意点

(1) グループワークや意見交換に積極的な姿勢で参加してください。

(2) 主体的な学修の姿勢で、つねに疑問を持ち、質問する姿勢で参加してください。

(3) IT機器を活用してください。

授業計画

第01回 イン트로ダクション（スタートアップ授業）

・授業方針、成績評価方法等

第02回 経済学の体系

・経済の仕組みと循環

第03回 日本経済の動向1

・日本経済成長の転換期

第04回 日本経済の動向2

・少子高齢化

第05回 日本経済の動向3

・社会保障

第06回 市場

・需要と供給、価格

第07回 消費者行動

・効用最大化

第08回 生産者行動 + 中間テスト

・利潤最大化

第09回 貨幣と金融

・通貨、利子率、為替レート

第10回 物価と景気

・物価変動、景気変動

第11回 雇用と失業

・雇用形態、失業対策

第12回 日本の財政

・予算、税制、政府負債

第13回 産業発展

・産業革命

第14回 IS-LM分析

・財政金融政策の効果

第15回 総括 + 期末テスト

・まとめ + 授業アンケートFURIKAの実施

授業内容は受講生の理解状況を見ながら変更することもあります。

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/lrybv0a98vpzjof43hf0119bcdzmqob8>)

## 楊 光洙

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1. 経済学の基礎知識を身につけ、日常生活の経済現象が説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.2. 経済問題を様々な分野と関連付け、物事を多角的に見ることができる。  
(DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

楊 光洙

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：前期：火・5 時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

経済とは、モノやサービスの生産・分配・消費に関することです。経済学とは、限られた資源(人的・物的)の選択とその利用の仕方(効率・公平等)について研究する学問です。私たちの日常生活ではつねに経済活動が行われており、様々な経済問題に直面しています。それをどう分析しどう解決すべきかについて考えるのが本授業のテーマです。

この授業の目的は、受講者自らが経済学の基礎理論をベースに日常生活で直面する経済問題を考察するためのアカデミック・スキル(調査力、分析力)と考える力(問題発見、解決力、論理力、創造力)の向上を手助けすることです。

本授業では、経済学をはじめて学ぶ学生のための基礎理論(ミクロ経済学入門・マクロ経済学入門)を学修するとともに、それに関連する実際の経済現象(日本経済の時事問題)を議論します。授業では経済理論を学修するだけでなく、経済の現実問題について自分なりの見解を形成する(身につける)ことを目指します。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、講義形式とディスカッション形式による双方向型授業です。授業は専門知識の一方的な伝達ではなく、経済原理(理論)をベースに関連の現実問題(実際)について、受講者自らが経済現象を考察(応用)することを基本とします。

授業では受講者自らが経済問題の事例について、調査・分析(インターネット検索、アプリケーション等の活用)するとともに、グループワーク形式で意見を交換(議論、コミュニケーション)しながら、問題の発見と解決策の導出を学修します。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

1. 経済学の基礎知識を身につけ、日常生活の経済現象が説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2. 経済問題を様々な分野と関連付け、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

授業前(予習)：授業計画をベースに関連の専門用語や基礎理論をあらかじめ調べておく。(90分)

授業後(復習)：講義資料をベースに授業内容を自分なりにノートにまとめておく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・評価基準：経済理論を理解しているか(到達目標1)、現実の経済現象を的確に把握しているか(到達目標2)、実際の経済問題を理解し、自分なりの見解を身につけているか(到達目標3)について、それぞれの達成度を評価の基準とする。

・評価方法：成績は、第8回授業中の中間テスト(50%：レポート、筆記試験)と第15回授業中の期末テスト(50%：レポート、筆記試験)に、毎回授業で行うMinute Paperの解答内容を反映させて(到達目標1~3の達成度)として、総合的に評価する。

定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

--- テキスト ---

テキストは指定しません。資料を配布します。

--- 参考書 ---

授業中に適宜紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

(1) グループワークや意見交換に積極的な姿勢で参加してください。

(2) 主体的な学修の姿勢で、つねに疑問を持ち、質問する姿勢で参加してください。

(3) IT機器を活用してください。

--- 授業計画 ---

第01回 イン트로ダクション(スタートアップ授業)

・授業方針、成績評価方法等

第02回 経済学の体系

・経済の仕組みと循環

第03回 日本経済の動向 1

・日本経済成長の転換期

第04回 日本経済の動向 2

・少子高齢化

第05回 日本経済の動向 3

・社会保障

第06回 市場

・需要と供給、価格

第07回 消費者行動

・効用最大化

第08回 生産者行動 + 中間テスト

・利潤最大化

第09回 貨幣と金融

・通貨、利子率、為替レート

第10回 物価と景気

・物価変動、景気変動

第11回 雇用と失業

・雇用形態、失業対策

第12回 日本の財政

・予算、税制、政府負債

第13回 産業発展

・産業革命

第14回 IS-LM分析

・財政金融政策の効果

第15回 総括 + 期末テスト

・まとめ + 授業アンケートFURIKAの実施

授業内容は受講生の理解状況を見ながら変更することもあります。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/rnbo1l6aae4ktlp4nou3tes1bkif9q6d>)

楊 光洙

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.1 . 経済学の基礎知識を身につけ、日常生活の経済現象が説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.2 . 経済問題を様々な分野と関連付け、物事を多角的に見ることができる。  
(DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



主計 浩

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：水・3 時限 試験時間割：2024/08/01 3 時限

概要

現代のわれわれの経済は、私的所有権制度を基本的な所有形態としながら、市場という機構に人々の活動の調整をゆだねる「資本主義」を根幹とする経済体制である。またそこでは、資本主義が生み出す様々な歪みを修正するための政府の政策的な介入や計画をも容認しており、しばしば「混合経済」という名称によって特徴づけられている。本講義の目的は、混合経済としてのわれわれの経済を理解するための1つの分析道具である「近代経済学」を解説することにある。近代経済学には消費者・生産者・政府といった個々の経済主体に注目し、各主体の相互作用の場・交換の場である市場を主要な分析対象とするミクロ経済学と、一国の経済全体を物価水準・GDP・失業率・インフレ率などの集計量によって捉えるマクロ経済学がある。本講義では、ミクロ経済学の基本的な枠組みと主要概念・分析手法をやさしく解説する。具体的にはミクロ経済学の課題、消費者理論、生産者理論、市場均衡、不完全競争(独占、寡占)、市場の失敗について説明する予定である。

受講した皆さんは、少なくとも新聞の経済面を問題なく読めるようになるだろう。特に公務員希望の方はぜひ受講してほしい。なお授業の進め方について、本講義は、教員によるレクチャー形式で行う。

授業の進行・方法

授業は、教科書の内容を中心に講義形式で行う。説明のために板書していくが板書を写すことに気をとられて肝心の説明を聞き逃すと困るので、板書内容はあらかじめ資料という形で配布して、説明をしっかりと聞いてもらうような進め方をしていく。一つの単元が終わったら練習問題を配付するので、授業内容を確認するために活用していただきたい。また、二回程度レポートを提出してもらう。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

経済学に関する基本的な知識を習得する(DP1-1)(知識・理解)

現実起こっている経済問題を理解し、他者に説明できる(DP2-1)(知識・理解)

経済学の知識を活用して、経済問題を積極的かつ柔軟に解決する能力を身につける(DP3-1)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：次の授業解の内容について、教科書の該当部分および配布される資料をよく読んで、わからない用語などについてあらかじめ調べておく。(90分)

復習：授業後は新たに出てきた経済用語や経済学的な考え方をしっかり見直す。さらに復習のために練習問題を適宜配布するので、授業で学習した内容がどのように問われているかを確認する。(90分)

成績評価基準および方法

定期試験(80%)、レポート(20%)によって評価する。

評価基準は、定期試験・レポートともに、

1. 授業に出てきた経済用語をきちんと理解していること、
2. 授業に出てきた経済政策や経済の出来事を説明できること、である。

テキスト

試験攻略入門塾 速習!ミクロ経済学2nd edition  
 石川秀樹(著) 中央経済社 2860円  
 ISBN:978-4502290411

参考書

西村和雄「ミクロ経済学入門」 岩波書店 ISBN 978-4000021937  
 武隈慎一「ミクロ経済学(新経済学ライブラリ)」 新世社 ISBN 978-4883842391  
 今泉博国・須賀晃一・渡邊淳一「ミクロ経済学 基礎と演習」東洋経済新報社 ISBN 978-4492312810

履修上の留意点

経済学の講義は前回の授業内容を踏まえて先に進んでいくので、特に復習には力を注ぐこと。また上記のような理由から、欠席には注意すること。他の受講生の迷惑になるような行為(私語など)は厳禁。

授業計画

1. ミクロ経済学の考え方(スタートアップ授業)
2. 消費者理論(効用)
3. 消費者理論(無差別曲線)
4. 消費者理論(効用最大化)
5. 需要の価格弾力性
6. 代替効果と所得効果
7. 生産者理論(費用関数)
8. 生産者理論(限界費用、平均費用、平均可変費用)
9. 生産者理論(生産の決定)
10. 市場均衡(ワルラス、マーシャル、クモの巣調整過程)
  11. 不完全競争(独占)
  12. 不完全競争(クールノー)
  13. 不完全競争(ゲームの理論)
  14. 市場の失敗(外部性)
  15. 市場の失敗(公共財),「授業評価アンケート FURIKAの実施」

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/02tbzvfouxqtow1cuvbb8d2d5thsq9)

主計 浩

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. 経済学に関する基本的な知識を習得する (DP1-1) (知識・理解)
2. 現実に起こっている経済問題を理解し、他者に説明できる (DP2-1) (知識・理解)
3. 経済学の知識を活用して、経済問題を積極的かつ柔軟に解決する能力を身につける (DP3-1) (態度・志向性)

- A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
- 理念1 【学び続けていくための確かな基礎】
- DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)
- DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)
- 理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】
- DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)
- DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)
- 理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】
- DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)
- DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)
- 理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】
- DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)
- DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

主計 浩

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：金・1 時限 試験時間割：2024/08/01 3 時限

概要

現代のわれわれの経済は、私的所有権制度を基本的な所有形態としながら、市場という機構に人々の活動の調整をゆだねる「資本主義」を根幹とする経済体制である。またそこでは、資本主義が生み出す様々な歪みを修正するための政府の政策的な介入や計画をも容認しており、しばしば「混合経済」という名称によって特徴づけられている。本講義の目的は、混合経済としてのわれわれの経済を理解するための1つの分析道具である「近代経済学」を解説することにある。近代経済学には消費者・生産者・政府といった個々の経済主体に注目し、各主体の相互作用の場・交換の場である市場を主要な分析対象とするミクロ経済学と、一国の経済全体を物価水準・GDP・失業率・インフレ率などの集計量によって捉えるマクロ経済学がある。本講義では、ミクロ経済学の基本的な枠組みと主要概念・分析手法をやさしく解説する。具体的にはミクロ経済学の課題、消費者理論、生産者理論、市場均衡、不完全競争(独占、寡占)、市場の失敗について説明する予定である。

受講した皆さんは、少なくとも新聞の経済面を問題なく読めるようになるだろう。特に公務員希望の方はぜひ受講してほしい。なお授業の進め方について、本講義は、教員によるレクチャー形式で行う。

授業の進行・方法

授業は、教科書の内容を中心に講義形式で行う。説明のために板書していくが板書を写すことに気をとられて肝心の説明を聞き逃すと困るので、板書内容はあらかじめ資料という形で配布して、説明をしっかりと聞いてもらうような進め方をしていく。一つの単元が終わったら練習問題を配付するので、授業内容を確認するために活用していただきたい。また、二回程度レポートを提出してもらう。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

経済学の基本的な知識を習得する(DP1-1)(知識・理解)

現実起こっている経済問題を理解し、他者に説明できる(DP2-1)(知識・理解)

経済学の知識を活用して、経済問題を積極的かつ柔軟に解決する能力を身につける(DP3-1)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：次の授業解の内容について、教科書の該当部分および配布される資料をよく読んで、わからない用語などについてあらかじめ調べておく。(90分)

復習：授業後は新たに出てきた経済用語や経済学的な考え方をしっかり見直す。さらに復習のために練習問題を適宜配布するので、授業で学習した内容がどのように問われているかを確認する。(90分)

成績評価基準および方法

定期試験(80%)、レポート(20%)によって評価する。

評価基準は、定期試験・レポートともに、

1. 授業に出てきた経済用語をきちんと理解していること、
2. 授業に出てきた経済政策や経済の出来事を説明できること、である。

テキスト

試験攻略入門塾 速習!ミクロ経済学2nd edition  
 石川秀樹(著) 中央経済社 2860円  
 ISBN:978-4502290411

参考書

西村和雄「ミクロ経済学入門」 岩波書店 ISBN 978-4000021937  
 武隈慎一「ミクロ経済学(新経済学ライブラリ)」 新世社 ISBN 978-4883842391  
 今泉博国・須賀晃一・渡邊淳一「ミクロ経済学 基礎と演習」東洋経済新報社 ISBN 978-4492312810

履修上の留意点

経済学の講義は前回の授業内容を踏まえて先に進んでいくので、特に復習には力を注ぐこと。また上記のような理由から、欠席には注意すること。他の受講生の迷惑になるような行為(私語など)は厳禁。

授業計画

1. ミクロ経済学の考え方(スタートアップ授業)
2. 消費者理論(効用)
3. 消費者理論(無差別曲線)
4. 消費者理論(効用最大化)
5. 需要の価格弾力性
6. 代替効果と所得効果
7. 生産者理論(費用関数)
8. 生産者理論(限界費用、平均費用、平均可変費用)
9. 生産者理論(生産の決定)
10. 市場均衡(ワルラス、マーシャル、クモの巣調整過程)
11. 不完全競争(独占)
12. 不完全競争(クールノー)
13. 不完全競争(ゲームの理論)
14. 市場の失敗(外部性)
15. 市場の失敗(公共財),「授業評価アンケート FURIKAの実施」

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/  
 xzeer41jqnhkk7uly41tx5qjbseqc8zg)

主計 浩

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.経済学の基本的な知識を習得する (DP1-1) (知識・理解)

2.現実に起こっている経済問題を理解し、他者に説明できる (DP2-1) (知識・理解)

3.経済学の知識を活用して、経済問題を積極的かつ柔軟に解決する能力を身につける (DP3-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

李 錦東

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：前期：金・3時限 試験時間割：2024/08/01 3時限

--- 概要 ---

このクラスは、経済学の基本的思考方法を身につけることを目指したクラスです。

経済学を初めて学ぶ学生にとって、経済学の教科書は「分かったような、分からないような」という気分させられることもあります。また、経済学で学ぶ内容は、「現実の世の中とは、違うんじゃないか」と思う人もいるでしょう。本クラスは、受講生がもつ「経済学」と「現実の世のなか」に関わる疑問点などを、講師と受講生との間で質疑応答やディスカッションを通じて理解していきます。また、それぞれの疑問点に関する事項をどう深く理解すればよいのかなどを考えて行きます。

このクラスで元気に議論することによって、日々の暮らしを豊かにすることへのヒントを得ながら、経済学に関するしっかりとした基盤を作って行きましょう。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、講義形式で行いますが、上述したように担当講師による一方的な授業ではありません。

参加者の皆さんに、積極的な参加（質問に答える、意見を述べる、ディスカッション、関連事項を事前に/事後に調べるなど）を求めます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

経済学の基本的な発想をみにつけることが出来る。(DP1-1)(知識・理解)

経済学に関する主要キーワード(100個程度)を理解し、自分の言葉で説明できる。(DP1-2)(知識・理解)

新聞の経済面や社会面の記事などに興味をもち、経済に関する記事を少々楽しく読めるようになる。(DP2-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習に60分、復習に120分程度を目途に取組みましょう。とくに復習を重視してください。授業で学んだ事項を確実に自分のものにしてください。勉強には、丸暗記も必要ですが、本クラスでは、自分で論理的な筋を立てながら、理解できるようにしてください。(180分)

--- 成績評価基準および方法 ---

1. 定期試験 60%
2. 中間ミニテスト(2回程度) 20%
3. 授業参加態度(20%)。担当教員の質疑に対する積極的な参加・応答、授業に対する建設的な提案など

期末に1,2,3を総合して、評定します。総合点数、60点以上が合格となります。

定期試験や中間ミニテストの評価基準は、授業で取り上げた経済学の基本的な発想や専門用語及びキーワードをちゃんと理解し、人に説明できるか・応用できるかになります。

--- テキスト ---

1. 可能なら主要参考図書(ミクロ編)を手に入れて、しっかり予習・復習をしましょう(しかし、無理して/例えば3日分の食費を削るなど、新しい本を購入する必要はありません)。
2. 授業の進行は、『マンキュー経済学(ミクロ編)』をベースに作成したスライド(PPT)を利用します。
3. 必要に応じて、スライドの一部、著作権に抵触しない必要最小限の量を参考資料として配布します。

--- 参考書 ---

主要参考図書：

1. N. Gregory Mankiw 『マンキュー経済学 I ミクロ編(第4版)』東洋経済新報社、2019年、4,400円、ISBN:9784492315194
2. N. Gregory Mankiw 『マンキュー経済学 マクロ編(第4版)』東洋経済新報社、2019年、4,400円、ISBN:9784492315200

マンキュー経済学は、第4版が最新版ですが、その以前の版も核心内容は基本的に同じですので、3版などを利用しても差支えはありません。

必要に応じて、スライドの一部を参考資料として配布する場合がありますが、なるべく経済学の本を手にして、じっくり読みましょう。

--- 履修上の留意点 ---

復習をしっかりとやりましょう。また、経済面や社会面の記事やニュースをちゃんと聞く・読む習慣をつけましょう。

--- 授業計画 ---

1. 第1回\*イントロダクションは、スタートアップ授業(動画配信)です。第2回以降の授業は対面授業で行います(予定、授業の総回数は15回)。

2. 授業は、基本的に授業計画に沿って進めますが、限界的变化は必至であり、受講生の理解度やその他の状況変化にあわせ、フレキシブルに調整していきます。

1\*イントロダクション(スタートアップ授業。授業の進め方・社会科学の考え方・経済学の考え方など)

2 経済学の考え方(経済学の十大原理)

3 経済学者らしく考える

4 相互依存と貿易

5 需要と供給の作用

6 弾力性

7 政府の政策と需要・供給

8 市場の効率性(消費者余剰)

9 課税の費用

10 国際貿易で得るのは?

11 外部性

12 財の分類

13 生産の費用

14 競争市場における企業

15 まとめ(FURIKA実施予定)

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/e7p43lzp0rdlgibbl9hg78qmq6ri39ga>)

李 錦東

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー ( DP )

1.経済学の基本的な発想をみにつけることができる。 (DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.経済学に関する主要キーワード ( 100個程度 ) を理解し、自分の言葉で説明できる。 (DP1-2) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間 ( 6年間 ) の学びを支える基礎を身につけている ( A、B、C )

3.新聞の経済面や社会面の記事などに興味をもち、経済に関する記事を少々楽しく読めるようになる。 (DP2-1) (態度・志向性)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている ( A、B、C )

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる ( A、B、C )

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる ( A、B、C )

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる ( A、C )

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる ( B、C )

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる ( A、B )

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる ( B、C )

武井 敬亮

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：前期：金・2時限 試験時間割：定期試験なし

概要

近年、特にSNS上において、批判と誹謗中傷が混同され、（自分と異なる意見をもつ）他者を一方的に非難するケースが後を絶ちません。その理由の一端は、当人が正当な批判（あるいは批評）をしていると思い込んでおり、相手を誹謗中傷していることに気がつかないためです。さまざまな社会問題を考える上で、他者に対するこのような態度からは生産的な議論は生まれません。こうした事態に陥らないようにするために、この授業では、社会科学の基礎について学び、ディスカッションを通じて、現代社会におけるさまざまな問題を批判的に考える力を身につけていきます。

そこでまずは、経済学者内田義彦の『読書と社会科学』をテキストとして使用し、文字情報を批判的に読む方法や物事を批判的に考える方法について学んでいきます。次に、さまざまな社会問題を考えるにあたり、現代社会を支える基礎的な概念のひとつである自由概念について学んでいきます。テキストは、19世紀の思想家J.S.ミルの古典的名著である『自由論』を使用します。そして、ミルの考え方（自由概念）を参考にしながら、現代社会の諸問題（格差、ジェンダー、人種、宗教など）について議論を行います。

授業の進行・方法

この授業はゼミ形式で行います。テキストは輪読のかたちで読み進めていきます。事前に担当者を割り当て、授業当日に、該当箇所の要約と自分の意見（疑問点を含む）を発表してもらい、その後、発表内容についてディスカッションを行います。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

社会科学に関する基本的な考え方を身につけ、それを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会を支える基礎的な概念（自由概念）を理解し、それを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

自分と異なる意見や価値観を尊重しながら、現代社会の諸問題について批判的に考えることができる。(DP2-2)(知識・理解)

学んだ事柄を十分に理解し、責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる。(DP3-1)(知識・理解)

内容の難しい古典的な著作の講読（輪読）に、粘り強く取り組むことができる。(DP3-2)(態度・志向性)

社会科学に関する諸領域の基礎的な知識を用いて、社会問題について自分の見解を述べるができる。(DP4-1)(技能)

グループでディスカッションを行う際に積極的に発言し、議論の活性化に貢献することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：テキストの範囲を事前に読み、コメントを考えておくこと。報告担当者は、レジюмеを作成すること（作成方法については授業内で指示）。(120分)

復習：授業内に紹介した資料や文献を実際に読んでみる。(120分)

成績評価基準および方法

要約（レジюме）の作成・発表（きちんと内容を理解し、分かりやすくまとめられているか）（50%）、課題への取り組み（授業内容を理解して課題に取り組んでいるか）（30%）、授業態度（積極的に議論に参加できているか）（20%）で評価します。  
 なお、この授業では、定期試験を実施しないため、再試験も実施しません。

テキスト

内田義彦『読書と社会科学』岩波新書、1985年、924円、ISBN-13：978-4004202882

J.S.ミル（関口正司訳）『自由論』岩波文庫、2020年、1001円、ISBN-13：978-4003900024

履修上の留意点

やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。

授業計画

・履修ガイダンス（1回）（スタートアップ授業）

・『読書と社会科学』の輪読  
 第1章「読むこと」と「聴くこと」と（2回）  
 第2章 自由への断章（1回）  
 第3章 創造現場の社会科学（2回）

・『自由論』の輪読  
 第1章 序論（1回）  
 第2章 思想と討論の自由（3回）  
 第3章 幸福の一要素としての個性について（2回）  
 第4章 個人に対する社会の権力の限界について（1回）  
 第5章 応用（1回）

・まとめ（1回）  
 授業アンケートFURIKAの実施

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (<https://fukuoka-u.box.com/s/tcgq0swx5wgrjuhtophuzhib4mnwbbcb>)

武井 敬亮

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1 DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.社会科学に関する基本的な考え方を身につけ、それを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.現代社会を支える基礎的な概念(自由概念)を理解し、それを説明することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.自分と異なる意見や価値観を尊重しながら、現代社会の諸問題について批判的に考えることができる。(DP2-2) (知識・理解)

4.学んだ事柄を十分に理解し、責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる。(DP3-1) (知識・理解)

5.内容の難しい古典的な著作の講読(輪読)に、粘り強く取り組むことができる。(DP3-2) (態度・志向性)

6.社会科学に関する諸領域の基礎的な知識を用いて、社会問題について自分の見解を述べるすることができる。(DP4-1) (技能)

7.グループでディスカッションを行う際に積極的に発言し、議論の活性化に貢献することができる。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)



山崎 好裕

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：2025/01/27 3時限

概要

この講義を受講しようかな、と考えている皆さんは、いろいろな学部の学生さんで、大学に入学してすぐの人が多くと思います。現代の社会では経済が重要だから、社会に出る前にどうしても勉強しておきたい。だけど、経済学は数学も使うから難しそうだし、金融と為替とかややこしいことが多そうだなあ…。こんなふうに考えていませんか。そんな皆さんに、私の担当している教養経済学の講義はうってつけです。面白く分かりやすい講義を聞いているうちに、自然と経済学の基本が身についていることに気が付くでしょう。しかも、それだけではなく、ここで勉強することは、世の中で生きて働いていることばかりですから、すぐに役に立つはずですよ。

経済学は、ミクロとマクロという2つの分野から成っています。ミクロ経済学が人々の暮らし方や働き方の原理を考える分野であるのに対して、マクロ経済学は国民全体が織り成す経済の動向や政府の経済政策の原理を考える分野です。こう考えるとミクロ(ちっちゃい)とか、マクロ(でっかい)と名付けられている意味もよく分かりますよね。ですから、どっちが身近で分かりやすいかと質問されても、それは微妙です。両方の分野が相俟って経済学の理論体系を構成しているわけです。「経済学B」の講義では、そのなかのマクロ経済学を学びます。

私がとってもわかりやすく解説をします。質問があればその場で挙手してください。皆さんと有意義な議論ができることを期待しています。反転授業を意識した授業進行です。

授業の進行・方法

事前にテキストを予習していることを前提に反転授業を内容説明を行います。また、必要に応じて授業中に議論も行います。

授業後は各自振り返りを行い、授業課題に解答することで理解を深めます。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

マクロ経済学の基本的な考え方について知識が身に付いている。(DP1-1)(知識・理解)

経済報道や簡単なデータから経済情勢を判断する技能を有している。(DP1-2)(技能)

常に経済情報に目を配り、生活や仕事において活用しようとする態度を獲得している。(DP2-1)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

授業の前はテキストの指示された箇所を読んでおきましょう。(90分)

授業の後にはテキストとノートをまとめて、Moodleの課題に解答してください。(90分)

成績評価基準および方法

この授業は、社会を生きていく常識として、マクロ経済学の基礎的な知識を身に付けることを目的にしています。ですから、合理的な考え方が身に付いているか、経済を考える枠組みが頭の中にあるか、簡単な経済計算ができるか、ということをもとに評価します。

定期試験の点数で90%、moodle課題への解答状況で10%分の評価を出します。試験問題は、文章の穴埋め問題が6問30点、短文の正誤を×で答える問題が8問40点、計算問題が30点となります。穴埋め問題では語群を与えますので、そこから選んでください。計算問題はテキストにある問題から、そのままのかたちで出題されます。

テキスト

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』2004年、ミネルヴァ書房。ISBN 978-4-623-04251-7

参考書

必要があれば、授業中に随時紹介します。

履修上の留意点

私の担当している「経済学A」とあわせて履修すると、経済学の全体像を分かりやすく理解することができます。

授業計画

- 1 はじめに(スタートアップ授業)
- 2 経済の大きさを? - 産業と所得
- 3 所得の分配と社会保障
- 4 家計は経済の増幅器 - 家計の消費と貯蓄
- 5 働けど働けど... - 所得階層と失業
- 6 企業は誰のもの - 企業の収益
- 7 投資は経済の原動機
- 8 政府の役目と税金の仕組み
- 9 政府のお金の使い方
- 10 お金は経済の血液
- 11 金融の仕組みをのぞいてみれば
- 12 国のつきあいと国際収支
- 13 為替レートの決まり方
- 14 物価は経済の体温
- 15 これからどうなる! - 経済成長と景気

\* スマホから授業アンケートFURIKAに回答してもらいます。

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/f10sb0cq1vtb3vg43ep6rd0jnqpwme0)

山崎 好裕

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.マクロ経済学の基本的な考え方について知識が身に付いている。（DP1-1）  
（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.経済報道や簡単なデータから経済情勢を判断する技能を有している。  
（DP1-2）（技能）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）  
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

3.常に経済情報に目を配り、生活や仕事において活用しようとする態度を獲得している。（DP2-1）（態度・志向性）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

楊 光洙

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：後期：火・4時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

経済とは、モノやサービスの生産・分配・消費に関することです。経済学とは、限られた資源(人的・物的)の選択とその利用の仕方(効率・公平等)について研究する学問です。私たちの日常生活ではつねに経済活動が行われており、さまざまな経済問題に直面しています。それをどう分析しどう解決すべきかについて考えるのが本授業のテーマです。

この授業の目的は、受講者自らが経済学の基礎理論をベースに日常生活で直面する経済問題を考察するためのアカデミック・スキル(調査力・分析力)と考える力(問題発見、解決力、論理力、創造力)の向上を手助けすることです。

本授業では、経済学をはじめて学ぶ学生のための基礎理論(ミクロ経済学入門・マクロ経済学入門)を学修するとともに、それに関連する実際の経済現象(世界経済の時事問題)を議論します。授業では経済理論を学修するだけでなく、経済の現実問題について自分なりの見解を形成する(身につける)ことを目指します。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、講義形式とディスカッション形式による双方向型授業です。授業は専門知識の一方的な伝達ではなく、経済原理(理論)をベースに関連の現実問題(実際)について、受講者自らが経済現象を考察(応用)することを基本とします。

授業では受講者自らが経済問題の事例について、調査・分析(インターネット検索、アプリケーション等の活用)するとともに、グループワーク形式で意見を交換(議論、コミュニケーション)しながら、問題の発見と解決策の導出を学修します。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

1. 経済学の基礎知識を身につけ、日常生活の経済現象が説明できる。(DP1-1)(知識・理解)
2. 経済問題を様々な分野と関連付け、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

授業前(予習)：授業計画をベースに関連の専門用語や基礎理論をあらかじめ調べておく。(90分)

授業後(復習)：講義資料をベースに授業内容を自分なりにノートにまとめておく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・評価基準：経済理論を理解しているか(到達目標1)、現実の経済現象を的確に把握しているか(到達目標2)、実際の経済問題を理解し、自分なりの見解を身につけているか(到達目標3)について、それぞれの達成度を評価の基準とする。

・評価方法：成績は、第8回授業中の中間テスト(50%：レポート、筆記試験)と第15回授業中の期末テスト(50%：レポート、筆記試験)に、毎回授業で行うMinute Paperの解答内容を反映させて(到達目標1~3の達成度)として、総合的に評価する。

定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

--- テキスト ---

テキストは指定しません。資料を配布します。

--- 参考書 ---

授業中に適宜紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

- (1) グループワークや意見交換に積極的な姿勢で参加してください。
- (2) 主体的な学修の姿勢で、つねに疑問を持ち、質問する姿勢で参加してください。
- (3) IT機器を活用してください。

--- 授業計画 ---

第01回 イン트로ダクション(スタートアップ授業)

- ・授業方針、成績評価方法等

第02回 経済学の体系

- ・経済の仕組みと循環

第03回 世界経済の動向1

- ・転換期

第04回 世界経済の動向2

- ・グローバル化、コロナショック

第05回 世界経済の動向3

- ・自国優先主義

第06回 世界貿易秩序

- ・WTO、FTA、EPA

第07回 市場統合

- ・EU、NAFTA

第08回 経済連携 + 中間テスト

- ・ASEAN、CPTPP、RCEP

第09回 国際金融の流れ

- ・資本の移動

第10回 為替変動

- ・為替相場制度

第11回 金融工学

- ・サブプライムローン、金融派生商品

第12回 世界金融危機

- ・リーマンショック

第13回 国際協力

- ・地球温暖化

第14回 拡張的IS-LM分析

- ・財政金融政策の効果

第15回 総括 + 期末テスト

- ・まとめ + 授業アンケートFURIKAの実施

授業内容は受講生の理解状況を見ながら変更することもあります。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/yt5f1mpe2nrt3zhsscibyaupw9d45ivm>)

楊 光洙

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 経済学の基礎知識を身につけ、日常生活の経済現象が説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.2 経済問題を様々な分野と関連付け、物事を多角的に見ることができる。  
(DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

楊 光洙

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

経済とは、モノやサービスの生産・分配・消費に関することです。経済学とは、限られた資源（人的・物的）の選択とその利用の仕方（効率・公平等）について研究する学問です。私たちの日常生活ではつねに経済活動が行われており、さまざまな経済問題に直面しています。それをどう分析しどう解決すべきかについて考えるのが本授業のテーマです。

この授業の目的は、受講者自らが経済学の基礎理論をベースに日常生活で直面する経済問題を考察するためのアカデミック・スキル（調査力・分析力）と考える力（問題発見、解決力、論理力、創造力）の向上を手助けすることです。

本授業では、経済学をはじめて学ぶ学生のための基礎理論（ミクロ経済学入門・マクロ経済学入門）を学修するとともに、それに関連する実際の経済現象（世界経済の時事問題）を議論します。授業では経済理論を学修するだけでなく、経済の現実問題について自分なりの見解を形成する（身につける）ことを目指します。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、講義形式とディスカッション形式による双方向型授業です。授業は専門知識の一方的な伝達ではなく、経済原理（理論）をベースに関連の現実問題（実際）について、受講者自らが経済現象を考察（応用）することを基本とします。

授業では受講者自らが経済問題の事例について、調査・分析（インターネット検索、アプリケーション等の活用）するとともに、グループワーク形式で意見を交換（議論、コミュニケーション）しながら、問題の発見と解決策の導出を学修します。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

1. 経済学の基礎知識を身につけ、日常生活の経済現象が説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2. 経済問題を様々な分野と関連付け、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

授業前（予習）：授業計画をベースに関連の専門用語や基礎理論をあらかじめ調べておく。(90分)

授業後（復習）：講義資料をベースに授業内容を自分なりにノートにまとめておく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・評価基準：経済理論を理解しているか（到達目標1）、現実の経済現象を的確に把握しているか（到達目標2）、実際の経済問題を理解し、自分なりの見解を身につけているか（到達目標3）について、それぞれの達成度を評価の基準とする。

・評価方法：成績は、第8回授業中の中間テスト（50%：レポート、筆記試験）と第15回授業中の期末テスト（50%：レポート、筆記試験）に、毎回授業で行うMinute Paperの解答内容を反映させて（到達目標1～3の達成度）として、総合的に評価する。

定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

--- テキスト ---

テキストは指定しません。資料を配布します。

--- 参考書 ---

授業中に適宜紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

(1) グループワークや意見交換に積極的な姿勢で参加してください。

(2) 主体的な学修の姿勢で、つねに疑問を持ち、質問する姿勢で参加してください。

(3) IT機器を活用してください。

--- 授業計画 ---

第01回 イン트로ダクション（スタートアップ授業）

・授業方針、成績評価方法等

第02回 経済学の体系

・経済の仕組みと循環

第03回 世界経済の動向1

・転換期

第04回 世界経済の動向2

・グローバル化、コロナショック

第05回 世界経済の動向3

・自国優先主義

第06回 世界貿易秩序

・WTO、FTA、EPA

第07回 市場統合

・EU、NAFTA

第08回 経済連携 + 中間テスト

・ASEAN、CPTPP、RCEP

第09回 国際金融の流れ

・資本の移動

第10回 為替変動

・為替相場制度

第11回 金融工学

・サブプライムローン、金融派生商品

第12回 世界金融危機

・リーマンショック

第13回 国際協力

・地球温暖化

第14回 拡張的IS-LM分析

・財政金融政策の効果

第15回 総括 + 期末テスト

・まとめ + 授業アンケートFURIKAの実施

授業内容は受講生の理解状況を見ながら変更することもあります。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/mxg79u7r1kjl38a0ewafz31hzwpsou>)

楊 光洙

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.1 経済学の基礎知識を身につけ、日常生活の経済現象が説明できる。  
(DP1-1) (知識・理解)

2.2 経済問題を様々な分野と関連付け、物事を多角的に見ることができる。  
(DP2-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

主計 浩

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：水・3時限 試験時間割：2025/01/27 3時限

概要

現代のわれわれの経済は、私的所有権制度を基本的な所有形態としながら、市場という機構に人々の活動の調整をゆだねる「資本主義」を根幹とする経済体制である。またそこでは、資本主義が生み出す様々な歪みを修正するための政府の政策的な介入や計画をも容認しており、しばしば「混合経済」という名称によって特徴づけられている。本講義の目的は、混合経済としてのわれわれの経済を理解するための1つの分析道具である「近代経済学」を解説することにある。近代経済学には消費者・生産者・政府といった個々の経済主体に注目し、各主体の相互作用の場・交換の場である市場を主要な分析対象とするミクロ経済学と、一国の経済全体を物価水準・GDP・失業率・インフレ率などの集計量によって捉えるマクロ経済学がある。本講義では、マクロ経済学の基本的な枠組みと主要概念・分析手法をやさしく解説する。具体的にはマクロ経済学の課題、国民所得の諸概念、国民所得の決定、IS-LM分析、財政金融政策、総需要と総供給、国際マクロ経済を説明する予定である。  
 受講した皆さんは、少なくとも新聞の経済面を問題なく読めるようになるだろう。特に公務員希望の方はぜひ受講してほしい。なお授業の進め方について、本講義は、教員によるレクチャー形式で行う。

授業の進行・方法

授業は、教科書の内容を中心に講義形式で行う。説明のために板書していくが板書を写すことに気をとられて肝心の説明を聞き逃すので、板書内容はあらかじめ資料という形で配布して、説明をしっかりと聞いてもらうような進め方をしていく。一つの単元が終わったら練習問題を配付するので、授業内容を確認するために活用していただきたい。また、二回程度レポートを提出してもらう。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

経済学の基本的な知識を習得する(DP1-1)(知識・理解)

現実に起こっている経済問題を理解して、他者に説明できる(DP2-1)(知識・理解)

経済学の知識を活用して、経済問題を積極的かつ柔軟に解決する能力を身につける(DP3-1)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：次の授業解の内容について、教科書の該当部分および配布される資料をよく読んで、わからない用語などについてあらかじめ調べておく。(90分)

復習：授業後は新たに出てきた経済用語や経済学的な考え方をしっかり見直す。さらに復習のために練習問題を適宜配布するので、授業で学習した内容がどのように問われているかを確認する。(90分)

成績評価基準および方法

定期試験(80%)、レポート(20%)によって評価する。

評価基準は、定期試験・レポートともに、

1. 授業に出てきた経済用語をきちんと理解していること、
2. 授業に出てきた経済政策や経済の出来事を説明できること、である。

テキスト

試験攻略入門塾 速習!マクロ経済学2nd edition 石川秀樹(著) 中央経済社 2640円 ISBN:978-4502290312

参考書

中谷巖「入門マクロ経済学」 日本評論社 ISBN 978-4535555136

履修上の留意点

経済学の講義は前回の授業内容を踏まえて先に進んでいくので、特に復習には力を注ぐこと。また上記のような理由から、欠席には注意すること。他の受講生の迷惑になるような行為(私語など)は厳禁。

授業計画

1. マクロ経済学の考え方(スタートアップ授業)
2. GDPの決定(1) GDPとは、有効需要の原理
3. GDPの決定(2) : 45度線分析その1
4. GDPの決定(3) : 45度線分析その2
5. GDPの決定(4) : 45度線分析その3
6. IS-LM分析(1) : IS曲線の導出
7. IS-LM分析(2) : LM曲線の導出(その1)
8. IS-LM分析(3) : LM曲線の導出(その2)
9. IS-LM分析(4) : 財市場と貨幣市場の同時均衡
10. IS-LM分析(5) : 財政政策・金融政策
11. 総需要と総供給(1) : 総需要曲線(AD曲線)
12. 総需要と総供給(2) : 総供給曲線(AS曲線)
13. 総需要と総供給(3) : AD・ASによるマクロ均衡
14. 国際マクロ経済(1)
15. 国際マクロ経済(2), 「授業評価アンケートFURIKAの実施」

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/6if5i1f3abzr8dc3ld88rwdjdl59h6kpb)

主計 浩

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.経済学の基本的な知識を習得する（DP1-1）（知識・理解）

2.現実に起こっている経済問題を理解して、他者に説明できる（DP2-1）（知識・理解）

3.経済学の知識を活用して、経済問題を積極かつ柔軟に解決する能力を身につける（DP3-1）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）



主計 浩

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：金・1時限 試験時間割：2025/01/27 3時限

概要

現代のわれわれの経済は、私的所有権制度を基本的な所有形態としながら、市場という機構に人々の活動の調整をゆだねる「資本主義」を根幹とする経済体制である。またそこでは、資本主義が生み出す様々な歪みを修正するための政府の政策的な介入や計画をも容認しており、しばしば「混合経済」という名称によって特徴づけられている。本講義の目的は、混合経済としてのわれわれの経済を理解するための1つの分析道具である「近代経済学」を解説することにある。近代経済学には消費者・生産者・政府といった個々の経済主体に注目し、各主体の相互作用の場・交換の場である市場を主要な分析対象とするミクロ経済学と、一国の経済全体を物価水準・GDP・失業率・インフレ率などの集計量によって捉えるマクロ経済学がある。本講義では、マクロ経済学の基本的な枠組みと主要概念・分析手法をやさしく解説する。具体的にはマクロ経済学の課題、国民所得の諸概念、国民所得の決定、IS-LM分析、財政金融政策、総需要と総供給、国際マクロ経済を説明する予定である。  
 受講した皆さんは、少なくとも新聞の経済面を問題なく読めるようになるだろう。特に公務員希望の方はぜひ受講してほしい。なお授業の進め方について、本講義は、教員によるレクチャー形式で行う。

授業の進行・方法

授業は、教科書の内容を中心に講義形式で行う。説明のために板書していくが板書を写すことに気をとられて肝心の説明を聞き逃すので、板書内容はあらかじめ資料という形で配布して、説明をしっかりと聞いてもらうような進め方をしていく。一つの単元が終わったら練習問題を配付するので、授業内容を確認するために活用していただきたい。また、二回程度レポートを提出してもらう。

アクティブ・ラーニング

いいえ / No

到達目標

経済学の基本的な知識を習得する(DP1-1)(知識・理解)

現実起こっている経済問題を理解し、他者に説明できる(DP2-1)(知識・理解)

経済学の知識を活用して、経済問題を積極的かつ柔軟に解決する能力を身につける(DP3-1)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：次の授業解の内容について、教科書の該当部分および配布される資料をよく読んで、わからない用語などについてあらかじめ調べておく。(90分)

復習：授業後は新たに出てきた経済用語や経済学的な考え方をしっかり見直す。さらに復習のために練習問題を適宜配布するので、授業で学習した内容がどのように問われているかを確認する。(90分)

成績評価基準および方法

定期試験(80%)、レポート(20%)によって評価する。

評価基準は、定期試験・レポートともに、

1. 授業に出てきた経済用語をきちんと理解していること、
2. 授業に出てきた経済政策や経済の出来事を説明できること、である。

テキスト

試験攻略入門塾 速習!マクロ経済学2nd edition 石川秀樹(著) 中央経済社 2640円 ISBN:978-4502290312

参考書

中谷巖「入門マクロ経済学」 日本評論社 ISBN 978-4535555136

履修上の留意点

経済学の講義は前回の授業内容を踏まえて先に進んでいくので、特に復習には力を注ぐこと。また上記のような理由から、欠席には注意すること。他の受講生の迷惑になるような行為(私語など)は厳禁。

授業計画

1. マクロ経済学の考え方(スタートアップ授業)
2. GDPの決定(1) GDPとは、有効需要の原理
3. GDPの決定(2) : 45度線分析その1
4. GDPの決定(3) : 45度線分析その2
5. GDPの決定(4) : 45度線分析その3
6. IS-LM分析(1) : IS曲線の導出
7. IS-LM分析(2) : LM曲線の導出(その1)
8. IS-LM分析(3) : LM曲線の導出(その2)
9. IS-LM分析(4) : 財市場と貨幣市場の同時均衡
10. IS-LM分析(5) : 財政政策・金融政策
11. 総需要と総供給(1) : 総需要曲線(AD曲線)
12. 総需要と総供給(2) : 総供給曲線(AS曲線)
13. 総需要と総供給(3) : AD・ASによるマクロ均衡
14. 国際マクロ経済(1)
15. 国際マクロ経済(2), 「授業評価アンケートFURIKAの実施」

スタートアップ授業

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/o6r6806jmmkdiskp79mpsi5tzjz9ia)

主計 浩

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.経済学の基本的な知識を習得する（DP1-1）（知識・理解）

2.現実に起こっている経済問題を理解し、他者に説明できる（DP2-1）（知識・理解）

3.経済学の知識を活用して、経済問題を積極的かつ柔軟に解決する能力を身につける（DP3-1）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

李 錦東

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：金・2時限 試験時間割：2025/01/27 3時限

--- 概要 ---

このクラスは、前期の経済学A (MIC-F2 社会科学の思考法を経済学を通じて学ぶ) 続きですが、後期から初めて受講する人のために、前期の復習もざっと行います。

経済学を初めて学ぶ学生にとって、経済学の教科書は「分かったような、分からないような」という気分させられることもあります。また、経済学で学ぶ内容は、「現実の世の中とは、違うんじゃないか」と思う人もいるでしょう。本クラスは、受講生がもつ「経済学」と「現実の世のなか」に関わる疑問点などを、講師と受講生との間で質疑応答やディスカッションを通じて理解していきます。また、それぞれの疑問点に関する事項をどう深く理解すればよいのかなどを考えて行きます。

このクラスで元気に議論することによって、日々の暮らしを豊かにすることへのヒントを得ながら、経済学に関するしっかりとした基盤を作っていきます。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、講義形式で行いますが、上述したように担当講師による一方的な授業ではありません。

参加者の皆さんに、積極的な参加（質問に答える、意見を述べる、ディスカッション、関連事項を事前に/事後に調べるなど）を求めます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

経済学の基本的な発想をみにつけることが出来る。(DP1-1)(知識・理解)

経済学に関する主要キーワード(100個程度)を理解し、自分の言葉で説明できる。(DP1-2)(知識・理解)

新聞の経済面や社会面の記事などに関心を持ち、経済に関する記事を少々楽しく読めるようになる。(DP2-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習に60分、復習に120分程度を目途に取組みましょう。とくに復習を重視してください。授業で学んだ事項を確実に自分のものにして下さい。勉強には、丸暗記も必要ですが、本クラスでは、自分で論理的な筋を立てながら、理解できるようにして下さい。(180分)

--- 成績評価基準および方法 ---

- 1. 定期試験 60%
- 2. 中間ミニテスト(2回程度) 20%
- 3. 授業参加態度(20%)。担当教員の質疑に対する積極的な参加・応答、授業に対する建設的な提案など

期末に1,2,3を総合して、評定します。総合点数、60点以上が合格となります。

定期試験や中間ミニテストの評価基準は、授業で取り上げた経済学の基本的な発想や専門用語及びキーワードをちゃんと理解し、人に説明できるか・応用できるかになります。

--- テキスト ---

- 1. 授業の進行は、『マンキュー経済学(ミクロ編・マクロ編)』をベースに作成したスライド(PPT)を利用します。
- 2. 必要に応じて、スライドの一部、著作権に抵触しない必要最小限の量を参考資料として配布します。
- 3. 可能なら主要参考図書(マクロ編)を手に入れましょう(しかし、無理して新しい本を購入する必要はありません)。

--- 参考書 ---

主要参考図書：

- 1. N. Gregory Mankiw 『マンキュー経済学 マクロ編(第4版)』 東洋経済新報社、2019年、4,400円、ISBN:9784492315200

マンキュー経済学は、第4版が最新版ですが、その以前の版も核心内容は基本的に同じですので、3版などを利用して問題ありません。

必要に応じて、スライドの極一部を参考資料として配布する場合がありますが、なるべく経済学の本を手にして、じっくり読みましょう。

--- 履修上の留意点 ---

復習をしっかりやりましょう。また、経済面や社会面の記事やニュースをちゃんと聞く・読む習慣をつけましょう。授業中はノートをとってください。スライドに提示されたことだけでなく、講師が喋ったことに関してもメモすると、いいでしょう。

参考書をじっくりよむ習慣をつけながら、自分なりの経済学の体系を作れるように頑張りましょう。

--- 授業計画 ---

1. 第1回\*イントロダクションは、スタートアップ授業(動画配信)です。第2回以降の授業は対面授業で行います(予定、授業の総回数は15回)。

2. 授業は、基本的に授業計画に沿って進めますが、限界的な変化は必至であり、受講生の理解度にあわせ、フレキシブルに調整していきます。

1\*オリエンテーション(スタートアップ授業。授業の進め方・経済学の考え方など。)

2 前期の復習、経済学の考え方、需要と供給

3 生産費用・競争市場における企業の動き

4 独占(寡占)

5 生産要素市場・勤労所得と差別

6 所得不平等と貧困

7 予算制約と限界効用曲線

8 国民所得の測定

9 生計費の測定

10 経済成長

11 ファイナンス

12 失業

13 貨幣システム

14 総需要と総供給

15 まとめ(FURIKA実施予定)

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/9morsm8phx6gjj1d5oyhsgnl608nbgxd>)

李 錦東

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー ( DP )

1.経済学の基本的な発想をみにつけることができる。 (DP1-1) (知識・理解)

2.経済学に関する主要キーワード ( 100個程度 ) を理解し、自分の言葉で説明できる。 (DP1-2) (知識・理解)

3.新聞の経済面や社会面の記事などに興味をもち、経済に関する記事を少々楽しく読めるようになる。 (DP2-1) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間 ( 6年間 ) の学びを支える基礎を身につけている ( A、B、C )

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている ( A、B、C )

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる ( A、B、C )

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる ( A、B、C )

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる ( A、C )

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる ( B、C )

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる ( A、B )

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる ( B、C )

李 錦東

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：有り  
 授業時間割：後期：金・3時限 試験時間割：2025/01/27 3時限

--- 概要 ---

このクラスは、前期の経済学A (MIC-F5 社会科学の思考法を経済学を通じて学ぶ) 続きですが、後期から初めて受講する人のために、前期の復習もざっと行います。

経済学を初めて学ぶ学生にとって、経済学の教科書は「分かったような、分からないような」と言う気分させられることもあります。また、経済学で学ぶ内容は、「現実の世の中とは、違うんじゃないか」と思う人もいるでしょう。本クラスは、受講生がもつ「経済学」と「現実の世のなか」に関わる疑問点などを、講師と受講生との間で質疑応答やディスカッションを通じて理解していきます。また、それぞれの疑問点に関する事項をどう深く理解すればよいのかなどを考えて行きます。

このクラスで元気に議論することによって、日々の暮らしを豊かにすることへのヒントを得ながら、経済学に関するしっかりとした基盤を作っていきます。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は、講義形式で行いますが、上述したように担当講師による一方的な授業ではありません。

参加者の皆さんに、積極的な参加(質問に答える、意見を述べる、ディスカッション、関連事項を事前に/事後に調べるなど)を求めます。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

経済学の基本的な発想をみにつけることができる(DP1-1)(知識・理解)

経済学に関する主要キーワード(100個程度)を理解し、自分の言葉で説明できる。(DP1-2)(知識・理解)

新聞の経済面や社会面の記事などに関心を持ち、経済に関する記事を少々楽しく読めるようになる。(DP2-1)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習に60分、復習に120分程度を別途に取組みましょう。とくに復習を重視してください。授業で学んだ事項を確実に自分のものにして下さい。勉強には、丸暗記も必要ですが、本クラスでは、自分で論理的な筋を立てながら、理解できるようにして下さい。

(180分)

--- 成績評価基準および方法 ---

- 1. 定期試験 60%
  - 2. 中間ミニテスト(2回程度) 20%
  - 3. 授業参加態度(20%)。
- 担当教員の質疑に対する積極的な参加・応答、授業に対する建設的な提案など

期末に1,2,3を総合して、評定します。総合点数、60点以上が合格となります。

定期試験や中間ミニテストの評価基準は、授業で取り上げた経済学の基本的な発想や専門用語及びキーワードをちゃんと理解し、人に説明できるか・応用できるかになります。

--- テキスト ---

1. 可能なら主要参考図書(マクロ編)を手に入れて、しっかり予習・復習をしましょう(しかし、無理して/例えば3日分の食費を削るなど、新しい本を購入する必要はありません)。
2. 授業の進行は、『マンキュー経済学(ミクロ編)』をベースに作成したスライド(PPT)を利用します。
3. 必要に応じて、スライドの一部、著作権に抵触しない必要最小限の量を参考資料として配布します。

--- 参考書 ---

主要参考図書：

1. N. Gregory Mankiw 『マンキュー経済学 マクロ編(第4版)』東洋経済新報社、2019年、4,400円、ISBN:9784492315200

マンキュー経済学は、第4版が最新版ですが、その以前の版も核心内容は基本的に同じですので、3版などを利用して問題ありません。

必要に応じて、スライドの極一部を参考資料として配布する場合がありますが、なるべく経済学の本を手にして、じっくり読みましょう。

--- 履修上の留意点 ---

復習をしっかりやりましょう。また、経済面や社会面の記事やニュースをちゃんと聞く・読む習慣をつけましょう。授業中はノートをとってください。スライドに提示されたことだけでなく、講師が喋ったことに関してもメモすると、いいでしょう。

参考書をじっくりよむ習慣をつけながら、自分なりの経済学の体系を作れるように、頑張りましょう。

--- 授業計画 ---

1. 第1回\*イントロダクションは、スタートアップ授業(動画配信)です。第2回以降の授業は対面授業で行います(予定、授業の総回数は15回)。
2. 授業は、基本的に授業計画に沿って進めますが、限界的な変化は必ずであり、受講生の理解度にあわせてフレキシブルに調整していきます。

1\*オリエンテーション(スタートアップ授業。授業の進め方・経済学の考え方など。)

- 2 前期の復習、経済学の考え方、需要と供給
- 3 生産費用・競争市場における企業の動き
- 4 独占(寡占)
- 5 生産要素市場・勤労所得と差別
- 6 所得不平等と貧困
- 7 予算制約と限界効用曲線
- 8 国民所得の測定
- 9 生計費の測定
- 10 経済成長
- 11 ファイナンス
- 12 失業
- 13 貨幣システム
- 14 総需要と総供給
- 15 まとめ(FURIKA実施予定)

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ae5zmayip5794014nkvv8pm5o19u5gdo>)

李 錦東

全学部学科: DP1-1,DP2-1 DP2-2 DP3-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー ( DP )

1. 経済学の基本的な発想をみにつけることができる ( DP1-1 ) ( 知識・理解 )

A: 知識・理解、B: 技能、C: 態度・志向性  
理念1 【 学び続けていくための確かな基礎 】

2. 経済学に関する主要キーワード ( 100 個程度 ) を理解し、自分の言葉で説明できる。 ( DP1-2 ) ( 知識・理解 )

DP1-1 大学4年間 ( 6年間 ) の学びを支える基礎を身につけている ( A、B、C )

3. 新聞の経済面や社会面の記事などに興味をもち、経済に関する記事を少々楽しく読めるようになる。 ( DP2-1 ) ( 態度・志向性 )

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている ( A、B、C )

理念2 【 多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ 】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる ( A、B、C )

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる ( A、B、C )

理念3 【 自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ 】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる ( A、C )

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる ( B、C )

理念4 【 地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性 】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる ( A、B )

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる ( B、C )

武井 敬亮

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し  
 授業時間割：後期：金・2時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

「経済学の父」アダム・スミスは、『国富論』の著者として知られていますが、スミスの名前を一躍有名にしたのは、先に出版された『道徳感情論』の方でした。スミスは、『道徳感情論』で展開した道徳論をベースに『国富論』を執筆し、自らの経済理論を体系化しました。近年、アマルティア・センの研究を契機に、経済学の倫理的側面に注目が集まる中、スミスの『道徳感情論』は、経済学を学ぶ者にとって、非常に多くの示唆を与えてくれます。それだけでなく、この著作は、人間関係や社会関係を理解する上で有効な理論を私たちに提供してくれます。

この授業では、アダム・スミスの『道徳感情論』の輪読を通じて、スミスの道徳論、特に、共感の働きが、人間関係や社会関係を形成する上で、どのように作用しているのかを中心に学んでいきます。また、しばしば経済学において前提とされる個々人の自己利益の追求が、どのようにして社会秩序と両立しうるのか（私と公の両立可能性）についても、スミスの議論に即して考察していきます。

--- 授業の進行・方法 ---

この授業はゼミ形式で行います。テキストは輪読のかたちで読み進めていきます。事前に担当者を割り当て、授業当日に、該当箇所の要約と自分の意見（疑問点を含む）を発表してもらい、その後、発表内容についてディスカッションを行います。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

経済社会に関する基本的な考え方を身につけ、それを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

道徳理論にもとづく社会形成の仕組みを理解し、それを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

スミスの議論に即して、自分と利害関心を異にする他者を理解する仕組みについて説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

学んだ事柄を十分に理解し、責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる。(DP3-1)(知識・理解)

内容の難しい古典的な著作の講読（輪読）に、粘り強く取り組むことができる。(DP3-2)(態度・志向性)

スミスの『道徳感情論』における思考方法やアプローチを、他の問題にも適用することができる。(DP4-1)(技能)

グループでディスカッションを行う際に積極的に発言し、議論の活性化に貢献することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：テキストの範囲を事前に読み、コメントを考えておくこと。報告担当者は、レジュメを作成すること（作成方法については授業内で指示）。(120分)

復習：テキストの範囲を読み直し、内容の理解につとめること。(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

要約（レジュメ）の作成・発表（きちんと内容を理解し、分かりやすくまとめられているか）（50%）、課題への取り組み（授業内容を理解して課題に取り組んでいるか）（30%）、授業態度（積極的に議論に参加できているか）（20%）で評価します。

なお、この授業では、定期試験を実施しないため、再試験も実施しません。

--- テキスト ---

アダム・スミス（村井章子・北川知子訳）『道徳感情論』日経BPクラシックス、2014年、3520円、ISBN-13：978-4822250003

--- 履修上の留意点 ---

やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。

--- 授業計画 ---

・履修ガイダンス（1回）（スタートアップ授業）

・『道徳感情論』の輪読

第1部 行為の適否について

- ・第1篇 適否の感覚について（2回）
- ・第2篇 さまざまな情念が適切とみなされる度合いについて（2回）
- ・第3篇 順境と逆境が行為の適否の判断におよぼす影響について、また順境にあるときの方が逆境にあるときよりは認を得やすい理由について（2回）

第2部 価値と害悪、すなわち報いる対象と罰する対象について

- ・第1篇 価値と害悪の感覚について（1回）
- ・第2篇 正義と善行について（1回）
- ・第3篇 行為の価値と害悪に関する感情に偶然がおよぼす影響について（1回）

第3部 自分自身の感情と行動に関する判断の根拠について、および義務感について（4回）

- ・まとめ（1回）
- 授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業  
 (https://fukuoka-u.box.com/s/6ixeg7olvns14lg4tn26viogr5jb4dx2)

武井 敬亮

全学部学科: DP1-1,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1 DP3-2,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.経済社会に関する基本的な考え方を身につけ、それを説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.道徳理論にもとづく社会形成の仕組みを理解し、それを説明することができる。(DP2-1) (知識・理解)

3.スミスの議論に即して、自分と利害関心を異にする他者を理解する仕組みについて説明することができる。(DP2-2) (知識・理解)

4.学んだ事柄を十分に理解し、責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる。(DP3-1) (知識・理解)

5.内容の難しい古典的な著作の講読(輪読)に、粘り強く取り組むことができる。(DP3-2) (態度・志向性)

6.スミスの『道徳感情論』における思考方法やアプローチを、他の問題にも適用することができる。(DP4-1) (技能)

7.グループでディスカッションを行う際に積極的に発言し、議論の活性化に貢献することができる。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性  
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)